Oracle EDR InfiniBand Switch および仮想 I/O システム管理ガイド

Part No: E74590-02
2016 年 11 月

Part No: E74590-02

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info) か、聴覚に障害のあるお客様は (http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用法 17
製品ドキュメントライブラリ 17
フィードバック 17

システム管理リソースの理解 19
スイッチの概要 19
Oracle InfiniBand Switch IS2-46 20
Oracle Fabric Interconnect F2-12 20
スイッチ管理の概要 21
Oracle ILOM の概要 22
SNMP の概要 23
IPMI の概要 24
Oracle Auto Service Request ソフトウェア 25

スイッチへのアクセス 27
ユーザーの役割と権限 27
▼ スイッチへのアクセス (SER MGT) 28
▼ CLI から Oracle ILOM へのアクセス 29
▼ Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス 29
▼ SEFOS へのアクセス 30
▼ Oracle Fabric OS へのアクセス 31
▼ Oracle Fabric Manager CLI へのアクセス 32
▼ Oracle Fabric Manager GUI へのアクセス 33

スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI) 35
Oracle ILOM CLI の概要 36
Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI) 36
▼ Oracle ILOM コマンドに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI) 37
▼ Oracle ILOM ターゲットプロパティーに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI) 38

スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI) 38
▼ 障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI) 39
スイッチの健全性プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 41
▼ 日付とタイムゾーンの表示 (Oracle ILOM CLI) 43
▼ スイッチの稼働時間の表示 (Oracle ILOM CLI) 43
▼ NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM CLI) 44
▼ スイッチファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM CLI) 45
▼ システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 46
SP のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 47
▼ スイッチ構成スナップショットの表示 (Oracle ILOM CLI) 49
▼ ステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM CLI) 50
▼ スイッチの温度の表示 (Oracle ILOM CLI) 51
MBOM 情報の表示 (Oracle ILOM CLI) 52
電源装置の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI) 53
▼ IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI) 58
▼ HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI) 59
▼ スイッチ Syslog クライアントの表示 (Oracle ILOM CLI) 60
スイッチ電源の表示 (Oracle ILOM CLI) 61
スイッチ冷却装置の表示 (Oracle ILOM CLI) 67
I/O モジュールの表示 (Oracle ILOM CLI) 70
認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI) 80
▼ スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI) 81
▼ DNS クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI) 84
▼ Oracle ILOM LDAP クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI) 84
▼ Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI) 85
▼ LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 86
▼ Oracle ILOM RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI) 88
▼ シングルサインオンの状態の表示 (Oracle ILOM CLI) 89
イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI) 90
▼ SMTP クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI) 90
▼ 警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 91
▼ Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM CLI) 92
▼ Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM CLI) 93
Oracle ILOM ログエントリのフィルタ 95
▼ リモートログホストの表示 (Oracle ILOM CLI) 96
管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI) 96
▼ Ethernet スイッチのプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 97

▼ IPv6 管理ネットワークプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 98
▼ IB スイッチのプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 99
▼ 管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM CLI) 99
スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI) 100
▼ システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM CLI) 101
▼ シリアル接続のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 101
▼ ホストコンソール接続設定の表示 (Oracle ILOM CLI) 102
スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI) 103
SNMP サービスのステータスのチェック (Oracle ILOM CLI) 103
▼ IPMI サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI) 106
▼ SSH プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 106
Web サービスのステータスのチェック (Oracle ILOM CLI) 108
スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI) 110
▼ スイッチの FRU ID の表示 (Oracle ILOM CLI) 111
▼ ASR クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI) 112
▼ サービスタグ情報の表示 (Oracle ILOM CLI) 112
ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI) 113
▼ Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI) 113
▼ ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI) 114
▼ Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI) 115
追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI) 116
▼ FIPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI) 117
キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ構成の表示 (Oracle ILOM CLI) 117

スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web) 119
Oracle ILOM Web インタフェースの概要 120
▼ Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web) 123
スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web) 123
▼ スイッチの警告の表示 (Oracle ILOM Web) 125
▼ 障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM Web) 125
▼ スイッチのステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM Web) 126
▼ システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web) 127
▼ PS の電源情報の表示 (Oracle ILOM Web) 128
スイッチの冷却および通気のチェック (Oracle ILOM Web) 128
システムファームウェア情報のチェック (Oracle ILOM Web) 130
スイッチシャーシ情報のチェック (Oracle ILOM Web) 131
▼ NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM Web) 135

▼ SP をデフォルトにリセットする場合のポリシーの表示 (Oracle ILOM Web) 136
▼ バックアップおよび復元ポリシーの表示 (Oracle ILOM Web) 137
▼ スナップショットポリシーの表示 (Oracle ILOM Web) 137
▼ ホスト電源制御設定の表示 (Oracle ILOM Web) 138
▼ シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web) 138
認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web) 138
▼ SMTP クライアントのステータスの表示 (Oracle ILOM Web) 139
▼ DNS クライアントのステータスの表示 (Oracle ILOM Web) 139
▼ LDAP クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI) 140
▼ LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web) 140
▼ RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM Web) 141
▼ AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web) 142
イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web) 142
▼ スイッチシステムログの表示 (Oracle ILOM Web) 143
▼ 警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM Web) 144
▼ Syslog ホストの表示 (Oracle ILOM Web) 144
▼ Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web) 145
▼ Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web) 146
管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web) 146
▼ 管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web) 147
スイッチのネットワークコントローラのチェック (Oracle ILOM Web) 148
スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web) 149
リモートセッション設定の表示 (Oracle ILOM Web) 150
▼ システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM Web) 151
▼ CLI セッションタイムアウトの表示 (Oracle ILOM Web) 152
スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web) 152
▼ HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web) 153
▼ HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web) 153
SNMP サービスのステータスのチェック (Oracle ILOM Web) 154
▼ SSH サーバーのステータスの表示 (Oracle ILOM Web) 156
▼ IPMI サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web) 156
▼ ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web) 157
ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web) 157
▼ Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM Web) 158
▼ Oracle ILOM ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web) 158
▼ ローカルユーザーのパスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM Web) 159
追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web) 160

▼ FIPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web) 160
▼ キーボード、ビデオ、マウス、ストレージ、シリアルリダイレクションサービスの情報の表示 (Oracle ILOM Web) 161

Oracle ILOM ターゲットの理解 163
Oracle ILOM ターゲットの概要 163
Oracle ILOM ターゲットの管理 164
▼ 1 つの Oracle ILOM ターゲットの特性の表示 165
▼ Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーと値の表示 165
▼ 特定のプロパティーを持つすべての Oracle ILOM ターゲットの表示 166
▼ Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーのヘルプの表示 167
▼ Oracle ILOM ターゲットの 1 つのプロパティーの構成 168
▼ Oracle ILOM ターゲットの複数のプロパティーの構成 169
Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解 170
/HOST ターゲットとプロパティー 171
/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー 172
/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー 173
/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー 175
/SP 汎用ターゲットとプロパティー 176
/SP サービスターゲットとプロパティー 179
/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー 182
/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー 184
/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー 186
/SYS Oracle F2 I/O モジュールターゲットとプロパティー 188
/System システムターゲットとプロパティー 190

SNMP MIB OID の理解 193
OID 表の概要 193
SUN-HW-CTRL-MIB MIB OID の理解 194
電源管理 OID 195
Trusted Platform Module (TPM) OID 198
SUN-HW-TRAP-MIB MIB OID の理解 199
診断された障害の推測トラップ OID 199
ハードウェアトラップ構成 OID 200
ハードウェアトラップ 202
ハードウェア障害トラップ 206
SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID の理解 208
SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文 209

AD OID 210
DNS OID 212
LDAP OID 213
LDAP Over SSL OID 214
LDAP Over SSL ユーザードメイン OID 215
LDAP Over SSL 管理者グループ OID 216
LDAP Over SSL オペレータグループ OID 216
LDAP Over SSL 代替サーバー OID 217
LDAP Over SSL Custom グループ OID 218
LDAP Over SSL Host グループ OID 219
RADIUS OID 219
ユーザー OID 220
監査ログ OID 221
イベントログ OID 221
警告 OID 222
バックアップおよび復元 OID 223
クロック OID 223
NTP OID 224
構成管理 OID 224
ファームウェア管理 OID 225
HTTP OID 226
HTTPS OID 226
SSH OID 227
シングルサインオン OID 227
識別 OID 228
リモート syslog OID 228
ネットワーク OID 229
インターコネクト OID 230
ネットワークインターコネクトグローバル構成 OID 231
ネットワークインターコネクトグローバル操作 OID 232
電源制御 OID 232
ポリシー OID 233
リセット制御 OID 233
冗長性 OID 234
シリアルポート OID 234
セッション OID 235
SMTP OID 235
遠隔測定ハーネスデーモン (THD) OID 236
`SUN-ILOM-SYSTEM-MIB` MIB OID の理解 236
Oracle ILOM システムの未解決の問題 OID 237

Oracle ILOM システムログ OID 238
Oracle ILOM システムトラップデータ OID 238
Oracle ILOM システムトラップ 239
SUN-PLATFORM-MIB MIB OID の理解 242
SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文 243
上位レベルの OID 244
ディスクリートセンサー表 OID 244
ディスクリートセンサー状態 OID 244
Sun プラットフォームの MIB オブジェクトグループ 245
Sun プラットフォームのセンサー OID 246
Sun プラットフォームのバイナリセンサー OID 247
Sun プラットフォームの数値センサー表 OID 247
Sun プラットフォームのファン表 OID 249
Sun プラットフォームのアラーム表 OID 249
Sun プラットフォームのウォッチドッグ OID 249
Sun プラットフォームの電源装置 OID 250
Sun プラットフォームのバッテリー OID 250
Sun プラットフォームの MIB トラップ 251
Sun プラットフォームの MIB 通知グループ 252
Sun プラットフォームの MIB 通知 252
Sun プラットフォームの論理クラス拡張 OID 253
NIM 装置表 OID 253
NIM 装置ホルダー表 OID 254
NIM 回路パック表 OID 255
NIM ログ OID 255
NIM トラップエージェント MIB の追加情報 OID 256
NIM トラップエージェント MIB のログに記録されたアラーム OID 256
NIM トラップエージェント MIB のログに記録された属性/ステータス変更 OID 257
物理クラス拡張表 OID 258
単一コンピュータシステム OID 258
単一コンピュータシステムの初期ロード拡張 OID 258
ENTITY-MIB MIB OID の理解 259
ENTITY-MIB MIB OID コマンドの構文 259
物理エンティティー表 OID 260
論理エンティティー表 OID 261
エンティティー MIB トラップ 262

EMS モジュールの理解 265

EMS モジュールおよび SEFOS モードの理解 265
EMS モジュールの概要 266
▼ SEFOS グローバル構成モードへのアクセス 267
▼ SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス 268
▼ SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス 269
▼ SEFOS コマンドのリストの表示 269
▼ SEFOS コマンドに関するヘルプの入手 270
ネットワーク情報の表示 (SEFOS) 271
▼ すべてのポートの基本的なポートステータスの表示 (SEFOS) 272
▼ あるポートの詳細なステータスの表示 (SEFOS) 273
▼ Ethernet スイッチの IP アドレスの表示 (SEFOS) 274
ログおよび履歴の表示 (SEFOS) 274
▼ syslog ステータスの表示 (SEFOS) 274
▼ システムログ情報の表示 (SEFOS) 275
▼ コマンド履歴の表示 (SEFOS) 276
ハードウェアパラメータの管理 (SEFOS) 276
▼ 環境パラメータの表示 (SEFOS) 277
▼ SEFOS NVRAM 構成の表示 (SEFOS) 277
▼ EMS のバージョン、部品番号、およびステータスの表示 (SEFOS) 279
▼ 日付と時間の表示 (SEFOS) 279
▼ 画面のクリア (SEFOS) 280
▼ SEFOS 構成の Oracle ILOM への書き込み (SEFOS) 280
ユーザーの管理 (SEFOS) 281
▼ 現在オンラインの SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS) 281
▼ 構成済み SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS) 282
▼ SEFOS ユーザーの作成 (SEFOS) 282
▼ SEFOS ユーザーの削除 (SEFOS) 283
VLAN の管理 (SEFOS) 283
▼ VLAN の表示 (SEFOS) 284
▼ ポートの VLAN 構成情報の表示 (SEFOS) 285
▼ VLAN の有効化 (SEFOS) 286
▼ VLAN の作成 (SEFOS) 287
▼ VLAN へのポートの追加 (SEFOS) 287
▼ VLAN からのポートの削除 (SEFOS) 288
▼ VLAN の削除 (SEFOS) 289
▼ VLAN の無効化 (SEFOS) 289
SNMP の管理 (SEFOS) 290
▼ SNMP 情報の表示 (SEFOS) 290
▼ SNMP グループ情報の表示 (SEFOS) 291

▼ SNMP ユーザー情報の表示 (SEFOS) 292
▼ SNMP コミュニティー情報の表示 (SEFOS) 293
▼ SNMP ユーザーの作成 (SEFOS) 294
▼ SNMP グループの作成 (SEFOS) 294
▼ SNMP グループの削除 (SEFOS) 295
▼ SNMP ユーザーの削除 (SEFOS) 296
▼ SEFOS からのログアウト 296

スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI) 299
スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI) 300
▼ スイッチの IP アドレスの構成 (Oracle ILOM CLI) 301
▼ スイッチコンソールプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI) 302
▼ 日時の構成 (Oracle ILOM CLI) 303
▼ タイムゾーンの構成 (Oracle ILOM CLI) 304
▼ NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI) 304
▼ システム識別情報プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI) 305
スイッチ構成の管理 (Oracle ILOM CLI) 306
ロケータ LED の管理 (Oracle ILOM CLI) 312
▼ SP のリセット (Oracle ILOM CLI) 313
▼ SP の再起動 (Oracle ILOM CLI) 314
スイッチチップの制御 (Oracle ILOM CLI) 314
▼ SP の物理的存在のチェックの制御 (Oracle ILOM CLI) 316
I/O モジュールの制御 (Oracle ILOM CLI) 317
認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI) 324
AD クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI) 324
▼ DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI) 339
▼ LDAP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI) 340
LDAP over SSL クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI) 341
RADIUS クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI) 356
SSO の管理 (Oracle ILOM CLI) 360
通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI) 361
▼ SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI) 362
アラートおよびイベントの管理 (Oracle ILOM CLI) 363
ログの管理 (Oracle ILOM CLI) 368
管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI) 370
▼ 管理ネットワークパラメータの構成 (Oracle ILOM CLI) 371
IPv4 管理ネットワークプロパティーの管理 (Oracle ILOM CLI) 372
IPv6 管理ネットワークプロパティーの管理 (Oracle ILOM CLI) 375
▼ 管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI) 377

スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI) 378
シリアル接続の管理 (Oracle ILOM CLI) 378
スイッチの管理接続とログインメッセージの管理 (Oracle ILOM CLI) 381
▼ Oracle ILOM CLI のセッションタイムアウトの構成 (Oracle ILOM CLI) 382
スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI) 383
HTTP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI) 384
HTTPS サービスの管理 (Oracle ILOM CLI) 386
SSH サービスの管理 (Oracle ILOM CLI) 391
SNMP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI) 395
IPMI サービスの管理 (Oracle ILOM CLI) 406
▼ Oracle ILOM の再起動 409
▼ Oracle Fabric OS の再起動 410
ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI) 411
▼ ASR クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI) 411
▼ ASR プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI) 412
▼ ASR プロキシプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI) 413
▼ ASR クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI) 414
ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI) 414
Oracle ILOM ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI) 415
▼ セッションの削除 (Oracle ILOM CLI) 421
▼ FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI) 422

スイッチの制御 (Oracle ILOM Web) 423
スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web) 424
▼ スイッチの IP アドレスの構成 (Oracle ILOM Web) 425
▼ SP のリセット (Oracle ILOM Web) 425
▼ ロケータ LED の有効化 (Oracle ILOM Web) 426
▼ ロケータ LED の無効化 (Oracle ILOM Web) 427
▼ 構成のバックアップ (Oracle ILOM Web) 427
▼ 構成の復元 (Oracle ILOM Web) 428
▼ スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM Web) 429
スナップショットのデータセット情報 (Oracle ILOM Web) 430
▼ システム識別情報プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web) 431
▼ ホスト名の変更 (Oracle ILOM Web) 431
▼ NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web) 432
▼ タイムゾーンの設定 (Oracle ILOM Web) 432
▼ 日付と時間の設定 (Oracle ILOM Web) 433
▼ カスタム CLI プロンプトの有効化 (Oracle ILOM Web) 434

▼ カスタム CLI プロンプトの設定 (Oracle ILOM Web) 434
▼ カスタム CLI プロンプトの無効化 (Oracle ILOM Web) 435
スイッチ電源の制御 (Oracle ILOM Web) 435
▼ シリアルポートのプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web) 437
認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web) 438
AD の制御 (Oracle ILOM Web) 438
▼ DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM Web) 450
LDAP ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web) 451
LDAP over SSL の制御 (Oracle ILOM Web) 453
RADIUS ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web) 467
通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web) 471
▼ SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web) 472
アラートとイベントの管理 (Oracle ILOM Web) 472
ログの管理 (Oracle ILOM Web) 478
管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web) 488
▼ ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web) 488
▼ ネットワーク管理プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web) 489
▼ スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web) 490
▼ スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web) 491
▼ スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web) 492
▼ 管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM Web) 493
スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM Web) 494
リモートセッションの制御 (Oracle ILOM Web) 494
▼ Oracle ILOM の CLI セッションタイムアウトの設定 (Oracle ILOM Web) 497
▼ 接続バナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web) 497
▼ 接続バナーメッセージの削除 (Oracle ILOM Web) 498
▼ ログインバナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web) 498
▼ バナーログインメッセージの削除 (Oracle ILOM Web) 499
スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web) 499
▼ HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web) 500
▼ カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web) 501
▼ カスタム SSL 証明書の削除 (Oracle ILOM Web) 502
▼ 非公開鍵の削除 (Oracle ILOM Web) 503
▼ HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web) 504
▼ HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web) 505
▼ HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web) 506

SSH アクセスの制御 (Oracle ILOM Web) 506
IPMI サービスの制御 (Oracle ILOM Web) 508
SNMP サービスの制御 (Oracle ILOM Web) 511
ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web) 522
▼ Oracle ASR の構成 (Oracle ILOM Web) 523
▼ Oracle ASR プロキシのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web) 524
ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web) 525
▼ Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web) 525
▼ Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM Web) 527
▼ Oracle ILOM ユーザーアカウントへの SSH 鍵の追加 (Oracle ILOM Web) 528
▼ Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web) 529
▼ ローカルユーザーのスイッチパスワードポリシーの設定 (Oracle ILOM Web) 530
その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web) 531
キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージの制御 (Oracle ILOM Web) 531
FIPS の制御 (Oracle ILOM Web) 534

ファームウェアの更新 537
ファームウェアの概要 537
ファームウェアバージョンと更新方法 538
▼ スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード 539
スイッチファームウェアのアップグレード (`nm3tool`) 540
`nm3tool` コマンドの構文 541
▼ 構成可能スイッチプロパティーの表示 (`nm3tool` コマンド) 542
▼ ファームウェアのアップグレード (`nm3tool` コマンド) 543
▼ ファームウェアのアップグレード (`nm3tool` メニュー) 544
▼ ファームウェアアップグレードの確認 (`nm3tool`) 546
スイッチファームウェアのアップグレード (Oracle Fabric OS) 547
`system upgrade` の構文 547
▼ ファームウェアのアップグレード (Oracle Fabric OS) 548
▼ ファームウェアアップグレードの確認 (Oracle Fabric OS) 549

用語集 551

索引 559

このドキュメントの使用法

- **概要** – このドキュメントでは、Oracle InfiniBand Switch IS2-46、Oracle InfiniBand Switch IS2-254、および Oracle Fabric Interconnect F2-12 のシャーシハードウェアとコンポーネントをモニターおよび制御する方法について説明します。
- **対象読者** – このドキュメントは、経験豊富な技術者、システム管理者、および Oracle 認定サービス担当者を対象としています。
- **必要な知識** – このドキュメントでは、読者がデータセンター、ネットワークスイッチ、およびホストの管理に関する豊富な経験を持っていることを前提にしています。これには、I/O モジュール、ドーターカード、ファン、PSU/PDU、管理モジュールが含まれますが、これに限定されるわけではありません。IB、Ethernet、およびファイバチャネルネットワークの管理に関する知識も必要です。

Oracle InfiniBand Switch IS2-46、Oracle InfiniBand Switch IS2-254、および Oracle Fabric Interconnect F2-12 製品はまとめて、Oracle EDR InfiniBand Switch および仮想 I/O システムと呼ばれます。このドキュメントで引用された場合、これらの製品はそれぞれ、リーフスイッチ、スパインスイッチ、および仮想化スイッチとも呼ばれます。

このドキュメントの発行時点では Oracle InfiniBand Switch IS2-46 および Oracle Fabric Interconnect F2-12 が入手可能であるため、このドキュメントの内容はそれらのスイッチに重点を置いています。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは次から入手可能です。

- リーフスイッチ: `http://www.oracle.com/goto/is2-46/docs`
- 仮想化スイッチ: `http://www.oracle.com/goto/f2-12/docs`

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを `http://www.oracle.com/goto/docfeedback` からお寄せください。

システム管理リソースの理解

これらのトピックでは、Oracle ILOM およびスイッチにおけるその実装の概要について説明します。

- 19 ページの「スイッチの概要」
- 21 ページの「スイッチ管理の概要」
- 22 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 23 ページの「SNMP の概要」
- 24 ページの「IPMI の概要」
- 25 ページの「Oracle Auto Service Request ソフトウェア」

関連情報

- 27 ページの「スイッチへのアクセス」
- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 119 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの理解」
- 193 ページの「SNMP MIB OID の理解」
- 265 ページの「EMS モジュールの理解」
- 299 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 423 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 537 ページの「ファームウェアの更新」

スイッチの概要

Oracle の EDR ソリューションは、さまざまなスイッチ、HCA、およびホストドライバから構成され、ホストへの EDR InfiniBand 接続を提供します。これらのトピックでは、スイッチの概要について説明します。

- 20 ページの「Oracle InfiniBand Switch IS2-46」
- 20 ページの「Oracle Fabric Interconnect F2-12」

関連情報

- 21 ページの「スイッチ管理の概要」
- 22 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 23 ページの「SNMP の概要」
- 24 ページの「IPMI の概要」
- 25 ページの「Oracle Auto Service Request ソフトウェア」

Oracle InfiniBand Switch IS2-46

Oracle InfiniBand Switch IS2-46 は、高性能のエンタープライズクラウド内に配備されたサーバーのスイッチングインフラストラクチャーを統合および仮想化する、完全なアクセス切り替えおよび I/O プラットフォームです。ドキュメントで、このスイッチはリーフスイッチとも呼ばれています。

このスイッチは、EDR 速度をサポートする最大 38 個の 4x IB ポートを備えています。さらに、4 つの 12x IB ポートおよび 2 つの 4x IB/40GbE 組み合わせポートによってネットワークとゲートウェイの両方の機能を提供しています。8 つの 10GbE ポートおよび 24 個の 1GBASE-T ポートは、Ethernet オーバーレイネットワークを提供し、最後の 2 つの Ethernet ポートでネットワーク管理をサポートしています。最適化された専用の個別オンボード SP および SCP では、使いやすい CLI および GUI を使用して、シャーシ機能、Ethernet トラフィック、および IB ファブリックをそれぞれ管理します。

詳細については、*Oracle InfiniBand Switch IS2-46* 設置ガイドを参照してください。

関連情報

- 20 ページの「Oracle Fabric Interconnect F2-12」
- 21 ページの「スイッチ管理の概要」

Oracle Fabric Interconnect F2-12

この Fabric Interconnect は、高性能なエンタープライズクラウド内に配備されるサーバーおよびストレージシステムのスイッチングインフラストラクチャーを統合および仮想化するように設計された、完全なアクセス切り替えおよび I/O プラットフォームです。ドキュメントで、このスイッチは仮想化スイッチとも呼ばれています。

仮想化スイッチは、最大 48 個の 4x IB ポート、24 個の 16Gb FC ポート、48 個の 10GBASE-T ポート、48 個の 40G Ethernet ポート、またはこれらのポートを組み合わせてさまざまな方法で構成し、ネットワーク機能とゲートウェイ機能を提供できます。さらに、4 つの 12x IB ポート、4 つの 1GBASE-T ポート、および 2 つの 4x

IB/40GbE のポートの組み合わせによってネットワークとゲートウェイの両方の機能を提供しています。

最適化された専用の個別オンボード SP、ABD、および SCP では、使いやすい CLI および Web インタフェースを使用して、シャーシ機能、Ethernet トラフィック、および IB ファブリックをそれぞれ管理します。

仮想化スイッチは、スイッチの 12 スロットのいずれかに収まる I/O モジュール経由で、ストレージ、ギガビット Ethernet、および IB リソースへのサーバー接続を提供する Oracle F2 I/O モジュールによってカスタマイズできます。

詳細については、『*Oracle Fabric Interconnect F2-12* 設置ガイド』を参照してください。

関連情報

- 20 ページの「Oracle InfiniBand Switch IS2-46」
- 21 ページの「スイッチ管理の概要」

スイッチ管理の概要

スイッチには 4 つの管理コンテキストがあり、3 つの異なるハードウェアチップで実行される特定のソフトウェアによってそれぞれが管理されます。これらのコンテキストの一部はスイッチとそのハードウェアに関連しており、その他はスイッチの接続先の IB ファブリックと Ethernet ネットワークに関連しています。

管理コンテキスト	ハードウェアコンポーネント	詳細
Oracle Fabric OS (OFOS)	SCP	CLI を使用して、スイッチの IB ファブリック、サポートされる IB 接続ホスト、および IB 機能の構成と管理を制御します。 *Oracle Fabric OS 5.0.2* 管理ガイドおよび『*Oracle Fabric OS 1.0* コマンドリファレンス』を参照してください。
Oracle Fabric Manager	SCP	GUI または CLI を使用して、スイッチの IB ファブリック、サポートされる IB 接続ホスト、および IB 機能の構成と管理を制御します。 *Oracle Fabric Manager* ユーザーズガイド *5.0.2* および *Oracle Fabric Manager CLI 5.0.2* のユーザーズガイド を参照してください。
Sun Ethernet Fabric OS (SEFOS)	Ethernet 管理スイッチ (EMS)	スイッチの Ethernet スイッチチップ、Ethernet ネットワークパラメータ、Ethernet および IP 機能の構成を制御します。 このガイドには、スイッチでサポートされる SEFOS 機能を通じて使用する可能性がある基本的な管理タスクのサマリーが記載されています。265 ページの「EMS モジュールの理解」を

管理コンテキスト	ハードウェアコンポーネント	詳細
		参照してください。EMS スイッチの SEFOS の詳細は、EMS モジュールのドキュメントライブラリを参照してください。
Oracle ILOM および SNMP	オンボードサービスプロセッサ (SP) モジュール	CLI と Web インタフェースを使用して、システムレベルおよびコンポーネントレベルのハードウェア、シャーシ環境、およびその他の管理コンテキストへのアクセスを制御します。

関連情報

- 19 ページの「スイッチの概要」
- 22 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 23 ページの「SNMP の概要」
- 24 ページの「IPMI の概要」
- 25 ページの「Oracle Auto Service Request ソフトウェア」

Oracle ILOM の概要

このドキュメントには、スイッチに関連する Oracle ILOM 3.2.6 の基本情報が記載されています。

Oracle ILOM は、SP を介してハードウェアデバイスをリモートで管理する手段です。スイッチの場合、SP はスイッチ内の管理コントローラです。Oracle ILOM は、ユーザー、ハードウェア、サービス、プロトコル、および構成のモニタリングおよび制御を可能にします。Oracle ILOM を使用して、ハードウェアコマンドでは実行できないタスクを実行できます。

Oracle ILOM には次の 2 つのプライマリインタフェースがあります。

- **Oracle ILOM CLI**。36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」を参照してください。
- **Oracle ILOM Web**。120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」を参照してください。

Oracle ILOM Web インタフェースを使用すると、Oracle ILOM コンポーネントとサービスのポイント&クリック管理が可能になります。これらのインタフェースにアクセスするには、Oracle ILOM からデフォルトの root ユーザーアカウントを使用します。root アカウントは、Oracle ILOM ターゲット、コンポーネント、およびサービスの追加、削除、作成、有効化、無効化などを行うための完全な特権を持っています。

さらに、Oracle ILOM 実装では、業界標準の SNMP インタフェースがサポートされます。

管理コントローラ (SP) ファームウェアをバージョン 1.1.2 以降にアップグレードすると、Oracle ILOM 3.2.*x* のサポートがインストールされます。Oracle ILOM の追加の利

点として、将来の SP およびファームウェアのアップグレードが大幅に簡素化されることがあります。Oracle ILOM の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E37444_01/index.html

関連情報

- 19 ページの「スイッチの概要」
- 21 ページの「スイッチ管理の概要」
- 23 ページの「SNMP の概要」
- 24 ページの「IPMI の概要」
- 25 ページの「Oracle Auto Service Request ソフトウェア」

SNMP の概要

スイッチ内の SP 上の Oracle ILOM 実装は、SNMP 経由で Oracle ILOM の状態を通信したり、Oracle ILOM のリモート管理を有効にしたりできます。

SP 上の Oracle ILOM SNMP エージェントとインタフェースするには、SNMP クライアントが必要です。SNMP クライアントには、適切な Oracle ILOM MIB がインストールされている必要があります。これらの MIB は、ダウンロードした Oracle ILOM ファームウェアパッケージに含まれています。

MIB は、CLI または Web インタフェースを使用して利用することもできます。405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」または 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

クライアントは、SNMP プロトコルを使用して、要求をオブジェクト識別子 (OID) の形式で SP 上のサーバーに送信します。193 ページの「SNMP MIB OID の理解」の表には、オブジェクト識別子が一覧表示されています。

SNMP、および Oracle ILOM でのその使用の詳細は、次の場所にある『*Oracle ILOM SNMP* および *IPMI* 用プロトコル管理リファレンスファームウェア *Release 3.2.x*』を参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E37444_01/index.html

関連情報

- 19 ページの「スイッチの概要」
- 21 ページの「スイッチ管理の概要」

- 22 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 24 ページの「IPMI の概要」
- 25 ページの「Oracle Auto Service Request ソフトウェア」

IPMI の概要

スイッチ内の SP 上の Oracle ILOM 実装は、Intelligent Platform Management Interface (インテリジェントプラットフォーム管理インタフェース) を使用してスイッチハードウェアの状態を通信できる IPMI サーバーを提供します。

SP 上の Oracle ILOM IPMI スタックとインタフェースするには、IPMI クライアントが必要です。スタックとのインタフェースを取るには管理者権限を持っている必要があり、スイッチで IPMI サービスが有効になっている必要があります。

`ipmitool` ユーティリティーは、これらのトピックで使用される IPMI クライアントであり、次の形式を使用します。

```
$ ipmitool -v -I lan -H mc_IP -U user command option
```

ここでは:

- *mc_IP* は SP の IP アドレスです。
- *user* は、管理権限を持つユーザーです。たとえば、`ilom-admin` です。
- *command* は、SP 上で実行されるコマンドです。
- *option* は、*command* に対するオプションの引数またはパラメータです。

注記 - `ipmitool` コマンド行のインストール後に、ユーティリティーを続行するにはユーザーのパスワードを入力する必要があります。`ilom-admin` ユーザーの場合、デフォルトのパスワードは `ilom-admin` です。

IPMI、および Oracle ILOM でのその使用の詳細は、オンラインで次から入手可能な『*Oracle ILOM SNMP* および *IPMI* 用プロトコル管理リファレンスファームウェア *Release 3.2.x*』を参照してください。

`http://docs.oracle.com/cd/E37444_01/index.html`。

関連情報

- 19 ページの「スイッチの概要」
- 21 ページの「スイッチ管理の概要」
- 22 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 23 ページの「SNMP の概要」

- 25 ページの「Oracle Auto Service Request ソフトウェア」

Oracle Auto Service Request ソフトウェア

Oracle Auto Service Request (ASR) ソフトウェアは、特定の障害が発生したときに、スイッチおよび認定されたほかの製品に対してサービスリクエストを自動的に開くことで、迅速に問題を報告する機能を提供します。

Oracle ASR は、電子的な障害遠隔測定データを Oracle にセキュアに送信し、障害診断の自動的な迅速化に役立てます。多くの場合、Oracle は ASR リクエストを受信して、発生した問題をユーザーが認識する前に、その問題を解決するようにエンジニアに割り当てます。

Oracle ASR の一方向のデータ送信では、インターネット接続やリモートアクセスメカニズムを必要としません。問題の解決に必要な情報のみが送信されます。

Oracle ASR は、Oracle のハードウェア保証、Oracle Premium Support for Systems、および Oracle Platinum Services の機能です。

Oracle ASR は、My Oracle Support (`https://support.oracle.com`) に統合されています。Oracle ASR システムでアセットをアクティブにするには、My Oracle Support を使用します。

関連情報

- 19 ページの「スイッチの概要」
- 21 ページの「スイッチ管理の概要」
- 22 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 23 ページの「SNMP の概要」
- 24 ページの「IPMI の概要」

スイッチへのアクセス

これらのトピックでは、スイッチにアクセスする方法について説明します。

- 27 ページの「ユーザーの役割と権限」
- 28 ページの「スイッチへのアクセス (SER MGT)」
- 29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」
- 29 ページの「Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス」
- 30 ページの「SEFOS へのアクセス」
- 31 ページの「Oracle Fabric OS へのアクセス」
- 32 ページの「Oracle Fabric Manager CLI へのアクセス」

関連情報

- 19 ページの「システム管理リソースの理解」
- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 119 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの理解」
- 193 ページの「SNMP MIB OID の理解」
- 265 ページの「EMS モジュールの理解」
- 299 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 423 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 537 ページの「ファームウェアの更新」

ユーザーの役割と権限

スイッチは、一般には `aucros` と呼ばれる、役割とそれに関連付けられた権限の Oracle の標準の RBAC モデルを使用します。ユーザーの役割は、各ユーザーがスイッチ上で実行できることと実行できないことを制御するため、重要です。

次のものに対するユーザーの役割と権限を構成します。

- スイッチ上のローカルユーザーアカウント

- スイッチの AD、DNS、LDAP、LDAP over SSL、および RADIUS クライアントのユーザーアカウント

役割	ラベル	権限
管理者	a	スイッチ上のすべての機能を制御します
ユーザー管理	u	スイッチ上のユーザーアカウントを制御します
コンソール	c	スイッチのコンソールサービス、リダイレクションを制御します
リセットおよびホスト制御	r	スイッチおよび接続されているホストのリセットを制御します。
読み取り専用/オペレータ (デフォルトの役割)	o	スイッチ上の情報の表示を制御します。ただし、それらの情報の構成、編集、保存は対象外です。
保守	s	交換のためのハードウェアおよび個々のハードウェアコンポーネントの電源切断を制御します。

関連情報

- 28 ページの「スイッチへのアクセス (SER MGT)」
- 29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」
- 29 ページの「Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス」
- 30 ページの「SEFOS へのアクセス」
- 31 ページの「Oracle Fabric OS へのアクセス」
- 32 ページの「Oracle Fabric Manager CLI へのアクセス」
- 33 ページの「Oracle Fabric Manager GUI へのアクセス」

▼ スイッチへのアクセス (SER MGT)

スイッチへのアクセスは、標準の Telnet セッションを使用して SER MGT ポート経由でサポートされます。

1. **端末ウィンドウを開きます。**
2. **次のように入力します。**
   `telnet` *console-connection telnet-port*
   ここでは:
   console-connection は Telnet 接続の番号です。
   telnet-port は Telnet ソケットまたはポート番号です。
3. **Enter キーを押します。**
   スイッチのログインプロンプトが表示されます。

4. **スイッチのユーザー名とログインを入力し、Enter キーを押します。**
   正常にログインした場合は、スイッチのコマンドプロンプト (->) が表示され、スイッチの管理を開始できます。

   関連情報

   - 29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」
   - 29 ページの「Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス」
   - 30 ページの「SEFOS へのアクセス」
   - 31 ページの「Oracle Fabric OS へのアクセス」
   - 32 ページの「Oracle Fabric Manager CLI へのアクセス」
   - 33 ページの「Oracle Fabric Manager GUI へのアクセス」

▼ CLI から Oracle ILOM へのアクセス

1. **SSH または別の一般的な接続マネージャーを使用して、SP のネットワークアドレスを指定することによってセッションを開始します。**

2. **`root` ユーザー名でログインし、デフォルトのパスワード `changeme` を入力して Oracle ILOM CLI にアクセスします。**
   コマンドプロンプト (->) が表示されたら、Oracle ILOM CLI になっています。スイッチのプロパティーを制御またはモニターすることによってスイッチの管理を開始できます。299 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)」または 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

   関連情報

   - 409 ページの「Oracle ILOM の再起動」
   - 27 ページの「ユーザーの役割と権限」
   - 28 ページの「スイッチへのアクセス (SER MGT)」
   - 29 ページの「Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス」
   - 30 ページの「SEFOS へのアクセス」
   - 31 ページの「Oracle Fabric OS へのアクセス」
   - 32 ページの「Oracle Fabric Manager CLI へのアクセス」
   - 33 ページの「Oracle Fabric Manager GUI へのアクセス」

▼ Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス

1. **Web ブラウザを開き、URL に SP のネットワークアドレスを指定することによって Oracle ILOM Web インタフェースに接続します。**

Oracle ILOM のログインページが表示されます。

注記 - ログインページが表示されないか、または 404 エラーが表示される場合は、Web インタフェースが有効になっていることを確認してください。CLI から Web インタフェースを有効にするには、384 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」および 387 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

---

2. **「User Name」フィールドに `root` ユーザー名を、「Password」フィールドに root ユーザーのパスワードを入力します。**

3. **「Submit」をクリックします。**
Oracle ILOM Web インタフェースが表示されます。スイッチの管理を開始できます。423 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)」または 119 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

関連情報

- 409 ページの「Oracle ILOM の再起動」
- 27 ページの「ユーザーの役割と権限」
- 31 ページの「Oracle Fabric OS へのアクセス」
- 32 ページの「Oracle Fabric Manager CLI へのアクセス」
- 33 ページの「Oracle Fabric Manager GUI へのアクセス」

▼ SEFOS へのアクセス

スイッチは、その Ethernet ネットワーク内の機能を構成するためのさまざまな管理インタフェースをサポートします。スイッチの Ethernet に対するサポートは、組み込み管理スイッチ (EMS) 経由で実行されます。Oracle の Sun Ethernet Fabric Operating System (SEFOS) は EMS 上で実行され、スイッチの Ethernet 機能の構成および管理を制御します。

1. **Oracle ILOM CLI からスイッチにログインします。**
29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」を参照してください。

2. **EMS コンソールを起動します。**

```
-> start /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli
Are you sure you want to start /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli
(y/n)? y

                Management Switch for Oracle InfiniBand Switch IS2-46

SEFOS login:
```

3. **SEFOS にログインします。**

```
SEFOS login: root
Password: password
SEFOS#
```

デフォルトのパスワードは admin123 です。これで、特権付き EXEC モードになります。SEFOS のモードについては、266 ページの「EMS モジュールの概要」を参照してください。

関連情報

- 27 ページの「ユーザーの役割と権限」
- 28 ページの「スイッチへのアクセス (SER MGT)」
- 29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」
- 31 ページの「Oracle Fabric OS へのアクセス」

▼ Oracle Fabric OS へのアクセス

スイッチは、その IB ファブリックおよび Ethernet ネットワーク内の機能を構成するためのさまざまな管理インタフェースをサポートします。Oracle Fabric OS は、IB ファブリック内の機能の構成および管理を制御します。

1. **Oracle ILOM CLI からスイッチにログインします。**
   29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」を参照してください。

2. **コマンドプロンプトに入力して、Oracle Fabric OS コンソールにアクセスします。**

```
start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y

Serial console started.  To stop, type ESC (

Oracle Linux Server release 6.7
Kernel 4.1.12-32.el6uek.x86_64 on an x86_64

switchname login
```

   この時点で、admin または root としてログインできます。

3. **アクセスの方法を選択します。**

   - **admin としてログインします。**

```
host-name login: admin
Password:
                          Welcome to OFOS Controller
Copyright (c) 2012, 2016, Oracle and/or its affiliates.  All rights reserved.
```

     ここで password は admin のデフォルトのパスワードです。

   - **root としてログインし、ユーザーを admin ユーザーに変更します。**

```
host-name login: root
Password: changeme

[root@host-name ~]# su admin

                        Welcome to OFOS Controller
Copyright (c) 2012, 2016, Oracle and/or its affiliates.  All rights reserved.

             Enter "help" for information on available commands.
admin@switchname[OFOS]
```

コマンドプロンプトに [OFOS] と表示された場合は、スイッチの Oracle Fabric オペレーティングシステムにログインしています。

Oracle Fabric OS コントローラを通して、IB ファブリック機能の構成および管理を開始できます。詳細は、『*Oracle Fabric OS 1.0* 管理ガイド』を参照してください。

関連情報

- 410 ページの「Oracle Fabric OS の再起動」
- 27 ページの「ユーザーの役割と権限」
- 28 ページの「スイッチへのアクセス (SER MGT)」
- 29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」
- 30 ページの「SEFOS へのアクセス」
- 32 ページの「Oracle Fabric Manager CLI へのアクセス」

▼ Oracle Fabric Manager CLI へのアクセス

スイッチは、その IB ファブリックおよび Ethernet ネットワーク内の機能を構成するためのさまざまな管理インタフェースをサポートします。Oracle Fabric Manager は、EDR ファブリック、スイッチ、およびホストを管理する製品です。Oracle Fabric Manager は GUI と CLI を提供しているため、ユーザーはどちらの方法が配備に適しているかを選択できます。Oracle Fabric Manager CLI は、各リーフ、スパイン、または仮想化スイッチにプリインストールされています。

1. **Putty または別の標準の SSH 接続マネージャーを使用して、スイッチの SCP にログインします。**
2. **コマンドプロンプトで、次のように入力します。**

   ```
   cd /opt/xsigo/xms.bin
   ```

3. **次のように入力します。**

   ```
   ./ofmcli
   ```

   このコマンドの完了時に、Oracle Fabric Manager CLI が開始されます。このインタフェースを使用して IB ファブリック内の機能を構成できます。詳細は、*Oracle Fabric Manager CLI* のユーザーズガイドを参照してください。

関連情報

- 27 ページの「ユーザーの役割と権限」
- 28 ページの「スイッチへのアクセス (SER MGT)」
- 31 ページの「Oracle Fabric OS へのアクセス」
- 33 ページの「Oracle Fabric Manager GUI へのアクセス」

▼ Oracle Fabric Manager GUI へのアクセス

スイッチは、その IB ファブリックおよび Ethernet ネットワーク内の機能を構成するためのさまざまな管理インタフェースをサポートします。Oracle Fabric Manager は、EDR ファブリック、スイッチ、およびホストを管理します。Oracle Fabric Manager は GUI と CLI を提供しているため、ユーザーはどちらの方法が配備に適しているかを選択できます。Oracle Fabric Manager GUI は、各リーフ、スパイン、または仮想化スイッチにプリインストールされています。

1. **Web ブラウザを起動します。**
2. **「URL」フィールドに、次のように入力します。**

   `https://`*switch-name-or-ip-address*`:8443/xms`**

   ここで、*switch-name-or-IP-address* はスイッチの名前または IP アドレスです。Oracle Fabric Manager はサーバー上でも実行できます。その場合は、Oracle Fabric Manager がインストールされているサーバーの名前または IP アドレスを入力します。

3. **「Login」ダイアログで必要な情報を入力し、「Login」をクリックします。**

   詳細は、*Oracle Fabric Manager 5.0.2* のユーザーズガイドを参照してください。

関連情報

- 27 ページの「ユーザーの役割と権限」
- 28 ページの「スイッチへのアクセス (SER MGT)」
- 29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」
- 29 ページの「Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス」
- 30 ページの「SEFOS へのアクセス」
- 31 ページの「Oracle Fabric OS へのアクセス」
- 32 ページの「Oracle Fabric Manager CLI へのアクセス」

スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI からスイッチのさまざまな側面を表示する方法について説明します。

説明	リンク
コマンド構文を理解します	36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
Oracle ILOM CLI に関するヘルプを確認します。	36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
スイッチの各種要素とその構成をモニターします。	38 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
認証と承認を管理するさまざまなクライアントをモニターします。	80 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
システムイベントと警告の動作とそれらのログへの記録方法をモニターします。	90 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
SP とスイッチのネットワークプロパティーをモニターします。	96 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
接続とログインのプロパティーをモニターします。	100 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
スイッチとのさまざまなインタフェースの方法とスイッチインタフェースの動作をモニターします。	103 ページの「スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
スイッチのサポートの取得のプロパティーをモニターします。	110 ページの「スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
ユーザーアカウントおよびセッションをモニターします。	113 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
スイッチの追加の側面をモニターします。	116 ページの「追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 19 ページの「システム管理リソースの理解」
- 27 ページの「スイッチへのアクセス」
- 119 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの理解」
- 193 ページの「SNMP MIB OID の理解」

- 265 ページの「EMS モジュールの理解」
- 299 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 423 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 537 ページの「ファームウェアの更新」

Oracle ILOM CLI の概要

Oracle ILOM CLI インタフェースはターゲットに影響する一連のコマンドを使用します。コマンドは動詞のように動作し、ターゲットは名詞に似ています。コマンド行は基本的な文章に似ています。たとえば、イベントログを表示する場合、コマンド行は次のようになります。

```
-> show /SP/logs/event/list
```

ここでは:

- `show` はコマンド (または動詞) です。
- `/SP/logs/event/list` はターゲット (または名詞) です。

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 21 ページの「スイッチ管理の概要」
- 29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 193 ページの「OID 表の概要」

Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI でヘルプを取得する方法について説明します。

- 37 ページの「Oracle ILOM コマンドに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 38 ページの「Oracle ILOM ターゲットプロパティーに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」

- 38 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 80 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 90 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 96 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 100 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 103 ページの「スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 116 ページの「追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM コマンドに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)

オンラインヘルプは、Oracle ILOM CLI コマンドで、コマンド名の前にキーワード `help` を付けて使用できます。

- **コマンドに関するヘルプを取得します。**

```
-> help -o verbose command
```

ここで *command* は、ヘルプが必要な Oracle ILOM コマンドです。

たとえば、`exit` コマンドに関するヘルプを取得するには、次のように入力します。

```
-> help -o verbose exit
The exit command is used to terminate a session.
Usage: exit
Example:
  -> exit
  Connection to nyc-sp closed.
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 37 ページの「Oracle ILOM コマンドに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 38 ページの「Oracle ILOM ターゲットプロパティーに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM ターゲットプロパティーに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)

オンラインヘルプは、Oracle ILOM CLI で特定のターゲットに対し、ターゲットとそのプロパティーの前にキーワード `help` を付けて使用できます。このタスクを使用して、Oracle ILOM CLI ターゲットの 1 つのプロパティーに関するヘルプを取得します。

- **ターゲットプロパティーに関するヘルプを取得します。**

```
-> help target property
```

ここでは:

- *target* は、操作するターゲットとパスです。
- *property* は、ヘルプを必要とする *target* のプロパティーです。

たとえば、root ユーザーの `role` プロパティーに関するヘルプを取得するには、次のように入力します。

```
-> help /SP/users/root
 /SP/users/root : Username
 User role required for create/delete = u
  Targets:
 ssh : SSH objects for user root
 Properties:
   role : Role of ilom-operator
   role : Possible values = Operator, Administrator, a, u, c, r, o, s
   role : User role required for set = u
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 37 ページの「Oracle ILOM コマンドに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 38 ページの「Oracle ILOM ターゲットプロパティーに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)

スイッチがオンラインになったあとにいつでも、ほとんどのスイッチモニタリングタスクを実行できます。ただし、一部の基本的なスイッチタスクは、スイッチが電源投

入または再起動されるたびにその他のタスクの前に実行するようにしてください。この表は、これらのタスクの一般的な順序を示しています。

手順	タスク	リンク
1.	すべての障害をチェックします。	39 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
2.	システム LED をチェックします。	50 ページの「ステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
3.	日付と時間のパラメータをチェックします。	43 ページの「日付とタイムゾーンの表示 (Oracle ILOM CLI)」
4.	スイッチ識別情報をチェックします。	46 ページの「システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
5.	ASR の状態をチェックします。	112 ページの「ASR クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
6.	仮想化スイッチの場合、モジュールをチェックします。	70 ページの「I/O モジュールの表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 80 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 90 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 96 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 100 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 103 ページの「スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 116 ページの「追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

▼ 障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、障害が発生したすべてのターゲットを、照会できる `faultmgt` ターゲットに追加します。スイッチがエラーの通知を送信した場合、またはスイッチハードウェアの問題が発生している疑いがある場合は、このタスクを使用して、障害の発生したコンポーネントをチェックします。

1. **障害が発生したすべてのコンポーネントを表示します。**

```
-> show -d targets /SP/faultmgmt/x
 /SP/faultmgmt
  Targets:
  x  (faulted_target)
->
```

ここでは:

- *x* はターゲットのシーケンス番号 (0 から始まる) です。
- *faulted_target* は障害が発生したコンポーネントの Oracle ILOM ターゲットです。

注記 - 複数の障害が発生したコンポーネントがある場合、それらの各ターゲットは、増加していくターゲットシーケンス番号で一覧表示されます。

注記 - 番号が表示されていない場合は、障害が発生したコンポーネントがありません。

たとえば、次のように入力します。

```
-> show -d targets /SP/faultmgmt
 /SP/faultmgmt
  Targets:
   0 (/SYS/PS0)
->
```

2. **障害の詳細を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/faultmgmt/x/faults/y
```

ここでは:

- *x* はターゲットのシーケンス番号 (0 から始まる) です。
- *y* は、ターゲット*x* の障害シーケンス番号 (0 から始まる) です。

たとえば、次のように入力します。

```
-> show /SP/faultmgmt/0/faults/0
 /SP/faultmgmt/0/faults/0
  Properties:
   class = fault.chassis.tli.invalid
         sunw-msg-id = ILOM-8000-30
         component = /SYS
         uuid = f431abc4-192d-41c0-dc0a-feff5e043ec3
         timestamp = 2000-11-24/19:27:44
         fru_serial_number = unknown
         fru_part_number = unknown
         fru_name = unknown
         fru_manufacturer = Oracle Corporation
         system_component_manufacturer = Oracle Corporation
         system_component_name = unknown
         system_component_part_number = unknown
         system_component_serial_number = unknown
         chassis_manufacturer = Oracle Corporation
```

```
        chassis_name = unknown
        chassis_part_number = unknown
        chassis_serial_number = unknown

->
```

class プロパティーは、障害の一般的な理由を示します。

注記 - その他の障害情報については、スイッチのサービスマニュアルの障害の検出と管理のトピックを参照してください。

関連情報

- 41 ページの「未解決の問題のチェック (Oracle ILOM CLI)」
- 42 ページの「スイッチの健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 43 ページの「スイッチの稼働時間の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 92 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 93 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチの健全性プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、スイッチの健全性に関連するプロパティーを表示する方法について説明します。

- 41 ページの「未解決の問題のチェック (Oracle ILOM CLI)」
- 42 ページの「スイッチの健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 50 ページの「ステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 51 ページの「スイッチの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 52 ページの「MBOM 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「電源装置の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 61 ページの「スイッチ電源の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 67 ページの「スイッチ冷却装置の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 未解決の問題のチェック (Oracle ILOM CLI)

スイッチは未解決の問題を記録します。いつでも未解決の問題の数を照会できます。

- **スイッチの報告された問題 (ある場合) を表示します。**

```
-> show -d properties /System open_problems_count
 /System
  Properties:
   open_problems_count = 1
->
```

関連情報

- 39 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 42 ページの「スイッチの健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 43 ページの「スイッチの稼働時間の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 92 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 93 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチの健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)

1. **スイッチ全体の健全性を表示します。**
   たとえば、次のように入力します。

```
-> show -d properties /System health
 /System
  Properties:
   health = OK
->
```

2. **詳細なスイッチの健全性を表示します。**
   たとえば、次のように入力します。

```
-> show -d properties /System health_details_
 /System
  Properties:
   health_details = -
->
```

関連情報

- 41 ページの「未解決の問題のチェック (Oracle ILOM CLI)」
- 39 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 43 ページの「スイッチの稼働時間の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 92 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 93 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 日付とタイムゾーンの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには正しい日付、時間、およびタイムゾーンを維持するための内部クロックプロセッサがあります。通常、スイッチはデフォルトの日付およびタイムゾーンで出荷されます。その後、スイッチを設置して、はじめてオンラインにする一環として、ユーザーが日付、時間、およびタイムゾーンを設定します。

注記 - 代わりの方法として、ネットワークで使用している NTP サーバーとシステムクロックを同期できます。

- **日付を表示します。**

```
-> show /SP/clock datetime timezone
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> show /SP/clock datetime timezone
 /SP/clock
  Properties:
   datetime = Sun Jan 17 20:25:53 2016
   timezone = PDT (PST8PDT)
->
```

関連情報

- 43 ページの「スイッチの稼働時間の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 44 ページの「NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 303 ページの「日時の構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 304 ページの「タイムゾーンの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 304 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチの稼働時間の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチ稼働時間は、スイッチがオンラインで動作している時間の量です。稼働時間は、エラー、またはリブートやファームウェアまたはソフトウェアのアップグレードなどの計画的システム停止によって再開されることがあります。このタスクを使用して、スイッチがその最後のリセット以降に実行していた時間の量を表示します。

- **システム稼働時間を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clock uptime
 /SP/clock
  Properties:
   uptime = 140 days, 02:24:11
```

```
->
```

関連情報

- 43 ページの「日付とタイムゾーンの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 44 ページの「NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 303 ページの「日時の構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 304 ページの「タイムゾーンの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 304 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチはその内部システムクロックの代わりに NTP を使用するように構成できます。スイッチが NTP を使用するように構成されており、ネットワークの NTP サーバーと同期されている場合、このタスクを使用してスイッチが接続されている NTP サーバーを表示します。

1. **NTP サーバーの IP アドレスを表示します。**

```
-> show /SP/clients/ntp/server/1 address
 /SP/clients/ntp/server/1
  Properties:
   address = 123.45.67.89

-> show /SP/clients/ntp/server/2 address
 /SP/clients/ntp/server/2
  Properties:
   address = 0.0.0.0
->
```

出力で NTP サーバー 1 の IP アドレスは、`123.45.67.89` です。NTP サーバー 2 の `0.0.0.0` の IP アドレスは、サーバーが構成されていないことを意味します。

2. **NTP サーバーのステータスを表示します。**

```
-> show /SP/clock usentpserver
 /SP/clock
  Properties:
   usentpserver = enabled
->
```

`usentpserver` プロパティーの値は、SP が時間を構成済みの NTP サーバーと同期させるかどうかを決定します。値は `enabled` または `disabled` です。

関連情報

- 43 ページの「スイッチの稼働時間の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 43 ページの「日付とタイムゾーンの表示 (Oracle ILOM CLI)」

- 303 ページの「日時の構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 304 ページの「タイムゾーンの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 304 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには Oracle ILOM やスイッチ BIOS など、スイッチ機能のさまざまな側面のさまざまなタイプのファームウェアがあります。

1. **ILOM ファームウェアのバージョンを表示します。**

```
-> show -d properties /System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_0
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> show -d properties /System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_0
/System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_0
  Properties:
   component = ILOM
   type = ILOM Firmware
   version = 3.2.6.0
->
```

2. **SP にロードされたファームウェアのバージョンを表示します。**

```
-> version
SP firmware 3.2.0.0
SP firmware build number: 108582
SP firmware date:  Wed Mar 30 01:25:22 PDT 2016
SP filesystem version: 0.2.10
->
```

3. **スイッチにロードされた Ethernet スイッチファームウェアのバージョンを表示します。**

```
-> show -d properties /System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_1
/System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_1
  Properties:
   component =  SYS ETHSWITCH0
         type = Upgradeable FRU
         version = Not Available
         load_uri = (none)

->
```

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの更新」

- 313 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 316 ページの「Ethernet スイッチチップファームウェアのロード (Oracle ILOM CLI)」
- 315 ページの「Ethernet スイッチチップ機能のリセット (Oracle ILOM CLI)」

▼ システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、配備内のほかの Oracle スイッチと区別するために、システム全体とそのサービスプロセッサの識別情報プロパティーがあります。このタスクを使用して、デフォルトまたはカスタムのいずれかのスイッチ識別情報を表示します。

1. **SP のプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP
 /SP
  Properties:
   check_physical_presence = true
         current_hostname = techpubs
         hostname = techpubs
         reset_to_defaults = none
         system_contact = (none)
         system_description = unknown, ILOM v3.2.6.0, r108582
         system_identifier = (none)
         system_location = (none)

->
```

2. **スイッチのプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /System
 /System
  Properties:
   health = OK
   health_details = -
   open_problems_count = 0
   type = Rack Mount
         model = Unknown
         qpart_id = Q12721
         part_number = Unknown
         serial_number = Unknown
         system_identifier = (none)
         system_fw_version = 3.2.6.0
         host_primary_mac_address = Not Supported
         ilom_address = 10.134.156.167
         ilom_mac_address = 00:03:BA:7A:A1:97
         locator_indicator = Off
         power_state = On
         actual_power_consumption = Unknown
         action = (none)
```

```
->
```

3. **追加のスイッチのプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SYS
 /SYS
  Properties:
   type = Host System
   ipmi_name = SYS
   product_name = unknown
   product_part_number = unknown
   product_serial_number = unknown
   product_manufacturer = Oracle Corporation
   fault_state = OK
   clear_fault_action = (none)
   power_state = On
->
```

関連情報

- 305 ページの「システム識別情報プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

SP のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、SP に関する情報について説明します。

- 47 ページの「SP 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 49 ページの「SP CLI の動作の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 39 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 45 ページの「スイッチファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 43 ページの「スイッチの稼働時間の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SP 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

FRU 情報や SP で使用されているコントローラのタイプなど、SP に関する情報を表示できます。

1. **SP の状態を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/SP/OK
 /SYS/SP/OK
  Properties:
   type = Indicator
   ipmi_name = SP/OK
   value = On
->
```

2. **SP の詳細を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/SP
/SYS/SP
  Properties:
   type = Service Processor
         ipmi_name = SP
         fru_description = PCA,PILOT3 SP, OPUS
         fru_manufacturer = Oracle Corporation
         fru_part_number = 7096151
         fru_rev_level = 04
         fru_serial_number = 489089M+14516P002F
         fru_state = OK
         clear_fault_action = (none)


->
```

3. **SP の追加の詳細を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/
 /SP/
  Properties:
   check_physical_presence = true
         current_hostname = techpubs
         hostname = techpubs
         reset_to_defaults = all
         system_contact = matlock
         system_description = unknown, ILOM v3.2.6.0, r108582
         system_identifier = leaf
         system_location = SCA21-lab

->
```

4. **SP の構成を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/config
 /SP/config
  Properties:
   dump_uri = (Cannot show property)
   include_faultdata = false
   load_uri = (Cannot show property)
   passphrase = (none)
->
```

関連情報

- 49 ページの「SP CLI の動作の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 313 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 316 ページの「SP の物理的存在のチェックの制御 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SP CLI の動作の表示 (Oracle ILOM CLI)

SP には、CLI の CLI セッションタイムアウトやデフォルト以外のコマンドプロンプトを構成するかどうかなどの Oracle ILOM CLI セッションを管理するプロパティーがあります。

- **スイッチの CLI セッションの設定を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/CLI
 /SP/CLI
  Properties:
   legacy_targets = enabled
   prompt = (none)
   timeout = 100
->
```

関連情報

- 47 ページの「SP 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 313 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 316 ページの「SP の物理的存在のチェックの制御 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチ構成スナップショットの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、環境データ、ログファイル、FRU ID、および診断のための何らかのエラー情報を含む SP からの関連情報の収集を可能にするスナップショットサービスがあります。収集される情報は、データセットと呼ばれ、さまざまなデータセットを収集できます。このタスクを使用して、スイッチに構成されているスナップショットポリシーを表示します。

- **スナップショットの現在のデータセットを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/diag/snapshot
 /SP/diag/snapshot
  Properties:
   dataset = normal
   dump_uri = (Cannot show property)
   encrypt_output = false
   result = (none)
->
```

関連情報

- 307 ページの「スイッチ構成のバックアップの作成 (Oracle ILOM CLI)」

- 308 ページの「バックアップされるスイッチ構成情報」
- 308 ページの「構成の復元 (Oracle ILOM CLI)」
- 309 ページの「スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM CLI)」
- 311 ページの「スナップショットデータセット情報 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチのステータス LED は情報の視覚的インジケータを提供します。スイッチには、電源、スイッチ全体の状態用の LED、および保守担当者が正しいスイッチを見つける支援をするためのロケータ LED があります。このタスクを使用して、スイッチのステータス LED のステータスを表示します。

1. **ロケータ LED の状態を表示します。**

```
-> show -d properties /System/ locator_indicator
 /System
  Properties:
   locator_indicator = Off
->
```

2. **OK LED 状態を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/OK
 /SYS/OK
  Properties:
   type = Indicator
   ipmi_name = OK
   value = On
->
```

3. **サービス LED 状態を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/SERVICE
 /SYS/SERVICE
  Properties:
   type = Indicator
   ipmi_name = SERVICE
   value = Off
->
```

関連情報

- 312 ページの「ロケータ LED の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 312 ページの「ロケータ LED の無効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには個々のファンで構成されるファンユニットが搭載されています。スイッチの冷却サブシステムにより、シャーシ全体、ファンユニット、および個々のファンの特定の温度としきい値を照会できます。

このタスクを使用して、スイッチの冷却と通気のシステムレベルの健全性に関する情報を表示します。

1. **スイッチのさまざまな部分の周囲温度を表示します。**

   たとえば、スイッチ全体の周囲温度を表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SYS/MB/T_AMB
 /SYS/MB/T_AMB
  Properties:
   type = Temperature
         ipmi_name = MB/T_AMB
         class = Threshold Sensor
         value = 33.000 degree C
         upper_nonrecov_threshold = N/A
         upper_critical_threshold = 43.000 degree C
         upper_noncritical_threshold = 38.000 degree C
         lower_noncritical_threshold = 8.000 degree C
         lower_critical_threshold = 3.000 degree C
         lower_nonrecov_threshold = N/A
         alarm_status = cleared
```

   シャーシ、HCA、および IB スイッチチップの 3 つのすべてのエンティティーは、同じタイプの情報を表示します。

2. **シャーシから排出される空気の温度を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/MB/T_OUT
 /SYS/MB/T_AMB
  Properties:
   type = Temperature
         ipmi_name = MB/T_OUT
         class = Threshold Sensor
         value = 38.000 degree C
         upper_nonrecov_threshold = N/A
         upper_critical_threshold = 48.000 degree C
         upper_noncritical_threshold = 43.000 degree C
         lower_noncritical_threshold = 8.000 degree C
         lower_critical_threshold = 3.000 degree C
         lower_nonrecov_threshold = N/A
         alarm_status = cleared

->
```

   シャーシ、HCA、および IB スイッチチップの 3 つのすべてのエンティティーは、同じタイプの情報を表示します。

関連情報

- 52 ページの「MBOM の温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 67 ページの「スイッチ冷却装置の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 68 ページの「ファン情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

MBOM 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、スイッチの MBOM の温度および電源情報の表示方法を説明します。

- 52 ページの「MBOM の温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ MBOM の温度の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、EDR 対応ホストへの EDR 接続を可能にする MBOM ユニットが搭載されています。スイッチは、ゼロから 12 までの番号が付けられた最大の 13 個の MBOM をサポートします。MBOM の有効な動作温度は、工場出荷時にプログラミングされるため、ユーザーは温度およびイベントしきい値を読み取ることはできますが、それらを設定することはできません。

- **特定の MBOM の温度を表示します。**

```
->  show -d properties /SYS/MB/T_MBOMx
```

ここで *x* は、情報を表示する MBOM に対応する `0` から `12` の数値です。

たとえば、MBOM 1 の現在の温度を確認するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SYS/MB/T_MBOM1
/SYS/MB/T_MBOM1
 Properties:
  type = Temperature
  ipmi_name = /MB/T_MBOM1
  class = Threshold Sensor
  value = 44.000 degree C
  upper_nonrecov_threshold = 80.000 degree C
  upper_critical_threshold = 70.000 degree C
  upper_noncritical_threshold = 65.000 degree C
  lower_noncritical_threshold = N/A
  lower_critical_threshold = N/A
  lower_nonrecov_threshold = N/A
  alarm_status = cleared

->
```

関連情報

- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、EDR 対応ホストへの EDR 接続を可能にする MBOM ユニットが搭載されています。MBOM の有効な動作電力値は、工場出荷時にプログラミングされるため、ユーザーは電圧およびイベントしきい値を読み取ることはできますが、それらを設定することはできません。

- **すべての MBOM に供給される電源の 3.3 ボルト電源状態を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/MB/V_+3V3_MBOMA
/SYS/MB/V_+3V3_MBOMA
 Properties:
  type = Voltage
  ipmi_name = MB/V_+3V3_MBOMA
  class = Threshold Sensor
  value = 3.256 Volts
  upper_nonrecov_threshold = 3.510 Volts
  upper_critical_threshold = 3.490 Volts
  upper_noncritical_threshold = 3.471 Volts
  lower_noncritical_threshold = 3.139 Volts
  lower_critical_threshold = 3.120 Volts
  lower_nonrecov_threshold = 3.101 Volts
  alarm_status = cleared

->
```

関連情報

- 52 ページの「MBOM の温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」

電源装置の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

個々の電源装置に加えて、システム全体の電源状態についてのシステム電源情報が表示されます。これらのタスクでは、電源装置に関する情報を表示する方法について説明します。

- 54 ページの「電源装置の健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の詳細の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の入力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 57 ページの「電源装置の出力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 50 ページの「ステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 61 ページの「スイッチ電源の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 電源装置の健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、全体的な健全性のほか、詳細情報をモニターできる 0 と 1 の番号が付けられた冗長電源ユニット (PS) があります。

1. **特定の PS の有無を検出します。**

```
-> show -d properties /SYS/PSslot
```

ここで、*slot* は、情報を表示する PS に対応する `0` または `1` のどちらかです。

2. **PS の健全性 LED の状態を表示します。**

たとえば、PS0 状態を表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SYS/PS0/PWROK
 /SYS/PS0/PWROK
  Properties:
   type = Power Supply
   ipmi_name = PS0/PWROK
   class = Discrete Sensor
   value = Asserted
   alarm_status = cleared
->
```

関連情報

- 55 ページの「電源装置の詳細の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の入力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 57 ページの「電源装置の出力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 61 ページの「スイッチ全体の電源プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 62 ページの「電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 63 ページの「バッテリ電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 64 ページの「スイッチの電圧情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 電源装置の詳細の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、0 または 1 の番号が付けられた冗長の負荷分担電源装置があります。各 PS の詳細を表示することによって、PS の FRU 番号を含む詳細を表示できます。

1. **特定の PS の有無を検出します。**

```
-> show -d properties /SYS/PSslot
```

ここで、*slot* は、情報を表示する PS に対応する `0` または `1` のどちらかです。

2. **特定の PS の詳細を表示します。**

たとえば、PS 0 の詳細を表示するには。

```
-> show -d properties /SYS/PS0
 /SYS/PS0
  Properties:
   type = Power Supply
   ipmi_name = PS0
   fru_manufacturer = Delta Electronics
   fru_part_number = 7065505-01
   fru_serial_number = C94928
   fault_state = OK
   clear_fault_action = (none)
->
```

関連情報

- 54 ページの「電源装置の健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の入力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 57 ページの「電源装置の出力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 61 ページの「スイッチ全体の電源プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 62 ページの「電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 63 ページの「バッテリ電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 64 ページの「スイッチの電圧情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 電源装置の入力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、入力電力状態をモニターできる 0 と 1 の番号が付けられた冗長電源ユニット (PS) があります。このタスクを使用して、個々の PS の情報をモニターします。

1. **PS の集計入力ワット数を表示します。**

   たとえば、PS 0 の入力電力情報を表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SYS/PS0/INPUT_POWER
 /SYS/PS0/INPUT_POWER
  Properties:
  type = Power Unit
  ipmi_name = PS0/IN_POWER
  class = Threshold Sensor
  value = 117.936 Watts
  upper_nonrecov_threshold = N/A
  upper_critical_threshold = N/A
  upper_noncritical_threshold = N/A
  lower_noncritical_threshold = N/A
  lower_critical_threshold = N/A
  lower_nonrecov_threshold = N/A
  alarm_status = cleared

->
```

2. **PS の入力電流のアンペア数を表示します。**

   たとえば、PS 0 の入力電流情報を表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SYS/PS0/I_IN
 /SYS/PS0/I_IN
  Properties:
   type = Current
   ipmi_name = PS0/I_IN
   class = Threshold Sensor
   value = 1.008 Amps
         upper_nonrecov_threshold = 8.946 Amps
         upper_critical_threshold = 7.938 Amps
         upper_noncritical_threshold = 7.497 Amps
         lower_noncritical_threshold = N/A
         lower_critical_threshold = N/A
         lower_nonrecov_threshold = N/A
   alarm_status = cleared
->
```

3. **PS の入力電圧を表示します。**

   たとえば、PS 0 の入力電圧情報を表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SYS/PS0/V_IN
 /SYS/PS0/V_IN
  Properties:
   type = Voltage
   ipmi_name = PS0/V_IN
   class = Threshold Sensor
   value = 210.00 Volts
   upper_nonrecov_threshold = 255.000 Volts
   upper_critical_threshold = 252.000 Volts
         upper_noncritical_threshold = N/A
         lower_noncritical_threshold = N/A
   lower_critical_threshold = 100.000 Volts
   lower_nonrecov_threshold = 90.000 Volts
   alarm_status = cleared
->
```

関連情報

- 54 ページの「電源装置の健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の詳細の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 57 ページの「電源装置の出力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 61 ページの「スイッチ全体の電源プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 62 ページの「電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 63 ページの「バッテリ電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 64 ページの「スイッチの電圧情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 電源装置の出力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、出力電力状態をモニターできる 0 と 1 の番号が付けられた冗長電源ユニット (PS) があります。このタスクを使用して、個々の PS に関する情報をモニターします。

1. **PS の集計出力ワット数を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/PS0/OUTPUT_POWER
 /SYS/PS0/OUTPUT_POWER
  Properties:
   type = Power Unit
   ipmi_name = PS0/OUTPUT_POWER
   class = Threshold Sensor
   value = Disabled
         upper_nonrecov_threshold = N/A
         upper_critical_threshold = N/A
         upper_noncritical_threshold = N/A
         lower_noncritical_threshold = N/A
         lower_critical_threshold = N/A
         lower_nonrecov_threshold = N/A
   alarm_status = indeterminate
->
```

2. **PS の出力電流のアンペア数を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/PS0/I_OUT
 /SYS/PS0/I_OUT
  Properties:
   type = Current
   ipmi_name = PS0/I_OUT
   class = Threshold Sensor
   value = 14. 750 Amps
   upper_nonrecov_threshold = N/A
   upper_critical_threshold = N/A
   upper_noncritical_threshold = N/A
   lower_noncritical_threshold = N/A
```

```
        lower_critical_threshold = N/A
        lower_nonrecov_threshold = N/A
   alarm_status = cleared
->
```

3. **PS の出力電圧を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/PS0/V_OUT
 /SYS/PS0/V_OUT
  Properties:
   type = Voltage
   ipmi_name = PS0/V_OUT
   class = Threshold Sensor
   value = 12.00 Volts
   upper_nonrecov_threshold = 20.000 Volts
   upper_critical_threshold = 14.000 Volts
   upper_noncritical_threshold = 50.000 Amps
        lower_noncritical_threshold = N/A
        lower_critical_threshold = N/A
        lower_nonrecov_threshold = N/A
   lower_critical_threshold = 10.000 Volts
   alarm_status = cleared
->
```

関連情報

- 54 ページの「電源装置の健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の詳細の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の入力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 61 ページの「スイッチ全体の電源プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 62 ページの「電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 63 ページの「バッテリ電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 64 ページの「スイッチの電圧情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、スイッチ全体の EDR 接続をサポートする内部 IB スイッチがあります。IB スイッチチップが使用している消費電力のほか、IB スイッチチップに供給されている電力のイベントしきい値を表示できます。

1. **IB スイッチに供給されている 0.85 ボルト電源を表示します。**

```
-> show /SYS/MB/V_+0V85_IBSW
```

```
/SYS/MB/V_+0V85_IBSW
 Properties:
  type = Voltage
  ipmi_name = MB/V_+0V85_IBSW
  class = Threshold Sensor
  value = 0.842 Volts
  upper_nonrecov_threshold = 0.941 Volts
  upper_critical_threshold = 0.931 Volts
  upper_noncritical_threshold = 0.921 Volts
  lower_noncritical_threshold = 0.833 Volts
  lower_critical_threshold = 0.823 Volts
  lower_nonrecov_threshold = 0.813 Volts
  alarm_status = cleared

->
```

2. **IB スイッチに供給されている 1.05 ボルト電源を表示します。**

```
-> show /SYS/MB/V_+1V05_IBSW

/SYS/MB/V_+1V05_IBSW
 Properties:
  type = Voltage
  ipmi_name = MB/V_+1V05_IBSW
  class = Threshold Sensor
  value = 1.030 Volts
  upper_nonrecov_threshold = 1.137 Volts
  upper_critical_threshold = 1.127 Volts
  upper_noncritical_threshold = 1.117 Volts
  lower_noncritical_threshold = 1.019 Volts
  lower_critical_threshold = 1.000 Volts
  lower_nonrecov_threshold = 0.980 Volts
  alarm_status = cleared

->
```

関連情報

- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、EDR 接続用に内部 HCA があります。HCA が使用している各電源タイプの消費電力のほか、HCA に供給されている電力のイベントしきい値を表示できます。

1. **HCA に供給されている 0.85 ボルト電源を表示します。**

```
-> show /SYS/MB/V_+0V85_HCA
 Properties:
         type = Voltage
         ipmi_name = MB/V_+0V85_HCA
         class = Threshold Sensor
         value = 0.847 Volts
         upper_nonrecov_threshold = 0.941 Volts
```

```
        upper_critical_threshold = 0.931 Volts
        upper_noncritical_threshold = 0.921 Volts
        lower_noncritical_threshold = 0.833 Volts
        lower_critical_threshold = 0.823 Volts
        lower_nonrecov_threshold = 0.813 Volts
        alarm_status = cleared

->
```

2. **HCA に供給されている 1.05 ボルト電源を表示します。**

```
-> show /SYS/MB/V_+1V05_HCA

/SYS/MB/V_+1V05_
 Properties:
        type = Voltage
        ipmi_name = MB/V_+1V05_HCA
        class = Threshold Sensor
        value = 1.091 Volts
        upper_nonrecov_threshold = 1.137 Volts
        upper_critical_threshold = 1.127 Volts
        upper_noncritical_threshold = 1.117 Volts
        lower_noncritical_threshold = 1.019 Volts
        lower_critical_threshold = 1.000 Volts
        lower_nonrecov_threshold = 0.980 Volts
        alarm_status = cleared

->
```

関連情報

- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチ Syslog クライアントの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、スイッチからのすべての Syslog 通信のリポジトリとして機能するリモートの Syslog クライアントとの標準的な通信をサポートする Syslog ユーティリティーがあります。

1. **スイッチ用に構成されている Syslog クライアントを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/syslog/X
->
```

ここで *X* は Syslog クライアントに対応する `1` または `2` です。

2. **Syslog クライアント構成を表示します。**

たとえば、Syslog クライアント 1 の構成を表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/syslog/1
 /SP/clients/syslog/1
  Properties:
   address = 123.45.67.89
->
```

関連情報

- 96 ページの「リモートログホストの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 369 ページの「リモートログホストの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 369 ページの「ログのクリア (Oracle ILOM CLI)」

スイッチ電源の表示 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、スイッチおよび PS の追加の電源情報を表示する方法を説明します。

- 61 ページの「スイッチ全体の電源プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 62 ページの「電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 63 ページの「バッテリ電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 64 ページの「スイッチの電圧情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 53 ページの「電源装置の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 50 ページの「ステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチ全体の電源プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

このタスクを使用して、電源の健全性、スイッチの電源装置インベントリ、および電源の使用状況に関するスイッチレベルの情報を取得します。

- **スイッチ全体の電源状態を表示します。**

```
-> show -d properties /System/Power
 /System/Power
```

```
  Properties:
   health = OK
   health_details = -
   actual_power_consumption = Unknown
   max_permitted_power = Unknown
   installed_power_supplies = 2
   max_power_supplies = 2
->
```

関連情報

- 54 ページの「電源装置の健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の詳細の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の入力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 62 ページの「電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 63 ページの「バッテリ電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 64 ページの「スイッチの電圧情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

このタスクを使用して、スイッチの 2 つの PS のいずれかの存在と位置を照会します。

1. **特定の PS の有無を検出します。**

```
-> show -d properties /SYS/PSslot/PRSNT
```

ここで *slot* は、情報を表示する PS に対応する `0` または `1` です。

たとえば、PS 0 の存在を判断するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SYS/PS0/PRSNT
 /SYS/PS0/PRSNT
  Properties:
   type = Entity Presence
   ipmi_name = PS0/PRSNT
   class = Discrete Sensor
   value = Present
   alarm_status = cleared
->
```

2. **PS の FRU 情報を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/PS0/
 /SYS/PSO
  Properties:
```

```
   type = Power Supply
   ipmi_name = PS0
   fru_manufacturer = Delta Electronics
   fru_part_number = 7065505-01
   fault_state = OK
   clear_fault_action = (none)
->
```

3. **電源装置の FRU 情報を表示します。**

   ここで *slot* は電源装置のスロット (`0` または `1`) です。

```
-> show -d properties /System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_slot
```

   たとえば、次のように入力します。

```
-> show -d properties /System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_0
 /System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_0
  Properties:
   health = OK
   health_details = -
   part_number = 7065505-01
   serial_number = C94928
   manufacturer = Delta Electronics
   location = PS0 (Power Supply 0)
   input_power = Present
   output_power = 93 watts
->
```

関連情報

- 54 ページの「電源装置の健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の詳細の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の入力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 61 ページの「スイッチ全体の電源プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 63 ページの「バッテリ電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 64 ページの「スイッチの電圧情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ バッテリ電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、たとえばスイッチの電源切断やリセット時など、設備からスイッチに安定した電力が得られない状況で、スタンバイ電源を提供するバッテリが格納されています。

- **スイッチのバッテリの電圧情報を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/MB/V_VBAT
 /SYS/MB/V_VBAT
  Properties:
   type = Voltage
   ipmi_name = MB/V_VBAT
   class = Threshold Sensor
   value = 3.047 Volts
   lower_noncritical_threshold = 2.548 Volts
   upper_nonrecov_threshold = N/A
         upper_critical_threshold = N/A
         upper_noncritical_threshold = N/A
         lower_noncritical_threshold = 2.548 Volts
         lower_critical_threshold = N/A
         lower_nonrecov_threshold = N/A
   alarm_status = cleared
->
```

関連情報

- 54 ページの「電源装置の健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の詳細の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の入力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 61 ページの「スイッチ全体の電源プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 62 ページの「電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 64 ページの「スイッチの電圧情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチの電圧情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには多くのサブシステムがあり、それぞれ PS から異なる電圧を使用します。スイッチに供給される電源のさまざまなレベルのほか、その電源のイベントしきい値を表示できます。

1. **スイッチの 1 ボルト電源状態を表示します。**

```
-> show /SYS/MB/V_+1V0
/SYS/MB/V_+1V0
 Properties:
  type = Voltage
  ipmi_name = MB/V_+1V0
  class = Threshold Sensor
  value = 0.983 Volts
  upper_nonrecov_threshold = 1.068 Volts
  upper_critical_threshold = 1.058 Volts
  upper_noncritical_threshold = 1.049 Volts
  lower_noncritical_threshold = 0.941 Volts
  lower_critical_threshold = 0.931 Volts
  lower_nonrecov_threshold = 0.921 Volts
  alarm_status = cleared
```

```
->
```

2. スイッチの 1.2 ボルト電源状態を表示します。

```
-> show /SYS/MB/V_+1V2
/SYS/MB/V_+1V2
 Properties:
  type = Voltage
  ipmi_name = MB/V_+1V2
  class = Threshold Sensor
  value = 1.179 Volts
  upper_nonrecov_threshold = 1.284 Volts
  upper_critical_threshold = 1.274 Volts
  upper_noncritical_threshold = 1.264 Volts
  lower_noncritical_threshold = 1.137 Volts
  lower_critical_threshold = 1.127 Volts
  lower_nonrecov_threshold = 1.117 Volts
  alarm_status = cleared

->
```

3. スイッチの 1.5 ボルト電源状態を表示します。

```
-> show -d properties /SYS/MB/V_+1V5
/SYS/MB/V_+1V5
 Properties:
  type = Voltage
  ipmi_name = MB/V_+1V5
  class = Threshold Sensor
  value = 1.474 Volts
  upper_nonrecov_threshold = 1.676 Volts
  upper_critical_threshold = 1.646 Volts
  upper_noncritical_threshold = 1.578 Volts
  lower_noncritical_threshold = 1.421 Volts
  lower_critical_threshold = 1.352 Volts
  lower_nonrecov_threshold = 1.323 Volts
  alarm_status = cleared

->
```

4. スイッチの 1.8 ボルト電源状態を表示します。

```
-> show -d properties /SYS/MB/V_+1V8
/SYS/MB/V_+1V8
 Properties:
  type = Voltage
  ipmi_name = MB/V_+1V8
  class = Threshold Sensor
  value = 1.823 Volts
  upper_nonrecov_threshold = 1.921 Volts
  upper_critical_threshold = 1.911 Volts
  upper_noncritical_threshold = 1.891 Volts
  lower_noncritical_threshold = 1.705 Volts
  lower_critical_threshold = 1.686 Volts
  lower_nonrecov_threshold = 1.676 Volts
  alarm_status = cleared

->
```

5. スイッチの 2.5 ボルト電源状態を表示します。

```
-> show -d properties /SYS/MB/V_+2V5
/SYS/MB/V_+2V5
 Properties:
  type = Voltage
  ipmi_name = MB/V_+2V5
  class = Threshold Sensor
  value = 3.660 Volts
  upper_nonrecov_threshold = 2.671 Volts
  upper_critical_threshold = 2.652 Volts
  upper_noncritical_threshold = 2.632 Volts
  lower_noncritical_threshold = 2.379 Volts
  lower_critical_threshold = 2.359 Volts
  lower_nonrecov_threshold = 2.340 Volts
  alarm_status = critical

->
```

6. **スイッチの 3.3 ボルト電源状態を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/MB/V_+3V3
/SYS/MB/V_+3V3
 Properties:
  type = Voltage
  ipmi_name = MB/V_+3V3
  class = Threshold Sensor
  value = 3.256 Volts
  upper_nonrecov_threshold = 3.510 Volts
  upper_critical_threshold = 3.490 Volts
  upper_noncritical_threshold = 3.471 Volts
  lower_noncritical_threshold = 3.139 Volts
  lower_critical_threshold = 3.120 Volts
  lower_nonrecov_threshold = 3.101 Volts
  alarm_status = cleared

->
```

7. **スイッチの 3.3 ボルトスタンバイ電源状態を表示します。**

```
-> show -d properties  /SYS/MB/V_+3V3_STDBY
/SYS/MB/V_+3V3_STDBY
 Properties:
  type = Voltage
  ipmi_name = MB/V_+3V3_STDBY
  class = Threshold Sensor
  value = 3.246 Volts
  upper_nonrecov_threshold = 3.510 Volts
  upper_critical_threshold = 3.490 Volts
  upper_noncritical_threshold = 3.471 Volts
  lower_noncritical_threshold = 3.139 Volts
  lower_critical_threshold = 3.120 Volts
  lower_nonrecov_threshold = 3.101 Volts
  alarm_status = cleared

->
```

関連情報

- 54 ページの「電源装置の健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 55 ページの「電源装置の詳細の表示 (Oracle ILOM CLI)」

- 55 ページの「電源装置の入力電力状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 61 ページの「スイッチ全体の電源プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 62 ページの「電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 63 ページの「バッテリ電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 59 ページの「HCA の電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 53 ページの「MBOM 電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチ冷却装置の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには個々のファンで構成されるファンユニットが搭載されています。これらのトピックでは、スイッチの温度および冷却サブシステムを表示する方法について説明します。

- 67 ページの「スイッチ冷却装置の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 68 ページの「ファン情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 39 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 51 ページの「スイッチの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 52 ページの「MBOM の温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチ冷却装置の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、取り付けられているファンのインベントリを含むシステム全体の冷却装置の健全性とシャーシの吸入と排出の温度を報告します。

- **スイッチ全体の冷却および通気の状態を表示します。**

```
-> show -d properties /System/Cooling
 /System/Cooling
  Properties:
   health = OK
   health_details = -
   installed_chassis_fans = 8
   max_chassis_fans = 8
   installed_power_supply_fans = Not Supported
   max_power_supply_fans = Not Supported
```

```
   inlet_temp = 33 degrees C
   exhaust_temp = 38 degrees C
->
```

関連情報

- 68 ページの「ファン情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 51 ページの「スイッチの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 52 ページの「MBOM の温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ファン情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、4 つのファンモジュールのそれぞれにファンが 2 つずつ、0 から 7 まで番号付けされた合計 8 つのファンがあります。ファンモジュールは 0 から 3 まで番号付けされているため、ファン 0 および 1 は最初のファンモジュール (FM0) にあり、ファン 2 および 3 は 2 つ目のファンモジュール (FM1) にあるというようになります。

1. **特定のファンモジュールの有無を検出します。**

```
-> show -d properties /SYS/FM_slot/PRSNT
```

ここで *slot* は情報を表示するファンのスロット (0 から 3) です。

たとえば、ファンモジュール 0 の存在を確認するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SYS/FM0/PRSNT
/SYS/FM0/PRSNT
  Properties:
   type = Entity Presence
   ipmi_name = FM0/PRSNT
   class = Discrete Sensor
   value = Present
   alarm_status = cleared
->
```

2. **ファンモジュールの健全性 LED 状態を表示します。**

```
-> show /SYS/FM0/SERVICE
/SYS/FM0/SERVICE
  Properties:
   type = Indicator
         ipmi_name = FM0/SERVICE
         value = Off

->
```

3. **ファンモジュールのプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/FM0
 /System/Cooling/Fans/Fan_0
```

```
  Properties:
    type = Fan Module
    ipmi_name = FM0
    fault_state = OK
    clear_fault_action = (none)
->
```

4. **個々のファンの障害プロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/FM0/Fan_X
```

ここで *X* は、情報を表示するファンの番号 (FM0 の場合 0 から 1) です。

たとえば、ファン 1 に関する情報を表示するには:

```
-> show -d properties /SYS/FM0/FAN1
 /SYS/FM0/FAN1
  Properties:
    type = Fan Module
    ipmi_name = FM0/FAN1
    fault_state = OK
    clear_fault_action = (none)
->
```

5. **個々のファンの健全性と場所を表示します。**

```
-> show -d properties /System/Cooling/Fans/Fan_X
```

ここで *X* はファンの番号 (0 から 7) です。表示されるファン情報は、シャーシ冷却サブシステムに対するもので、電源装置のファンなどのコンポーネントの冷却装置に対するものではありません。

たとえば、次のように入力します。

```
-> show -d properties /System/Cooling/Fans/Fan_1
 /System/Cooling/Fans/Fan_1
  Properties:
    health = OK
    health_details = -
    part_number = Unknown
    serial_number = Unknown
    location = FM0 (Fan Module 0)
    fan_percentage = 33%
->
```

6. **個々のファンの RPM 単位の速度をチェックします。**

```
-> show -d properties /SYS/FMY/FANX/TACH
```

ここで *X* は、特定のファンモジュール *Y* について表示させるファンの番号です。

```
-> show -d properties /SYS/FM0/FAN1/TACH
 /SYS/FM0/FAN1/TACH
  Properties:
    type = Fan
    ipmi_name = FM0/FAN1/TACH
    class = Threshold Sensor
```

```
   value = 10000.000 RPM
   upper_nonrecov_threshold = 25000.000 RPMN
   upper_critical_threshold = 25000.0000 RPM
   upper_noncritical_threshold = 24000.000 RPM
   lower_noncritical_threshold = 6300.000 RPM
   lower_critical_threshold = 6000.000 RPM
   lower_nonrecov_threshold = 0.000 RPM
   alarm_status = cleared
->
```

関連情報

- 67 ページの「スイッチ冷却装置の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 51 ページの「スイッチの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 52 ページの「MBOM の温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」

I/O モジュールの表示 (Oracle ILOM CLI)

注記 - このトピックは、Oracle InfiniBand Switch IS2-46 (リーフスイッチ) には適用しません。

Oracle Fabric Interconnect F2-12 (仮想化スイッチ) には、データセンター内の接続をカスタマイズする I/O モジュールが含まれています。モジュールについては、該当するモジュールのユーザーガイドを参照してください。ユーザーガイドは `http://www.oracle.com/goto/f2-io-mod/docs` で入手できます。

仮想化スイッチ内のモジュールスロットは、左端のスロットから、0 - 11 の番号が付けられています。

これらのトピックでは、仮想化スイッチの I/O モジュールに関する情報を表示する方法について説明します。

- 71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」
- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 75 ページの「モジュール電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 77 ページの「モジュールの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 79 ページの「モジュール FRU 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 39 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI)」

- 318 ページの「モジュールの停止 (Oracle ILOM CLI)」
- 319 ページの「モジュールの起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 320 ページの「モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 322 ページの「モジュールのリセット (Oracle ILOM CLI)」

Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要

Oracle ILOM は、すべての I/O モジュール用の汎用的なターゲットを提供し、異なる I/O モジュール間で区別しません。各 I/O モジュールで、Oracle ILOM は、次の方法のいずれかで情報を報告するセンサーをモニターします。

- **ディスクリートセンサー**として、true (`state asserted`) または false (`state deasserted`) のいずれか
- **しきい値センサー**として、温度などの適切な測定単位の数値として。

この表は、I/O モジュールの Oracle ILOM ターゲットを示しています。

センサー	状態
Voltage OK	■ 「State Asserted」は電圧センサーが OK であることを示しています。 ■ 「State Deasserted」は電圧センサーが OK でないことを示しています。
Booted	■ 「State Asserted」はモジュールが正常にブートしたことを示しています。 ■ 「State Deasserted」はモジュールが正常にブートしなかったことを示しています。
Fault	このセンサーは I/O モジュールのタイプに応じて、さまざまなタイプの情報を報告できます。 ■ 「State Asserted」はモジュールが障害状態にあることを示しています。 ■ 「State Deasserted」はモジュールが障害状態にないことを示しています。
Power On	■ 「State Asserted」はモジュールが正常に電源投入されたことを示しています。 ■ 「State Deasserted」はモジュールが正常に電源投入されなかったことを示しています。
Critical Temperature	■ 「State Asserted」は I/O モジュールの温度が高すぎることを示しています。 ■ 「State Deasserted」は電圧センサーが OK でないことを示しています。
Module Temperature	このしきい値センサーは、現在のモジュール温度および、温度警告しきい値などの該当する温度しきい値を表示します。

関連情報

- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 320 ページの「モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 77 ページの「モジュールの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 79 ページの「モジュール FRU 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)

仮想化スイッチは、さまざまな接続タイプのモジュールをサポートしています。表は、さまざまな I/O モジュールのタイプと仮想化スイッチによって表示されるそれらの文字列を示しています。

モジュール	文字列
Oracle F2 Dual Port 16Gb ファイバチャネル	`FIBRE CHANNEL, IO MODULE`
Oracle F2 10GBASE-T	`10GBASE-T,IO MODULE`
Oracle F2 10G/40G Ethernet モジュール	`40GE/4x10GE,IO MODULE`
Oracle InfiniBand Long Range	`IB LR,IO MODULE`

1. **取り付けられているモジュールを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/

 /SYS/MODULES
    Targets:
        MODULE0
        MODULE1
        MODULE3
        MODULE5
        MODULE6
        MODULE10
```

仮想化スイッチ内の I/O モジュールには 0 から 11 までの番号が付けられ、モジュール 0 は最初 (左端) の物理スロットを占有します。

2. **モジュールタイプを表示します。**

```
show /SYS/MODULES/MODULEX fru_description
```

ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

たとえば、モジュール 3 のモジュールタイプを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 fru_description

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        fru_description = PCBA,10GBASE-T,IO MODULE
```

関連情報

- 71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 75 ページの「モジュール電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 77 ページの「モジュールの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 79 ページの「モジュール FRU 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)

センサーは各モジュールの障害状態を検出します。障害が発生している場合は、アラームが発生します。モジュールの障害状態の有無を表示するには、次のタスクを使用します。

1. **取り付けられているモジュールを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/

 /SYS/MODULES
    Targets:
        MODULE0
        MODULE1
        MODULE3
        MODULE5
        MODULE6
        MODULE10
```

仮想化スイッチ内の I/O モジュールには 0 から 11 までの番号が付けられ、モジュール 0 は最初 (左端) の物理スロットを占有します。

2. **モジュールの全体的な健全性を表示します。**

```
show /System/Networking/Modules/Module_X health
```

ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

たとえば、モジュール 3 の健全性を表示するには、次のように入力します。

```
->  show /System/Networking/Modules/Module_3 health

  /System/Networking/Modules/Module_3
    Properties:
```

```
        health = OK
```

3. **モジュールの詳細な健全性を表示します。**

   ```
   show /System/Networking/Modules/Module_X health
   ```

   ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

   たとえば、モジュール 3 の詳細な健全性を表示するには、次のように入力します。

   ```
   -> show /System/Networking/Modules/Module_3/ health_details

     /System/Networking/Modules/Module_3
       Properties:
           health_details = -
   ```

   モジュールの `health` と `health_state` の間で、モジュールが正常に動作しているかどうかを判断できます。この例では、特定の値がないことで、モジュールが正常な状態で動作していることを示しています。

4. **モジュールの障害状態の有無を表示します。**

   ```
   show /SYS/MODULES/MODULEX/FAULT
   ```

   ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

   たとえば、モジュール 3 の障害状態を表示するには、次のように入力します。

   ```
   -> show /SYS/MODULES/MODULE3/FAULT

    /SYS/MODULES/MODULE3/FAULT
       Targets:

       Properties:
           type = Module
           ipmi_name = MODULE3/FAULT
           class = Discrete Sensor
           value = State Deasserted
           alarm_status = cleared
   ```

   この例では、モジュールセンサーが `Deasserted` 状態にあるため、モジュールで障害状態が発生していません。モジュールセンサーの状態については、71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」を参照してください。

関連情報

- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 320 ページの「モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 75 ページの「モジュール電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 77 ページの「モジュールの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」

- 79 ページの「モジュール FRU 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ モジュール電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

仮想化スイッチに取り付けられているモジュールは、スイッチの電源が投入され実行されている間、動作します。モジュールはスイッチ全体の電源状態と異なる状態にある場合があります。仮想化スイッチの個々のモジュールの電源の情報を表示するには、次のタスクを使用します。

1. **取り付けられているモジュールを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/

 /SYS/MODULES
    Targets:
        MODULE0
        MODULE1
        MODULE3
        MODULE5
        MODULE6
        MODULE10
```

仮想化スイッチ内の I/O モジュールには 0 から 11 までの番号が付けられ、モジュール 0 は仮想化スイッチの最初 (左端) の物理スロットを占有します。

2. **特定の I/O モジュールの電源状態を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULEX power_state
```

ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

たとえば、モジュール 3 の電源状態を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 power_state

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        power_state = On
```

3. **モジュールの 0V85 電源情報を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/0V85_OK/

 /SYS/MODULES/MODULE3/0V85_OK
    Targets:

    Properties:
        type = Voltage
        ipmi_name = MODULE3/0V85_OK
        class = Discrete Sensor
```

```
        value = State Asserted
        alarm_status = cleared
```

4. **モジュールセンサーから 1 ボルト電源情報を表示します。**

   a. **1V0 電源センサー情報を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/1V0_OK/

 /SYS/MODULES/MODULE3/1V0_OK
    Targets:

    Properties:
        type = Voltage
        ipmi_name = MODULE3/1V0_OK
        class = Discrete Sensor
        value = State Asserted
        alarm_status = cleared
```

   b. **1V2 電源センサー情報を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/1V2_OK

 /SYS/MODULES/MODULE3/1V2_OK
    Targets:

    Properties:
        type = Voltage
        ipmi_name = MODULE3/1V2_OK
        class = Discrete Sensor
        value = State Asserted
        alarm_status = cleared
```

   c. **1V8 電源センサー情報を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/1V8_OK/

 /SYS/MODULES/MODULE3/1V8_OK
    Targets:

    Properties:
        type = Voltage
        ipmi_name = MODULE3/1V8_OK
        class = Discrete Sensor
        value = State Asserted
        alarm_status = cleared
```

5. **モジュールの 2V5 電源情報を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/2V5_OK/

 /SYS/MODULES/MODULE3/2V5_OK
    Targets:

    Properties:
        type = Voltage
        ipmi_name = MODULE3/2V5_OK
        class = Discrete Sensor
```

```
        value = State Asserted
        alarm_status = cleared
```

6. **モジュールの 3V3 電源情報を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/3V3_OK/

 /SYS/MODULES/MODULE3/3V3_OK
    Targets:

    Properties:
        type = Voltage
        ipmi_name = MODULE3/3V3_OK
        class = Discrete Sensor
        value = State Asserted
        alarm_status = cleared
```

関連情報

- 71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」
- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 320 ページの「モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 77 ページの「モジュールの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 79 ページの「モジュール FRU 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ モジュールの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)

各モジュールには、モジュールを通過する空気の周囲温度を登録する温度センサーがあります。モジュールの温度センサーは、温度が定義済みのしきい値を超えた場合にアラームを発生します。

1. **取り付けられているモジュールを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/

 /SYS/MODULES
    Targets:
        MODULE0
        MODULE1
        MODULE3
        MODULE5
        MODULE6
        MODULE10
```

仮想化スイッチ内の I/O モジュールには 0 から 11 までの番号が付けられ、モジュール 0 は最初 (左端) の物理スロットを占有します。

2. **特定の I/O モジュールのクリティカルな温度センサー情報を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULEX/T_CRITICAL
```

ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

たとえば、モジュール 3 の現在の温度を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/T_CRITICAL/

 /SYS/MODULES/MODULE3/T_CRITICAL
    Targets:

    Properties:
        type = Temperature
        class = Discrete Sensor
        value = State Deasserted
        alarm_status = cleared
```

この例では、モジュールセンサーの状態が `Deasserted` であるため、モジュールの温度が許容可能な範囲にあります。モジュールセンサーの状態については、71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」を参照してください。

3. **特定の I/O モジュールの記録された温度を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULEX/T_MOD
```

ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

たとえば、モジュール 3 の現在の温度を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/T_MOD/

 /SYS/MODULES/MODULE3/T_MOD
    Targets:

    Properties:
        type = Temperature
        class = Threshold Sensor
        value = 0.000 degree C
        upper_nonrecov_threshold = 105.000 degree C
        upper_critical_threshold = 100.000 degree C
        upper_noncritical_threshold = 95.000 degree C
        lower_noncritical_threshold = N/A
        lower_critical_threshold = -1.000 degree C
        lower_nonrecov_threshold = N/A
        alarm_status = cleared
```

関連情報

- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 320 ページの「モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)」

- 75 ページの「モジュール電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 79 ページの「モジュール FRU 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ モジュール FRU 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

仮想化スイッチ内の各モジュールには固有の FRU 情報があります。シリアル番号、パーツ番号などの重要な情報を取得するには、次のタスクを使用します。

1. **取り付けられているモジュールを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/

 /SYS/MODULES
    Targets:
        MODULE0
        MODULE1
        MODULE3
        MODULE5
        MODULE6
        MODULE10
```

仮想化スイッチ内の I/O モジュールには 0 から 11 までの番号が付けられ、モジュール 0 は最初 (左端) の物理スロットを占有します。

2. **特定のモジュールの製造元情報を表示します。**

show /SYS/MODULES/MODULE*X* **fru_manufacturer**

ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

たとえば、モジュール 3 の製造元を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 fru_manufacturer

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        fru_manufacturer = Oracle Corporation
```

3. **モジュールのパーツ番号を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 fru_part_number

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        fru_part_number = 7089440
```

4. **モジュールのリビジョンレベルを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 fru_rev_level
```

```
  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        fru_rev_level = 03
```

5. **モジュールのシリアル番号を表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 fru_serial_number

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        fru_serial_number = 489089M+1543D20034
```

6. **モジュールの MAC アドレスを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 fru_macaddress

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        fru_macaddress = 00:10:e0:96:96:fa
```

関連情報

- 71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」
- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 320 ページの「モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 75 ページの「モジュール電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 77 ページの「モジュールの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」

認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI によって、スイッチの認証とアクセスのさまざまな方法に関する情報を表示する方法について説明します。

- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 84 ページの「DNS クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 84 ページの「Oracle ILOM LDAP クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 88 ページの「Oracle ILOM RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 89 ページの「シングルサインオンの状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 38 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 90 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 96 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 100 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 103 ページの「スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 116 ページの「追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、役割、サーバーとポート、グループ、ロケータプロパティー、証明書、検索プロパティー、および資格証明を含む AD ユーザーの管理をサポートする AD クライアントをホストします。

1. **スイッチ用に構成されている AD クライアントプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory
/SP/clients/activedirectory
  Properties:
    address = 0.0.0.0
    defaultrole = Operator
    dnslocatormode = disabled
    expsearchmode = disabled
    logdetail = none
    port = 0
    state = disabled
    strictcertmode = disabled
    strictcredentialerrormode = disabled
    timeout = 4
->
```

2. **構成されている AD 管理者グループを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/admingroups/X
->
```

ここで *X* は、管理者グループに対応する 1 から 5 です。

たとえば、管理者グループ 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/admingroups/1
/SP/clients/activedirectory/admingroups/1
  Properties:
    name = (none)
->
```

3. **構成されている AD カスタムグループを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/customgroups/X
->
```

ここで *X* は、カスタムグループに対応する 1 から 5 です。

たとえば、カスタムグループ 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/customgroups/1
/SP/clients/activedirectory/customgroups/1
  Properties:
    name = (none)
    roles = (none)
->
```

4. **構成されている AD オペレータグループを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/opergroups/X
->
```

ここで *X* は、オペレータグループに対応する 1 から 5 です。

たとえば、オペレータグループ 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/opergroups/1
/SP/clients/activedirectory/opergroups/1
  Properties:
    name = (none)
->
```

5. **構成されている AD ユーザードメインを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/userdomains/X
->
```

ここで *X* は、ユーザードメインに対応する 1 から 5 です。

たとえば、ユーザードメイン 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/userdomains/1
/SP/clients/activedirectory/userdomains/1
  Properties:
   name = (none)
->
```

6. **構成されている AD 代替サーバーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/alternateservers/X
->
```

ここで *X* は、代替サーバーに対応する 1 から 5 です。

たとえば、代替サーバー 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/alternateservers/1
/SP/clients/activedirectory/alternateservers/1
  Properties:
   address = (none)
   port = 0
->
```

7. **スイッチの代替 AD サーバー用に構成されている証明書を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/alternateservers/X/cert
->
```

ここで *X* は、代替サーバーに対応する 1 から 5 です。

たとえば、代替サーバー 1 の証明書を表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/alternateservers/1/cert
/SP/clients/ldapssl/activedirectory/1/cert
  Properties:
   certstatus = certificate not present
   clear_action = (Cannot show property)
   issuer = (none)
   load_uri = (Cannot show property)
   serial_number = (none)
   subject = (none)
   valid_from = (none)
   valid_until = (none)
   version = (none)
->
```

8. **構成されている AD DNS ロケータクエリーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/dnslocatorqueries/X/cert
->
```

ここで *X* は、ロケータクエリーに対応する 1 から 5 です。

たとえば、ロケータクエリー 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/activedirectory/dnslocatorqueries
/SP/clients/activedirectory/dnslocatorqueries/1
```

```
  Properties:
   service = _ldap._tcp.gc._msdcs.DOMAIN.PORT:3269
->
```

同じサービスとドメインの異なるポート、またはまったく異なるサービスまたはドメインに、異なるロケータクエリーを構成できます。

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ DNS クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、名前の検索や解決などのドメインネームサービスをサポートする DNS クライアントをホストします。DNS のサポートは、手動で指定するか、または自動 DNS によってサポートできます。

- **DNS のステータスを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/dns
 /SP/clients/dns
  Properties:
   auto_dns = enabled
   nameserver = 10.11.12.13, 10.11.12.14
   retries = 1
   searchpath = xx.company-domain.com
   timeout = 5
->
```

関連情報

- 339 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM LDAP クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、役割、サーバーとポート、検索ベース、および識別名 (DN) を含む LDAP ユーザーの管理をサポートする LDAP クライアントをホストします。

- **スイッチ用に構成されている LDAP クライアント設定を表示します。**

```
->show /SP/clients/ldap/
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> show /SP/clients/ldap/
 Targets:

  Properties:
   address = 0.0.0.0
   binddn = (none)
   bindpw = (none)
   defaultrole = Operator
   port = 389
   searchbase = (none)
   state = disabled
->
```

関連情報

- 340 ページの「LDAP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、役割、検索ベース、サーバー、グループ、および SSL 証明書を含む LDAP ユーザーの管理をサポートする LDAP over SSL クライアントをホストします。

- **スイッチ用に構成されている LDAP over SSL クライアントプロパティーを表示します。**

```
->show /SP/clients/ldapssl/
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> show /SP/clients/ldapssl/
 Targets:

  Properties:
   address = 0.0.0.0
   defaultrole = (none)
   port = 0
   state = disabled
   strictcertmode = disabled
         timeout = 4
->
```

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」

- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

さまざまなグループ、ユーザードメイン、ユーザーマッピング、代替 LDAP over SSL サーバー、および代替サーバー上の証明書について、LDAP over SSL プロパティーを表示できます。それぞれ、最大 5 つのインスタンスがサポートされます。

1. **構成されている LDAP over SSL 管理者グループを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/admingroups/X
->
```

ここで、*X* は管理者グループを示す 1 - 5 です。

たとえば、管理者グループ 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/admingroups/1
/SP/clients/ldapssl/admingroups/1
  Properties:
   name = (none)
->
```

2. **構成されている LDAP over SSL カスタムグループを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/customgroups/X
->
```

ここで *X* は、カスタムグループに対応する 1 から 5 です。

たとえば、カスタムグループ 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/customgroups/1
/SP/clients/ldapssl/customgroups/1
  Properties:
   name = (none)
   roles = (none)
->
```

3. **構成されている LDAP over SSL オペレータグループを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/opergroups/X
->
```

ここで *X* は、オペレータグループに対応する 1 から 5 です。
たとえば、オペレータグループ 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/opergroups/1
/SP/clients/ldapssl/opergroups/1
  Properties:
   name = (none)
->
```

4. **構成されている LDAP over SSL ユーザードメインを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/userdomains/X
->
```

ここで *X* は、ユーザードメインに対応する 1 から 5 です。
たとえば、ユーザードメイン 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/userdomains/1
/SP/clients/ldapssl/userdomains/1
  Properties:
   domain = (none)
->
```

5. **構成されている LDAP over SSL 代替サーバーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/alternateservers/X
->
```

ここで *X* は、代替サーバーに対応する 1 から 5 です。
たとえば、代替サーバー 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/alternateservers/1
/SP/clients/ldapssl/alternateservers/1
  Properties:
   address = (none)
   port = 0
->
```

6. **LDAP over SSL 代替サーバー用に構成されている証明書を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/alternateservers/X/cert
->
```

ここで *X* は、代替サーバーに対応する 1 から 5 です。
たとえば、代替サーバー 1 の証明書を表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/alternateservers/1/cert
/SP/clients/ldapssl/alternateservers/x/cert
  Properties:
```

```
   certstatus = certificate not present
   clear_action = (Cannot show property)
   issuer = (none)
   load_uri = (Cannot show property)
   serial_number = (none)
   subject = (none)
   valid_from = (none)
   valid_until = (none)
   version = (none)
->
```

7. **(オプション) 構成されている LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping
/SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping
  Properties:
   attributeInfo = (none)
   binddn = (none)
   bindpw = (none)
   searchbase = (none)
   state = disabled
->
```

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、役割、サーバーとポート、共有シークレットを含む RADIUS ユーザーの管理をサポートする RADIUS クライアントをホストします。

1. **スイッチ用に構成されている RADIUS クライアントプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/radius
/SP/clients/radius
  Properties:
   address = 0.0.0.0
   defaultrole = Operator
   port = 1812
   secret = (none)
   state = disabled
->
```

2. **代替の RADIUS サーバーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/radius/alternateservers/X/
->
```

ここで *X* は、代替サーバーに対応する 1 から 5 です。

たとえば、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/radius/alternateservers/1
/SP/clients/radius/alternateservers/1
  Properties:
    address = 0.0.0.0
    port = 1812
    secret = (none)
->
```

関連情報

- 357 ページの「RADIUS クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 357 ページの「RADIUS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 358 ページの「RADIUS 代替サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 360 ページの「RADIUS クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ シングルサインオンの状態の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、正常に認証されたあとのユーザーの資格情報の転送可能性を有効にするシングルサインオン機能 (SSO) をサポートしています。ユーザーが常に追加のログインおよびパスワードを求められないように、資格証明は複数の異なるシステム全体で格納され、変換されます。

- **SSO 状態を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/sso
 /SP/services/sso
   Properties:
     state = enabled
->
```

関連情報

- 361 ページの「SSO の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「SSO の無効化 (Oracle ILOM CLI)」

イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI によって、イベント、通知、およびイベントロギングの状態とプロパティーを構成する方法について説明します。

- 90 ページの「SMTP クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 91 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 92 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 93 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 95 ページの「Oracle ILOM ログエントリのフィルタ」
- 96 ページの「リモートログホストの表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 38 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 80 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 96 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 100 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 103 ページの「スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 116 ページの「追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

▼ SMTP クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、通知やアラートを指定された電子メールアドレスに送信するために使用される SMTP 電子メールクライアントが含まれています。電子メールアドレスは、エイリアスまたはスイッチ管理者などの個々の受信者の電子メールを指定できます。このタスクを使用して、Oracle ILOM を SMTP クライアントとして構成します。

注記 - メッセージを送信するには、電子メールアラートルールで SMTP クライアントが有効にされ、構成されている必要があります。365 ページの「電子メールアラートを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

- **SMTP クライアントのステータスを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/clients/smtp
 /SP/clients/smtp
  Properties:
   address = 123.45.67.89
   custom_sender = ilom-gw1@hostname
   port = 25
   send_test_email_to = (Cannot show property)
   state = disabled
->
```

この例では、SMTP クライアントが有効になっていないことを示しています。

関連情報

- 362 ページの「SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 365 ページの「電子メールアラートを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

警告は、システムの障害の事前通知を提供できます。SP 内の Oracle ILOM 実装は、アラートプロパティーを構成する 15 個のアラート規則をサポートしています。サポートされている警告の種類は、SNMP トラップ、IPMI PET、電子メール警告です。SNMP トラップおよび PET の場合、警告の宛先は、関連する Oracle ILOM MIB がインストールされている必要があり、SNMP トラップをサポートしている必要があります。

- **警告のプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/alertmgmt/rules/alert
```

ここで、*alert* は 1 から 15 の表示する警告の番号です。

たとえば、警告 1 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/alertmgmt/rules/1
 /SP/alertmgmt/rules/1
  Properties:
   type = snmptrap
   level = disable
   destination = 0.0.0.0
   destination_port = 0
   community_or_username = public
   snmp_version = 1
   testrule = (Cannot show property)
->
```

出力で、警告 1 はすべての警告を送信するようには構成されていません。

関連情報

- 364 ページの「SNMP トラップを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 365 ページの「電子メールアラートを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 366 ページの「PET を送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 367 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM CLI)

Oracle ILOM 監査ログには、構成の変更が発生するユーザーアクションが表示されます。ログイン、コマンド、コマンドパラメータなどのユーザーアクション、およびコマンドの成功または失敗が追跡されます。

注記 - 監査ログをフィルタリングして、特定のタイプのコマンドまたは変更の情報を表示できます。95 ページの「Oracle ILOM ログエントリのフィルタ」を参照してください。

---

1. **Oracle ILOM 監査ログを表示する方法を選択します。**

   - **フィルタリングされていない Oracle ILOM 監査ログを表示します。**

```
-> show /SP/logs/audit/list

Audit
ID     Date/Time                Class     Type      Severity
-----  -----------------------  --------  --------  --------
299    Fri Jan 12 03:41:16 2001  Audit     UI        minor
       root : Open Session : object = "/SP/sessions/1700/type" : value =
       "shell" : success
298    Fri Jan 12 02:13:18 2001  Audit     UI        minor
       root : Close Session : object = "/SP/sessions/1004/type" : value =
       "shell" : success
297    Thu Jan 11 04:55:41 2001  Audit     UI        minor
       root : Close Session : object = "/SP/sessions/1551/type" : value = "www"
       : success
Paused: press any key to continue, or 'q' to quit

->
```

   - **イベントの特定のクラスとタイプにフィルタリングされた Oracle ILOM 監査ログを表示します。**

     ```
     -> show /SP/logs/audit/list Class==class Type==type
     ```

     たとえば、マイナーな UI 監査ログイベントを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/logs/event/list Class==Audit Type==minor
Event
ID     Date/Time                Class     Type      Severity
-----  -----------------------  --------  --------  --------
388    Sun Oct 11 12:38:38 2015  Audit     UI        minor
       root : Set : object = "/SYS/LOCATE/value" : value = "on" : error
387    Sun Oct 11 12:36:40 2015  Audit     UI        minor
       root : Set : object = "/SP/clients/smtp/state" : value = "enabled" :
       success
Paused: press any key to continue, or 'q' to quit

->
```

2. **任意のキーを押して、出力の次の画面にスクロールします。**

   Q キーで中止します。

関連情報

- 93 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM CLI)

Oracle ILOM イベントログには、発生したか、または SP によって開始された Oracle ILOM イベントが含まれています。イベントの例には、ユーザーログイン、センサーの状態変更、`syslog` サーバーの構成などが含まれます。`/SP/logs/event/list` ターゲットの Oracle ILOM `show` コマンドを使用して、これらのイベントを表示できます。

注記 - イベントログをフィルタリングして、特定のタイプのコマンドまたは変更の情報を表示できます。95 ページの「Oracle ILOM ログエントリのフィルタ」を参照してください。

---

1. **Oracle ILOM イベントログを表示する方法を選択します。**

注記 - 直近のイベントは、ログの先頭に表示されます。

- **フィルタリングされていない Oracle ILOM イベントログを表示します。**

```
-> show /SP/logs/event/list

Event
ID     Date/Time                Class     Type      Severity
-----  -----------------------  --------  --------  --------
94     Tue Oct  9 01:15:13 2012  Audit     Log       minor
       root : Open Session : object = /session/type : value = shell : success
93     Tue Oct  9 01:13:51 2012  Audit     Log       minor
```

```
       test : Close Session : object = /session/type : value = www : success
92     Tue Oct  9 00:59:44 2012  Audit     Log       minor
Paused: press any key to continue, or 'q' to quit

->
```

出力列は次のとおりです。

- イベント `ID` – `1` から始まるイベントのシーケンス番号。
- `Date/Time` – イベントが発生した日時。
- `Class` – `Audit`、`IPMI`、`Chassis`、`Fault` などです。
- `Type` – `Log`、`State`、`Action`、`Fault`、`Repair` などです。
- `Severity` – `Debug`、`Down`、`Critical`、`Major`、`Minor` などです。

- **特定のクラスとエントリのタイプにフィルタリングされた Oracle ILOM イベントログを表示します。**

```
-> show /SP/logs/event/list Class==class Type==type
```

たとえば、IPMI ログイベントを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/logs/event/list Class==IPMI Type==Log
Event
ID     Date/Time                 Class     Type      Severity
-----  ------------------------  --------  --------  --------
61600  Mon Jan 14 14:36:55 2013  IPMI      Log       critical
       ID = 16cf : 01/14/2013 : 14:36:55 : OEM sensor : CABLE_CONN_STAT : State
       Deasserted
61599  Mon Jan 14 14:36:45 2013  IPMI      Log       critical
       ID = 16ce : 01/14/2013 : 14:36:45 : OEM sensor : CABLE_CONN_STAT : State
       Asserted
61594  Wed Jan  9 11:29:03 2013  IPMI      Log       critical
       ID = 16cd : 01/09/2013 : 11:29:03 : OEM sensor : PSU0/ALERT : State Deasserted
Paused: press any key to continue, or 'q' to quit

->
```

注記 - Oracle ILOM イベントログを障害情報にフィルタリングする詳細については、スイッチのサービスマニュアルの障害の検出と管理のトピックを参照してください。

2. **スペースキーを押して、出力の次の画面にスクロールします。**
   Q キーで中止します。

関連情報

- 92 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM CLI)」

Oracle ILOM ログエントリのフィルタ

Oracle ILOM ログを表示すると、`Class` および `Type` パラメータを組み合わせて使用し、出力をエントリの特定のクラスおよびタイプにフィルタリングできます。92 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM CLI)」または93 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

パラメータ	表示されるエントリ
`Class==Audit Type==Log`	構成の変更が発生するコマンド。説明には、ユーザー、コマンド、コマンドパラメータ、成功または失敗が含まれます。
`Class==IPMI Type==Log`	IPMI SEL に記録されるイベントはすべて、管理ログにも記録されます。
`Class==Chassis Type==Action`	コンポーネントのホットインサートおよびホットリムーブ。
`Class==Fault Type==Fault`	障害管理の障害。説明には、障害が検出された時間および疑わしいコンポーネントが示されます。
`Class==Fault Type==Repair`	障害管理の修復。説明には、修復されるコンポーネントが示されます。

`Severity` パラメータのいずれかで、出力をさらにフィルタリングできます。

- `Debug`
- `Down`
- `Critical`
- `Major`
- `Minor`

たとえば、システムインベントリのマイナーな変更を示しているログエントリのみを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/logs/event/list Class==Chassis Type==State Severity==Minor
```

関連情報

- 92 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 93 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ リモートログホストの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、スイッチからのすべての Syslog 通信のリポジトリとして機能するリモートの Syslog サーバーとの標準的な通信をサポートする Syslog ユーティリティーがあります。このタスクを使用して、それぞれ 1 と 2 の番号が付けられているプライマリおよびセカンダリ Syslog サーバーを表示します。

- **リモートログホストを表示します。**

```
-> show /SP/clients/syslog/number address
```

ここで *number* は `1` または `2` のいずれかのホストの番号です。

たとえば、リモートホスト 1 の IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/clients/syslog/1 address
 /SP/clients/syslog/1
  Properties:
   address = 0.0.0.0
->
```

注記 - `0.0.0.0` のアドレスまたは `(none)` はリモートホスト 1 の機能が構成されていないことを示します。

関連情報

- 369 ページの「リモートログホストの構成 (Oracle ILOM CLI)」

管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI を使用してスイッチのネットワーク構成および個々のネットワークコントローラを表示する方法について説明します。

- 97 ページの「Ethernet スイッチのプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 98 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 99 ページの「IB スイッチのプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 99 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」

- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 38 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 80 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 90 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 100 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 103 ページの「スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 116 ページの「追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

▼ Ethernet スイッチのプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、チップに SEFOS オペレーティングシステムが搭載され、Ethernet ネットワーク機能を提供する Ethernet スイッチがあります。このタスクを使用して、スイッチの健全性やインストールされているファームウェアのバージョンなどの Ethernet スイッチチップのプロパティーを表示します。

1. **スイッチの内部 Ethernet スイッチチップのプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /System/Networking/Switches/Switch_0
 /System/Networking/Switches/Switch_0
  Properties:
   health = OK
   health_details = -
   type = Ethernet
   firmware_version = Unknown
   location = ETHSWITCH0 (Network Switch 0)
   action = (none)
   load_uri = (none)
->
```

2. **Ethernet スイッチのファームウェアバージョンを表示します。**

```
-> show -d properties /System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_1
 /System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_1
  Properties:
   component =  SYS ETHSWITCH0
   type = Upgradeable FRU
   version = 1.0.1
   load_uri = (none)
->
```

関連情報

- 45 ページの「スイッチファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 371 ページの「管理ネットワークパラメータの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 373 ページの「IPv4 の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 373 ページの「IPv4 ルーティングプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークルーティングの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 376 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPv6 管理ネットワークプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、ネットワーク管理インタフェースの標準 IPv6 ルーティングをサポートしています。

- **スイッチに IPv6 ルーティングが構成されている場合、IPv6 ルーティング構成を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/network/ipv6
 /SP/network/ipv6
  Properties:
   state = disabled
   autoconfig = stateless
   dhcpv6_server_duid = (none)
   link_local_ipaddress = fe80::203:baff:fe7a:a197/64
   static_ipaddress = ::/128
   ipgateway = fe80::21a:a1ff:fe85:b83f
   static_ipgateway = ::
   pending_static_ipaddress = ::/128
   pending_static_ipgateway = ::
         dynamic_ipaddress_1 = 2606:b400:418:277b:203:baff:fe7a:a197/64

->
```

関連情報

- 97 ページの「Ethernet スイッチのプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 45 ページの「スイッチファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 371 ページの「管理ネットワークパラメータの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 373 ページの「IPv4 の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 373 ページの「IPv4 ルーティングプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークルーティングの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 376 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IB スイッチのプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、ネットワークスイッチ 1 である IB スイッチチップがあります。デフォルトで、このスイッチは、スイッチに電源が投入されるたびに、オンラインになります。

- **IB スイッチのプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /System/Networking/Switches/Switch_1
 /System/Networking/Switches/Switch_1
  Properties:
   health = OK
   health_details = -
   type = Infiniband
   firmware_version = 1.0.860
   location = IBSWITCH0 (Network Switch 0)
   action = (none)
->
```

関連情報

- 97 ページの「Ethernet スイッチのプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 45 ページの「スイッチファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 371 ページの「管理ネットワークパラメータの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 373 ページの「IPv4 の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 373 ページの「IPv4 ルーティングプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークルーティングの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 376 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM CLI)

このタスクを使用して、IP ネットワークプロパティー、ゲートウェイ、SP MAC アドレス、割り当てられた IP アドレスなどの SP およびネットワーク管理インタフェースの現在の設定を表示します。

- **ネットワーク管理構成を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/network
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/network
 /SP/network
  Properties:
```

```
   commitpending = (Cannot show property)
   dhcp_clientid = none
   dhcp_server_ip = 10.11.12.13
   ipaddress = 10.11.12.70
   ipdiscovery = dhcp
   ipgateway = 10.11.12.1
   ipnetmask = 255.255.255.0
   macaddress = 00:E0:4B:28:00:8E
   pendingipaddress = 10.11.12.70
   pendingipdiscovery = dhcp
   pendingipgateway = 10.11.12.1
   pendingipnetmask = 255.255.255.0
   state = enabled
->
```

関連情報

- 97 ページの「Ethernet スイッチのプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 45 ページの「スイッチファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 371 ページの「管理ネットワークパラメータの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 373 ページの「IPv4 の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 373 ページの「IPv4 ルーティングプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークルーティングの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 376 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI インタフェースによって、スイッチへの接続を表示する方法について説明します。

- 101 ページの「システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 101 ページの「シリアル接続のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 102 ページの「ホストコンソール接続設定の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 38 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 80 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 90 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 96 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 103 ページの「スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

- 110 ページの「スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 116 ページの「追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

▼ システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、ユーザーがスイッチに接続するか、またはログインすると表示されるバナーメッセージをサポートしています。

1. **バナー接続メッセージを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/preferences/banner/connect
 /SP/preferences/banner/connect
  Properties:
   dump_uri = (Cannot show property)
   load_uri = (Cannot show property)
   message = (none)
->
```

2. **バナーログインメッセージを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/preferences/banner/login
 /SP/preferences/banner/login
  Properties:
   dump_uri = (Cannot show property)
   load_uri = (Cannot show property)
   message = (none)
   message_acceptance = disabled
->
```

関連情報

- 381 ページの「接続メッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「ログインメッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ シリアル接続のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチはシリアル接続による管理端末への接続をサポートしています。

シリアル接続では、接続の端部にあるスイッチとホスト上で同じプロパティーが設定されている必要があります。このタスクを使用して、接続のスイッチ側終端のフロー制御や接続ボーレートなどのシリアル接続プロパティーを表示します。

1. 外部デバイスへの接続のプロパティーを表示します。

```
-> show -d properties /SP/serial/external
 /SP/serial/external
  Properties:
   commitpending = (Cannot show property)
   flowcontrol = software
   pendingflowcontrol = software
   pendingspeed = 115200
   speed = 115200
->
```

2. シリアル接続のスイッチのプロパティーを表示します。

```
-> show -d properties /SP/serial/host
 /SP/serial/host
  Properties:
   commitpending = (Cannot show property)
   flowcontrol = software
   pendingflowcontrol = software
   pendingspeed = 115200
   speed = 115200
->
```

3. シリアル接続を制御するエンティティーを表示します。

```
-> show -d properties /SP/serial/portsharing
 /SP/serial/portsharing
  Properties:
   owner = sp
->
```

関連情報

- 102 ページの「ホストコンソール接続設定の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 379 ページの「外部シリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 380 ページの「ホストシリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 380 ページの「ポート共有の構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ホストコンソール接続設定の表示 (Oracle ILOM CLI)

- スイッチコンソール接続の現在の設定を表示します。

```
-> show -d properties /HOST/console
 /HOST/console
  Properties:
   line_count = 0
   logging = enabled
   pause_count = 0
   start_from = end
->
```

関連情報

- 379 ページの「外部シリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 380 ページの「ホストシリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 380 ページの「ポート共有の構成 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI を使用して、スイッチとのさまざまなインタフェース方法を表示する方法について説明します。

- 103 ページの「SNMP サービスのステータスのチェック (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「IPMI サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「SSH プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 108 ページの「Web サービスのステータスのチェック (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 38 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 80 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 90 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 96 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 100 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 116 ページの「追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

SNMP サービスのステータスのチェック (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、標準の SNMP ネットワーク管理機能ではなく、Oracle ILOM 機能のみをサポートする事前インストール済みの SNMP エージェントが含まれます。これらの

トピックでは、Oracle ILOM CLI によって、スイッチの SNMP サービスとそのプロパティーを表示する方法について説明します。

- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 106 ページの「IPMI サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「SSH プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 108 ページの「HTTPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「HTTP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)

- **次のように入力します。**

```
-> show -d properties /SP/services/snmp
 /SP/services/snmp
  Properties:
   engineid = (none)
   port = 161
   servicestate = enabled
   sets = disabled
   v1 = disabled
   v2c = disabled
   v3 = enabled
->
```

関連情報

- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 395 ページの「SNMP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)

このタスクを使用して、スイッチに構成されている SNMP v3 ユーザーアカウントを表示します。

1. **SNMP ユーザーを表示します。**

```
-> show -d targets /SP/services/snmp/users
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> show -d targets /SP/services/snmp/users
 /SP/services/snmp/users
  Targets:
  snmpuser
->
```

2. **snmpuser ユーザープロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/snmp/users/snmpuser
 /SP/services/snmp/users/snmpuser
  Properties:
   authenticationpassword = (Cannot show property)
   authenticationprotocol = MD5
   permission = ro
   privacypassword = (Cannot show property)
   privacyprotocol = none
->
```

関連情報

- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 395 ページの「SNMP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

このタスクを使用して、スイッチに構成されている SNMP v1 および v2c コミュニティーを表示します。

1. **SNMP コミュニティーを表示します。**

```
-> show -d targets /SP/services/snmp/communities
 /SP/services/snmp/communities
  Targets:
   private
   public
->
```

2. **public コミュニティーのプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/snmp/communities/public
 /SP/services/snmp/communities/public
  Properties:
   permission = ro
```

```
->
```

3. **private コミュニティーのプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/snmp/communities/private
 /SP/services/snmp/communities/private
  Properties:
   permission = rw
->
```

関連情報

- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 395 ページの「SNMP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPMI サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、スイッチの IPMI 管理をサポートするサービスを実行します。スイッチの IPMI サービスは IPMI バージョン 1.5 と 2.0 の両方をサポートします。IPMI バージョン 2.0 はデフォルトですが、セキュアであるため、デフォルトで有効にされています。

- **IPMI のステータスを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/ipmi
 /SP/services/ipmi
  Properties:
   servicestate = enabled
   v1_5_sessions = disabled
->
```

関連情報

- 406 ページの「IPMI サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 366 ページの「PET を送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SSH プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、システム管理者が SSH 管理アクセスのプロパティーを構成し、オンデマンドで新しい RSA および DSA SSH 鍵を生成できるようにする SSH サーバーがあります。

1. スイッチでサポートされている **SSH** サーバーのステータスを表示します。

```
-> show -d properties /SP/services/ssh
 /SP/services/ssh
  Properties:
   generate_new_key_action = (Cannot show property)
   generate_new_key_type = none
   restart_sshd_action = (Cannot show property)
   state = enabled
->
```

2. **SSH DSA** 鍵が存在する場合にそれを表示します。

```
-> show -d properties /SP/services/ssh/keys/dsa
 /SP/services/ssh/keys/dsa
  Properties:
  fingerprint = 3b:8e:0a:00:c6:71:64:ca:2a:7d:5c:69:6c:95:50:44
  length = 1024
  privatekey = (Cannot show property)
  publickey =  AAAAB3NzaC1kc3MAAACBAN2rXIB47zdO6DMCmMMKpNw3Lr8EAyN3GlNLZag4
   VCgrcr/yk81t/U16DjRpqThX6mRNRG2gu+73Arn2RhMwpv0tA3htbtY3O2pg
   1sr8qZUFzPx5dZxomby7Q8mlHPUYMRdhY07xBu7wpfV3/FuBTOi06BpqAZMu
   Ce8Go1XAZqfFAAAAFQDfA46H1r5V+r0DYaxteuupoiR9CwAAAIBOhiBPQ1I2
   QON7aOZM2CiNBoUlaazWlbBAFdSKAfK91H4EzfbAD0bS1KrsevSRZ5pwFrIH
   1azCYHeYqK4eg56k99tIcrfHhA1OalFv+4re5ZXES0kq3J/rVjr/pPwegTF0
   /a6KHpi8XntitLzQC80JlysMaPq7CI3N32+TsIzVQAAAAIBHVjoiSY1MuTR5
   NCJzyU2Ovkxyt50lI1NBDBqRH0pey6uRwAUbU2U6muiYmEZDv1ws7JdoMXGJ
   gejsc+4uaqjODsqJt4vnKYWmAd8NUCOmK/ceNmoR6TtzYbiNaxwuJijtJCGd
   q6oc33MCAGTwtqnrfVoXkQVdUsgpJjqWuZYrXQ==
->
```

3. **SSH DSA** 鍵が存在する場合にそれを表示します。

```
-> show -d properties /SP/services/ssh/keys/rsa
 /SP/services/ssh/keys/rsa
  Properties:
  fingerprint = 4f:e8:83:22:50:8f:a2:d0:e3:c5:a3:8b:fa:28:0c:52
  length = 1024
  privatekey = (Cannot show property)
  publickey =  AAAAB3NzaC1yc2EAAAADAQABAAAAgQCq8UO5bLGSCyrGea8svQ0JXgdUitTn
   BfTwTRNqmFJie/HI9OyxC5XJjV6M9Ytjs3K155/iPSL8Mzl/wtGKYaGw2fHR
   xeyKHHnnAkqrADCWmf5bx7Rn5VA+Hf46Sqz/ptw4AH1xS5sgtLI4ZT842OOT
   rHUiykb0jxx4YK9nDlZ3VQ==
->
```

関連情報

- 392 ページの「SSH サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 392 ページの「SSH プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 393 ページの「新しい鍵の生成 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH デーモンの再起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

Web サービスのステータスのチェック (Oracle ILOM CLI)

スイッチは HTTP サービスと HTTPS サービスの両方を実行して、ネットワーク環境への Web アクセスをサポートします。これらのトピックでは、スイッチの HTTP サービスを構成する方法について説明します。

- 108 ページの「HTTPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 109 ページの「HTTPS サーバー SSL 証明書の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「HTTP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 103 ページの「SNMP サービスのステータスのチェック (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「IPMI サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「SSH プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ HTTPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、Web アクセスと SSL ベースの暗号化をサポートする HTTPS サービスを実行します。このタスクを使用して、HTTPS サービスのプロパティー、証明書情報、および SSL と TLS の許可されているバージョンを表示します。

- **HTTPS のステータスを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/https
 /SP/services/https
  Properties:
   port = 443
   servicestate = enabled
   sessiontimeout = 15
   tslv1 = enabled
   tslv1_1 = enabled
   tslv1_2 = enabled
->
```

関連情報

- 109 ページの「HTTPS サーバー SSL 証明書の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 386 ページの「HTTPS サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「HTTP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 384 ページの「HTTP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ HTTPS サーバー SSL 証明書の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、Web アクセスをサポートする HTTP サービスを実行します。このタスクを使用して、証明書情報を含む、HTTP サービスのプロパティーを表示します。

1. **SSL のステータスを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/https/ssl
 /SP/services/https/ssl
  Properties:
   cert_status = Using Default (No custom certificate or private key loaded)
->
```

2. **`default_cert` 証明書のプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/https/ssl/default_cert
 /SP/services/https/ssl/default_cert
  Properties:
  issuer = /C=US/ST=California/L=Redwood Shores/O=Oracle America, Inc./CN=Oracle Integrated Lights Out
 Manager
  subject = /C=US/ST=California/L=Redwood Shores/O=Oracle America, Inc./CN=Oracle Integrated Lights Out
 Manager
  valid_from = Jun 12 15:29:01 2014 GMT
  valid_until = Jun  7 15:29:01 2034 GMT
->
```

3. **カスタム証明書のプロパティーを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/https/ssl/custom_cert
 /SP/services/https/ssl/custom_cert
  Properties:
  clear_action = (Cannot show property)
  issuer = (none)
  load_uri = (Cannot show property)
  subject = (none)
  valid_from = (none)
  valid_until = (none)
->
```

4. **(オプション) カスタム鍵を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/https/ssl/custom_key
 /SP/services/https/ssl/custom_key
  Properties:
  clear_action = (Cannot show property)
  key_present = false
  load_uri = (Cannot show property)
->
```

関連情報

- 386 ページの「HTTPS サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「HTTP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

- 384 ページの「HTTP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ HTTP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)

デフォルトで HTTP は有効になっていません。HTTP が有効になっている場合、このタスクを使用して構成されている HTTP プロパティーを表示します。

- **HTTP のステータスを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/http
 /SP/services/http
  Properties:
   port = 80
   secureredirect = disabled
   servicestate = enabled
   sessiontimeout = 15
->
```

関連情報

- 109 ページの「HTTPS サーバー SSL 証明書の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 386 ページの「HTTPS サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 384 ページの「HTTP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、スイッチのサービスとサポートに関連するプロパティーを表示する方法について説明します。

- 111 ページの「スイッチの FRU ID の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 112 ページの「ASR クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 112 ページの「サービスタグ情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 38 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

- 80 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 90 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 96 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 100 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 103 ページの「スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 116 ページの「追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチの FRU ID の表示 (Oracle ILOM CLI)

このタスクを使用して、スイッチのマザーボードの FRU 情報を表示します。これには、MAC アドレスやシリアル番号などの情報が含まれます。

- **スイッチの FRU 情報を表示します。**

```
-> show -d properties /SYS/MB
 /SYS/MB
  Properties:
   type = Motherboard
   ipmi_name = MB
   fru_description = PCBA, W/MECHANICALS, NM3, LEAF SWITCH
   fru_manufacturer = Oracle Corporation
   fru_part_number = 7092208
   fru_rev_level = 06
   fru_serial_number = 489089M+1507RP0005
   fru_mac_address = 00:10:e0:56:83:85
   fault_state = OK
   clear_fault_action = (none)
->
```

関連情報

- 39 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 41 ページの「未解決の問題のチェック (Oracle ILOM CLI)」
- 42 ページの「スイッチの健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 112 ページの「ASR クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 112 ページの「サービスタグ情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ASR クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、スイッチの問題と潜在的な問題の迅速な分析と対応を容易にするために Oracle ASR サービスをサポートしています。Oracle ASR については、25 ページの「Oracle Auto Service Request ソフトウェア」を参照してください。

- **スイッチでサポートされている ASR クライアントのステータスを表示します。**
  たとえば、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/clients/asr
 /SP/services/asr
  Properties:
   endpoint = https://transport.oracle.com
   password = *****
   proxy-host = (none)
   proxy-password = *****
   proxy-user = (none)
   send-event = (Cannot show property)
   state = enabled
   status = disabled
   username = (none)
->
```

関連情報

- 39 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 41 ページの「未解決の問題のチェック (Oracle ILOM CLI)」
- 42 ページの「スイッチの健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 112 ページの「サービスタグ情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ サービスタグ情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

- **次のように入力します。**

```
-> show -d properties /SP/services/servicetag
 /SP/services/servicetags
  Properties:
   passphrase = none
   servicetag_urn = Q12721
   state = enabled
->
```

関連情報

- 39 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 41 ページの「未解決の問題のチェック (Oracle ILOM CLI)」
- 42 ページの「スイッチの健全性の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 112 ページの「ASR クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI を使用してユーザーアカウントをモニターする方法について説明します。

- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 38 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 80 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 90 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 96 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 100 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 103 ページの「スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 116 ページの「追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)

Oracle ILOM セッションは、Oracle ILOM Web または Oracle ILOM CLI のどちらかを経由できます。セッションのタイプに関係なく、このタスクを使用して SP 上のアクティブな Oracle ILOM セッションを表示できます。

1. **すべてのアクティブな Oracle ILOM セッションを表示します。**

```
-> show /SP/sessions
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> show /SP/sessions
 /SP/sessions
  Targets:
   133 (current)
->
```

2. **特定のセッションのプロパティーを表示します。**

たとえば、セッション 133 のプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show -d properties /SP/sessions/133
 /SP/sessions
  Properties:
   username = root
   role = aucro
   starttime = Wed Dec 12 03:48:06 2012
   type = shell
   mode = normal
->
```

注記 - `type` プロパティーは、ユーザーが CLI (`shell`) または Web (`web`) インタフェースのどちらを使用しているかを示します。

関連情報

- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチへのログインに使用するパスワードはさまざまな要件で構成できます。たとえばパスワードポリシーを、少なくとも 1 つの大文字、1 つの番号、および 1 つの特殊文字を必須とするようにできます。このタスクを使用して、パスワードの現在の要件を表示します。

- **アクティブな Oracle ILOM セッションを表示します。**

```
->show /SP/preferences/password_policy/
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> show /SP/preferences/password_policy/
 Targets:

  Properties:
   policy = 8.
   min_length = 8
   uppercase = no restrictions
   lowercase = no restrictions
   numbers = no restrictions
   symbols = no restrictions
   history = no restrictions
->
```

関連情報

- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

`root` ユーザーは標準ローカルユーザーアカウントと同じように構成されます。ローカルユーザーアカウントと同様に、その割り当てられている役割と特権、および SSH 鍵などの `root` ユーザーのプロパティーを表示できます。

1. **`root` ユーザーの役割を表示します。**

```
-> show /SP/users/root
 /SP/users/ilom-admin
  Properties:
   role = aucro
   role = *****
->
```

2. **root ユーザーに関連付けられた SSH 鍵を表示します。**

```
-> show /SP/users/root/ssh/keys/X
```

ここで *X* は SSH 鍵を示す `1` から `5` までの数値です。

たとえば、`root` に関連付けられた最初の SSH 鍵を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/users/root/ssh/keys/1
 /SP/users/root/ssh/keys/1
  Properties:
   fingerprint = (none)
   algorithm = (none)
   embedded_comment = (none)
   bit_length = (none)
   load_uri = (Cannot show property)
   clear_action = (Cannot show property)
->
```

関連情報

- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」

追加のコンポーネントとサービスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、ネットワークで必要になる可能性がある追加のサービスに関する情報を表示する方法について説明します。

- 117 ページの「FIPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 117 ページの「キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ構成の表示 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 38 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 80 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 90 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 96 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

- 100 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 103 ページの「スイッチインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「スイッチのサポートプロパティーのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

▼ FIPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)

FIPS は、特定のデータが送受信されるときにそれらのデータに高度な暗号化とセキュリティーを提供する Federal Information Processing Standard プロトコルです。FIPS が有効にされている場合、LDAP、RADIUS、および IPMI 1.5 セッションを有効にできません。

- **スイッチでサポートされている FIPS サービスのステータスを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/fips
 /SP/services/fips
  Properties:
   state = enabled
   status = enabled
->
```

関連情報

- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 340 ページの「LDAP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 360 ページの「RADIUS クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 408 ページの「IPMI 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ構成の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、組み込みのキーボード、ビデオ、マウス、ストレージ (KVMS)、およびシリアルリダイレクションサービスが含まれています。これらのトピックでは、スイッチの KVMS サービスの情報を表示する方法について説明します。

- 118 ページの「KVMS プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 118 ページの「ホストストレージデバイスプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ KVMS プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

KVMS およびシリアルリダイレクションサービスにより、リダイレクトされた管理セッション経由でスイッチと対話できます。

- **スイッチで実行されている KVMS サービスの構成を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/kvms
 /SP/services/kvms
  Properties:
   custom_lock_key = (none)
   custom_lock_modifiers = (none)
   lockmode = disabled
   max_session_count = 4
   mousemode = absolute
   servicestate = enabled
->
```

関連情報

- 118 ページの「ホストストレージデバイスプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ホストストレージデバイスプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)

このタスクを使用して KVMS サービスのホストストレージデバイスを表示します。

- **KVMS サービスのホストストレージデバイスの構成を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/services/kvms/host_storage_device
 /SP/services/kvms/host_storage_device
  Properties:
   mode = disabled
   status = disabled
->
```

関連情報

- 118 ページの「KVMS プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースからスイッチのさまざまな側面を表示する方法について説明します。

説明	リンク
Web インタフェースについて理解します。	120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプを確認します。	123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」
スイッチの各種要素とその構成をモニターします。	123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
認証と承認を管理するさまざまなクライアントをモニターします。	138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
システムイベントと警告の動作とそれらのログへの記録方法をモニターします。	142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
SP とスイッチのネットワークプロパティーをモニターします。	146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
接続とログインのプロパティーをモニターします。	149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
スイッチとのさまざまなインタフェースの方法とスイッチインタフェースの動作をモニターします。	152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
スイッチのサポートの取得のプロパティーをモニターします。	157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
ユーザーアカウントおよびセッションをモニターします。	157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
スイッチの追加の側面をモニターします。	160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 19 ページの「システム管理リソースの理解」
- 27 ページの「スイッチへのアクセス」
- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの理解」
- 193 ページの「SNMP MIB OID の理解」

- 265 ページの「EMS モジュールの理解」
- 299 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 423 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 537 ページの「ファームウェアの更新」

Oracle ILOM Web インタフェースの概要

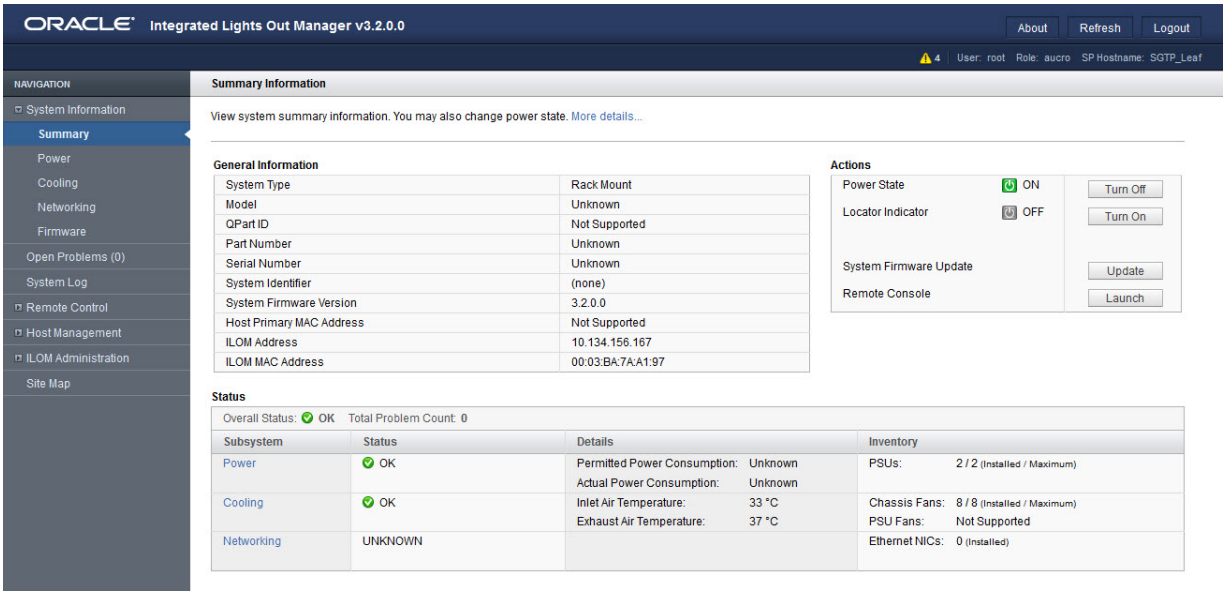
注記 - Oracle ILOM Web インタフェースは、Microsoft Internet Explorer および Mozilla Firefox Web ブラウザでのみサポートされています。

Oracle ILOM Web インタフェースのナビゲーションペインは、いくつかのタスクを起動するために使用できますが、より一般的には宛先のページに移動するために使用します。各ページには、現在の設定の表示、情報の提供、パラメータの設定、またはその他の管理要素へのアクセスが可能な作業スペースがあります。

一部のページには、作業スペースの上部に追加機能のタブ付き表示があります。タブをクリックすると、対応する機能の、その機能を管理するための作業スペースが表示されます。

一部のページには、追加機能の構成をサポートするドロップダウンメニューとボタンがあります。メニュー項目を選択するか、ボタンをクリックすると、管理タスクを続行する追加のポップアップウィンドウが表示されることがあります。

デフォルトで、システムサマリーダッシュボードが表示されます。ダッシュボードは、スイッチとサブシステムの全体の動作のすばやく、ひと目でわかる情報を提供します。たとえば、スイッチの電源サブシステム情報が表示されるため、電源状態が正常かどうかをすばやく確認できます。一部の管理タスクはダッシュボードに表示されるサブシステムからも使用できますが、このドキュメントではナビゲーションパネルをすべての管理タスクの開始点とみなしています。



リンク	サブリンク	説明
System Information	Summary	スイッチおよび重要なハードウェアサブシステムの動作状態に関するひと目でわかる情報を表示します。 さらに、Oracle ILOM Web インタフェースの最上位レベルから、いくつかの一般的なスイッチ管理タスクをすばやく実行する方法も提供します。
	Power	スイッチの電源の健全性と各電源装置の健全性を表示します。
	Cooling	スイッチの冷却装置の健全性、各ファンの健全性、各ファンを格納するファンモジュールを表示します。
	Networking	スイッチのネットワークの健全性および個々のネットワークインタフェースの健全性を表示します。
	Firmware	スイッチの SP、ネットワークスイッチチップ、および IB ネットワークスイッチチップで実行しているファームウェアバージョンを表示します。
Open Problems		認識された問題または障害が発生したコンポーネントをすべて表示します。
System Logs		スイッチの SP のシステムログエントリを表示します。
Remote Control	Redirection	スイッチのリモート管理用のコンソールとビデオリダイレクションの状態を表示します。
	KVMS	スイッチのリモート管理のためのキーボード、ビデオ、マウス、ストレージ、およびシリアルリダイレクションサービスの設定と動作を表示します。
	Host Storage Device	スイッチのローカルまたはリモートで接続されているストレージデバイスの現在の設定を表示します。
Host Management	Power Control	スイッチの現在の電源状態を表示し、スイッチのシャットダウン、リセット、電源再投入ができます。

リンク	サブリンク	説明
ILOM Administration	Identification	ホスト名や場所などのスイッチの識別情報要素の構成を表示し、可能にします。
	Logs	Oracle ILOM イベントと監査ログの構成を表示し、可能にします。
	Management Access	Web サーバー、SNMP、IPMI などのスイッチの管理のさまざまな方法の構成を表示し、可能にします。
	User Management	ローカルユーザーアカウント、LDAP、AD、RADIUS などのスイッチへのユーザーアクセスのさまざまな方法の構成を表示し、可能にします。
	Connectivity	ネットワークやシリアル接続などの SP へのアクセス方法の構成を表示し、可能にします。
	Configuration Management	スイッチ構成のバックアップと復元、およびスイッチのデフォルト状態へのリセットなど、スイッチ構成を表示し、可能にします。
	Notifications	警告、Syslog、ASR および SMTP クライアントなどのシステム通知のさまざまなタイプを表示し、可能にします。
	Date and Time	システムクロック、タイムゾーン、NTP パラメータの構成を表示し、可能にします。
	Maintenance	SP ファームウェアの更新、SP のリセット、およびスナップショットデータセットの構成などの一般的なスイッチ保守タスクを可能にします。
Site Map		Oracle ILOM Web インタフェースでサポートされているすべてのページへのリンクが含まれている表が表示されます。

関連情報

- 123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」
- 123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)

ヘルプテキストは、Oracle ILOM Web インタフェースの一部のページに表示されます。このタスクを使用して、Oracle ILOM コマンドに関するヘルプテキストを表示します。

1. **ヘルプを必要とするトピックが見つかるまで、ナビゲーションパネル上の使用可能なリンクとタブを追跡します。**

2. **ページ上部のヘルプテキストを見つけたら、「More Details」をクリックして、ヘルプテキストの全文が含まれているウィンドウを表示します。**

   ヘルプウィンドウには、Oracle ILOM ターゲットに関する情報だけでなく、その個々のプロパティーに関する情報も含まれます。

関連情報

- 120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
- 123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)

スイッチがオンラインになったあとにいつでも、ほとんどのスイッチモニタリングタスクを実行できます。ただし、一部の基本的なスイッチタスクは、スイッチが電源投入または再起動されるたびにその他のタスクの前に実行するようにしてください。一般的なガイドラインとして、動作状態をチェックしてから、すべてのエラー条件を

チェックします。スイッチが正しく動作している場合、追加の情報をチェックします。

手順	タスク	リンク
1.	スイッチ動作状態の確認	126 ページの「スイッチのステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM Web)」 127 ページの「システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
2.	エラー状態のチェック	125 ページの「スイッチの警告の表示 (Oracle ILOM Web)」 125 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM Web)」
3.	スイッチ識別情報の表示	131 ページの「スイッチシャーシ情報のチェック (Oracle ILOM Web)」
4.	追加情報の表示	130 ページの「システムファームウェア情報のチェック (Oracle ILOM Web)」 128 ページの「PS の電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」 128 ページの「スイッチの冷却および通気のチェック (Oracle ILOM Web)」 138 ページの「ホスト電源制御設定の表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
- 123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの警告の表示 (Oracle ILOM Web)

一般的なスイッチの警告は、ツールバーの警告アイコンによって表示され、検出された警告の数も表示されます。

1. **ツールバーの警告アイコンをチェックします。**
   警告アイコンが 0 より大きい数を示している場合、スイッチにシステム警告があります。

2. **警告アイコンをクリックします。**
   ポップアップウィンドウには、各警告と、可能な場合は警告の解決に役立つ追加のアクションに関する情報が表示されます。

3. **「OK」をクリックします。**

4. **警告を解決するために必要なアクションを実行します。**

関連情報

- 125 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 126 ページの「スイッチのステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 143 ページの「スイッチシステムログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM Web)

障害のあるすべてのスイッチコンポーネントが「Open Problems」表に表示され、追加情報を表示するリンクが含まれています。

1. **「Open Problems」を選択します。**
   リンクの一部として 0 より大きい数値が示されている場合、スイッチに未解決の問題があります。

2. **次の手順を確認します。**

   - **コンポーネントの障害のステータスを表示するには、「Components」列のリンクをクリックします。**

「Component Status」表に、コンポーネント名 (ターゲット)、タイプ、および障害のステータスが表示されます。

- **サブシステムの障害情報およびステータスを表示するには、「Subsystem」列のリンクをクリックします。**

  「Subsystem」表、およびコンポーネント名 (ターゲット) とタイプが一覧表示されます。

3. **「Component Status」表または「Subsystem」表のいずれかのターゲットリンクをクリックします。**

   ポップアップウィンドウに、障害が発生したコンポーネントに関する追加情報が表示されます。

4. **「Close」をクリックします。**

関連情報

- 143 ページの「スイッチシステムログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 477 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチのステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、電源ステータスとスイッチの位置用の LED があります。

1. **「System Information」->「Summary」の順に選択します。**

   「Summary」ダッシュボードが表示されます。ダッシュボードはセクションに分かれており、それぞれスイッチの一部の動作状態についてひと目でわかる情報が表示されます。

2. **「Actions」セクションをチェックします。**

   - 電源状態 LED では、インジケータが緑色の場合、スイッチに電源が入っています。LED が灰色の場合、スイッチは電源が切断されています。
   - ロケータ LED では、インジケータが緑色の場合、スイッチのシャーシ上の LED が点灯しています。LED が灰色の場合、スイッチのシャーシ上の LED は点灯していません。

関連情報

- 125 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 143 ページの「スイッチシステムログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 426 ページの「ロケータ LED の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 427 ページの「ロケータ LED の無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)

システムの電源情報は、システム全体の電源状態に加えて、個々の電源装置についても表示されます。

1. **「System Information」->「Power」を選択します。**

   ペインに、スイッチの電源の健全性、スイッチの電源の健全性に関する詳細 (利用可能な場合)、実際と最大の消費電力、およびシャーシに取り付けられている、および許可される電源装置の数などの情報が表示されます。

注記 - 「Summary」ダッシュボードの「Status」表によって、システムレベルの電源情報の簡単なサマリーを取得することもできます。

---

2. **(オプション)「Power Supplies」表で各 PS の動作状態のサマリーをチェックします。**

   PS ごとの追加情報が必要な場合は、128 ページの「PS の電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

関連情報

- 127 ページの「システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 435 ページの「スイッチの電源の切断 (Oracle ILOM Web)」
- 436 ページの「スイッチの再起動 (Oracle ILOM Web)」
- 437 ページの「スイッチの電源投入 (Oracle ILOM Web)」
- 127 ページの「システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ PS の電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、全体的な健全性のほか、詳細情報をモニターできる 0 と 1 の番号が付けられた冗長電源ユニット (PS) があります。

1. **「System Information」->「Power」を選択します。**
2. **「Power Supplies」表で、表の各 PS の一般情報を確認します。**
3. **「Power Supply Details」列で、「Details」をクリックします。**

   各 PS のポップアップウィンドウに、PS の健全性および健全性の詳細 (利用可能な場合)、PS のパーツ番号、シリアル番号、および製造元、シャーシ内の PS スロット、入力および出力電力 (利用可能な場合) が表示されます。

   注記 - 「Summary」ダッシュボードの「Status」表によって、取り付けられている PS の数を確認することもできます。

4. **「Close」をクリックします。**

関連情報

- 127 ページの「システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 435 ページの「スイッチの電源の切断 (Oracle ILOM Web)」
- 436 ページの「スイッチの再起動 (Oracle ILOM Web)」
- 437 ページの「スイッチの電源投入 (Oracle ILOM Web)」
- 127 ページの「システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

スイッチの冷却および通気のチェック (Oracle ILOM Web)

スイッチのファンユニットには、個々のファンが含まれます。これらのトピックでは、スイッチの温度および冷却サブシステムを表示する方法について説明します。

- 129 ページの「スイッチの冷却の健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 129 ページの「各ファンの冷却情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 125 ページの「スイッチの警告の表示 (Oracle ILOM Web)」

- 125 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 133 ページの「ファンの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの冷却の健全性の表示 (Oracle ILOM Web)

1. **「System Information」->「Cooling」を選択します。**

   ペインに、スイッチの冷却の健全性、スイッチの冷却の健全性に関する詳細 (利用可能な場合)、シャーシに取り付けられているファンの数と許可されるファンの最大数、取り付けられている PS ファンの数と許可される PS ファンの最大数 (利用可能な場合)、スイッチの吸気温度と排気温度などの情報が表示されます。

2. **(オプション)「Fans」表で、取り付けられている各ファンの動作状態のサマリーをチェックします。**

   129 ページの「各ファンの冷却情報の表示 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

関連情報

- 129 ページの「スイッチの冷却の健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 129 ページの「各ファンの冷却情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 各ファンの冷却情報の表示 (Oracle ILOM Web)

完全に装着されたスイッチには、稼働中の冷却を維持するために、スイッチの通気を提供する 0 から 7 の番号が付けられている 8 つのファンがあります。

1. **「System Information」->「Cooling」を選択します。**

2. **「Fans」表で、各ファンについて表示される一般情報を確認します。**

3. **「Fan Details」列で、「Details」をクリックします。**

   各ファンのポップアップウィンドウに、ファンの健全性および健全性の詳細 (利用可能な場合)、ファンのパーツ番号とシリアル番号、シャーシ内のファンの位置、ファンが現在回転している最大 RPM のうちの割合が表示されます。

4. **「Close」をクリックします。**

関連情報

- 129 ページの「スイッチの冷却の健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」

- 129 ページの「各ファンの冷却情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

システムファームウェア情報のチェック (Oracle ILOM Web)

スイッチには、Oracle ILOM、BIOS、および Ethernet ネットワークなどの機能をサポートしているさまざまなタイプのファームウェアがあります。

- 130 ページの「Oracle ILOM ファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 130 ページの「スイッチの BIOS バージョンの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 131 ページの「Ethernet スイッチファームウェアの表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの更新」

▼ Oracle ILOM ファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、CLI と Web インタフェースを介して管理を提供する Oracle ILOM があります。各インタフェースは同じファームウェアを使用しますが、これはスイッチ上のほかのサブシステムに必要なその他のタイプのファームウェアと異なります。

1. **「System Information」->「Firmware」を選択します。**
2. **「Other Firmware」表で、Oracle ILOM 情報を確認します。**

   表に、Oracle ILOM コンポーネントのファームウェアのタイプとバージョン (利用可能な場合) が表示されます。

関連情報

- 130 ページの「スイッチの BIOS バージョンの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 131 ページの「Ethernet スイッチファームウェアの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの BIOS バージョンの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチには独自のファームウェアを必要とする BIOS があります。

1. **「System Information」->「Firmware」を選択します。**

2. **「Other Firmware」表で、BIOS 情報を確認します。**

   表には、スイッチの BIOS、ファームウェアのタイプ、およびバージョン (利用可能な場合) が表示されます。

関連情報

- 130 ページの「Oracle ILOM ファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 131 ページの「Ethernet スイッチファームウェアの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Ethernet スイッチファームウェアの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチには独自のファームウェアを必要とする Ethernet 機能があります。

1. **「System Information」->「Firmware」を選択します。**

2. **「Other Firmware」表を探します。**

3. **「Other Firmware」表で、BIOS 情報を確認します。**

   表には、コンポーネント `Sys EthSwitch`*n* のファームウェアのタイプとバージョン (利用可能な場合) が表示され、ここで *n* は、スイッチのチップの数です。

関連情報

- 130 ページの「Oracle ILOM ファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 130 ページの「スイッチの BIOS バージョンの表示 (Oracle ILOM Web)」

スイッチシャーシ情報のチェック (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用してスイッチのシャーシ情報のさまざまな側面を表示する方法について説明します。

- 132 ページの「スイッチの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 132 ページの「電源装置の FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 133 ページの「ファンの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

- 133 ページの「システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 134 ページの「日付の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 134 ページの「タイムゾーンの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 135 ページの「システムの SSL 証明書と非公開鍵の情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 135 ページの「カスタム CLI プロンプトの表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 125 ページの「スイッチの警告の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 135 ページの「NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 127 ページの「システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「ホスト電源制御設定の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)

Oracle InfiniBand スイッチ IS2-46 は、スイッチの FRU ID 情報を明示的に表示しません。ただし、FRU ID 情報はスイッチで入手可能な次の製品情報で構成されています。

- パーツ番号
- モデル番号
- シリアル番号

- **「System Information」->「Summary」を選択し、製品情報を見つけます。**

関連情報

- 132 ページの「電源装置の FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 133 ページの「ファンの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 133 ページの「システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 431 ページの「システム識別情報プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」

▼ 電源装置の FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)

Oracle InfiniBand スイッチ IS2-46 は、PS の FRU ID 情報を明示的に表示しません。ただし、スイッチでは次から構成される PS 情報を利用できます。

- パーツ番号
- シリアル番号

- 製造元

1. **「System Information」->「Power」を選択し、次に「Power Supplies」表で PS を見つけます。**
2. **「Details」をクリックし、製品情報をメモします。**

関連情報

- 132 ページの「スイッチの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 133 ページの「ファンの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 133 ページの「システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 431 ページの「システム識別情報プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」

▼ ファンの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)

Oracle InfiniBand スイッチ IS2-46 は、ファンの FRU ID 情報を明示的に表示しません。ただし、スイッチでは次から構成されるファン情報を利用できます。

- パーツ番号
- シリアル番号

1. **「System Information」->「Cooling」を選択し、「Fans」表でファンを見つけます。**
2. **「Details」をクリックし、製品情報をメモします。**

関連情報

- 132 ページの「スイッチの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 132 ページの「電源装置の FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 133 ページの「システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 431 ページの「システム識別情報プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」

▼ システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)

配備内のほかの Oracle スイッチと区別するために、システムとそのサービスプロセッサに関する情報を構成できます。

- **「ILOM Administration」->「Identification」の順に選択します。**

  ペインに、ホスト名、システム識別子、システム連絡先、システムの場所、およびシステムの説明が表示されます。

関連情報

- 132 ページの「スイッチの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 132 ページの「電源装置の FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 133 ページの「ファンの FRU ID 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 431 ページの「システム識別情報プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」

▼ 日付の表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、正しい日付と時間を維持するために内部クロックプロセッサがあります。代わりの方法として、システムクロックを、ネットワークで使用している NTP サーバーと同期できます。

- **「ILOM Administration」->「Date and Time」を選択し、「Clock」タブをクリックします。**
  ペインに、現在の日付、時間、およびシステムの稼働時間のほか、NTP パラメータ (NTP が構成されている場合) が表示されます。

関連情報

- 134 ページの「タイムゾーンの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 135 ページの「NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 433 ページの「日付と時間の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 432 ページの「タイムゾーンの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 432 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」

▼ タイムゾーンの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチのタイムゾーンは、スイッチの設置とそれをはじめてオンラインにすることの一部として構成されます。

- **「ILOM Administration」->「Date and Time」の順に選択し、「Timezone」タブをクリックします。**
  ペインには、ローカルタイムゾーンを含む現在の日付と時間が表示されます。

関連情報

- 134 ページの「日付の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 135 ページの「NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 433 ページの「日付と時間の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 432 ページの「タイムゾーンの設定 (Oracle ILOM Web)」

- 432 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」

▼ システムの SSL 証明書と非公開鍵の情報の表示 (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM 経由で、スイッチはデフォルトの自己署名付き SSL 証明書および対応する鍵を受け取ります。代わりの方法として、デフォルト以外の SSL 証明書とそのペアの非公開鍵を PEM 形式でアップロードできます。

- **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SSL Certificate」タブをクリックします。**
  ペインに、スイッチにインストールされている証明書のステータス、デフォルトの証明書、カスタム証明書、および非公開鍵が表示されます。

関連情報

- 120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
- 123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」

▼ カスタム CLI プロンプトの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチにはデフォルトのコマンドプロンプトがありますが、これをカスタムプロンプトに変更できます。

- **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「CLI」タブをクリックします。**
  「Custom Prompt」チェックボックスと「Custom Prompt」フィールドに入力されている場合、ペインにカスタムプロンプトが表示されます。

関連情報

- 434 ページの「カスタム CLI プロンプトの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 434 ページの「カスタム CLI プロンプトの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 435 ページの「カスタム CLI プロンプトの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチはその内部システムクロックの代わりに NTP を使用するように構成できます。スイッチが NTP を使用するように構成されており、ネットワークの NTP サー

バーと同期されている場合、このタスクを使用してスイッチの NTP 情報を表示します。

- **「ILOM Administration」->「Date and Time」を選択し、「Clock」タブをクリックします。**

  ペインに、NTP (Network Time Protocol) のステータスおよびサーバーの IP アドレスが表示されます。

関連情報

- 134 ページの「日付の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 134 ページの「タイムゾーンの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 433 ページの「日付と時間の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 432 ページの「タイムゾーンの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 432 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」

▼ SP をデフォルトにリセットする場合のポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)

SP がリセットされた場合、SP 上のユーザーが構成した情報は、構成されているリセットポリシーによってさまざまな影響を受けます。

- 「All」は、次の SP のリセット時に Oracle ILOM プロパティーをそれらのデフォルト設定に戻しますが、Oracle ILOM ログファイルは消去しません。
- 「Factory」は、次の SP のリセット時に Oracle ILOM プロパティーをそれらのデフォルトの設定に戻し、Oracle ILOM ログファイルを消去します。
- 「None」は、Oracle ILOM プロパティーまたはログファイルに影響しませんが、SP がリセットされる前に「All」または「Factory」ポリシーをキャンセルする場合に役立ちます。

- **「ILOM Administration」->「Configuration Management」を選択し、「Reset Defaults」タブをクリックします。**

  ペインに SP をデフォルト値にリセットする状態が表示されます。

関連情報

- 425 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM Web)」

▼ バックアップおよび復元ポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチ構成を保存して回復するために、必要に応じてスイッチ構成をバックアップし、復元できます。

- **「ILOM Administration」->「Configuration Management」を選択し、「Backup/Restore」タブをクリックします。**
  ペインに、機密データを暗号化するためのパスフレーズを含む、構成のバックアップと復元の現在の設定が表示されます。

関連情報

- 137 ページの「スナップショットポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 427 ページの「構成のバックアップ (Oracle ILOM Web)」
- 428 ページの「構成の復元 (Oracle ILOM Web)」
- 429 ページの「スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 430 ページの「スナップショットのデータセット情報 (Oracle ILOM Web)」

▼ スナップショットポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、環境データ、ログファイル、FRU ID、および診断のための何らかのエラー情報を含む SP からの関連情報の収集を可能にするスナップショットサービスがあります。

- **「ILOM Administration」->「Maintenance」を選択し、「Snapshot」タブをクリックします。**
  ペインに、収集するデータセット、データセットからログファイルだけを収集するかどうか、スナップショット情報を暗号化するかどうか、およびスナップショットを転送するために使用する方法など、スナップショットサービスの現在のプロパティーが表示されます。

関連情報

- 137 ページの「バックアップおよび復元ポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 427 ページの「構成のバックアップ (Oracle ILOM Web)」
- 428 ページの「構成の復元 (Oracle ILOM Web)」
- 429 ページの「スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 430 ページの「スナップショットのデータセット情報 (Oracle ILOM Web)」

▼ ホスト電源制御設定の表示 (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM を使用して、スイッチで使用しているホスト電源を表示して、制御できます。ホスト電源制御が有効になっている場合、このタスクを使用して、ホストの電源状態を表示します。

- **「Host Management」->「Power Control」の順に選択します。**
  「Settings」の下のテキストは、スイッチの現在の電源状態を示します。

関連情報

- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 437 ページの「シリアルポートのプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」

▼ シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)

シリアルポートは、ホストサーバーとスイッチの SP の間の接続です。この接続を通して、スイッチはホストシリアルコンソールにアクセスできます。

- **「ILOM Administration」->「Connectivity」の順に選択し、「Serial Port」タブをクリックします。**
  個々のセクションに、シリアルポート共有、ホストシリアルポートのボーレートとフロー制御、外部シリアルポートのボーレートとフロー制御の設定が表示されます。

関連情報

- 138 ページの「ホスト電源制御設定の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 437 ページの「シリアルポートのプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」

認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、スイッチの認証とアクセスのさまざまな方法に関する情報を表示する方法について説明します。

- 139 ページの「SMTP クライアントのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 139 ページの「DNS クライアントのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 141 ページの「RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

▼ SMTP クライアントのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、電子メールによるイベントと通知の転送をサポートする SMTP 電子メールクライアントをホストします。

- **「ILOM Administration」>「Notifications」を選択し、「SMTP」タブをクリックします。**

関連情報

- 472 ページの「SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 474 ページの「アラートでの電子メールアラート送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ DNS クライアントのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、名前の検索や解決などのドメインネームサービスをサポートする DNS クライアントをホストします。DNS のサポートは、手動で指定するか、または自動 DNS によってサポートできます。

- **「ILOM Administration」->「Connectivity」を選択し、「DNS」タブをクリックします。**
  ペインに、DNS クライアント構成設定が表示されます。

注記 - 「Auto DNS via DHCP」が有効になっている場合、「Name Server」および「Search Path」フィールドはグレー表示されます。

関連情報

- 450 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」
- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、役割、サーバーとポート、検索ベース、および識別名 (DN) を含む LDAP ユーザーの管理をサポートする LDAP クライアントをホストします。

- **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP」タブをクリックします。**
  ペインに、LDAP 状態、役割、LDAP サーバーアドレス、ポート、検索ベース、バインド DN、バインドパスワードが表示されます。

関連情報

- 451 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 452 ページの「LDAP ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、役割、検索ベース、サーバー、グループ、および SSL 証明書を含む LDAP ユーザーの管理をサポートする LDAP over SSL クライアントをホストします。

- **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**

  ペインに、LDAP over SSL 設定、証明書、管理者グループ、オペレータグループ、カスタムグループ、ユーザードメイン、および代替サーバーが表示されます。

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」

▼ RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、役割、サーバーとポート、共有シークレットを含む RADIUS ユーザーの管理をサポートする RADIUS クライアントをホストします。

- **「ILOM Administration」->「User Management」を選択して、「RADIUS User」タブをクリックします。**

  ペインに RADIUS サーバーの設定、RADIUS 経由で認証されるユーザーのユーザー役割、プロトコル設定が表示されます。

関連情報

- 467 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 468 ページの「(オプション) RADIUS 共有シークレットの設定 (Oracle ILOM Web)」

- 469 ページの「代替 RADIUS サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「RADIUS ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、役割、サーバーとポート、グループ、ロケータプロパティー、証明書、検索プロパティー、および資格証明を含む AD ユーザーの管理をサポートする AD クライアントをホストします。

- **「ILOM Administration」->「User Management」を選択し、「Active Directory」リンクをクリックします。**
  ペインに、AD 設定、証明書情報、管理者グループ、オペレータグループ、カスタムグループ、ユーザードメイン、代替サーバー、および DNS ロケータクエリーが表示されます。

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」

イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、イベント、通知、およびイベントロギングの状態とプロパティーを表示する方法について説明します。

- 143 ページの「スイッチシステムログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 144 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

- 144 ページの「Syslog ホストの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチシステムログの表示 (Oracle ILOM Web)

システムログには、特定のサブシステムまたはイベントタイプに対して発生する SP イベントが含まれます。イベントが発生すると、それがシステムログに投稿され、ログがロールオーバーされるか、明示的にクリアされるまでそこで保存されます。

1. **「System Log」を選択します。**
   各 SP イベントについて、表に、ID、日付、時間、イベントの簡単な説明、イベントタイプ、影響を受けるサブシステム、および親コンポーネントが表示されます。
2. **(オプション) 下部のツールバーの制御ボタンを使用して、複数ページの表を移動します。**
   - **「Go to First Page」ボタンをクリックし、表の最初のページを表示します。**
   - **「Previous Page」ボタンをクリックし、表の前のページを表示します。**
   - **「Next Page」ボタンをクリックして、表の次のページを表示します。**
   - **「Last Page」ボタンをクリックして、表の最後のページを表示します。**
3. **(オプション)「フィルタ」ドロップダウンメニューを使用して、事前に設定された条件に基づいて表をソートするか、またはカスタムフィルタを作成します。**

影響を受けるサブシステムまたはイベントタイプによってログをフィルタリングできます。

関連情報

- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 485 ページの「1 ページあたりのシステムログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 485 ページの「定義済み条件を使用したシステムログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 486 ページの「システムログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 487 ページの「システムログのクリア (Oracle ILOM Web)」

▼ 警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)

警告は、システムの障害の事前通知を提供できます。SP 内の Oracle ILOM 実装は、アラートプロパティーを構成する 15 個のアラート規則をサポートしています。サポートされている警告の種類は、SNMP トラップ、IPMI PET、電子メール警告です。SNMP トラップおよび PET の場合、警告の宛先は、関連する Oracle ILOM MIB がインストールされている必要があり、SNMP トラップをサポートしている必要があります。

- **「ILOM Administration」>「Notifications」を選択し、「Alerts」タブをクリックします。**
  表に、各警告の警告 ID、レベル、警告タイプ、宛先のサマリーが表示されます。

関連情報

- 473 ページの「アラートでの SNMP トラップ送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 474 ページの「アラートでの電子メールアラート送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 475 ページの「アラートでの PET 送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 476 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ Syslog ホストの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、スイッチからのすべての Syslog 通信のリポジトリとして機能するリモートの Syslog サーバーとの標準的な通信をサポートする Syslog ユーティリティーがあります。

- **「ILOM Administration」>「Notifications」を選択し、「Syslog」タブをクリックします。**

  ペインに、リモート Syslog ホストの IP アドレスが表示されます。

関連情報

- 120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
- 123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM イベントログには、SP に対して記録されているすべてのシステムハードウェア関連イベントが表示されます。Oracle ILOM イベントログは、ドロップダウンメニューで事前に設定された条件に基づいてフィルタリングできます。

注記 - イベントログをフィルタリングして、事前に選択した一連の条件に基づいて Oracle ILOM 障害イベントを表示できます。

---

1. **「ILOM Administration」->「Logs」を選択し、「Event」タブをクリックします。**

   ドロップダウンメニューは、クラス、タイプ、重要度によってイベントをフィルタリングします。

2. **(オプション)「Filter」ドロップダウンメニューから条件を選択し、障害イベントを表示するか、またはカスタムフィルタを作成します。**

関連情報

- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 478 ページの「1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 479 ページの「Oracle ILOM ログの 1 ページでの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 480 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 481 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 483 ページの「Oracle ILOM ログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 484 ページの「Oracle ILOM ログのクリア (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM 監査ログには、構成の変更が発生するユーザーアクションが表示されます。ログイン、コマンド、コマンドパラメータなどのユーザーアクション、およびコマンドの成功または失敗が追跡されます。

注記 - 監査ログをフィルタリングして、特定のタイプのコマンドや構成の変更が発生する変更など、ユーザー発行コマンドを表示できます。

---

1. **「System Information」->「Logs」を選択し、「Audit」タブをクリックします。**
   ドロップダウンメニューは、タイプおよび重要度によってイベントをフィルタリングします。

2. **(オプション)「Filter」ドロップダウンメニューから条件を選択し、監査イベントを表示するか、またはカスタムフィルタを作成します。**

関連情報

- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 478 ページの「1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 479 ページの「Oracle ILOM ログの 1 ページでの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 480 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 481 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 483 ページの「Oracle ILOM ログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 484 ページの「Oracle ILOM ログのクリア (Oracle ILOM Web)」

管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、スイッチの IPv4 および IPv6 管理ネットワーク構成と個々のネットワークコントローラを表示する方法について説明します。

- 147 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 148 ページの「スイッチのネットワークコントローラのチェック (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
- 123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」
- 123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

▼ 管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、その管理ネットワークで、IPv4 ネットワークと IPv6 ネットワークの両方をサポートします。

- **「ILOM Administration」->「Connectivity」を選択し、「Network」タブをクリックします。**
  - ペインにネットワークステータス、MAC アドレス、VLAN 構成が表示されます。
  - IPv4 の場合、ペインに、IP 検出モード、IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイが表示されます。
  - IPv6 の場合、ペインに、プロトコル状態、自動構成設定、DHCPv6 自動構成設定、IPv6 アドレス、IPv6 ゲートウェイ情報が表示されます。

関連情報

- 148 ページの「管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 488 ページの「ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 489 ページの「ネットワーク管理プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 490 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 491 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web)」

- 492 ページの「スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 493 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM Web)」

スイッチのネットワークコントローラのチェック (Oracle ILOM Web)

スイッチには、Ethernet および IB ネットワーク用のネットワークコントローラが組み込まれています。スイッチ上のネットワークの全体の健全性をチェックし、スイッチによって提供されている Ethernet ネットワークに関する一部の詳細情報を取得できます。

- 148 ページの「管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「Ethernet NIC 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 148 ページの「管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 131 ページの「Ethernet スイッチファームウェアの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 147 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)

このタスクを使用して、スイッチ上の Ethernet および IB 管理ネットワークの健全性を表示します。

1. **「System Information」->「Networking」を選択します。**
ペインに、スイッチ上のすべてのネットワークの健全性、すべての健全性の詳細 (利用可能な場合)、ネットワークの問題 (存在する場合) を説明する「Open Problems」ペインへのリンクが表示され、スイッチ内の NIC の合計数が表示されます。

2. **(オプション) Ethernet NIC の表で、取り付けられている Ethernet NIC に関する追加情報をチェックします。**
149 ページの「Ethernet NIC 情報の表示 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

関連情報

- 147 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)」

- 488 ページの「ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 489 ページの「ネットワーク管理プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 490 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 491 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 492 ページの「スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 493 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM Web)」

▼ Ethernet NIC 情報の表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチには Ethernet NIC が取り付けられており、1G ビット、10G ビット、40G ビットの速度を使用するネットワークをサポートします。

1. **「System Information」->「Networking」を選択します。**
2. **Ethernet NIC の表で、取り付けられている各 NIC の一般情報を確認します。**
3. **「Ethernet NIC Details」列で「Details」をクリックし、NIC に固有の情報 (利用可能な場合) を取得します。**

注記 - 「Summary」ダッシュボードの「Status」表から、取り付けられている Ethernet NIC のステータス、健全性、数の簡単なサマリーを取得することもできます。

関連情報

- 147 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 148 ページの「管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 488 ページの「ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web)」

スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースによって、スイッチへの管理接続を表示する方法について説明します。

- 150 ページの「リモートセッション設定の表示 (Oracle ILOM Web)」

- 151 ページの「システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「CLI セッションタイムアウトの表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
- 123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」
- 123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

リモートセッション設定の表示 (Oracle ILOM Web)

リモートセッションのプロパティー (キーボード、ビデオ、マウス、ストレージ (KVMS) などのプロパティー) がシリアルリダイレクション用に構成されている場合、スイッチはローカルマシンからリモートで管理できます。

- 150 ページの「リダイレクション情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 151 ページの「ホストストレージデバイス設定の表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ リダイレクション情報の表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、ビデオおよびシリアル接続のリダイレクションサービスをサポートしています。

- **「Remote Control」->「Redirection」の順に選択します。**

  ペインに、ビデオおよびシリアルリダイレクションの使用の現在の状態、KVMS リダイレクションサービスが使用している HTTP および HTTPS ポートが表示されます。

関連情報

- 151 ページの「ホストストレージデバイス設定の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 495 ページの「シリアルリダイレクションの有効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ ホストストレージデバイス設定の表示 (Oracle ILOM Web)

ホストストレージデバイスは、NFS または SAMBA 経由でマウントできるリモートストレージイメージであり、直接接続されているストレージデバイスと同じように、シリアルリダイレクションサービス経由で動作します。

- **「Remote Control」->「Host Storage Device」を選択します。**

  ペインに、ホストストレージデバイスの現在のステータスとモード、マウントされた NFS または SAMBA サーバーの URI、認証に必要な SAMBA ユーザー名およびパスワードが表示されます。

関連情報

- 150 ページの「リダイレクション情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、ユーザーがスイッチに接続するか、またはログインすると表示されるバナーメッセージをサポートしています。

- **「ILOM Administration」->「Management Access」を選択して、「Banner Messages」タブをクリックします。**

  ペインに、接続とログインのバナーメッセージのほか、ログインメッセージの受け入れの状態が表示されます。

関連情報

- 152 ページの「CLI セッションタイムアウトの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 497 ページの「接続バナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」

▼ CLI セッションタイムアウトの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、構成された分数後に開いている CLI セッションを閉じる非アクティブタイマーをサポートしています。ゼロ (0) のタイムアウト値は、タイムアウトが無効になり、非アクティブな CLI セッションが無期限に開いたままになることを示します。

- **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「CLI」タブをクリックします。**

  ペインに CLI セッションタイムアウトが表示されます。タイムアウトにゼロ (0) が示されている場合、CLI セッションタイムアウトは無効になっているため、セッションは明示的に閉じるまで開いたままになります。

関連情報

- 151 ページの「システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 497 ページの「Oracle ILOM の CLI セッションタイムアウトの設定 (Oracle ILOM Web)」

スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web を使用して、スイッチとのさまざまなインタフェースの方法を表示する方法について説明します。

- 153 ページの「HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 154 ページの「SNMP サービスのステータスのチェック (Oracle ILOM Web)」
- 156 ページの「SSH サーバーのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 156 ページの「IPMI サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
- 123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」
- 123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」

- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

▼ HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、さまざまなバージョンの TLS のサポートを含む Web アクセスおよび SSL ベースの暗号化をサポートする HTTPS サービスを実行します。

- **「ILOM Administration」->「Management Access」を選択し、「Web Server」タブをクリックします。**

  ペインに、Web サーバーのステータス、ポート、および HTTPS のセッションタイムアウト、および TLS バージョンが表示されます。

関連情報

- 153 ページの「HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 501 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 504 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、Web アクセスをサポートする HTTP サービスを実行します。

- **「ILOM Administration」->「Management Access」を選択し、「Web Server」タブをクリックします。**

ペインに、Web サーバーのステータス、ポート、および HTTP のセッションタイムアウトが表示されます。

関連情報

- 153 ページの「HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 501 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 504 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

SNMP サービスのステータスのチェック (Oracle ILOM Web)

スイッチには、標準の SNMP ネットワーク管理機能ではなく、Oracle ILOM 機能のみをサポートする事前インストール済みの SNMP エージェントが含まれます。これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースによって、スイッチの SNMP サービスとそのプロパティーを表示する方法について説明します。

- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)

- **「ILOM Administration」->「Management Access」を選択し、「SNMP」タブをクリックします。**

  ペインに、SNMP のサービスステータスおよび動作パラメータが表示されます。

関連情報

- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 512 ページの「SNMP クライアントの概要 (Oracle ILOM Web)」
- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」

- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)

このタスクを使用して、SNMP v3 ユーザーアカウントを表示します。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」を選択し、「SNMP」タブをクリックします。**

2. **「SNMP Users」リンクをクリックします。**

   ページは、構成された SNMP v3 ユーザーとそれらの認証プロトコル、アクセス権、およびプライバシプロトコルを表示する「SNMP Users」の表にスクロールします。

関連情報

- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 512 ページの「SNMP クライアントの概要 (Oracle ILOM Web)」
- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)

SNMPv1 および v2c は、スイッチでサポートされていますが、SNMP v3 ほどセキュアではありません。ネットワークで SNMP v1 または v2c が必要である場合、このタスクを使用して、スイッチに構成されている、SNMP v1 および v2c コミュニティーを表示します。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」を選択し、「SNMP」タブをクリックします。**

2. **「Communities」リンクをクリックします。**

   ページは、構成されている SNMP v1 および v2c コミュニティーおよびアクセス権を表示する「SNMP Communities」の表にスクロールします。

関連情報

- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 512 ページの「SNMP クライアントの概要 (Oracle ILOM Web)」
- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ SSH サーバーのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、システム管理者が SSH 管理アクセスのプロパティーを構成し、オンデマンドで新しい RSA および DSA SSH 鍵を生成できるようにする SSH サーバーがあります。

- **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SSH Server」タブをクリックします。**

  ペインに、SSH サービスと弱い暗号化の状態、RSA 鍵のフィンガープリントと鍵の長さと公開鍵、および DSA のフィンガープリントと鍵の長さと公開鍵が表示されます。

関連情報

- 507 ページの「SSH の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 507 ページの「Generate SSH Keys (Oracle ILOM Web)」
- 508 ページの「SSH の無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ IPMI サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、スイッチの IPMI 管理をサポートするサービスを実行します。スイッチの IPMI サービスは、IPMI バージョン 1.5 と 2.0 の両方をサポートします。

- **「ILOM Administration」->「Management Access」を選択し、「IPMI」タブをクリックします。**

  ペインに IPMI サービスのステータスが表示されます。

関連情報

- 509 ページの「IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 510 ページの「IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

- 510 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 511 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、スイッチの問題と潜在的な問題の迅速な分析と対応を容易にするために Oracle ASR サービスをサポートしています。

- **「ILOM Administration」->「Notifications」を選択して、「ASR Client」タブをクリックします。**

  ペインに、ASR クライアントのステータス、状態、エンドポイント、ユーザー名、パスワード、およびプロキシ情報が表示されます。

関連情報

- 123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)

これらのタスクでは、Oracle ILOM Web インタフェースによって、スイッチ上の ILOM ユーザーアカウントとセッションに関する情報を表示する方法について説明します。

- 158 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 159 ページの「ローカルユーザーのパスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM セッションは、Oracle ILOM Web または Oracle ILOM CLI のいずれかによってアクティブにできます。セッションのタイプに関係なく、「Active Sessions」表によって Oracle ILOM セッションが追跡されます。

- **「ILOM Administration」->「User Management」を選択し、「Active Sessions」タブをクリックします。**

  表に、セッションのユーザー名、ユーザーの役割、セッション開始時間、セッションのタイプとモードが表示されます。

関連情報

- 158 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM の SP へのアクセスを許可するために、スイッチに Oracle ILOM ローカルユーザーアカウントが構成されている必要があります。Oracle ILOM ローカルユーザーは、最大 10 人に制限されます。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」を選択し、「User Accounts」タブをクリックします。**

2. **「Users」リンクをクリックします。**
   ページは、各ユーザーの名前と役割を表示する「Users」表にスクロールします。

3. **(オプション)「SSH Keys」リンクをクリックします。**
   SSH 鍵情報は、存在する場合、関連付けられたユーザーに対して表示されます。

関連情報

- 159 ページの「ローカルユーザーのパスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 525 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 527 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM Web)」
- 528 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントへの SSH 鍵の追加 (Oracle ILOM Web)」
- 529 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 530 ページの「ローカルユーザーのスイッチパスワードポリシーの設定 (Oracle ILOM Web)」

▼ ローカルユーザーのパスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)

スイッチへのログインに使用するパスワードはさまざまな要件で構成できます。

- **「ILOM Administration」->「User Management」を選択し、「Password Policy」タブをクリックします。**
  ペインに、パスワードの長さ、英字と数字、特殊文字、およびパスワード再利用の要件が表示されます。

関連情報

- 158 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 525 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 527 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM Web)」
- 528 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントへの SSH 鍵の追加 (Oracle ILOM Web)」
- 529 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」

- 530 ページの「ローカルユーザーのスイッチパスワードポリシーの設定 (Oracle ILOM Web)」

追加のサービスのモニタリング (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、ネットワークで必要になる可能性がある追加のサービスに関する情報を表示する方法について説明します。

- 160 ページの「FIPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 161 ページの「キーボード、ビデオ、マウス、ストレージ、シリアルリダイレクションサービスの情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 123 ページの「スイッチコンポーネントと識別情報のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 138 ページの「認証とアクセスのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「イベントとロギングのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「管理ネットワークのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 149 ページの「スイッチへの管理接続のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 152 ページの「スイッチのインタフェース方法のモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ユーザーアカウントのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ FIPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)

FIPS は、特定のデータが送受信されるときにそれらのデータに高度な暗号化とセキュリティーを提供する Federal Information Processing Standard プロトコルです。FIPS が有効にされている場合、LDAP、RADIUS、および IPMI 1.5 を有効にできません。

- **「ILOM Administration」->「Management Access」を選択し、「FIPS」タブをクリックします。**

  ペインに、FIPS のステータスおよび動作状態が表示されます。

関連情報

- 534 ページの「FIPS の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 535 ページの「FIPS の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 511 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ キーボード、ビデオ、マウス、ストレージ、シリアルリダイレクションサービスの情報の表示 (Oracle ILOM Web)

KVMS およびシリアルリダイレクションサービスにより、リダイレクトされた管理セッション経由でスイッチと対話できます。

- **「Remote Control」->「KVMS」の順に選択します。**

  ペインに、シリアルリダイレクションサービスの現在の状態、許可されるクライアントセッションの最大数、マウス操作のモード、およびリダイレクションによる管理が完了したときのホスト OS のロックの設定が表示されます。

関連情報

- 138 ページの「ホスト電源制御設定の表示 (Oracle ILOM Web)」

Oracle ILOM ターゲットの理解

これらのトピックでは、CLI インタフェースで表示される Oracle ILOM ターゲットについて説明します。

- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」
- 170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」

関連情報

- 19 ページの「システム管理リソースの理解」
- 27 ページの「スイッチへのアクセス」
- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 119 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 193 ページの「SNMP MIB OID の理解」
- 265 ページの「EMS モジュールの理解」
- 299 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 423 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 537 ページの「ファームウェアの更新」

Oracle ILOM ターゲットの概要

Oracle ILOM ターゲットは、Oracle ILOM によって管理されるすべてのソフトウェアおよびハードウェアコンポーネントとサービスを表します。これらのターゲットは、ファイルシステムのディレクトリやファイルによく似た階層パスによって識別されます。各ターゲットには、それに影響を与える可能性のあるプロパティーとコマンドがあります。

ターゲットのプロパティーには、次の 3 つのタイプがあります。

- **読み取り専用**。これらのプロパティーの値は、`show` コマンドで表示します。これらのプロパティーを `set` コマンドで直接設定したり、変更したりすることはできません。シリアル番号は、標準的な読み取り専用プロパティーです。

- **読み取り/書き込み**。これらのプロパティーの値は、`show` コマンドで表示します。これらのプロパティーは、`set` コマンドで変更します。IP アドレスは、標準的な読み取り/書き込みプロパティーです。
- **書き込み専用**。これらのプロパティーの値は、`show` コマンドで表示できません。この値は通常、`(Cannot show property)` として表示されます。このプロパティー値を `set` コマンドで設定すると、1 回かぎりのアクションが開始されます。たとえば、`commitpending` プロパティーが `true` に設定されると、保留中のネットワークプロパティーが標準のネットワークプロパティーにコピーされます。`commitpending` プロパティーはそのあと、`(Cannot show property)` に戻ります。

ターゲットコマンドは、そのターゲットに影響を与えようとするユーザーの権限に固有です。

関連情報

- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」
- 170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」

Oracle ILOM ターゲットの管理

これらのトピックでは、ターゲットとプロパティーを表示および構成する方法について説明します。

- 165 ページの「1 つの Oracle ILOM ターゲットの特性の表示」
- 165 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーと値の表示」
- 166 ページの「特定のプロパティーを持つすべての Oracle ILOM ターゲットの表示」
- 167 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーのヘルプの表示」
- 168 ページの「Oracle ILOM ターゲットの 1 つのプロパティーの構成」
- 169 ページの「Oracle ILOM ターゲットの複数のプロパティーの構成」

関連情報

- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」

▼ 1 つの Oracle ILOM ターゲットの特性の表示

- **Oracle ILOM CLI にアクセスし、1 つのターゲットとそのターゲットのすべての特性のみを表示します。**

```
-> show target
```

ここで、*target* は、170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」に示されているいずれかのターゲットです。たとえば、/HOST ターゲットのすべての特性を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /HOST

 /HOST
  Targets:
   console

  Properties:
   boot_device = default

  Commands:
   cd
   set
   show
->
```

この出力には、/HOST のサブターゲットである console が存在します。1 つのプロパティー boot_device が存在し、その現在の値は default です。このターゲットに対して実行できるコマンドは、cd、set、および show です。

関連情報

- 165 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーと値の表示」
- 166 ページの「特定のプロパティーを持つすべての Oracle ILOM ターゲットの表示」
- 167 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーのヘルプの表示」
- 168 ページの「Oracle ILOM ターゲットの 1 つのプロパティーの構成」
- 169 ページの「Oracle ILOM ターゲットの複数のプロパティーの構成」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」

▼ Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーと値の表示

- **Oracle ILOM CLI にアクセスし、1 つのターゲットのみの特定のプロパティーと値を表示します。**

```
-> show target property
```

ここでは:

- *target* は、170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」に示されているいずれかのターゲットです。
- *property* は、そのターゲットの有効なプロパティーです。

たとえば、`/System` ターゲットの `power_state` プロパティーの値を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /System power_state

 /System
  Properties:
   power_state = On
->
```

この出力で、電源状態はオンです。

関連情報

- 165 ページの「1 つの Oracle ILOM ターゲットの特性の表示」
- 166 ページの「特定のプロパティーを持つすべての Oracle ILOM ターゲットの表示」
- 167 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーのヘルプの表示」
- 168 ページの「Oracle ILOM ターゲットの 1 つのプロパティーの構成」
- 169 ページの「Oracle ILOM ターゲットの複数のプロパティーの構成」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」

▼ 特定のプロパティーを持つすべての Oracle ILOM ターゲットの表示

- **Oracle ILOM CLI にアクセスし、特定のプロパティーを持つすべてのターゲットの表を表示します。**

```
-> show target_root -t property
```

ここでは:

- *target_root* は、親ターゲットのタイプです。これらのターゲットは、`/`、`/HOST`、`/SP`、`/SYS`、および `/System` です。

- *property* は、そのターゲットの有効なプロパティーです。特定のターゲットの有効なプロパティーについては、170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」を参照してください。

注記 - show コマンドのこの使用ではフィルタリング操作が実行されるため、単純な show コマンドの使用より時間がかかります。

たとえば、/SYS のターゲットルートの下で clear_fault_action プロパティー (手動のリセット) を持つすべてのターゲットの表を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS -t clear_fault_action
Target              | Property              | Value
--------------------+-----------------------+---------------------
/SYS                | clear_fault_action    | (none)
/SYS/FM0            | clear_fault_action    | (none)
/SYS/FM0/FAN0       | clear_fault_action    | (none)
/SYS/FM0/FAN1       | clear_fault_action    | (none)
/SYS/FM1            | clear_fault_action    | (none)
...
/SYS/FM3/FAN1       | clear_fault_action    | (none)
/SYS/MB             | clear_fault_action    | (none)
/SYS/PS0            | clear_fault_action    | (none)
/SYS/PS1            | clear_fault_action    | (none)
/SYS/SP             | clear_fault_action    | (none)
->
```

関連情報

- 165 ページの「1 つの Oracle ILOM ターゲットの特性の表示」
- 165 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーと値の表示」
- 167 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーのヘルプの表示」
- 168 ページの「Oracle ILOM ターゲットの 1 つのプロパティーの構成」
- 169 ページの「Oracle ILOM ターゲットの複数のプロパティーの構成」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」

▼ Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーのヘルプの表示

- **Oracle ILOM CLI にアクセスし、1 つのターゲットのみの特定のプロパティーのヘルプを表示します。**

```
-> help target property
```

ここでは:

- *target* は、170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」に示されているいずれかのターゲットです。
- *property* は、そのターゲットの有効なプロパティーです。

注記 - インスタンスがすでに *target* にある場合は、`help` コマンドに *target* を含める必要はありません。

たとえば、`/SP/firmware` ターゲットの `load_uri` プロパティーのヘルプを表示するには、次のように入力します。

```
-> help /SP/firmware load_uri
 Properties:
 load_uri : Firmware load
   URI syntax and examples:
    ftp://user[:password]@host//absolute-file-path
    ftp://user[:password]@host/relative-file-path
    sftp://user[:password]@host/absolute-file-path
    ex:  sftp://jane@192.0.2.254/tmp/file.pkg
 load_uri : Possible values = tftp, ftp, sftp, scp, http, https
 load_uri : User role required for set = a
->
```

出力には、そのプロパティーの *value* の例が表示されます。

関連情報

- 165 ページの「1 つの Oracle ILOM ターゲットの特性の表示」
- 165 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーと値の表示」
- 166 ページの「特定のプロパティーを持つすべての Oracle ILOM ターゲットの表示」
- 168 ページの「Oracle ILOM ターゲットの 1 つのプロパティーの構成」
- 169 ページの「Oracle ILOM ターゲットの複数のプロパティーの構成」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」

▼ Oracle ILOM ターゲットの 1 つのプロパティーの構成

- **Oracle ILOM CLI にアクセスし、ターゲットの 1 つのプロパティーを構成します。**

```
-> set target property=value
```

ここでは:

- *target* は、170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」に示されているいずれかのターゲットです。
- *property* は、そのターゲットの有効なプロパティーです。
- *value* は、そのプロパティーの有効な値です。

たとえば、`/SP/logs/audit` ターゲット (Oracle ILOM 監査ログ) をクリアするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/logs/audit clear=true
Are you sure you want to clear /SP/logs/audit (y/n)? y
Set 'clear' to 'true'
->
```

関連情報

- 165 ページの「1 つの Oracle ILOM ターゲットの特性の表示」
- 165 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーと値の表示」
- 166 ページの「特定のプロパティーを持つすべての Oracle ILOM ターゲットの表示」
- 167 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーのヘルプの表示」
- 169 ページの「Oracle ILOM ターゲットの複数のプロパティーの構成」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」

▼ Oracle ILOM ターゲットの複数のプロパティーの構成

- **Oracle ILOM CLI にアクセスし、ターゲットの複数のプロパティーを構成します。**

```
-> set target property=value property=value property=value ...
```

ここでは:

- *target* は、170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」に示されているいずれかのターゲットです。
- *property* は、そのターゲットの有効なプロパティーです。
- *value* は、そのプロパティーの有効な値です。

たとえば、`/SP/network` ターゲットの基本的なネットワーク管理プロパティーを構成するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/network pendingipaddress=123.45.67.89 pendingipgateway=123.45.67.1
 pendingipnetmask=255.255.255.0 commitpending=true
Set 'pendingipaddress' to '123.45.67.89'
```

```
Set 'pendingipgateway' to '123.45.67.1'
Set 'pendingipnetmask' to '255.255.255.0'
Set 'commitpending' to 'true'
->
```

関連情報

- 165 ページの「1 つの Oracle ILOM ターゲットの特性の表示」
- 165 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーと値の表示」
- 166 ページの「特定のプロパティーを持つすべての Oracle ILOM ターゲットの表示」
- 167 ページの「Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティーのヘルプの表示」
- 168 ページの「Oracle ILOM ターゲットの 1 つのプロパティーの構成」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 170 ページの「Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解」

Oracle ILOM ターゲットとプロパティーの理解

この表では、プロパティーを表示または構成できる Oracle ILOM ターゲットについて説明しています。

説明	リンク
ホスト、ホストコンソール、およびコンソール出力のターゲット。	171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」
Active Directory クライアントのターゲット。	172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
外部サービスに接続するクライアントのターゲット。これらのクライアントには、ASR、DNS、LDAP、NTP、RADIUS、SMTP、およびシステムログが含まれます。	173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
LDAP over SSL クライアントのターゲット。	175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
スイッチの一般的な側面のターゲット。これらの側面には、アラート、バックアップと復元、日付と時間、ログ、ネットワーク管理、設定、シリアル通信、セッション、スナップショット、およびユーザーが含まれます。	176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」
スイッチによって提供されるサービスのターゲット。これらのサービスには、FIPS、HTTP、HTTPS、IPMI、KVMS、サービスタグ、SNMP、SSH、および SSO が含まれます。	179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
一般的なシャーシコンポーネントのターゲット。これらのコンポーネントには、シャーシ、ファンモジュール、LED、SCP、およびスイッチチップが含まれます。	182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
スイッチメインボードのターゲット。	184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」
スイッチ電源装置のターゲット。	186 ページの「/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー」

説明	リンク
Oracle Fabric Interconnect F2-12 I/O モジュールのターゲット。	188 ページの「/SYS Oracle F2 I/O モジュールターゲットとプロパティー」
シャーシ内のシステムのターゲット。これらのシステムには、冷却、ファームウェア、ログ、ネットワーク、未解決の問題、および電源が含まれます。Oracle Fabric Interconnect F2-12 の場合、Oracle F2 I/O モジュールターゲットも含まれています。	190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」

関連情報

- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/HOST ターゲットとプロパティー

ホストコンソールに関する情報を表示したり、それを構成したりするには、/HOST ターゲットに対して show および set コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A として示されるプロパティーは一覧表示されません。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/HOST	■ boot_device = default	ホストの構成。
/HOST/console	■ line_count = 0 ■ logging = enabled ■ pause_count = 0 ■ start_from = end	ホストコンソールの構成。
/HOST/console/history	プロパティーなし。	コンソール出力の視覚的なレコード。

関連情報

- 172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
- 173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
- 175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
- 176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」
- 179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
- 182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
- 184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」
- 186 ページの「/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー」

- 190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー

AD クライアントに関する情報を表示したり、それを構成したりするには、/SP/clients/activedirectory ターゲットに対して show および set コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A として示されるプロパティーは一覧表示されません。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SP/clients/activedirectory	■ address = 0.0.0.0 ■ defaultrole = (none) ■ dnslocatormode = disabled ■ expsearchmode = disabled ■ logdetail = none ■ port = 0 ■ state = disabled ■ strictcertmode = disabled ■ strictcredentialerrormode = disabled ■ timeout = 4	AD クライアントの構成。
/SP/clients/activedirectory/admingroups/*x*	■ name = (none)	AD クライアント管理グループの構成。
/SP/clients/activedirectory/alternateservers/*x*	■ address = (none) ■ port = 0	AD クライアント代替サーバーの構成。
/SP/clients/activedirectory/alternateservers/*x*/cert	■ certstatus = certificate not present ■ clear_action = (Cannot show property) ■ issuer = (none) ■ load_uri = (Cannot show property) ■ serial_number = (none) ■ subject= (none) ■ valid_from = (none) ■ valid_until = (none) ■ version = (none)	AD クライアント代替サーバー証明書の構成。
/SP/clients/activedirectory/cert	■ certstatus = certificate not present ■ clear_action = (Cannot show property)	AD クライアント証明書の構成。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
	■ issuer = (none) ■ load_uri = (Cannot show property) ■ serial_number = (none) ■ subject= (none) ■ valid_from = (none) ■ valid_until = (none) ■ version = (none)	
/SP/clients/activedirectory/customgroups/*x*	■ name = (none) ■ roles = (none)	AD クライアントカスタムグループの構成。
/SP/clients/activedirectory/dnslocatorqueries/*x*	■ service = _ldap._tcp.gc._msdcs.*DOMAIN.PORT:636*	AD クライアント DNS の構成。
/SP/clients/activedirectory/opergroups/*x*	■ name = (none)	AD クライアントオペレータグループの構成。
/SP/clients/activedirectory/userdomains/*x*	■ domain = (none)	AD クライアントユーザードメインの構成。

関連情報

- 171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」
- 173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
- 175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
- 176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」
- 179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
- 182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
- 184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」
- 186 ページの「/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー」
- 190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー

スイッチクライアントに関する情報を表示したり、それを構成したりするには、これらの /SP/clients ターゲットに対して show および set コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A として示されるプロパティーは一覧表示されません。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SP/clients	プロパティーなし。	外部サービスに接続するクライアント。
/SP/clients/asr	■ endpoint = https://transport. oracle.com ■ password = ***** ■ proxy_host = (none) ■ proxy-password = **** ■ proxy-user = (none) ■ send-event = (Cannot show property) ■ state = disabled ■ status = unregistered ■ username = (none)	ASR クライアントの構成。
/SP/clients/dns	■ auto_dns = (none) ■ nameserver = 10.209.76.197 ■ retries = 1 ■ searchpath = us.oracle.com ■ timeout = 5	DNS クライアントの構成。
/SP/clients/ldap	■ address = 0.0.0.0 ■ binddn = (none) ■ bindpw = (none) ■ defaultrole = Operator ■ port = 369 ■ searchbase = (none) ■ state = disabled	LDAP クライアントの構成。
/SP/clients/ntp	プロパティーなし。	NTP クライアントの構成。
/SP/clients/ntp/server/*x*	■ address = 0.0.0.0	NTP クライアントサーバーの構成。
/SP/clients/radius	■ address = 0.0.0.0 ■ defaultrole = Operator ■ port = 1812 ■ secret = (none) ■ state = enabled	RADIUS クライアント通信の構成。
/SP/clients/radius/alternateservers/*x*	■ address = (none) ■ port = 0 ■ secret = (none)	RADIUS クライアント代替サーバーの構成。
/SP/clients/smtp	■ address = 0.0.0.0 ■ custom_sender = (none) ■ port = 25 ■ send_test_email_to = (Cannot show property) ■ state = disabled	SMTP 電子メールクライアントの構成。
/SP/clients/syslog/*x*	■ address = 0.0.0.0	Syslog クライアントの構成。

関連情報

- 171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」

- 172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
- 175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
- 176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」
- 179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
- 182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
- 184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」
- 186 ページの「/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー」
- 190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー

LDAP SSL クライアントに関する情報を表示したり、それを構成したりするには、/SP/clients/ldapssl ターゲットに対して show および set コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A として示されるプロパティーは一覧表示されません。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SP/clients/ldapssl	■ address = 0.0.0.0 ■ defaultrole = os ■ logdetail = none ■ port = 0 ■ state = disabled ■ strictcertmode = disabled ■ timeout = 4	LDAP over SSL クライアントの構成。
/SP/clients/ldapssl/admingroups/*x*	■ name = (none)	LDAP over SSL クライアント管理グループの構成。
/SP/clients/ldapssl/alternateservers/*x*	■ address = (none) ■ port = 0	LDAP over SSL クライアント代替サーバーの構成。
/SP/clients/ldapssl/alternateservers/*x*/cert	■ certstatus = certificate not present ■ clear_action = (Cannot show property) ■ issuer = (none) ■ load_uri = (Cannot show property) ■ serial_number = (none) ■ subject = (none) ■ valid_from = (none)	LDAP over SSL クライアント代替サーバー証明書の構成。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
	■ valid_until = (none) ■ version = (none)	
/SP/clients/ldapssl/cert	■ certstatus = certificate not present ■ clear_action = (Cannot show property) ■ issuer = (none) ■ load_uri = (Cannot show property) ■ serial_number = (none) ■ subject = (none) ■ valid_from = (none) ■ valid_until = (none) ■ version = (none)	LDAP over SSL クライアント証明書の構成。
/SP/clients/ldapssl/customgroups/*x*	■ name = (none) ■ roles = (none)	LDAP over SSL クライアントカスタムグループの構成。
/SP/clients/ldapssl/opergroups/*x*	■ name = (none)	LDAP over SSL クライアントオペレータグループの構成。
/SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping	■ attributeInfo = (none) ■ binddn = (none) ■ bindpw = (none) ■ searchbase = (none) ■ state = disabled	LDAP over SSL クライアントのオプションのユーザーマッピングの構成。
/SP/clients/ldapssl/userdomains/*x*	■ domain = (none)	LDAP over SSL クライアントユーザードメインの構成。

関連情報

- 171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」
- 172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
- 173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
- 176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」
- 179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
- 182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
- 184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」
- 186 ページの「/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー」
- 190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/SP 汎用ターゲットとプロパティー

一般的なスイッチのプロパティーに関する情報を表示したり、それを構成したりするには、これらの /SP ターゲットに対して show および set コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A として示されるプロパティーは一覧表示されません。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SP	■ check_physical_presence = true ■ current_hostname = ORACLESP-1 ■ hostname = us-gw-1 ■ reset_to_defaults = none ■ system_contact = (none) ■ system_description = unknown, ILOM v3.2.0.0, r102282 ■ system_identifier = (none) ■ system_location = (none)	管理コントローラまたはホスト。
/SP/alertmgmt/rules/*x*	■ type = snmptrap ■ level = disable ■ community_or_username = public ■ destination = 123.45.67.89 ■ destination_port = 0 ■ snmp_version = 2c ■ testrule = (Cannot show property)	アラート規則。
/SP/cli	■ legacy_targets = disabled ■ prompt = (none) ■ timeout = 0	CLI の構成。
/SP/clock	■ datetime = Thu Oct 8 05:19:52 2015 ■ timezone = GMT (GMT) ■ uptime = 348 days, 17:32:17 ■ usentpserver = disabled	クロックの構成。
/SP/config	■ dump_uri = (Cannot show property) ■ include_faultdata = false ■ load_uri = (Cannot show property) ■ passphrase = none	構成のバックアップと復元の設定。
/SP/diag/snapshot	■ dataset = normal ■ dump_uri = (Cannot show property) ■ encrypt_output = false ■ result = (none)	スイッチスナップショットの状態。
/SP/firmware	■ load_uri = (Cannot show property)	システムファームウェアの管理。
/SP/logs/audit	■ clear = (Cannot show property)	監査ログの管理。
/SP/logs/audit/list	プロパティーなし。	監査ログ自体。
/SP/logs/event	■ clear = (Cannot show property)	イベントログの管理。
/SP/logs/event/list	プロパティーなし。	イベントログ自体。
/SP/network	■ commitpending = (Cannot show property) ■ dhcp_clientid = sysid ■ dhcp_server_ip = none	外部ネットワークインタフェース。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
	■ ipaddress = 0.0.0.0 ■ ipdiscovery = static ■ ipgateway = 123.45.67.1 ■ ipnetmask = 255.255.255.0 ■ macaddress = 00:AB:CD:EF:AB:CD ■ pendingipaddress = 123.45.67.89 ■ pendingipdiscovery = static ■ pendingipgateway = 123.45.67.1 ■ pendingipnetmask = 255.255.255.0 ■ pendingvlan_id = (none) ■ state = ipv4-only ■ vlan_id = (none)	
/SP/network/ipv6	■ state = disabled ■ autoconfig = stateless ■ dhcpv6_server_duid = (none) ■ link_local_addresss = fe80:203:baff:fe7a:a197/64 ■ static_ipaddress = ::128 ■ ipgateway = :: ■ static_ipgateway = :: ■ pending_static_ipaddress = ::128 ■ pending_static_ipgateway = ::	IPv6 プロトコルの構成。
/SP/network/test	■ ping = (Cannot show property) ■ ping6 = (Cannot show property)	ping テスト。
/SP/preferences/banner/connect	■ dump_uri = (Cannot show property) ■ load_uri = (Cannot show property) ■ message = (none)	システムバナー接続メッセージ。
/SP/preferences/banner/login	■ dump_uri = (Cannot show property) ■ load_uri = (Cannot show property) ■ message = (none) ■ message_acceptance = disabled	システムバナーログインメッセージ。
/SP/preferences/password_policy	■ policy = 8 ■ min_length = 8 ■ uppercase = no restrictions ■ lowercase = no restrictions ■ symbols = no restrictions ■ numbers = no restrictions ■ history = no restrictions	システムパスワードの構成。
/SP/serial/external	■ commitpending = (Cannot show property) ■ flowcontrol = software ■ pendingflowcontrol = software ■ pendingspeed = 115200 ■ speed=115200	シリアルポート接続の構成。
/SP/serial/host	■ commitpending = (Cannot show property) ■ flowcontrol = software ■ pendingflowcontrol = software	シリアルホスト通信の構成。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
	■ pendingspeed = 115200 ■ speed = 115200	
/SP/serial/portsharing	■ owner = sp	シリアルポート共有の構成。
/SP/sessions	プロパティーなし。	アクティブなセッション。
/SP/sessions/*x*	■ username = root ■ role = aucro ■ starttime = Fri Oct 9 23:58:15 2015 ■ type = console ■ mode = normal	アクティブなユーザーセッションのモニタリング。
/SP/users	プロパティーなし。	ユーザーの構成。
/SP/users/root	■ role = aucro ■ password = *****	ユーザー root の役割とパスワード。
/SP/users/root/ssh/keys/*x*	■ fingerprint = (none) ■ algorithm = (none) ■ embedded_comment = (none) ■ bit_length = (none) ■ load_uri = (Cannot show property) ■ clear_action = (Cannot show property)	ユーザー root の SSH 認証と鍵の構成。

関連情報

- 171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」
- 172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
- 173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
- 175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
- 179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
- 182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
- 184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」
- 186 ページの「/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー」
- 190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/SP サービスターゲットとプロパティー

スイッチ管理およびセキュリティーサービスに関する情報を表示したり、それを構成したりするには、/SP/services ターゲットに対して show および set コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A として示されるプロパティーは一覧表示されません。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SP/services/fips	■ state = disabled ■ status = disabled	FIPS サービスの管理。
/SP/services/http	■ port = 80 ■ securedirect = enabled ■ servicestate = enabled ■ sessiontimeout = 15	HTTP サービスの構成。
/SP/services/https	■ port = 443 ■ servicestate = enabled ■ sessiontimeout = 15 ■ sslv2 = disabled ■ sslv3 = disabled ■ tlsv1 = enabled ■ tlsv1_1 = enabled ■ tlsv1_2 = enabled ■ weak_ciphers = disabled	HTTPS サービスの構成。
/SP/services/https/ssl	■ cert_status = Using Default (No custom certificate or private key loaded)	HTTPS サービスの SSL 証明書の構成。
/SP/services/https/ssl/custom_cert	■ clear_action = (Cannot show property) ■ issuer = (none) ■ load_uri = (Cannot show property) ■ subject = (none) ■ valid_from = (none) ■ valid_until = (none)	HTTPS サービスのカスタム SSL 証明書の設定。
/SP/services/https/ssl/custom_key	■ clear_action = (Cannot show property) ■ key_present = false ■ load_uri = (Cannot show property) ■ issuer = /C=US/ST-California/L-Redwood Shores/O=Oracle America, Inc./CN=Oracle Integrated Lights Out Manager) ■ subject = /C=US/ST-California/L-Redwood Shores/O=Oracle America, Inc./CN=Oracle Integrated Lights Out Manager) ■ valid_from = (none) ■ valid_until = (none)	HTTPS サービスのカスタム SSL 非公開鍵の設定。
/SP/services/https/ssl/default_cert	■ issuer = /C=US/ST-California/L-Redwood Shores/O=Oracle America, Inc./CN=Oracle Integrated Lights Out Manager) ■ subject = /C=US/ST-California/L-Redwood Shores/O=Oracle America, Inc./CN=Oracle Integrated Lights Out Manager) ■ valid_from = Jun 12 15:29:01 2014 GMT ■ valid_until = Jun 7 15:29:01 2034 GMT	HTTPS サービスのデフォルトの SSL 証明書の設定。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SP/services/ipmi	■ servicestate = enabled ■ v1_5 sessions = disabled	IPMI サービスの構成。
/SP/services/kvms	■ custom_lock_key = (none) ■ custom_lock_modifiers = (none) ■ lock_mode = disabled ■ max_session_count= 4 ■ mousemode = absolute ■ servicestate = enabled ■ mode = disabled	KVMS サービスの構成。
/SP/services/kvms/host_storage_device	■ status = disabled ■ password = (none)	KVMS サービスのストレージデバイスの管理。
/SP/services/kvms/host_storage_device/remote	■ password = (none) ■ server_URI = (none) ■ username = (none)	KVMD サービスのリモートストレージデバイスの構成。
/SP/services/servicetag	■ passphrase = none ■ servicetag_urn = Undefined ■ state = enabled	サービスタグの構成。
/SP/services/snmp	■ engineid = (none) ■ port = 161 ■ servicestate = enabled ■ sets = disabled ■ v1 = disabled ■ v2c = disabled ■ v3 = enabled	SNMP サービスのエージェントサービスの構成。
/SP/services/snmp/communities/private	■ permission = rw	SNMP サービスのプライベートコミュニティーの構成。
/SP/services/snmp/communities/public	■ permission = ro	SNMP サービスのパブリックコミュニティーの構成。
/SP/services/snmp/mibs	■ permission = ro	ダウンロード可能な SNMP サービス MIB。
/SP/services/snmp/users	プロパティーなし。	SNMP サービスユーザーの構成。
/SP/services/ssh	■ generate_new_key_action = (Cannot show property) ■ generate_new_key_type = none ■ restart_sshd_action = (Cannot show property) ■ state = enabled ■ weak_ciphers = disabled	SSH サービスの認証と通信の構成。
/SP/services/ssh/keys/dsa	■ fingerprint = 3b7e:0d:60:c6:71:64:ca:2a:7d ■ length = 1024 ■ privatekey = (Cannot show property) ■ publickey = AAAAB3NzaC1kc3MAAACBAN2rXIB47ZX11RX7Q38	SSH サービスの DSA 鍵の構成。
/SP/services/ssh/keys/rsa	■ fingerprint = 4f:e8:83:22:50:4f:a2:d0:4f:7d ■ length = 1024	SSH サービスの RSA 鍵の構成。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
	■ privatekey = (Cannot show property) ■ publickey = AAAAB3NzaC1yc2EAAAADAQABAAAAgABBAabacab7	
/SP/services/sso	■ state = enabled	SSO サービスの構成。

関連情報

- 171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」
- 172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
- 173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
- 175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
- 176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」
- 182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
- 184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」
- 186 ページの「/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー」
- 190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー

シャーシコンポーネントに関する情報およびそのステータスを表示するには、これらの /SYS ターゲットに対して show コマンドを使用します。障害を手動でクリアしたり、ファームウェアをロードしたり、位置特定 LED を点灯したりするために、それぞれ clear_fault_action、load_uri、および value プロパティーを構成するには、set コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A として示されるプロパティーは一覧表示されません。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SYS	■ type = Host System ■ ipmi_name = SYS ■ product_name = unknown ■ product_part_number = unknown ■ product_serial_number = unknown ■ product_manufacturer = Oracle Corporation ■ fault state = OK ■ clear_fault_action = (none)	センサーと FRU の情報。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
	■ power_state = On	
/SYS/FM*x*	■ type = Fan Module ■ ipmi_name = FM*x* ■ fault state = OK ■ clear_fault_action = (none)	ファンモジュール *x* の管理。
/SYS/FM*x*/FAN*y*	■ type = Fan Module ■ ipmi_name = FM*x*/FAN*y* ■ fault state = OK ■ clear_fault_action = (none)	ファンモジュール *x* のファン *y* の管理。
/SYS/FM*x*/FAN*y*/TACH	■ type = Fan ■ ipmi_name = FM*x*/FAN*y*/TACH ■ class = Threshold Sensor ■ value = 6900.00 RPM	ファンモジュール *x* 内のファン *y* の速度。
/SYS/FM*x*/PRSNT	■ type = Entity Presence ■ ipmi_name = FM*x*/PRSNT ■ class = Discrete Sensor ■ value = Present ■ alarm status = cleared	ファンモジュール *x* の存在とアラームステータス。
/SYS/OK	■ type = Indicator ■ ipmi_name = OK ■ value = On	OK LED の情報。
/SYS/SERVICE	■ type = Indicator ■ ipmi_name = SERVICE ■ value = Off	保守 LED の情報。
/SYS/SP	■ type = Service Processor ■ ipmi_name = SERVICE ■ fru_description = PCA, PILOT3 SP, OPUS ■ fru_manufacturer = Oracle Corporation ■ fru_part_number = 7096151 ■ fru_rev_level = 04 ■ fru_serial_number = 489090M+14516P002F ■ fault_state = OK ■ clear_fault_action = (none)	サービスプロセッサの情報。
/SYS/SP/OK	■ type = Indicator ■ ipmi_name = SP/OK ■ value = On	SP LED の情報。

関連情報

- 171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」
- 172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
- 173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
- 175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
- 176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」

- 179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
- 184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」
- 186 ページの「/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー」
- 190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー

メインボードに関する情報およびそのステータスを表示するには、/SYS/MB ターゲットに対して show コマンドを使用します。メインボードの障害を手動でクリアするために clear_fault_action プロパティーを構成するには、set コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A として示されるプロパティーは一覧表示されません。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SYS/MB	■ type = Motherboard ■ ipmi_name = MB ■ fru_description = PCBA, W/MECHANICALS, NM3, LEAF ■ fru_manufacturer = Oracle Corporation ■ fru_part_number = 7092208 ■ fru_rev_level = 06 ■ fru_serial_number = 489090M+1507RP0005 ■ fru_macaddress = 00:10:e0:56:83:85 ■ fault_state = OK ■ clear_fault_action = (none)	メインボードの管理。
/SYS/MB/T_AMB	■ type = Temperature ■ ipmi_name = MB/T_AMB ■ class = Threshold Sensor ■ value = 32.000 degree C ■ upper_critical_threshold = 40.000 degree C ■ lower_critical_threshold = 0.000 degree C ■ lower_nonrecov_threshold = -10.000 degree C ■ alarm_status = cleared	メインボードの周囲温度の情報。
/SYS/MB/T_HCA	■ type = Temperature ■ ipmi_name = MB/T_HCA ■ class = Threshold Sensor ■ value = 74.000 degree C ■ upper_nonrecov_threshold = 110.000 degree C	IB HCA の周囲温度の情報。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
	■ upper_critical_threshold = 100.000 degree C ■ upper_noncritical_threshold = 90.000 degree C ■ lower_critical_threshold = 0.000 degree C ■ alarm_status = cleared	
/SYS/MB/T_IBSWITCH	■ type = Temperature ■ ipmi_name = MB/T_IBSWITCH ■ class = Threshold Sensor ■ value = 81.000 degree C ■ upper_nonrecov_threshold = 110.000 degree C ■ upper_critical_threshold = 100.000 degree C ■ upper_noncritical_threshold = 90.000 degree C ■ lower_noncritical_threshold = N/A ■ lower_critical_threshold = 0.000 degree C ■ alarm_status = cleared	IB スイッチの周囲温度の情報。
/SYS/MB/T_OUT	■ type = Temperature ■ ipmi_name = MB/T_OUT ■ class = Threshold Sensor ■ value = 36.000 degree C ■ upper_nonrecov_threshold = 75.000 degree C ■ upper_critical_threshold = 65.000 degree C ■ upper_noncritical_threshold = 50.000 degree C ■ lower_critical_threshold = 0.000 degree C ■ lower_nonrecov_threshold = -10.000 ■ alarm_status = cleared	メインボードの流出温度の情報。
/SYS/MB/V_BAT	■ type = Voltage ■ ipmi_name = MB/V_BAT ■ class = Threshold Sensor ■ value = 2.988 Volts ■ lower_noncritical_threshold = 2.548 Volts ■ alarm_status = cleared	メインボードのバッテリ電圧の情報。

関連情報

- 171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」
- 172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
- 173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
- 175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
- 176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」
- 179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
- 182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
- 186 ページの「/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー」
- 190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」

■ 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー

電源装置に関する情報およびそのステータスを表示するには、/SYS/PS*x* ターゲットに対して show コマンドを使用します。電源装置の障害を手動でクリアするために clear_fault_action プロパティーを構成するには、set コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A として示されるプロパティーは一覧表示されません。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SYS/PS*x*	■ type = Power Supply ■ ipmi_name = PS*x* ■ fru_manufacturer = Delta Electronics ■ fru_part_number = 7065505-01 ■ fru_serial_number = C94928 ■ fault_state = OK ■ clear_fault_action = (none)	電源装置 *x* の情報。
/SYS/PS*x*/INPUT_POWER	■ type = Power Unit ■ ipmi_name = PS*x*/IN_POWER ■ class = Threshold Sensor ■ value = 209.916 Watts ■ alarm_status = cleared	電源装置 *x* の入力電力の情報。
/SYS/PS*x*/I_IN	■ type = Current ■ ipmi_name = PS*x*/I_IN ■ class = Threshold Sensor ■ value = 1.827 Amps ■ alarm_status = cleared	電源装置 *x* の入力電流の情報。
/SYS/PS*x*/I_OUT	■ type = Current ■ ipmi_name = PS*x*/I_OUT ■ class = Threshold Sensor ■ value = 16.00 Amps ■ alarm_status = cleared	電源装置 *x* の出力電流の情報。
/SYS/PS*x*/OUTPUT_POWER	■ type = Power Unit ■ ipmi_name = PS*x*/OUT_POWER ■ class = Threshold Sensor ■ value = 180.000 Watts ■ alarm_status = cleared	電源装置 *x* の出力電力の情報。
/SYS/PS*x*/PRSNT	■ type = Entity Presence ■ ipmi_name = PS*x*/PRSNT ■ class = Discrete Sensor ■ value = Present	電源装置 *x* の存在とアラームステータス。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
	■ alarm status = cleared	
/SYS/PS*x*/PWROK	■ type = Power Supply ■ ipmi_name = PS*x*/PRSNT ■ class = Discrete Sensor ■ value = State Asserted ■ alarm status = cleared	電源装置 *x* の電源状態。
/SYS/PS*x*/V_IN	■ type = Voltage ■ ipmi_name = PS*x*/V_IN ■ class = Threshold Sensor ■ value = 119.000 Volts ■ upper_nonrecov_threshold = 255.000 Volts ■ upper_critical_threshold = 252.000 Volts ■ lower_critical_threshold = 100.000 Volts ■ lower_nonrecov_threshold = 90.000 Volts ■ alarm_status = cleared	電源装置 *x* の入力電圧の情報。
/SYS/PS*x*/V_OUT	■ type = Voltage ■ ipmi_name = PS*x*/V_OUT ■ class = Threshold Sensor ■ value = 12.000 Volts ■ upper_nonrecov_threshold = 20.000 Volts ■ upper_critical_threshold = 14.000 Volts ■ lower_critical_threshold = 10.000 Volts ■ alarm_status = cleared	電源装置 *x* の出力電圧の情報。
/SYS/PS_3V3	■ type = Voltage ■ class = Threshold Sensor ■ value = 3.412 Volts ■ upper_nonrecov_threshold = 3.783 Volts ■ upper_critical_threshold = 3.685 Volts ■ upper_noncritical_threshold = 3.471 Volts ■ lower_noncritical_threshold = 3.120 Volts ■ lower_critical_threshold = 2.944 Volts ■ lower_nonrecov_threshold = 2.789 Volts ■ alarm_status = cleared	3.3 V 電源の情報。

関連情報

- 171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」
- 172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
- 173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
- 175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
- 176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」
- 179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
- 182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
- 184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」

- 190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/SYS Oracle F2 I/O モジュールターゲットとプロパティー

Oracle Fabric Interconnect F2-12 は、配備に応じてスイッチをカスタマイズするさまざまなタイプの Oracle F2 I/O モジュールをサポートしています。Oracle F2 I/O モジュールは、リーフスイッチではサポートされません。

仮想化スイッチに取り付けられている Oracle F2 I/O モジュールに関する情報とステータスを表示するには、/SYS/MODULES/MODULE*x* ターゲットに対して show コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A と示されるプロパティーは表に一覧表示していません。また、さまざまなタイプのモジュールが存在します。1 つのモジュールタイプを例として使用しているため、一覧表示される一部のプロパティーは、Oracle ILOM がクエリーするモジュールのタイプに応じて異なります。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SYS/MODULES/MODULE*x*	■ type = Network Module ■ ipmi_name = /MODULE*x* ■ fru_description = PCBA,NM3 Module ■ fru_manufacturer = Oracle Corporation ■ fru_part_number = 7097301 ■ fru_rev_level = 03 ■ fru_serial_number = 489089M+1549R0003A ■ fru_mac_address = 00:10:e0:97:f3:68 ■ fault_state = OK ■ clear_fault_action = (none) ■ power_state = on	モジュール *x* の情報。
/SYS/MODULES/ MODULE*x*/0V85_OK/	■ type = Voltage ■ ipmi_name = MODULE/0V85_OK ■ class = Discrete Sensor ■ value = State Asserted ■ alarm_status = cleared	モジュール *x* の 0v85 電圧情報。
/SYS/MODULES/ MODULE*x*/1V0_OK/	■ type = Voltage ■ ipmi_name = MODULE/1V0_OK ■ class = Discrete Sensor ■ value = State Asserted ■ alarm_status = cleared	モジュール *x* の 1V0 電圧情報。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/SYS/MODULES/ MODULE*x*/1V2_OK/	■ type = Voltage ■ ipmi_name = MODULE/1V2_OK ■ class = Discrete Sensor ■ value = State Asserted ■ alarm_status = cleared	モジュール *x* の 1V2 電圧情報。
/SYS/MODULES/ MODULE*x*/1V8_OK/	■ type = Voltage ■ ipmi_name = MODULE/1V8_OK ■ class = Discrete Sensor ■ value = State Asserted ■ alarm_status = cleared	モジュール *x* の 1V8 電圧情報。
/SYS/MODULES/ MODULE*x*/2V5_OK/	■ type = Voltage ■ ipmi_name = MODULE/1V2_OK ■ class = Discrete Sensor ■ value = State Asserted ■ alarm_status = cleared	モジュール *x* の 2V5 電圧情報。 .
/SYS/MODULES/ MODULE*x*/3V3_OK/	■ type = Voltage ■ ipmi_name = MODULE/3V3_OK ■ class = Discrete Sensor ■ value = State Asserted ■ alarm_status = cleared	モジュール *x* の 3V3 電圧情報。
/SYS/MODULES/ MODULE*x*/BOOTED	■ type = Boot ■ class = Discrete Sensor ■ value = State Deasserted ■ alarm_status = cleared	モジュール *x* のブートアップ情報。
/SYS/MODULES/ MODULE*x*/FAULT	■ type = Module ■ ipmi_name = MODULEX/FAULT ■ class = Discrete Sensor ■ value = State Deasserted ■ alarm_status = cleared	モジュール *x* の障害情報。
/SYS/MODULES/ MODULE*x*/T_CRITICAL	■ type = Module ■ class = Discrete Sensor ■ value = State Deasserted ■ alarm_status = cleared	モジュール *x* のクリティカルな温度情報。
/SYS/MODULES/ MODULE*x*/T_MOD	■ type = Temperature ■ class = Threshold Sensor ■ value = 0.000 degree C ■ upper_nonrecov_threshold = 105.000 degree C ■ upper_critical_threshold = 100.000 degree C ■ upper_noncritical_threshold = 95.000 degree C ■ lower_critical_threshold = -1.000 degree C ■ alarm_status = cleared	モジュール *x* の温度しきい値情報。

関連情報

- 171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」

- 172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
- 173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
- 175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
- 176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」
- 179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
- 182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
- 184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」
- 190 ページの「/System システムターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

/System システムターゲットとプロパティー

シャーシ内のシステムの情報や一般的な健全性を表示するには、/System ターゲットに対して show コマンドを使用します。スイッチをリセットしたり、ログをクリアしたり、ファームウェアをロードしたりするために、それぞれ action、clear、および load_uri プロパティーを構成するには、set コマンドを使用します。

注記 - Not Supported または N/A として示されるプロパティーは一覧表示されません。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/System	■ health = OK ■ health_details = - ■ open_problems_count = 0 ■ type = Rack Mount ■ model = Unknown ■ part_number= Unknown ■ serial_number = Unknown ■ system_identifier = (none) ■ system_fw_version = 3.2.0.0 ■ ilom_address = 0.0.0.0 ■ ilom_mac_address = 00:00:AB:1C:D2:34 ■ locator_indicator = Off ■ power_state = On ■ actual_power_consumption = Unknown ■ action = (none)	システム構成および一般的な装置の情報。
/System/Open_Problems	プロパティーなし。	問題のあるコンポーネント。
/System/Power	■ health = OK ■ health_details = - ■ actual_power_consumption = Unknown	電源システムの情報。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
	■ max_permitted_power = Unknown ■ installed_power_supplies = 2 ■ max_power_supplies = 2	
/System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_*x*	■ health = OK ■ health_details = - ■ part_number = 7065505-01 ■ serial_number = C94928 ■ manufacturer = Delta Electronics ■ location = PSO (Power Supply 0)	電源装置の情報。
/System/Cooling	■ health = OK ■ health_details = - ■ installed_chassis_fans = 8 ■ max_chassis_fans = 8 ■ inlet_temp = 32 degrees C ■ exhaust_temp = 36 degrees C	冷却装置の情報。
/System/Cooling/Fans/Fan_*x*	■ health = OK ■ health_details = - ■ part_number = Unknown ■ serial_number = Unknown ■ location = FMO (Fan Module 0) ■ fan_percentage = 30%	ファンの情報。
/System/Networking	■ health = Unknown ■ health_details = - ■ installed_eth_nics = 0 ■ installed_ethernet_switches = 1 ■ max_ethernet_switches = 1 ■ installed_infiniband_switches = 1 ■ max_infiniband_switches = 1	Ethernet スイッチおよびスイッチチップの情報。
/System/Networking/Modules/Module_*X*	■ health = OK ■ health_details = - ■ type = InfiniBand ■ location = MODULE*X* (Network Module 0) ■ action = (none)	仮想化スイッチの Oracle F2 I/O モジュール。 Oracle F2 I/O モジュールには、さまざまなセンサーがあります。71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」を参照してください。
/System/Networking/Switches/Switch_0	■ health = Unknown ■ health_details = - ■ type = Ethernet ■ firmware_version = Unknown ■ location = ETHSWITCH0 (Network Switch 0) ■ action = (none) ■ load_uri = (none)	Ethernet スイッチの情報。
/System/Networking/Switches/0/fs_cli	■ action = (none)	Ethernet スイッチの CLI インタフェースの制御。

Oracle ILOM ターゲット	プロパティー	説明
/System/Networking/Switches/0/sefos	■ action = (none)	Ethernet スイッチの SEFOS インタフェースの制御。
/System/Networking/Switches/Switch_1	■ health = OK ■ health_details = - ■ type = Infiniband ■ firmware_version = 1.0.0 BUILD-20150827-686 ■ location = IBSWITCH0 (Network Switch 0) ■ action = (none)	IB スイッチの情報。
/System/Firmware	■ system_fw_version = 3.2.0.0	システムファームウェアの情報。
/System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_0	■ component = ILOM ■ type = ILOM Firmware ■ version = 3.2.0.0	Oracle ILOM ファームウェアの情報。
/System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_1	■ component = BIOS ■ type = System BIOS ■ version = Unknown	BIOS ファームウェアの情報。
/System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_2	■ component = SYS ETHSWITCH0 ■ type = Upgradeable FRU ■ version = Not Available ■ load_uri = (none)	システム Ethernet スイッチのファームウェアの情報。
/System/Log	■ clear = (none)	システムログの管理。
/System/Log/list	プロパティーなし。	システムログ自体。

関連情報

- 171 ページの「/HOST ターゲットとプロパティー」
- 172 ページの「/SP Active Directory クライアントターゲットとプロパティー」
- 173 ページの「/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー」
- 175 ページの「/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー」
- 176 ページの「/SP 汎用ターゲットとプロパティー」
- 179 ページの「/SP サービスターゲットとプロパティー」
- 182 ページの「/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー」
- 184 ページの「/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー」
- 186 ページの「/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの概要」
- 164 ページの「Oracle ILOM ターゲットの管理」

SNMP MIB OID の理解

これらのトピックには、スイッチの対応するそれぞれの管理情報ベース (MIB) のオブジェクト識別子 (OID) の表が記載されています。

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 194 ページの「SUN-HW-CTRL-MIB MIB OID の理解」
- 199 ページの「SUN-HW-TRAP-MIB MIB OID の理解」
- 208 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID の理解」
- 236 ページの「SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB OID の理解」
- 242 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID の理解」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID の理解」

関連情報

- 19 ページの「システム管理リソースの理解」
- 27 ページの「スイッチへのアクセス」
- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 119 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの理解」
- 265 ページの「EMS モジュールの理解」
- 299 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 423 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 537 ページの「ファームウェアの更新」

OID 表の概要

それぞれの OID 表には、3 つの情報の列があります。左から右に、列は次のようになります。

- **タスクまたはアクティビティーの説明** – この見出しの下のテキストは、実行する操作または表示する情報を説明しています。
- **アクション** – この見出しの下の動詞は、SNMP クライアントソフトウェアインタフェースに対するそれぞれのアクションを説明しています。たとえば、動詞 `read`

は、NetSNMP CLI クライアントで snmpget、snmpwalk、または snmptable コマンドを使用することを意味します。

- **MIB OID** – この見出しの下の文字列は、タスクまたはアクティビティーを実行するために使用されるそれぞれの MIB のオブジェクト識別子です。

注記 - 右側の列にある OID は、完全ではないことがあります。OID がスカラー OID または .*x* (*x* は 1 から最大値) または OID が表 OID の場合、OID に .0 を追加する必要があることがあります。

表 OID には接尾辞 Table があり、その下に一覧表示されている OID は多くの場合、その表の列です。

索引 OID には接尾辞 Index があり、OID は直接アクセス可能ではありませんが、OID は引き続き、表 OID の特定の行を返すために使用されます。

関連情報

- 23 ページの「SNMP の概要」
- 194 ページの「SUN-HW-CTRL-MIB MIB OID の理解」
- 199 ページの「SUN-HW-TRAP-MIB MIB OID の理解」
- 208 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID の理解」
- 236 ページの「SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB OID の理解」
- 242 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID の理解」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID の理解」

SUN-HW-CTRL-MIB MIB OID の理解

これらのトピックには、ハードウェア制御オブジェクト識別子とトラップの表が記載されています。

- 195 ページの「電源管理 OID」
- 198 ページの「Trusted Platform Module (TPM) OID」

関連情報

- 23 ページの「SNMP の概要」
- 193 ページの「OID 表の概要」
- 199 ページの「SUN-HW-TRAP-MIB MIB OID の理解」
- 208 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID の理解」
- 236 ページの「SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB OID の理解」

- 242 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID の理解」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID の理解」

電源管理 OID

この表には、SUN-HW-TRAP-MIB MIB でサポートされる電源管理オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
予約済み PS の合計数を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlReservedPSU
PS の合計数を表示します。	read	sunHwCtrlTotalPSU
追加の電源管理プロパティーを一覧表示する表を表示します。	not accessible	sunHwCtrlPowerMgmtTable
電源管理プロパティーのエントリを表示します。	not accessible	sunHwCtrlPowerMgmtEntry
sunHwCtrlPowerMgmtTable の索引を表示します。	not accessible	sunHwCtrlPowerMgmtID
電源管理プロパティーの名前を表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtName
電源管理プロパティーの値の単位を表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtUnits
電源管理プロパティーの値を表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtValue
消費される入力電力の合計をワット単位で表示します。 ■ ラック搭載型サーバーでは、合計消費電力は、サーバーによって消費される入力電力です。 ■ ブレードでは、これはブレードのみによって消費される入力電力です (共有コンポーネントによって消費される電力は含まれません)。	read	sunHwCtrlPowerMgmtActualPower
最大の入力電力消費をワット単位で表示します。 ■ ラック搭載型サーバーでは、最大消費電力は、サーバーが任意の時点で消費することが保証される最大入力電力です。 ■ ブレードでは、これは共有コンポーネント上の電力負荷を含まない、ブレードが消費することが保証される最大入力電力です。	read	sunHwCtrlPowerMgmtPermittedPower
最大の入力電力容量をワット単位で表示します。電力容量は、電源装置が消費できる最大入力電力です。	read	sunHwCtrlPowerMgmtAvailablePower
目的の電源管理ポリシーを表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtPolicy
システム内のすべての電力消費コンポーネントに割り当てられた電力 (I/O やファンなどの管理対象外のホットプラグ可能なコンポーネントに永続的に割り当てられた電力を含む) をワット単位で表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtAllocatedPower
sunHwCtrlPowerMgmtBudgetMinPowerlimit, sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPowerlimit,	read write	sunHwCtrlPowerMgmtBudget

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
sunHwCtrlPowerMgmtBudgetTimelimit、および sunHwCtrlPowerMgmtBudgetTimelimitActions の現在の状態を表示または設定します。また、状態値 enabled または disabled を返し、可能な場合は、オブジェクトの電力割り当て量値を返します。		
sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPowerlimit の設定可能な最小値を表示します。電力消費は、システムの電源が投入されたときにこの電力量と同じくらい少ない量に収まるように制御できます。	read	sunHwCtrlPowerMgmtBudgetMinPowerlimit
最大電力消費をワット単位で表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPowerlimit
電力制限に達したあとで電力制限を超えるまでの猶予期間をミリ秒で表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtBudgetTimelimit
電力制限を超えて、時間制限内に制御できない場合に発生するアクションのリストを表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtBudgetTimelimitActions
sunHwCtrlPowerMgmtBudget、sunHwCtrlPowerMgmtBudget、および sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPowerlimit オブジェクトの読み取りおよび比較に基づいて電力割り当て量の状態を表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtBudgetOK
sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingPowerlimit, sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingTimelimit、および sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingTimelimitActions オブジェクトの保留中の値を表示またはコミットします。	read write	sunHwCtrlPowerMgmtBudgetCommitPending
sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPowerlimit に適用される値を表示またはコミットします。	read write	sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingPowerlimit
sunHwCtrlPowerMgmtBudgetTimelimit に適用される値を表示またはコミットします。	read write	sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingTimelimit
sunHwCtrlPowerMgmtBudgetTimelimitActions に適用される値を表示またはコミットします。	read write	sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingTimelimitActions
システムの電力消費センサーの値 (通常は /SYS/VPS) に基づいて Oracle ILOM しきい値イベントが生成されるかどうかを決定する最大 2 つのしきい値を表示またはコミットします。	read write	sunHwCtrlPowerMgmtConsumptionThresholds
sunHwCtrlPowerMgmtSamplingMinimumPower、sunHwCtrlPowerMgmtSamplingMaximumPower、および sunHwCtrlPowerMgmtSamplingAveragePower が計算されて報告されるサンプリング期間を秒単位で表示または設定します。	read write	sunHwCtrlPowerMgmtSamplingPeriod
電力消費値が計算された日付と時間を表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtSamplingTimestamp
直近のサンプリング期間中に測定された最小電力消費をワット単位で表示または設定します。	read write	sunHwCtrlPowerMgmtSamplingMinimumPower
直近のサンプリング期間中に測定された最小電力消費をワット単位で表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtSamplingMinimumPower
直近のサンプリング期間中に測定された最大電力消費をワット単位で表示します。	read	sunHwCtrlPowerMgmtSamplingMaximumPower
直近のサンプリング期間中に測定された平均電力消費をワット単位で表示または設定します。	read write	sunHwCtrlPowerMgmtSamplingAveragePower

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtActualPower の対応する値を表示します。	read	sunHwCtrlDomainPowerMgmtActualPower
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtPermittedPower の対応する値を表示します。	read	sunHwCtrlDomainPowerMgmtPermittedPower
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtAvailablePower の対応する値を表示します。	read	sunHwCtrlDomainPowerMgmtAvailablePower
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtPolicy の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainPowerMgmtPolicy
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtAllocatedPower の対応する値を表示します。	read	sunHwCtrlDomainPowerMgmtAllocatedPower
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudget の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudget
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetMinPowerlimit の対応する値を表示します。	read	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetMinPowerLimit
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetTimelimit の対応する値を表示します。	read	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetTimeLimit
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetTimelimitActions の対応する値を表示します。	read	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetTimeLimitActions
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetOK の対応する値を表示します。	read	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetOK
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetCommitPending の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetCommitPending
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingPowerlimit の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetPendingPowerLimit
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingTimelimit の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetPendingTimeLimit
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingTimeLimitActions の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetPendingTimeLimitAction
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingPowerlimit の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetPendingPowerLimit
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingPowerlimit の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetPendingPowerLimit
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingTimelimit の対応する値を表示します。	read	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetPendingPowerLimit
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtBudgetPendingTimelimitActions の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainPowerMgmtBudgetPendingTimeLimitAction

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
マルチドメインの場合の sunHwCtrlPowerMgmtConsumptionThreshold の対応する値を表示します。最大 2 つのしきい値オブジェクトを指定できます。	read	sunHwCtrlDomainPowerMgmtConsumptionThreshold*X*

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」

Trusted Platform Module (TPM) OID

この表には、SUN-HW-TRAP-MIB MIB でサポートされる TPM オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
TPM デバイスのアクセスモードを変更するために実行される何らかのアクションの主体コントロールの値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlTpmEnable
sunHwCtrlTpmActivate および sunHwCtrlTpmEnable が true で、ホストの電源が投入されているときに有効状態を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlTpmActivate
sunHwCtrlTpmForceClear および sunHwCtrlTpmEnable が true で、ホストの電源が投入されているときにパージ状態を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlTpmForceClear
マルチドメインの場合の sunHwCtrlTpmMode の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainTpmMode
マルチドメインの場合の sunHwCtrlTpmForceClear の対応する値を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlDomainTpmForceClear
sunHwCtrlTpmForceClear および sunHwCtrlTpmEnable が true で、ホストの電源が投入されているときにパージ状態を表示または設定します。	read write	sunHwCtrlTpmForceClear

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」

SUN-HW-TRAP-MIB MIB OID の理解

これらのトピックには、ハードウェアトラップオブジェクト識別子とトラップの表が記載されています。

- 199 ページの「診断された障害の推測トラップ OID」
- 200 ページの「ハードウェアトラップ構成 OID」
- 202 ページの「ハードウェアトラップ」
- 206 ページの「ハードウェア障害トラップ」

関連情報

- 23 ページの「SNMP の概要」
- 193 ページの「OID 表の概要」
- 194 ページの「SUN-HW-CTRL-MIB MIB OID の理解」
- 208 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID の理解」
- 236 ページの「SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB OID の理解」
- 242 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID の理解」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID の理解」

診断された障害の推測トラップ OID

この表には、SUN-HW-TRAP-MIB MIB でサポートされる、診断された障害の推測トラップオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
FRU が問題の原因である可能性の割合を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectFruFaultCertainty
障害管理サブシステム (たとえば、Oracle Solaris 障害マネージャー) によって報告された、検出された問題のタイプを示す階層分類文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectFruFaultClass
疑わしい FRU の名前を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectFruName
疑わしい FRU の場所を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectFruLocation
疑わしい FRU を含むシャーシのシリアル番号を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectFruChassisId
この FRU または CRU の製造元の名前を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectFruManufacturer
FRU または CRU を注文するために使用される番号 (たとえば、501-7324-06) を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectFruPn

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
この FRU または CRU の 18 文字の FRU シリアル番号 (たとえば、1005LCB-0725ZG01JE) を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectFruSn
FRU のリビジョンレベルを表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectFruRevision
FRU のステータスを表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectFruStatus

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」

ハードウェアトラップ構成 OID

この表には、SUN-HW-TRAP-MIB MIB でサポートされるハードウェアトラップ構成オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
トラップのソースを識別するために使用されるテキスト文字列 (通常はホスト名) を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSystemIdentifier
トラップのソースであるコンポーネントの名前を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapComponentName
センサーが報告しているしきい値タイプを表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapThresholdType
超えたしきい値を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapThresholdValue
トラップの時点でのしきい値センサーの読み取りを表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSensorValue
障害が発生した疑いがあるコンポーネントの名前を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectComponentName
障害管理サブシステム (たとえば、Oracle Solaris 障害マネージャー) によって報告された、検出された問題のタイプを示す階層分類文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapFaultClass
コンポーネントが問題の原因である可能性の割合を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapFaultCertainty
この通知に関する追加情報を提供するオプションのテキスト形式の説明を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapAdditionalInfo
通知が適用される entPhysicalTable 内のオブジェクトを表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapAssocObjectId
高可用性状態の変更が発生したあとで、高可用性状態の新しい値を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapNewHAState
高可用性状態の変更が発生したあとで、高可用性状態の古い値を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapOldHAState

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
通知の重要度のインジケーションを表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSeverity
シャーシシリアル番号を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapChassisId
製品名を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapProductName
コンポーネントが無効になった理由に関するインジケーションを表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapDisableReason
ハードドライブのステータスが報告されたときに可能なハードドライブの状態を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapHardDriveState
Oracle のナレッジ記事データベースから問題に関する追加情報を入手するために使用できるメッセージ ID を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapFaultMessageID
この障害に割り当てられた汎用一意識別子を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapFaultUUID
テストトラップによって使用されるメッセージを表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapTestMessage
ハードドライブエラーの考えられる原因を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapHardDriveProbableCause
ドライブコントローラエラーの考えられる原因を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapDriveControllerProbableCause
ストレージボリュームエラーの考えられる原因を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapStorageVolumeProbableCause
障害が発生したときのタイムスタンプを表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapEventTime
この障害イベントを生成したソフトウェアコンポーネントの名前とバージョンを表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapDiagEntity
障害のテキスト形式の説明を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapFaultDescription
ナレッジ記事の URL を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapKaUrl
報告された特定のセットのハードウェアエラーの原因として診断された、疑いのある障害の数を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSuspectCnt
SP またはシステムのホスト名を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapHostname
製品の製造元を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapProductManufacturer
製品シリアル番号を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapProductSn
製品部品番号を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapProductPn
sunHwTrapProductManufacturer とは異なる可能性がある、シャーシの製造元を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapChassisManufacturer
sunHwTrapProductName とは異なる可能性がある、シャーシ名を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapChassisName
sunHwTrapProductSn とは異なる可能性がある、シャーシのシリアル番号を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapChassisSn

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
sunHwTrapProductPn とは異なる可能性がある、シャーシの部品番号を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapChassisPn
sunHwTrapChassisManufacturer とは異なる可能性がある、最上位製品の製造元を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapTopProductManufacturer
sunHwTrapChassisName とは異なる可能性がある、最上位製品名を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapTopProductName
sunHwTrapChassisSn とは異なる可能性がある、最上位製品のシリアル番号を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapTopProductSn
sunHwTrapChassisPn とは異なる可能性がある、最上位製品の部品番号を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapTopProductPn
単純なデータモデルコンポーネントの位置を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSystemComponentLocation
単純なデータモデルサブシステム名を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSubSystem
単純なデータモデルコンポーネントの完全修飾パスを含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapSystemComponentPath
Oracle ILOM ファームウェアのバージョンを含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapFirmwareVersion
Oracle ILOM ファームウェアのビルド番号を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapFirmwareBuild
Oracle ILOM ファームウェアのビルド日を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapFirmwareDate
BIOS バージョンを含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapBIOSVersion
Oracle ILOM バージョンを含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	sunHwTrapILOMVersion

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 202 ページの「ハードウェアトラップ」
- 206 ページの「ハードウェア障害トラップ」

ハードウェアトラップ

この表には、SUN-HW-TRAP-MIB MIB でサポートされるハードウェアトラップが一覧表示されています。

注記 - すべてのしきい値トラップで、sunHwTrapThresholdType オブジェクトは、しきい値が上限しきい値であるか下限しきい値であるかを示します。

トラップまたは通知	説明
sunHwTrapComponentEnabled	コンポーネントの動作状態が enabled に変更されたか、または変更されている場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapComponentDisabled	コンポーネントの動作状態が disabled に変更されたか、または変更されている場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapComponentError	汎用タイプのセンサーがエラーを検出すると、トラップが生成されます。sunHwTrapComponentName および sunHwTrapAdditionalInfo オブジェクトは、センサーとその値に関する詳細情報を提供します。
sunHwTrapComponentOk	汎用タイプのセンサーが正常な状態に戻ると、トラップが生成されます。sunHwTrapComponentName および sunHwTrapAdditionalInfo オブジェクトは、センサーとその値に関する詳細情報を提供します。
sunHwTrapDriveControllerError	ドライブコントローラセンサーがエラーを検出すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapDriveControllerOk	ドライブコントローラが正常な状態に戻ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapElectricalCurrentFatalThresholdExceeded	現在のセンサーが、その値が致命的なしきい値の上限を上回ったことを報告すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapElectricalCurrentFatalThresholdDeasserted	現在のセンサーが、その値が致命的なしきい値の下限を下回ったことを報告すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapElectricalCurrentCritThresholdExceeded	現在のセンサーが、その値がクリティカルなしきい値の上限を上回ったことを報告すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapElectricalCurrentCritThresholdDeasserted	現在のセンサーが、その値がクリティカル的なしきい値の下限を下回ったことを報告すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapElectricalCurrentNonCritThresholdExceeded	現在のセンサーが、その値がクリティカルでないしきい値の上限を超えたことを報告した場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapElectricalCurrentOk	現在のセンサーが、その値が正常な動作範囲内にあることを報告すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapFanSpeedFatalThresholdExceeded	ファン速度センサーの値が、致命的なしきい値設定の上限を上回るか致命的なしきい値の下限を下回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapFanSpeedFatalThresholdDeasserted	ファン速度センサーの値が、致命的なしきい値設定の上限を下回るか致命的なしきい値の下限を上回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapFanSpeedCritThresholdExceeded	ファン速度センサーの値が、クリティカルなしきい値設定の上限を上回るかクリティカルなしきい値の下限を下回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapFanSpeedCritThresholdDeasserted	ファン速度センサーの値が、クリティカルなしきい値設定の上限を下回るかクリティカルなしきい値の下限を上回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapFanSpeedNonCritThresholdExceeded	ファン速度センサーの値が、クリティカルでないしきい値設定の上限を上回るかクリティカルでないしきい値の下限を下回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapFanSpeedOk	ファン速度センサーの値が正常な動作範囲に戻ると、トラップが生成されます。

トラップまたは通知	説明
sunHwTrapFanError	ファンセンサーがエラーを検出すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapFanOk	ファンセンサーが正常な状態に戻ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapFruInserted	電源装置やファンモジュールなどの FRU がシステムに挿入されると、トラップが生成されます。
sunHwTrapFruRemoved	電源装置やファンモジュールなどの FRU がシステムから取り外された場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapHardDriveError	ハードドライブセンサーがエラーを検出すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHAStateChange	sunHwTrapSystemIdentifier によって識別される高可用性コンポーネントの状態が変更されると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHardDriveOk	ハードドライブセンサーが正常な状態に戻ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHardDriveStatus	ハードドライブセンサーが正常な状態に戻ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHeartbeat	SNMP トラップ構成を検証するためにハートビートが使用されると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHostState	ホスト状態が変更されると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHostPowerOnDenied	ホストの電源投入要求が拒否されると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHostPowerButtonDisabled	ボタンが無効になっているためにホストの電源投入要求が無視されると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHostPowerBootError	ブートエラーが原因でホストの電源投入要求が失敗すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHostPowerOffLimitExceeded	開始されたシャットダウンで電力制限を超えると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHostPowerAction	ホストの電源の状態が変更されると、トラップが生成されます。
sunHwTrapIOError	I/O センサーがエラーを検出した場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapIOOk	I/O センサーがその正常な状態に戻った場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapMemoryError	メモリーセンサーがエラーを検出すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapMemoryOk	メモリーセンサーが正常な状態に戻ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapPreOSError	OS がシステムの制御を取得する前の期間にエラーが検出された場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapPowerSupplyError	電源装置センサーがエラーを検出すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapPowerSupplyOk	電源装置センサーが正常な状態に戻ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapProcessorError	プロセッサセンサーがエラーを検出すると、トラップが生成されます。

トラップまたは通知	説明
sunHwTrapProcessorOk	プロセッサセンサーが正常な状態に戻ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapPowerConsumptionThresholdExceeded	消費電力しきい値を超えると、トラップが生成されます。
sunHwTrapPowerConsumptionThresholdDeasserted	消費電力しきい値がアサート解除されると、トラップが生成されます。
sunHwTrapPsuRedundancyLost	PS の冗長性が失われた場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapPsuRedundancyRestored	PS の冗長性が復元された場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapSecurityIntrusion	侵入センサーが、だれかがシステムを物理的に改ざんした可能性があることを検出した場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapSensorFatalThresholdExceeded	センサーが、その値がクリティカルなしきい値設定の上限を超えたか、またはクリティカルなしきい値設定の下限を下回ったことを報告した場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapSensorFatalThresholdDeasserted	センサーが、その値がクリティカルなしきい値設定の上限を下回ったか、クリティカルなしきい値設定の下限を上回ったことを報告すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapSensorCritThresholdExceeded	センサーが、その値がクリティカルなしきい値設定の上限を超えたか、またはクリティカルなしきい値設定の下限を下回ったことを報告した場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapSensorCritThresholdDeasserted	センサーが、その値がクリティカルなしきい値設定の上限を下回ったか、クリティカルなしきい値設定の下限を上回ったことを報告すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapSensorNonCritThresholdExceeded	センサーが、その値がクリティカルでないしきい値設定の上限を超えたか、またはクリティカルでないしきい値設定の下限を下回ったことを報告した場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapSensorThresholdOk	センサーが、その値が正常な動作範囲内にあることを報告すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapSlotOrConnectorError	スロットまたはコネクタに付属しているセンサーがエラーを検出すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapSlotOrConnectorOk	スロットまたはコネクタに付属しているセンサーが正常な状態に戻ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapStorageVolumeError	ストレージボリュームセンサーがエラーを検出すると、トラップが生成されます。
sunHwTrapStorageVolumeOk	ストレージボリュームが正常な状態に戻ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapTempFatalThresholdExceeded	温度センサーの値が、致命的なしきい値設定の上限を上回るか致命的なしきい値の下限を下回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapTempFatalThresholdDeasserted	温度センサーの値が、致命的なしきい値設定の上限を下回るか致命的なしきい値の下限を上回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapTempCritThresholdExceeded	温度センサーの値が、クリティカルなしきい値設定の上限を上回るかクリティカルなしきい値の下限を下回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapTempCritThresholdDeasserted	温度センサーの値が、クリティカルなしきい値設定の上限を下回るかクリティカルなしきい値の下限を上回ると、トラップが生成されます。

トラップまたは通知	説明
sunHwTrapTempNonCritThresholdExceeded	温度センサーの値が、クリティカルでないしきい値設定の上限を上回るかクリティカルでないしきい値の下限を下回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapTempOk	温度センサーの値が正常な動作範囲に戻ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapTestTrap	トラップをテストします。
sunHwTrapVoltageFatalThresholdExceeded	電圧センサーの値が、致命的なしきい値設定の上限を上回るか致命的なしきい値の下限を下回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapVoltageFatalThresholdDeasserted	電圧センサーの値が、致命的なしきい値設定の上限を下回るか致命的なしきい値の下限を上回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapVoltageCritThresholdExceeded	電圧センサーの値が、クリティカルなしきい値設定の上限を上回るかクリティカルなしきい値の下限を下回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapVoltageCritThresholdDeasserted	電圧センサーの値が、クリティカルなしきい値設定の上限を下回るかクリティカルなしきい値の下限を上回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapVoltageNonCritThresholdExceeded	電圧センサーの値が、クリティカルでないしきい値設定の上限を上回るかクリティカルでないしきい値の下限を下回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapVoltageNonCritThresholdDeasserted	電圧センサーの値が、クリティカルでないしきい値設定の上限を下回るかクリティカルでないしきい値の下限を上回ると、トラップが生成されます。
sunHwTrapVoltageOk	電圧センサーの値が正常な動作範囲に戻ると、トラップが生成されます。

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 200 ページの「ハードウェアトラップ構成 OID」
- 206 ページの「ハードウェア障害トラップ」

ハードウェア障害トラップ

この表には、SUN-HW-TRAP-MIB MIB でサポートされるハードウェア障害トラップが一覧表示されています。

トラップまたは通知	説明
sunHwTrapDriveControllerFault	ドライブコントローラコンポーネントで障害が発生した疑いがある場合に、トラップが生成されます。

トラップまたは通知	説明
sunHwTrapDriveControllerFaultCleared	ドライブコントローラコンポーネントの障害がクリアされた場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapFanFault	ファンの障害時に、トラップが生成されます。
sunHwTrapFaultDiagnosed	診断された障害が検出されると、トラップが生成されます。
sunHwTrapFanFaultCleared	ファンの障害がクリアされると、トラップが生成されます。
sunHwTrapProcessorFault	プロセッサコンポーネントで障害が発生した疑いがある場合に、トラップが生成されます。
sunHwTrapProcessorFaultCleared	プロセッサコンポーネントの障害がクリアされると、トラップが生成されます。
sunHwTrapMemoryFault	メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがある場合に、トラップが生成されます。
sunHwTrapMemoryFaultCleared	メモリーコンポーネントの障害がクリアされると、トラップが生成されます。
sunHwTrapHardDriveFault	ハードドライブコンポーネントで障害が発生した疑いがある場合に、トラップが生成されます。
sunHwTrapHardDriveFaultCleared	ハードドライブコンポーネントの障害がクリアされると、トラップが生成されます。
sunHwTrapIOFault	I/O サブシステムで障害が発生した疑いがある場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapIOFaultCleared	I/O サブシステムコンポーネントの障害がクリアされた場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapPowerSupplyFault	電源装置の障害時に、トラップが生成されます。
sunHwTrapPowerSupplyFaultCleared	電源装置の障害がクリアされた場合にトラップが生成されます。
sunHwTrapSlotOrConnectorFault	スロットまたはコネクタコンポーネントで障害が発生した疑いがある場合に、トラップが生成されます。
sunHwTrapSlotOrConnectorFaultCleared	スロットまたはコネクタコンポーネントの障害がクリアされると、トラップが生成されます。
sunHwTrapStorageVolumeFault	ストレージボリュームで障害が発生した疑いがある場合に、トラップが生成されます。
sunHwTrapStorageVolumeFaultCleared	ストレージボリュームの障害がクリアされると、トラップが生成されます。
sunHwTrapComponentFault	コンポーネントで障害が発生した疑いがある場合に、トラップが生成されます。
sunHwTrapComponentFaultCleared	コンポーネントの障害がクリアされると、トラップが生成されます。

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 200 ページの「ハードウェアトラップ構成 OID」
- 202 ページの「ハードウェアトラップ」

SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID の理解

これらのトピックには、Oracle ILOM オブジェクト識別子の多くの表が記載されています。

- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 210 ページの「AD OID」
- 212 ページの「DNS OID」
- 213 ページの「LDAP OID」
- 214 ページの「LDAP Over SSL OID」
- 215 ページの「LDAP Over SSL ユーザードメイン OID」
- 215 ページの「LDAP Over SSL ユーザードメイン OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL 管理者グループ OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL オペレータグループ OID」
- 217 ページの「LDAP Over SSL 代替サーバー OID」
- 218 ページの「LDAP Over SSL Custom グループ OID」
- 219 ページの「LDAP Over SSL Host グループ OID」
- 219 ページの「RADIUS OID」
- 220 ページの「ユーザー OID」
- 221 ページの「監査ログ OID」
- 221 ページの「イベントログ OID」
- 222 ページの「警告 OID」
- 223 ページの「バックアップおよび復元 OID」
- 223 ページの「クロック OID」
- 224 ページの「NTP OID」
- 224 ページの「構成管理 OID」
- 225 ページの「ファームウェア管理 OID」
- 226 ページの「HTTP OID」
- 226 ページの「HTTPS OID」
- 227 ページの「SSH OID」
- 227 ページの「シングルサインオン OID」
- 228 ページの「識別 OID」
- 228 ページの「リモート syslog OID」
- 229 ページの「ネットワーク OID」
- 230 ページの「インターコネクト OID」
- 231 ページの「ネットワークインターコネクトグローバル構成 OID」
- 232 ページの「ネットワークインターコネクトグローバル操作 OID」
- 232 ページの「電源制御 OID」
- 233 ページの「ポリシー OID」
- 233 ページの「リセット制御 OID」

- 234 ページの「冗長性 OID」
- 234 ページの「シリアルポート OID」
- 235 ページの「セッション OID」
- 235 ページの「SMTP OID」
- 236 ページの「遠隔測定ハーネスデーモン (THD) OID」

関連情報

- 23 ページの「SNMP の概要」
- 193 ページの「OID 表の概要」
- 194 ページの「SUN-HW-CTRL-MIB MIB OID の理解」
- 199 ページの「SUN-HW-TRAP-MIB MIB OID の理解」
- 236 ページの「SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB OID の理解」
- 242 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID の理解」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID の理解」

SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文

コマンド構文でオブジェクト識別子を使用する場合は、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB 名を含める必要があります。たとえば、V2c プロトコルを使用する場合:

```
$ command -v2c -c public mc_IP SUN-ILOM-CONTROL-MIB::object_id argument
```

または V3 プロトコルを使用する場合:

```
$ command -v3 -u snmp_user -l security_level -a authentication_protocol -A authentication_password -x DES -X privacy_password mc_IP
 SUN-ILOM-CONTROL-MIB::object_id argument
```

ここでは:

- *command* は、アクションを実行する SNMP クライアントのコマンドです。
- *snmp_user* は、SNMP サービスの構成済みユーザーです。
- *security_level* は次のとおりです。
  - authNoPriv – 認証がありますが、プライバシはありません。
  - authPriv –認証とプライバシがあります。
- *authentication_protocol* は MD5 または SHA のいずれかです
- *authentication_password* は *snmp_user* の認証パスワードです。
- *privacy_password* は *snmp_user* のプライバシパスワードです。
- *mc_IP* は SP の IP アドレスです。
- *object_id* は、表の右側の列に一覧表示されているオブジェクト識別子です。
- *argument* は、オブジェクト識別子をサポートするオプションと変数の組み合わせです。

たとえば、123.45.67.89 の IP アドレスを持つ SP 上の現在のローカルユーザーに関する情報の表をセキュアに表示するには、次のように入力します。

```
$ snmpwalk -v3 -u usersnmp -l authPriv -a MD5 -A authpass -x DES -X privpass 123.45.67.89 SUN-ILOM-CONTROL-MIB::
ilomCtrlLocalUserTable
```

関連情報

- 23 ページの「SNMP の概要」
- 193 ページの「OID 表の概要」
- 236 ページの「SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB OID の理解」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID コマンドの構文」

AD OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる AD オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
AD クライアントが有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirectoryEnabled
AD クライアントのポート番号を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirectoryPortNumber
Strict Cert モードが有効になっているときに必要な証明書ファイルの URI を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirectoryCertFileURI
AD サーバーが応答していない場合に、タイムアウトする前に待機する秒数を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirectoryTimeout
AD クライアントの Strict Cert モードが有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirectoryStrictCertEnabled
証明書ファイルのステータスを示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirectoryCertFileStatus
AD サーバー上の認証ドメインに完全に一致するべき文字列を表示します。	read write	ilomCtrlActiveDirUserDomain
AD サーバー上のグループ名のいずれかに完全に一致する識別名を含めるべき文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirAdminGroupName
AD サーバー上のグループ名のいずれかに完全に一致する識別名を含めるべき文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirOperatorGroupName

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
AD 代替サーバーのポート番号を指定する文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirAlternateServerPort
証明書ファイルのステータスを示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertStatus
Strict Cert モードが有効になっているときに必要な証明書ファイルの URI を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertURI
true に設定されている場合に、サーバーに関連付けられた証明書情報をクリアする変数を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertClear
代替サーバー証明書ファイルの証明書バージョンを示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertVersion
代替サーバー証明書ファイルのシリアル番号を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertSerialNo
代替サーバー証明書ファイルの発行者を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertIssuer
代替サーバー証明書ファイルのサブジェクトを示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertSubject
代替サーバー証明書ファイルの有効な開始日を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertValidBegin
代替サーバー証明書ファイルの有効な終了日を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertValidEnd
ユーザーアカウントのネームサービスとして使用される AD 代替サーバーの IPv4 または IPv6 アドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirAlternateServerAddress
イベントログに送信されるメッセージの量を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirectoryLogDetail
AD によって認証されるユーザーが持つべき役割を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirectoryDefaultRoles
AD サーバー上のグループ名のいずれかに完全に一致する識別名を含めるべき文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirCustomGroupName
AD 経由で認証されるユーザーが持つべき役割を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirCustomGroupRoles
true に設定されている場合に、サーバーに関連付けられた証明書情報をクリアする変数を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirectoryCertClear
証明書ファイルの証明書バージョンを示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirectoryCertVersion
証明書ファイルのシリアル番号を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirectoryCertSerialNo
証明書ファイルの発行者を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirectoryCertIssuer
証明書ファイルのサブジェクトを示す文字列を表示します。	read	lomCtrlActiveDirectoryCertSubject
証明書ファイルの有効な開始日を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirectoryCertValidBegin
証明書ファイルの有効な終了日を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlActiveDirectoryCertValidEnd
AD DNS ロケータ機能が有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirDnsLocatorEnabled

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
DNS クエリーを実行するために使用されるサービス名を含めるべき文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirDnsLocatorQueryService
AD の拡張検索クエリー機能が有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirExpSearchEnabled
AD のユーザー資格情報エラーによってそのユーザー資格情報が完全にエラーになるか、またはいずれかの代替サーバーを使用して資格情報の検証が試行されるかどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirStrictCredentialErrorEnabled
ユーザーアカウントのネームサービスとして使用される AD サーバーのアドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirectoryAddress
AD サーバー上のグループ名のいずれかに完全に一致する識別名を含めるべき文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirHostGroupName
このホストグループがホスト役割を割り当てる、/HOST0 や /HOST1 のような HOST*x* のリストを含むべき文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirHostGroupHosts
AD によって認証されるユーザーが持つべきホストの役割を表示または設定します。	read write	ilomCtrlActiveDirHostGroupRoles

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

DNS OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる DNS オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
DNS のネームサーバーを表示または設定します。	read write	ilomCtrlDNSNameServers
DNS ルックアップのドメインまたは検索パスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlDNSSearchPath
DNS 構成が DHCP サーバーによって提供されるかどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlDNSdhcpAutoDns
タイムアウトを表示または設定します。	read write	ilomCtrlDNSTimeout

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
再試行回数を表示または設定します。	read write	ilomCtrlDNSRetries

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

LDAP OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる LDAP オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
LDAP クライアントが有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapEnabled
LDAP クライアントのポート番号を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapPortNumber
LDAP サーバーへのバインドに使用される読み取り専用プロキシユーザーの識別名 (Distinguished Name、DN) を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapBindDn
LDAP サーバーへのバインドに使用される読み取り専用プロキシユーザーのパスワードを表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapBindPassword
この下でユーザーが検索される、LDAP データベース内の検索ベースを表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSearchBase
LDAP によって認証されるユーザーが持つべき役割を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapDefaultRoles
ユーザーアカウントのネームサービスとして使用される LDAP サーバーのアドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapServerAddress

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 214 ページの「LDAP Over SSL OID」
- 215 ページの「LDAP Over SSL ユーザードメイン OID」

- 216 ページの「LDAP Over SSL 管理者グループ OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL オペレータグループ OID」
- 217 ページの「LDAP Over SSL 代替サーバー OID」
- 218 ページの「LDAP Over SSL Custom グループ OID」
- 219 ページの「LDAP Over SSL Host グループ OID」

LDAP Over SSL OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる LDAP over SSL オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
LDAP over SSL クライアントが有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslEnabled
LDAP over SSL クライアントのポート番号を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslPortNumber
証明書検証を実行するためにアップロードするべき LDAP over SSL サーバーの証明書ファイルの TFTP URI を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslCertFileURI
LDAP over SSL サーバーが応答していない場合に、タイムアウトする前に待機する秒数を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslTimeout
LDAP over SSL クライアントの Strict Cert モードが有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslStrictCertEnabled
証明書ファイルのステータスを示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslCertFileStatus
LDAP over SSL 経由で認証されるユーザーが持つべき役割を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslDefaultRoles
true に設定されている場合に、サーバーに関連付けられた証明書情報をクリアする変数を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslCertFileClear
証明書ファイルの証明書バージョンを示す文字列を表示または設定します。	read	ilomCtrlLdapSslCertFileVersion
証明書ファイルのシリアル番号を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslCertFileSerialNo
証明書ファイルの発行者を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslCertFileIssuer
証明書ファイルのサブジェクトを示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslCertFileSubject
証明書ファイルの有効な開始日を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslCertFileValidBegin
証明書ファイルの有効な終了日を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslCertFileValidEnd
オプションの UserMapping 機能が有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslOptUsrMappingEnabled

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
ユーザーの識別名 (DN) に対するユーザーのログイン名を検索するために使用される属性情報を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslOptUsrMappingAttrInfo
ユーザーの検索を実行できるように、マネージャースタイルの LDAP バインドに使用される識別名を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslOptUsrMappingBindDn
マネージャースタイルの LDAP バインドに使用されるパスワード文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslOptUsrMappingBindPw
ユーザー名の検索を試行するために使用される検索ベースを表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslOptUsrMappingSearchBase
ユーザーアカウントのディレクトリサービスとして使用される LDAP over SSL サーバーのアドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslAddress

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 213 ページの「LDAP OID」
- 215 ページの「LDAP Over SSL ユーザードメイン OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL 管理者グループ OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL オペレータグループ OID」
- 217 ページの「LDAP Over SSL 代替サーバー OID」
- 218 ページの「LDAP Over SSL Custom グループ OID」
- 219 ページの「LDAP Over SSL Host グループ OID」

LDAP Over SSL ユーザードメイン OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる LDAP over SSL ドメインオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
LDAP over SSL サーバー上の認証ドメインに完全に一致する文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslUserDomain

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」

- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 213 ページの「LDAP OID」
- 214 ページの「LDAP Over SSL OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL 管理者グループ OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL オペレータグループ OID」
- 217 ページの「LDAP Over SSL 代替サーバー OID」
- 218 ページの「LDAP Over SSL Custom グループ OID」
- 219 ページの「LDAP Over SSL Host グループ OID」

LDAP Over SSL 管理者グループ OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる LDAP over SSL 管理者グループオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
LDAP over SSL サーバー上のグループ名のいずれかに完全に一致する識別名を含む文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslAdminGroupName

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 213 ページの「LDAP OID」
- 214 ページの「LDAP Over SSL OID」
- 215 ページの「LDAP Over SSL ユーザードメイン OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL オペレータグループ OID」
- 217 ページの「LDAP Over SSL 代替サーバー OID」
- 218 ページの「LDAP Over SSL Custom グループ OID」
- 219 ページの「LDAP Over SSL Host グループ OID」

LDAP Over SSL オペレータグループ OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる LDAP over SSL オペレータグループオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
LDAP over SSL サーバー上のグループ名のいずれかに完全に一致する識別名を含む文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslOperatorGroupName

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 213 ページの「LDAP OID」
- 214 ページの「LDAP Over SSL OID」
- 215 ページの「LDAP Over SSL ユーザードメイン OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL 管理者グループ OID」
- 217 ページの「LDAP Over SSL 代替サーバー OID」
- 218 ページの「LDAP Over SSL Custom グループ OID」
- 219 ページの「LDAP Over SSL Host グループ OID」

LDAP Over SSL 代替サーバー OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる LDAP over SSL 代替サーバーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
LDAP over SSL 代替サーバーのポート番号を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslAlternateServerPort
証明書ファイルのステータスを示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertStatus
Strict Cert モードが有効になっているときに必要な証明書ファイルの URI を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertURI
true に設定されている場合に、サーバーに関連付けられた証明書情報をクリアする変数を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertClear
代替サーバー証明書ファイルの証明書バージョンを示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertVersion
代替サーバー証明書ファイルのシリアル番号を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertSerialNo
代替サーバー証明書ファイルの発行者を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertIssuer
代替サーバー証明書ファイルのサブジェクトを示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertSubject

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
代替サーバー証明書ファイルの有効な開始日を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertValidBegin
代替サーバー証明書ファイルの有効な終了日を示す文字列を表示します。	read	ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertValidEnd
ユーザーアカウントのディレクトリサーバーとして使用される LDAP over SSL 代替サーバーのアドレスを表示します。	read write	ilomCtrlLdapSslAlternateServerAddress

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 213 ページの「LDAP OID」
- 214 ページの「LDAP Over SSL OID」
- 215 ページの「LDAP Over SSL ユーザードメイン OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL 管理者グループ OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL オペレータグループ OID」
- 218 ページの「LDAP Over SSL Custom グループ OID」
- 219 ページの「LDAP Over SSL Host グループ OID」

LDAP Over SSL Custom グループ OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる LDAP over SSL カスタムグループオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
LDAP over SSL サーバー上のグループ名のいずれかに完全に一致する識別名を含む文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslCustomGroupName
LDAP over SSL によって認証されるユーザーが持つべき役割を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslCustomGroupRoles

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 213 ページの「LDAP OID」
- 214 ページの「LDAP Over SSL OID」

- 215 ページの「LDAP Over SSL ユーザードメイン OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL 管理者グループ OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL オペレータグループ OID」
- 217 ページの「LDAP Over SSL 代替サーバー OID」
- 219 ページの「LDAP Over SSL Host グループ OID」

LDAP Over SSL Host グループ OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる LDAP over SSL ホストグループオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
LDAP over SSL サーバー上のグループ名のいずれかに完全に一致する識別名を含む文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslHostGroupName
このホストグループがホスト役割を割り当てる、/HOST0 や /HOST1 のような HOST*x* のリストを含む文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslHostGroupHosts
LDAP over SSL 経由で認証されるユーザーが持つべきホストの役割を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLdapSslHostGroupRoles

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 213 ページの「LDAP OID」
- 214 ページの「LDAP Over SSL OID」
- 215 ページの「LDAP Over SSL ユーザードメイン OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL 管理者グループ OID」
- 216 ページの「LDAP Over SSL オペレータグループ OID」
- 217 ページの「LDAP Over SSL 代替サーバー OID」
- 218 ページの「LDAP Over SSL Custom グループ OID」

RADIUS OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる RADIUS オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
RADIUS クライアントが有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlRadiusEnabled
RADIUS クライアントのポート番号を表示または設定します。	read write	ilomCtrlRadiusPortNumber
RADIUS クライアントとサーバー間のトラフィックを暗号化するために使用される共有秘密暗号化鍵を表示または設定します。	read write	ilomCtrlRadiusSecret
RADIUS 経由で認証されるユーザーに設定するべき役割を表示または設定します。	read write	ilomCtrlRadiusDefaultRoles
ユーザーアカウントのネームサービスとして使用される RADIUS サーバーのアドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlRadiusServerAddress

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

ユーザー OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるローカルユーザーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
デバイス上のローカルユーザーのパスワードを表示または設定します。	read create	ilomCtrlLocalUserPassword
ユーザーに関連付けられている役割を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLocalUserRoles
ローカルユーザー表で新しい行を表示または作成するか、既存の行を削除します。	read create	ilomCtrlLocalUserRowStatus
ホストのホスト役割を表示または設定します。	read write	ilomCtrlLocalUserHostRoles

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」

- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

監査ログ OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる監査ログオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
監査イベントのタイプを示す整数を表示します。	read	ilomCtrlAuditLogType
監査ログエントリが記録された日付と時間を表示します。	read	ilomCtrlAuditLogTimestamp
この時点での一般的なイベントクラス (通常は監査) を表す整数を表示します。	read	ilomCtrlAuditLogClass
指定された監査ログエントリに対応する重要度を表示します。	read	ilomCtrlAuditLogSeverity
変更または監査操作のテキスト形式の説明を表示します。	read	ilomCtrlAuditLogDescription
監査ログをクリアします。	read write	ilomCtrlAuditLogClear

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 221 ページの「イベントログ OID」

イベントログ OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるイベントログオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
イベントのタイプを示す整数を表示します。	read	ilomCtrlEventLogType
イベントログエントリが記録された日付と時間を表示します。	read	ilomCtrlEventLogTimestamp
イベントのクラスを示す整数を表示します。	read	ilomCtrlEventLogClass
指定されたログエントリに対応するイベント重要度を表示します。	read	ilomCtrlEventLogSeverity
イベントの説明を表示します。	read	ilomCtrlEventLogDescription
イベントログをクリアします。	read write	ilomCtrlEventLogClear

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 221 ページの「監査ログ OID」

警告 OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる警告オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
指定されたクラスについて警告をトリガーするべき最小のイベント重要度を表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertSeverity
指定された警告の通知のタイプを表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertType
警告タイプが email(1) の場合に、警告通知の送信先電子メールアドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertDestinationEmail
指定された警告ルールに使用される SNMP トラップのバージョンを表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertSNMPVersion
ilomCtrlAlertSNMPVersion プロパティーが v1 または v2c に設定されている場合に使用するコミュニティー文字列を表示または設定します。 ilomCtrlAlertSNMPVersion プロパティーが v3 に設定されている場合に使用されるユーザー名を表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertSNMPCommunityOrUsername
SNMP トラップの宛先ポートを表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertDestinationPort
電子メールで送信される警告のフィルタリング基準となるクラス名を表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertEmailEventClassFilter
電子メールで送信される警告のフィルタリング基準となるタイプ名を表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertEmailEventTypeFilter
送信側または送信元のアドレスを特定するオプションの書式を表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertEmailCustomSender
メッセージ本文の先頭に追加されるオプションの文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertEmailMessagePrefix

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
警告タイプが snmptrap(2) または ipmipet(3) のときに、警告通知の送信先アドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlAlertDestinationAddress

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

バックアップおよび復元 OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるバックアップおよび復元オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
バックアップと復元中に構成 XML ファイルのターゲットの宛先を設定します。その構文は次のとおりです。 *protocol*://*user*:*password*@*host*/*path*/*file*	read write	ilomCtrlBackupAndRestoreTargetURI
バックアップと復元中に機密性のあるデータを暗号化または復号化するためのパスフレーズを設定します。	read write	ilomCtrlBackupAndRestorePassphrase
バックアップまたは復元するアクションを設定します。	read write	ilomCtrlBackupAndRestoreAction
バックアップまたは復元の現在のステータスを表示します。	read	ilomCtrlBackupAndRestoreActionStatus

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 224 ページの「構成管理 OID」

クロック OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるクロックオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
デバイスの日付と時間を表示または設定します。	read write	ilomCtrlDateAndTime
NTP が有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNTPEnabled
構成されているタイムゾーン文字列を表示または設定します。	read write	ilomCtrlTimezone

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 224 ページの「NTP OID」

NTP OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる NTP オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
デバイスで使用される最初の NTP サーバーの IP アドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlDeviceNTPServerOneAddress
デバイスで使用される 2 番目の NTP サーバーの IP アドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlDeviceNTPServerTwoAddress

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 223 ページの「クロック OID」

構成管理 OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる構成管理オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
SP 上の構成を元の出荷時のデフォルト状態に復元するアクションを表示または開始します。	read write	ilomCtrlResetToDefaultsAction

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 223 ページの「バックアップおよび復元 OID」

ファームウェア管理 OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるファームウェア管理オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
現在のファームウェアイメージのバージョンを表示します。	read	ilomCtrlFirmwareMgmtVersion
現在のファームウェアイメージのビルド番号を表示します。	read	ilomCtrlFirmwareBuildNumber
現在のファームウェアイメージのビルド日付と時間を表示します。	read	ilomCtrlFirmwareBuildDate
ファームウェアイメージをダウンロードするために使用される TFTP サーバーの IP アドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlFirmwareTFTPServerIP
TFTP サーバー上の新しいファームウェアイメージファイルの相対パスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlFirmwareTFTPFileName
ファームウェアの更新後にデバイスの以前の構成を保持するべきかどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlFirmwarePreserveConfig
ファームウェア更新のステータスを表示します。	read	ilomCtrlFirmwareMgmtStatus
ほかのファームウェア管理プロパティーの値をパラメータとして使用してファームウェア更新を表示または開始します。	read write	ilomCtrlFirmwareMgmtAction
現在のファイルシステムのバージョンを表示します。	read	ilomCtrlFirmwareMgmtFilesystemVersion
次の電源切断まで BIOS のアップグレードを表示または延期します。	read write	ilomCtrlFirmwareDelayBIOS

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

HTTP OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる HTTP サービスオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
組み込みの Web サーバーが実行中であり、HTTP ポートで待機しているかどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlHttpEnabled
組み込みの Web サーバーが HTTP 要求を listen するべきポート番号を表示または設定します。	read write	ilomCtrlHttpPortNumber
組み込みの Web サーバーが HTTP 接続を HTTPS にリダイレクトするべきかどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlHttpSecureRedirect

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 226 ページの「HTTPS OID」

HTTPS OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる HTTPS サービスオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
組み込みの Web サーバーが実行中であり、HTTPS ポートで待機しているかどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlHttpsEnabled
組み込みの Web サーバーが HTTPS 要求を listen するべきポート番号を表示または設定します。	read write	ilomCtrlHttpsPortNumber

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 226 ページの「HTTP OID」

SSH OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる SSH オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
SSH プロトコルに使用される RSA 鍵の指紋を表示します。	read	ilomCtrlSshRsaKeyFingerprint
SSH プロトコルに使用される RSA 鍵の長さを表示します。	read	ilomCtrlSshRsaKeyLength
SSH プロトコルに使用される DSA 鍵の指紋を表示します。	read	ilomCtrlSshDsaKeyFingerprint
SSH プロトコルに使用される DSA 鍵の長さを表示します。	read	ilomCtrlSshDsaKeyLength
新しい公開鍵生成アクションの開始状態を表示します。	read	ilomCtrlSshGenerateNewKeyAction
新しい SSH 鍵タイプとして rsa または dsa のいずれかを表示します。	read	ilomCtrlSshGenerateNewKeyType
sshd の再起動の開始状態を表示します。	read	ilomCtrlSshRestartSshdAction
sshd が有効になっているかどうかを表示します。	read	ilomCtrlSshEnabled

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

シングルサインオン OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるシングルサインオン (SSO) オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
シングルサインオン認証をデバイスで有効にするべきかどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlSingleSignonEnabled

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

識別 OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる識別オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
Oracle ILOM が生成するすべてのトラップの varbind に送信されるシステム識別子 (多くの場合、Oracle ILOM に関連付けられたサーバーのホスト名) を表示または設定します。	read write	ilomCtrlSystemIdentifier
Oracle ILOM のホスト名を表示または設定します。	read write	ilomCtrlHostName
サービスタグ URN を表示または設定します。	read	ilomCtrlServiceTagURN

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

リモート syslog OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるリモート syslog オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
最初のリモート syslog 宛先 (ログホスト) の IP アドレスを表示または設定します。	read	ilomCtrlRemoteSyslogDestAddress1

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
	write	
2 番目のリモート syslog 宛先 (ログホスト) の IP アドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlRemoteSyslogDestAddress2

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

ネットワーク OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるネットワークオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
SP またはシステムコントローラの MAC アドレスを表示します。	read	ilomCtrlNetworkMacAddress
現在のターゲットが静的 IP 設定を使用するように構成されているかどうか、またはこれらの設定が DHCP から動的に取得されるかどうかを表示します。	read	ilomCtrlNetworkIpDiscovery
指定されたターゲットの現在の IP アドレスを表示します。	read	ilomCtrlNetworkIpAddress
指定されたターゲットの現在の IP ゲートウェイを表示します。	read	ilomCtrlNetworkIpGateway
指定されたターゲットの現在の IP ネットマスクを表示します。	read	ilomCtrlNetworkIpNetmask
指定されたターゲットの IP 検出モードの保留中の値 (dhcp または static のどちらか) を表示または設定します。	read	ilomCtrlNetworkPendingIpDiscovery
指定されたターゲットの保留中の IP アドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNetworkPendingIpAddress
指定されたターゲットの保留中の IP ゲートウェイを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNetworkPendingIpGateway
指定されたターゲットの保留中の IP ネットマスクを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNetworkPendingIpNetmask
保留中のネットワークプロパティーをコミットします。	read write	ilomCtrlNetworkCommitPending

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
帯域外管理インタフェースの MAC アドレスを表示します。	read	ilomCtrlNetworkOutOfBandMacAddress
サイドバンド管理インタフェースの MAC アドレスを指定します。	read	ilomCtrlNetworkSidebandMacAddress
指定されたターゲットの保留中の管理ポートを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNetworkPendingManagementPort
指定されたターゲットの現在の管理ポートを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNetworkManagementPort
DHCP サーバーのアドレスを表示します。	read	ilomCtrlNetworkDHCPServerAddr
行が有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNetworkState

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

インターコネクト OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる SP とホストのインターコネクトオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
SP またはホストネットワークインターコネクトが「ホスト」によって管理されるかどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNetInterConnectCfgHostManaged
SP またはホストネットワークインターコネクトが有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNetInterConnectCfgEnabled
指定されたターゲットの現在の IP アドレスを表示します。	read write	ilomCtrlNetInterconnectCfgPendingIP
SP またはホストインターコネクトネットワーク接続の IP アドレスを表示します。	read write	ilomCtrlNetworkIpGateway
SP またはホストインターコネクトネットワーク接続のネットワークマスクを表示します。	read	ilomCtrlNetInterconnectCfgPendingNetMask
指定されたターゲットの現在の IP ゲートウェイを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNetworkPendingIpDiscovery

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
保留中のプロパティーをアクティブにする commit pending アクションを表示または設定します。	read write	ilomCtrlNetInterConnectCfgCommit

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 231 ページの「ネットワークインターコネクトグローバル構成 OID」
- 232 ページの「ネットワークインターコネクトグローバル操作 OID」

ネットワークインターコネクトグローバル構成 OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるネットワークインターコネクトグローバル構成オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
SP またはホストネットワークインターコネクトが「ホスト」によって管理されるかどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlDomainNetInterConnectCfgHostManaged
マルチドメインの場合の ilomCtrlNetInterConnectCfgEnabled の対応する値を表示または設定します。	read write	ilomCtrlDomainNetInterConnectCfgEnabled
マルチドメインの場合の ilomCtrlNetInterconnectCfgPendingIP の対応する値を表示または設定します。	read write	ilomCtrlDomainNetInterConnectCfgPendingIP
マルチドメインの場合の ilomCtrlNetInterconnectCfgPendingNetMask の対応する値を表示または設定します。	read write	ilomCtrlDomainNetInterConnectCfgPendingNetMask
マルチドメインの場合の ilomCtrlNetInterConnectCfgCommit の対応する値を表示または設定します。	read write	ilomCtrlDomainNetInterConnectCfgCommit
SP またはホストインターコネクトネットワーク接続の動作可能 IP アドレスを表示します。	read	ilomCtrlNetInterconnectOperIP
SP またはホストインターコネクトネットワーク接続のネットワークマスクを表示します。	read	ilomCtrlNetInterconnectOperNetMask
SP またはホストインターコネクトネットワーク接続の SP MAC アドレスを表示します。	read	ilomCtrlNetInterconnectOperSpMacAddress
SP またはホストインターコネクトネットワーク接続のホスト MAC アドレスを表示します。	read	ilomCtrlNetInterconnectOperHostMacAddress
SP またはホストインターコネクトネットワーク接続の説明を表示します。	read	ilomCtrlNetInterconnectOperType

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 230 ページの「インターコネクト OID」
- 232 ページの「ネットワークインターコネクトグローバル操作 OID」

ネットワークインターコネクトグローバル操作 OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるネットワークインターコネクトグローバル操作オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
マルチドメインの場合の ilomCtrlNetInterconnectOperIP の対応する値を表示します。	read	ilomCtrlDomainNetInterConnectOperIP
マルチドメインの場合の ilomCtrlNetInterconnectOperNetMask の対応する値を表示します。	read	ilomCtrlDomainNetInterConnectOperNetMask
マルチドメインの場合の ilomCtrlNetInterconnectOperSpMacAddress の対応する値を表示します。	read	ilomCtrlDomainNetInterConnectOperSpMacAddress
マルチドメインの場合の ilomCtrlNetInterconnectOperHostMacAddress の対応する値を表示します。	read	ilomCtrlDomainNetInterConnectOperHostMacAddress
マルチドメインの場合の ilomCtrlNetInterconnectOperType の対応する値を表示します。	read	ilomCtrlDomainNetInterConnectOperType

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 230 ページの「インターコネクト OID」
- 231 ページの「ネットワークインターコネクトグローバル構成 OID」

電源制御 OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる電源制御オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
指定された電源制御ターゲットに適用するアクションを表示または設定します。	read write	ilomCtrlPowerAction
指定された電源制御ターゲットのステータスを表示します。	read	ilomCtrlPowerStatus

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

ポリシー OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるポリシーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
ポリシーの簡単な説明を表示します。	read	ilomCtrlPolicyShortStr
ポリシーの詳細な説明を表示します。	read	ilomCtrlPolicyLongStr
ポリシーのステータスを表示します。	read write	ilomCtrlPolicyEnabled

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

リセット制御 OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるリセット制御ログオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
指定されたリセット制御ターゲットに適用するアクションを表示または設定します。	read write	ilomCtrlResetAction

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

冗長性 OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる冗長性オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
冗長構成内のデバイスのステータスを表示します。	read	ilomCtrlRedundancyStatus
このデバイスを表示するか、アクティブまたはスタンバイステータスから昇格または降格させます。	read write	ilomCtrlRedundancyAction
このエージェントが実行されているスイッチの FRU 名を表示します。	read	ilomCtrlRedundancyFRUName

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

シリアルポート OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるシリアルポートオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
指定されたデバイスに構成可能な外部シリアルポートがあるかどうかを表示します。	read	ilomCtrlSerialExternalPortPresent
外部シリアルポートの現在のボーレート設定を表示します。	read write	ilomCtrlSerialExternalPortBaudRate
外部シリアルポートの現在のフロー制御設定を表示します。	read	ilomCtrlSerialExternalPortFlowControl
指定されたデバイスに構成可能なホストシリアルポートがあるかどうかを表示します。	read	ilomCtrlSerialHostPortPresent
ホストシリアルポートの現在のボーレート設定を表示します。	read write	ilomCtrlSerialHostPortBaudRate

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

セッション OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされるセッションオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
セッションに関連付けられたユーザーのユーザー名を表示します。	read	ilomCtrlSessionsUsername
指定されたユーザーがデバイスにアクセスするために使用している接続のタイプを表示します。	read	ilomCtrlSessionsConnectionType
ユーザーがデバイスにログインした日付と時間を表示します。	read	ilomCtrlSessionsLoginTime

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

SMTP OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる SMTP オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
SMTP クライアントが有効かどうかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlSMTPEnabled
SMTP クライアントのポート番号を表示または設定します。	read write	ilomCtrlSMTPPortNumber
送信側または送信元のアドレスを特定するオプションの書式を表示または設定します。	read write	ilomCtrlSMTPCustomSender
ユーザーアカウントのネームサービスとして使用される SMTP サーバーのアドレスを表示または設定します。	read write	ilomCtrlSMTPServerAddress

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

遠隔測定ハーネスデーモン (THD) OID

この表には、SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB でサポートされる THD オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
THD デーモンの状態を表示します。	read	ilomCtrlThdState
THD デーモンのアクションとして suspend または resume のいずれかを表示または設定します。	read write	ilomCtrlThdAction
THD モジュールの説明を表示します。	read	ilomCtrlThdModuleDesc
THD モジュールの状態を表示します。	read write	ilomCtrlThdModuleState
THD モジュールの制御アクションを表示します。	read write	ilomCtrlThdModuleAction
インスタンスの状態を表示します。	read	ilomCtrlThdInstanceState
インスタンスの制御アクションを表示または設定します。	read write	ilomCtrlThdInstanceAction

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」

SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB OID の理解

これらのトピックには、Oracle ILOM システムオブジェクト識別子とトラップの表が記載されています。

- 237 ページの「Oracle ILOM システムの未解決の問題 OID」
- 238 ページの「Oracle ILOM システムログ OID」
- 238 ページの「Oracle ILOM システムトラップデータ OID」
- 239 ページの「Oracle ILOM システムトラップ」

関連情報

- 23 ページの「SNMP の概要」
- 193 ページの「OID 表の概要」
- 194 ページの「SUN-HW-CTRL-MIB MIB OID の理解」
- 199 ページの「SUN-HW-TRAP-MIB MIB OID の理解」
- 208 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID の理解」
- 242 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID の理解」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID の理解」

Oracle ILOM システムの未解決の問題 OID

この表には、SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB でサポートされる未解決の問題オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
未解決のいずれかのシステム問題に対して変更を行なった時点でのシステムの稼働時間を表示します。	read	ilomSystemOpenProblemsLastChangeTime
スイッチの現在の未解決の問題の数を表示します。	read	ilomSystemOpenProblemsCount
問題が検出された日付と時間を表示します。	read	ilomSystemOpenProblemTimestamp
識別できる場合、影響を受けるサブシステムを表示します。そうではない場合、none が表示されます。	read	ilomSystemOpenProblemSubsystem
識別できる場合、問題のあるコンポーネントの位置を表示します。	read	ilomSystemOpenProblemLocation
問題の説明を表示します。	read	ilomSystemOpenProblemDescription
このコンポーネントで障害が発生している可能性をパーセント表示します。	read	ilomSystemOpenProblemProbability
識別できる場合、問題のあるコンポーネントの部品番号を表示します。	read	ilomSystemOpenProblemPartNumber
識別できる場合、問題のあるコンポーネントのシリアル番号を表示します。	read	ilomSystemOpenProblemSerialNumber
参照ドキュメントを表示します。	read	ilomSystemOpenProblemReferenceDocument
この未解決の問題のシステムリソースを表示します。	read	ilomSystemOpenProblemResource
1970 年 1 月 1 日の 00:00:00 UTC 以降の秒数を表示します。	read	ilomSystemOpenProblemTime
この未解決の問題の汎用一意識別子 (UUID) を表示します。	read	ilomSystemOpenProblemTimeUUID

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」

Oracle ILOM システムログ OID

この表には、SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB でサポートされるシステムログオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
Oracle ILOM システムログ内のエントリの総数を表示します。	read	ilomSystemLogCount
Oracle ILOM システムログ内の最後のレコードを表示します。	read	ilomSystemLogLastID
Oracle ILOM システムログ全体を表示またはクリアします。	read write	ilomSystemLogClear
Oracle ILOM システムログエントリが記録された日付と時間を表示します。	read	ilomSystemLogTimestamp
サブシステムを表示します。	read	ilomSystemLogSubsystem
コンポーネントを表示します。	read	ilomSystemLogComponent
エントリのテキスト形式の説明を表示します。	read	ilomSystemLogDescription

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」

Oracle ILOM システムトラップデータ OID

この表には、SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB でサポートされるシステムトラップデータオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
製品の製造元を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapProductManufacturer
製品名を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapProductName
製品シリアル番号を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapProductSerialNumber
製品部品番号を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapProductPartNumber
シャーシの製造元を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapChassisManufacturer
シャーシ名を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapChassisName

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
シャーシのシリアル番号を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapChassisSerialNumber
シャーシの部品番号を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapChassisPartNumber
最上位製品の製造元を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapTopProductManufacturer
最上位製品名を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapTopProductName
最上位製品のシリアル番号を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapTopProductSerialNumber
最上位製品の部品番号を含むテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapTopProductPartNumber
トラップを送信するシステムの最上位のシステム識別子を識別するテキスト文字列を表示します。	accessible-for-notify	ilomSystemTrapSystemIdentifier

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 239 ページの「Oracle ILOM システムトラップ」

Oracle ILOM システムトラップ

この表には、SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB でサポートされる Oracle ILOM システムトラップが一覧表示されています。

トラップまたは通知	説明
ilomSystemTrapSystemServiceRequired	システムサービスが必要な場合に通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemWarning	システムの警告時に通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemOkay	システムが正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemPowerOn	スイッチの電源が投入されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemPowerOff	スイッチの電源が切断されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemReset	スイッチがリセットされたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingServiceRequired	冷却または通気が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingWarning	冷却の警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingOkay	冷却が正常に戻ったときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingExhaustTooHot	排気通気の温度が高すぎるときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingInletTooHot	インレット通気の温度が高すぎるときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingExhaustTempOkay	排気通気の温度が正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingInletTempOkay	インレット通気の温度が正常なときに通知が生成されます。

トラップまたは通知	説明
ilomSystemTrapCoolingFanServiceRequired	ファンの保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingFanWarning	ファンの警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingFanOkay	ファンが正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingFanInserted	ファンがスイッチに挿入されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCoolingFanRemoved	ファンがスイッチから取り外されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapProcessorsServiceRequired	スイッチ内の 1 つ以上のプロセッサで保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapProcessorsWarning	1 つ以上のプロセッサの警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapProcessorsOkay	1 つ以上のプロセッサが正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapProcessorsCpuServiceRequired	CPU の保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapProcessorsCpuWarning	CPU の警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapProcessorsCpuOkay	CPU が正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapProcessorsCpuRemoved	CPU が取り外されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapProcessorsCpuInserted	CPU が挿入されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapProcessorsCpuEnabled	CPU が有効になっているときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapProcessorsCpuDisabled	CPU が無効になっているときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapMemoryServiceRequired	メモリーの保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapMemoryWarning	メモリー使用量の警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapMemoryOkay	メモリーが正常である場合に通知が生成されます。
ilomSystemTrapMemoryDimmServiceRequired	DIMM の保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapMemoryDimmWarning	DIMM の警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapMemoryDimmOkay	DIMM が正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapMemoryDimmEnabled	DIMM が有効になっているときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapMemoryDimmDisabled	DIMM が無効になっているときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapMemoryDimmInserted	DIMM がスイッチに挿入されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapMemoryDimmRemoved	DIMM がスイッチから取り外されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapPowerServiceRequired	電源の保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapPowerWarning	電源の警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapPowerOkay	電源が正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapPowerSupplyServiceRequired	電源装置で保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapPowerSupplyWarning	電源装置の警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapPowerSupplyOkay	電源装置が正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapPowerSupplyInserted	電源装置が挿入されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapPowerSupplyRemoved	電源装置がシャーシから取り外されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageServiceRequired	ストレージの保守が必要なときに通知が生成されます。

トラップまたは通知	説明
ilomSystemTrapStorageWarning	ストレージの警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageOkay	ディスクが正常である場合に通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageDiskServiceRequired	ディスクの保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageDiskWarning	ディスクの警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageDiskOkay	ストレージが正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageDiskInserted	ディスクが挿入されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageControllerServiceRequired	コントローラの保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageControllerWarning	コントローラの警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageControllerOkay	コントローラが正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageControllerInserted	コントローラが挿入されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapStorageControllerRemoved	コントローラが取り外されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapFirmwareServiceRequired	スイッチファームウェアの保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapFirmwareWarning	スイッチファームウェアの警告が発生したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapFirmwareOkay	スイッチファームウェアが正常なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapIoModuleServiceRequired	I/O モジュールサービスが必要な場合に通知が生成されます。
ilomSystemTrapIoModuleWarning	I/O モジュールの警告が発生した場合に通知が生成されます。
ilomSystemTrapIoModuleOkay	I/O モジュールが正常である場合に通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemBiosConfigReset	スイッチ BIOS 構成がリセットされたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemPowerTicketDenied	電源チケットが拒否されたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemPowerTicketAccepted	電源チケットが受け入れられたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemHostBootStatus	ホストのブートが完了したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemHostBootComplete	ホストのブートステータスが使用可能なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemHostBootbegin	ホストがブートを開始したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemHostWatchdogExpired	ホストウォッチドッグが期限切れになったときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapSystemHostFailedPowerOn	ホストが電源投入に失敗したときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapPowerBudgetExceeded	スイッチの電力割り当て量を超えたときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCpuModuleServiceRequired	CPU モジュールで保守が必要なときに通知が生成されます。
ilomSystemTrapCpuModuleOkay	CPU モジュールが正常なときに通知が生成されます。

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 238 ページの「Oracle ILOM システムトラップデータ OID」

SUN-PLATFORM-MIB MIB OID の理解

これらのトピックには、ハードウェア、センサー、アラーム、およびウォッチドッグのオブジェクト識別子の表が記載されています。

- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 244 ページの「上位レベルの OID」
- 244 ページの「ディスクリートセンサー表 OID」
- 244 ページの「ディスクリートセンサー状態 OID」
- 245 ページの「Sun プラットフォームの MIB オブジェクトグループ」
- 246 ページの「Sun プラットフォームのセンサー OID」
- 247 ページの「Sun プラットフォームのバイナリセンサー OID」
- 247 ページの「Sun プラットフォームの数値センサー表 OID」
- 249 ページの「Sun プラットフォームのファン表 OID」
- 249 ページの「Sun プラットフォームのアラーム表 OID」
- 249 ページの「Sun プラットフォームのウォッチドッグ OID」
- 250 ページの「Sun プラットフォームの電源装置 OID」
- 250 ページの「Sun プラットフォームのバッテリー OID」
- 251 ページの「Sun プラットフォームの MIB トラップ」
- 252 ページの「Sun プラットフォームの MIB 通知グループ」
- 252 ページの「Sun プラットフォームの MIB 通知」
- 253 ページの「Sun プラットフォームの論理クラス拡張 OID」
- 253 ページの「NIM 装置表 OID」
- 254 ページの「NIM 装置ホルダー表 OID」
- 255 ページの「NIM 回路パック表 OID」
- 255 ページの「NIM ログ OID」
- 256 ページの「NIM トラップエージェント MIB の追加情報 OID」
- 256 ページの「NIM トラップエージェント MIB のログに記録されたアラーム OID」
- 257 ページの「NIM トラップエージェント MIB のログに記録された属性/ステータス変更 OID」
- 258 ページの「物理クラス拡張表 OID」
- 258 ページの「単一コンピュータシステム OID」
- 258 ページの「単一コンピュータシステムの初期ロード拡張 OID」

関連情報

- 23 ページの「SNMP の概要」
- 193 ページの「OID 表の概要」
- 194 ページの「SUN-HW-CTRL-MIB MIB OID の理解」

- 199 ページの「SUN-HW-TRAP-MIB MIB OID の理解」
- 208 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID の理解」
- 236 ページの「SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB OID の理解」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID の理解」

SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文

コマンド構文でオブジェクト識別子を使用する場合は、SUN-PLATFORM-MIB MIB 名を含める必要があります。たとえば、V2c プロトコルを使用する場合:

```
$ command -v2c -c public mc_IP SUN-PLATFORM-MIB::object_id argument
```

または V3 プロトコルを使用する場合:

```
$ command -v3 -u snmp_user -l security_level -a authentication_protocol -A authentication_password -x DES -X privacy_password mc_IP
 SUN-PLATFORM-MIB::object_id argument
```

ここでは:

- *command* は、アクションを実行する SNMP クライアントのコマンドです。
- *snmp_user* は、SNMP サービスの構成済みユーザーです。
- *security_level* は次のとおりです。
  - authNoPriv – 認証がありますが、プライバシはありません。
  - authPriv –認証とプライバシがあります。
- *authentication_protocol* は MD5 または SHA のいずれかです
- *authentication_password* は *snmp_user* の認証パスワードです。
- *privacy_password* は *snmp_user* のプライバシパスワードです。
- *mc_IP* は SP の IP アドレスです。
- *object_id* は、表の右側の列に一覧表示されているオブジェクト識別子です。
- *argument* は、オブジェクト識別子をサポートするオプションと変数の組み合わせです。

たとえば、123.45.67.89 の IP アドレスを持つ SP がアドレス可能なスイッチコンポーネントの表をセキュアに表示するには、次のように入力します。

```
$ snmpwalk -v3 -u usersnmp -l authPriv -a MD5 -A authpass -x DES -X privpass 123.45.67.89 SUN-PLATFORM-MIB::
sunPlatEquipmentTable
```

関連情報

- 209 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID コマンドの構文」

上位レベルの OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる上位レベルのオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
エージェントが最後に起動された時間を表示します。	read	sunPlatStartTime

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」

ディスクリートセンサー表 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされるディスクリートセンサーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
センサーの現在の読み取りを表示します。	read	sunPlatDiscreteSensorCurrent

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 244 ページの「ディスクリートセンサー状態 OID」

ディスクリートセンサー状態 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされるディスクリートセンサー状態オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
この表の対応する行によって表される状態を表示します。	read	sunPlatDiscreteSensorStatesInterpretation

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
この値が CIM_DiscreteSensor.AcceptableValues で定義されているように許容されるかどうかを表示します。	read	sunPlatDiscreteSensorStatesAcceptable

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 244 ページの「ディスクリートセンサー表 OID」

Sun プラットフォームの MIB オブジェクトグループ

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる Sun プラットフォームの MIB オブジェクトグループが一覧表示されています。

トラップまたは通知	説明
sunPlatGeneralGroup	モニター対象のプラットフォームには依存しないオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatEquipmentGroup	Equipment の NIM クラスの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatEquipmentHolderGroup	entPhysicalClass が container(5) であるプラットフォームコンポーネントの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatCircuitPackGroup	entPhysicalClass が module(9) であるプラットフォームコンポーネントの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatPhysicalGroup	entPhysicalClass 値が other(1) のプラットフォームコンポーネントの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatSensorGroup	entPhysicalClass 値が sensor(8) のプラットフォームコンポーネントの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatBinarySensorGroup	sunPlatSensorClass が binary(1) のセンサーの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatNumericSensorGroup	sunPlatSensorClass が numeric(2) のセンサーの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatDiscreteSensorGroup	sunPlatSensorClass が discrete(3) のセンサーの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatFanGroup	entPhysicalClass が fan(7) であるプラットフォームコンポーネントの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatAlarmGroup	sunPlatPhysicalClass が alarm(2) のプラットフォームコンポーネントの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。

トラップまたは通知	説明
sunPlatWatchdogGroup	sunPlatPhysicalClass が watchdog(3) のプラットフォームコンポーネントの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatPowerSupplyGroup	entPhysicalClass が powerSupply(6) のプラットフォームコンポーネントの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatBatteryGroup	sunPlatPowerSupplyClass が battery(3) の電源装置の属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatLogicalGroup	entLogicalTable 内に存在する論理エンティティーの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatUnitaryComputerSystemGroup	sunPlatLogicalClass が computerSystem(2) の論理エンティティーの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatLogGroup	ログまたは現在の問題リストの属性を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatLogRecordGroup	ログレコードまたは現在の問題を表すオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatLogRecordAdditionalGroup	ログレコードまたは現在の問題に関する追加情報を提供するオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatLogRecordAlarmGroup	アラームログレコードまたは現在の問題に関する情報を提供するオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatLogRecordChangeGroup	属性変更ログレコードに関する情報を提供するオブジェクトのコレクションを表示します。
sunPlatNotificationObjectGroup	通知で使用されるオブジェクトのコレクションを表示します。

関連情報

- 202 ページの「ハードウェアトラップ」
- 193 ページの「OID 表の概要」

Sun プラットフォームのセンサー OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされるプラットフォームのセンサーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
entPhysicalClass が sensor(8) と指定されている場合に可能なセンサークラスを表示します。	read	sunPlatSensorClass

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
entPhysicalClass が sensor(8) と指定されている場合に可能なセンサータイプを表示します。	read	sunPlatSensorType
ミリ秒単位で測定されたセンサーの更新間隔を表示します。	read	sunPlatSensorLatency

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 247 ページの「Sun プラットフォームのバイナリセンサー OID」
- 247 ページの「Sun プラットフォームの数値センサー表 OID」

Sun プラットフォームのバイナリセンサー OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされるバイナリセンサーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
センサーの現在の状態を表示します。	read	sunPlatBinarySensorCurrent
センサーの予期される状態を表示します。予期される値がない場合、この属性の値は返されません。	read	sunPlatBinarySensorExpected
true のセンサー読み取りに適用される解釈を表示します。	read	sunPlatBinarySensorInterpretTrue
false のセンサー読み取りに適用される解釈を表示します。	read	sunPlatBinarySensorInterpretFalse

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 246 ページの「Sun プラットフォームのセンサー OID」
- 247 ページの「Sun プラットフォームの数値センサー表 OID」

Sun プラットフォームの数値センサー表 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる数値センサーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
センサーによって返される値の基本単位を表示します。たとえば、V です。	read	sunPlatNumericSensorBaseUnits
基本単位で乗算する 10 の指数を表示します。たとえば、2 です。そのため、乗数は 10^2 または 100 です。	read	sunPlatNumericSensorExponent
基本単位に関連付けられた率がある場合は、その率を表示します。たとえば、秒あたりです。	read	sunPlatNumericSensorRateUnits
センサーの現在の読み取りを表示します。	read	sunPlatNumericSensorCurrent
センサーで予期される最小値を表示します。	read	sunPlatNumericSensorNormalMin
センサーで予期される最大値を表示します。	read	sunPlatNumericSensorNormalMax
100 分の 1% の単位の +/-% 値で表されるセンサーの精度を表示します。	read	sunPlatNumericSensorAccuracy
クリティカルでない状態が発生する下限しきい値を表示または設定します。	read write	sunPlatNumericSensorLowerThresholdNonCritical
クリティカルではない状態が発生する上限しきい値を表示します。	read write	sunPlatNumericSensorUpperThresholdNonCritical
クリティカルな状態が発生する下限しきい値を表示します。	read write	sunPlatNumericSensorLowerThresholdCritical
クリティカルな状態が発生する上限しきい値を表示します。	read write	sunPlatNumericSensorUpperThresholdCritical
致命的な状態が発生する下限しきい値を表示します。	read write	sunPlatNumericSensorLowerThresholdFatal
致命的な状態が発生する上限しきい値を表示します。	read write	sunPlatNumericSensorUpperThresholdFatal
しきい値のヒステリシスを表示します。	read	sunPlatNumericSensorHysteresis
センサーのしきい値を表示します。	read write	sunPlatNumericSensorEnabledThresholds
デフォルト設定に対するセンサーのしきい値を表示するか、デフォルトにリセットします。	read write	sunPlatNumericSensorRestoreDefaultThresholds

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」

- 246 ページの「Sun プラットフォームのセンサー OID」
- 247 ページの「Sun プラットフォームのバイナリセンサー OID」

Sun プラットフォームのファン表 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされるファンオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
冷却デバイスのクラスを表示します。	read	sunPlatFanClass

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」

Sun プラットフォームのアラーム表 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされるアラームオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
アラームのタイプを表示します。	read	sunPlatAlarmType
アラームの状態を表示します。	read write	sunPlatAlarmState
アラームの緊急性を表示します。	read	sunPlatAlarmUrgency

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」

Sun プラットフォームのウォッチドッグ OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされるウォッチドッグオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
ウォッチドッグがリセットされない場合に、ウォッチドッグがタイムアウトになる間隔をミリ秒 (mS) で表示します。	read	sunPlatWatchdogTimeout
sunPlatWatchdogTimeout で指定された期間内にウォッチドッグがリセットされなかった場合に、ウォッチドッグによって行われるアクションを表示します。	read	sunPlatWatchdogAction
ウォッチドッグが最後に期限切れになった時間を表示します。	read	sunPlatWatchdogLastExpired
ウォッチドッグによってモニターされるエンティティーを表示します。	read	sunPlatWatchdogMonitoredEntity

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」

Sun プラットフォームの電源装置 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる電源装置オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
電源装置のクラスを表示します。	read	sunPlatPowerSupplyClass

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 250 ページの「Sun プラットフォームのバッテリー OID」

Sun プラットフォームのバッテリー OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされるバッテリーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
バッテリーの現在のステータスを表示します。	read	sunPlatBatteryStatus

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 250 ページの「Sun プラットフォームの電源装置 OID」

Sun プラットフォームの MIB トラップ

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる Sun プラットフォームの MIB トラップが一覧表示されています。

トラップまたは通知	アクション	説明
misidentification	accessible-for-notify	この通知の一意の ID。
sunPlatNotificationTime	accessible-for-notify	この通知が生成された時間。
sunPlatNotificationObject	accessible-for-notify	この通知が適用される entPhysicalTable または entLogicalTable 内のオブジェクト。
sunPlatNotificationPerceivedSeverity	accessible-for-notify	アラームを生成したエージェントによって指定されたこのアラームの認識されている重要度。
sunPlatNotificationProbableCause	accessible-for-notify	この通知に関する追加情報を提供するオプションの考えられる原因。
sunPlatNotificationSpecificProblem	accessible-for-notify	この通知の原因に関する追加情報を提供するオプションのテキスト形式の説明。
sunPlatNotificationRepairAction	accessible-for-notify	CR LF シーケンスで区切られた推奨される修復アクションのリスト。
sunPlatNotificationAdditionalInfo	accessible-for-notify	この通知に関する追加情報を提供するオブジェクトのオプションの OID。
sunPlatNotificationAdditionalText	accessible-for-notify	この通知に関する追加情報を提供するオプションのテキスト形式の説明。
sunPlatNotificationChangedOID	accessible-for-notify	属性/状態変更通知で変更されたオブジェクトの OBJECT IDENTIFIER 値。
sunPlatNotificationOldInteger	accessible-for-notify	属性/状態変更通知の古い INTEGER 値。
sunPlatNotificationNewString	accessible-for-notify	属性/状態通知内の新しい OCTET-STRING 値。
sunPlatNotificationOldString	accessible-for-notify	属性/状態変更通知内の古い OCTET-STRING 値。
sunPlatNotificationNewOID	accessible-for-notify	属性/状態変更通知内の新しい OBJECT IDENTIFIER 値。
sunPlatNotificationOldOID	accessible-for-notify	属性/状態変更通知内の古い OBJECT IDENTIFIER 値。

トラップまたは通知	アクション	説明
sunPlatNotificationCorrelatedNotifications	accessible-for-notify	この通知に相関する、コンマで区切られた sunPlatNotificationEventIDs のリスト。

関連情報

- 202 ページの「ハードウェアトラップ」
- 193 ページの「OID 表の概要」

Sun プラットフォームの MIB 通知グループ

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる Sun プラットフォームの MIB 通知グループが一覧表示されています。

トラップまたは通知	説明
sunPlatNotificationsGroup	管理対象オブジェクトのモデルへの追加または削除、管理対象オブジェクトの状態の変更、属性変更、およびアラームの発生を示す通知のコレクションを表示します。

関連情報

- 202 ページの「ハードウェアトラップ」
- 193 ページの「OID 表の概要」
- 252 ページの「Sun プラットフォームの MIB 通知」

Sun プラットフォームの MIB 通知

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる Sun プラットフォームの MIB 通知が一覧表示されています。

トラップまたは通知	説明
sunPlatObjectCreation	オブジェクトが作成されたときの通知。
sunPlatObjectDeletion	オブジェクトが削除されたときの通知。
sunPlatCommunicationsAlarm	通信アラームが発生したという通知。
sunPlatEnvironmentalAlarm	環境アラームが発生したという通知。
sunPlatEquipmentAlarm	装置アラームが発生したという通知。

トラップまたは通知	説明
sunPlatProcessingErrorAlarm	処理エラーアラームが発生したという通知。
sunPlatStateChange	sunPlatNotificationChangedOID によって識別された状態属性で変更が発生したという通知。
sunPlatAttributeChangeInteger	属性がある整数値から別の整数値に変更されたという通知。
sunPlatAttributeChangeString	属性がある文字列から別の文字列に変更されたという通知。
sunPlatAttributeChangeOID	属性がある OID から別の OID に変更されたという通知。
sunPlatQualityOfServiceAlarm	サービス品質アラームが発生したという通知。
sunPlatIndeterminateAlarm	不確定タイプのアラームが発生したという通知。

関連情報

- 202 ページの「ハードウェアトラップ」
- 193 ページの「OID 表の概要」
- 252 ページの「Sun プラットフォームの MIB 通知グループ」

Sun プラットフォームの論理クラス拡張 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる論理クラス拡張オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
論理エンティティー表内のエントリの論理クラスを表示します。	read	sunPlatLogicalClass
バッテリーの現在のステータスを表示します。	read	sunPlatLogicalStatus

関連情報

- 202 ページの「ハードウェアトラップ」
- 193 ページの「OID 表の概要」

NIM 装置表 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる NIM 装置オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
管理対象オブジェクトの管理状態を表示します。	read write	sunPlatEquipmentAdministrativeState
管理対象オブジェクトの動作状態を表示します。	read	sunPlatEquipmentOperationalState
管理対象オブジェクトのアラームステータスを表示します。	read	sunPlatEquipmentAlarmStatus
管理対象オブジェクトの不明なステータスまたは既知のステータスを表示します。	read	sunPlatEquipmentUnknownStatus
コンポーネントの特定の場所の名前または一般的な場所の名前を表示します。	read write	sunPlatEquipmentLocationName
コンポーネントのタイプを表示します。	read	sunPlatEquipmentHolderType
スロットでサポートできる回路パックのタイプを表示します。	read	sunPlatEquipmentHolderAcceptableTypes
回路パックがスロット内に存在するかどうかを識別する属性を表示します。	read	sunPlatEquipmentHolderStatus
装置ホルダーの現在の電源管理状態を表示します。	read write	sunPlatEquipmentHolderPowered

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 254 ページの「NIM 装置ホルダー表 OID」

NIM 装置ホルダー表 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる NIM 装置ホルダーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
コンポーネントのタイプを表示します。	read	sunPlatEquipmentHolderType
スロットでサポートできる回路パックのタイプを表示します。	read	sunPlatEquipmentHolderAcceptableTypes
回路パックがスロット内に存在するかどうかを識別する属性を表示します。	read	sunPlatEquipmentHolderStatus
装置ホルダーの現在の電源管理状態を表示します。	read write	sunPlatEquipmentHolderPowered

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 253 ページの「NIM 装置表 OID」

NIM 回路パック表 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる NIM 回路パックオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
回路パックのタイプを表示します。	read	sunPlatCircuitPackType
属性の可用性ステータスを表示します。	read	sunPlatCircuitPackAvailabilityStatus
CIM_PhysicalPackage.Replaceable プロパティーを表示します。	read	sunPlatCircuitPackReplaceable
CIM_PhysicalPackage.HotSwappable プロパティーを表示します。	read	sunPlatCircuitPackHotSwappable

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」

NIM ログ OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる NIM ログ表オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
ログがその通常の操作を実行できるかどうか示します。	read	sunPlatLogOperationalState
ログがいっぱいか (true)、またはそうでないか (false) を表示します。	read	sunPlatLogFullStatus
ログが容量アラームを生成する、100 分の 1% の単位で表されたしきい値を表示または作成します。	read create	sunPlatLogCapacityThreshold
表で新しい行を表示または作成するか、既存の行を削除します。	read create	sunPlatLogRowStatus

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」

NIM トラップエージェント MIB の追加情報 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる NIM トラップエージェント MIB の追加情報オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
この通知に関する追加情報を提供するオブジェクトのオプションの OID を表示します。	read	sunPlatLogRecordAdditionalInfo
この通知に関する追加情報を提供するオプションのテキスト形式の説明を表示します。	read	sunPlatLogRecordAdditionalText

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 256 ページの「NIM トラップエージェント MIB のログに記録されたアラーム OID」
- 257 ページの「NIM トラップエージェント MIB のログに記録された属性/ステータス変更 OID」

NIM トラップエージェント MIB のログに記録されたアラーム OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる NIM トラップエージェント MIB のログに記録されたアラームオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
アラームを生成したエージェントによって指定されたこのアラームの認識されている重要度を表示します。	read	sunPlatLogRecordAlarmPerceivedSeverity
この通知に関する追加情報を提供するオプションの考えられる原因を表示します。	read	sunPlatLogRecordAlarmProbableCause
この通知の原因に関する追加情報を提供するオプションのテキスト形式の説明を表示します。	read	sunPlatLogRecordAlarmSpecificProblem

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
CR LF シーケンスで区切られた推奨される修復アクションのリストを表示します。	read	sunPlatLogRecordAlarmRepairAction

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 256 ページの「NIM トラップエージェント MIB の追加情報 OID」
- 257 ページの「NIM トラップエージェント MIB のログに記録された属性/ステータス変更 OID」

NIM トラップエージェント MIB のログに記録された属性/ステータス変更 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる NIM トラップエージェント MIB のログに記録された属性/ステータス変更オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
属性/状態変更通知で変更されたオブジェクトの OBJECT IDENTIFIER 値を表示します。	read	sunPlatLogRecordChangeChangedOID
属性/状態変更通知の新しい INTEGER 値を表示します。	read	sunPlatLogRecordChangeNewInteger
属性/状態変更通知の古い INTEGER 値を表示します。	read	sunPlatLogRecordChangeOldInteger
属性/状態変更/状態通知内の新しい OCTET-STRING 値を表示します。	read	sunPlatLogRecordChangeNewString
属性/状態変更通知内の古い OCTET-STRING 値を表示します。	read	sunPlatLogRecordChangeOldString
属性/状態変更通知内の新しい OBJECT IDENTIFIER 値を表示します。	read	sunPlatLogRecordChangeNewOID
属性/状態変更通知内の古い OBJECT IDENTIFIER 値を表示します。	read	sunPlatLogRecordChangeOldOID

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 256 ページの「NIM トラップエージェント MIB の追加情報 OID」
- 256 ページの「NIM トラップエージェント MIB のログに記録されたアラーム OID」

物理クラス拡張表 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる物理クラス拡張オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
entPhysicalClass が other(1) と指定されている場合に可能な物理クラスを表示します。	read	sunPlatPhysicalClass

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」

単一コンピュータシステム OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる単一コンピュータシステムオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
システムの現在の電源状態を表示または設定します。	read write	SunPlatUnitaryComputerSystemPowerState
システムの現在の設定を表示または適用します。	read write	sunPlatUnitaryComputerSystemApplySettings

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 258 ページの「単一コンピュータシステムの初期ロード拡張 OID」

単一コンピュータシステムの初期ロード拡張 OID

この表には、SUN-PLATFORM-MIB MIB でサポートされる単一コンピュータシステムの初期ロード表オブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
この値で表される情報の名前を表示します。	read	sunPlatInitialLoadInfoDescr
配列内にあるエントリの値の現在の内容を表示します。	read	sunPlatInitialLoadInfoCurrentValue
配列内にあるエントリの値の必要な内容を表示します。	read write	sunPlatInitialLoadInfoDesiredValue

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 243 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 258 ページの「単一コンピュータシステム OID」

ENTITY-MIB MIB OID の理解

これらのトピックには、スイッチの物理および論理エンティティーオブジェクト識別子の表が記載されています。

- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID コマンドの構文」
- 260 ページの「物理エンティティー表 OID」
- 261 ページの「論理エンティティー表 OID」
- 262 ページの「エンティティー MIB トラップ」

関連情報

- 23 ページの「SNMP の概要」
- 193 ページの「OID 表の概要」
- 194 ページの「SUN-HW-CTRL-MIB MIB OID の理解」
- 199 ページの「SUN-HW-TRAP-MIB MIB OID の理解」
- 208 ページの「SUN-ILOM-CONTROL-MIB MIB OID の理解」
- 236 ページの「SUN-ILOM-SYSTEM-MIB MIB OID の理解」
- 242 ページの「SUN-PLATFORM-MIB MIB OID の理解」

ENTITY-MIB MIB OID コマンドの構文

コマンド構文でオブジェクト識別子を使用する場合は、ENTITY-MIB MIB 名を含める必要があります。たとえば、V2c プロトコルを使用する場合:

```
$ command -v2c -c public mc_IP ENTITY-MIB::object_id argument
```

または V3 プロトコルを使用する場合:

```
$ command -v3 -u snmp_user -l security_level -a authentication_protocol -A authentication_password -x DES -X privacy_password mc_IP
 ENTITY-MIB::object_id argument
```

ここでは:

- *command* は、アクションを実行する SNMP クライアントのコマンドです。
- *snmp_user* は、SNMP サービスの構成済みユーザーです。
- *security_level* は次のとおりです。
  - `authNoPriv` – 認証がありますが、プライバシはありません。
  - `authPriv` –認証とプライバシがあります。
- *authentication_protocol* は `MD5` または `SHA` のいずれかです
- *authentication_password* は *snmp_user* の認証パスワードです。
- *privacy_password* は *snmp_user* のプライバシパスワードです。
- *mc_IP* は SP の IP アドレスです。
- *object_id* は、表の右側の列に一覧表示されているオブジェクト識別子です。
- *argument* は、オブジェクト識別子をサポートするオプションと変数の組み合わせです。

たとえば、`123.45.67.89` の IP アドレスを持つ SP 上の物理エンティティー 4 の説明をセキュアに表示するには、次のように入力します。

```
$ snmpget -v3 -u usersnmp -l authPriv -a MD5 -A authpass -x DES -X privpass 123.45.67.89 ENTITY-MIB::entPhysicalDescr.4
```

関連情報

- 209 ページの「`SUN-ILOM-CONTROL-MIB` MIB OID コマンドの構文」
- 243 ページの「`SUN-PLATFORM-MIB` MIB OID コマンドの構文」

物理エンティティー表 OID

この表には、`ENTITY-MIB` MIB でサポートされる物理エンティティーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
物理エンティティーの説明を表示します。	`read`	`entPhysicalDescr`

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
物理エンティティーのベンダー固有のハードウェアタイプを表示します。	read	entPhysicalVendorType
この物理エンティティーのコンテナである物理エンティティーの entPhysicalIndex の値を表示します。	read	entPhysicalContainedIn
物理エンティティーの一般的なハードウェアタイプを表示します。	read	entPhysicalClass
すべての兄弟コンポーネント間の子コンポーネントの相対位置のインジケーションを表示します。	read	entPhysicalParentRelPos
物理エンティティーの名前を表示します。	read	entPhysicalName
物理エンティティーのベンダー固有のハードウェアリビジョン文字列を表示します。	read	entPhysicalHardwareRev
物理エンティティーのベンダー固有のファームウェアリビジョン文字列を表示します。	read	entPhysicalFirmwareRev
物理エンティティーのベンダー固有のソフトウェアリビジョン文字列を表示します。	read	entPhysicalSoftwareRev
物理エンティティーのベンダー固有のシリアル番号文字列を表示します。	read write	entPhysicalSerialNum
物理コンポーネントの製造元の名前を表示します。	read	entPhysicalMfgName
物理コンポーネントに関連付けられたベンダー固有のモデル名文字列を表示します。	read	entPhysicalModelName
ネットワークマネージャーによって指定された物理エンティティーのハンドルまたは別名を表示します。	read write	entPhysicalAlias
ネットワークマネージャーによって指定された物理エンティティーの不揮発性アセットの追跡識別子を表示します。	read write	entPhysicalAssetID
物理エンティティーがベンダーによって FRU ユニットと見なされているかどうかを表示します。	read	entPhysicalIsFRU

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID コマンドの構文」

論理エンティティー表 OID

この表には、ENTITY-MIB MIB でサポートされる論理エンティティーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
論理エンティティーの説明を表示します。	read	entLogicalDescr

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
論理エンティティーのタイプのインジケーションを表示します。	read	entLogicalType
この論理エンティティーの詳細な管理情報にアクセスするために使用できる SNMPv1 または SNMPv2C コミュニティー文字列を表示します。	read	entLogicalCommunity
entLogicalTDomain の対応する値に応じて書式設定された、論理エンティティーがネットワーク管理トラフィックを受け取るときに使用するトランスポートサービスアドレスを表示します。	read	entLogicalTAddress
SNMPv2 のトランザクションマッピングのドキュメント *(RFC 1906 [RFC1906])* に記載されている、論理エンティティーがネットワーク管理トラフィックを受け取るときに使用するトランスポートサービスの種類を表示します。	read	entLogicalTDomain
この論理エンティティーによって保持されている情報に関する SNMP メッセージを送信するために使用できる権限 contextEngineID を表示します。	read	entLogicalContextEngineID
この論理エンティティーによって保持されている情報に関する SNMP メッセージを送信するために使用できる contextName を表示します。	read	entLogicalContextName
示されている entLogicalEntityy に関連付けられた特定の entPhysicalEntry のインデックス値を識別する、このオブジェクトの値を表示します。	read	entLPPhysicalIndex
示されている entPhysicalIndex と entLogicalIndex のペアに関連付けられた特定の概念行を識別する、このオブジェクトの値を表示します。	read	entAliasMappingIdentifier
含まれている物理エンティティーの entPhysicalIndex の値を表示します。	read	entPhysicalChildIndex
entPhysicalTable, entLogicalTable, entLPMappingTable, entAliasMappingTable、または entPhysicalContainsTable のいずれかの表で概念行が作成、変更、または削除された時点での sysUpTime の値を表示します。	read	entLastChangeTime

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID コマンドの構文」

エンティティー MIB トラップ

この表には、ENTITY-MIB MIB でサポートされる論理エンティティーオブジェクト識別子が一覧表示されています。

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
複数の論理エンティティー、物理コンポーネント、インタフェース、およびポート識別子の間の関連付けを表すオブジェクトのコレクションを表示します。	read	entityMappingGroup

タスクまたはアクティビティーの説明	アクション	MIB OID
単一のエージェントが管理情報を提供する、一般的なエンティティー情報を表すオブジェクトのコレクションを表示します。	read	entityGeneralGroup
エンティティー MIB データの内容と一般的なステータス情報を示す通知のコレクションを表示します。	read	entityNotificationsGroup
単一のエージェントが管理情報を提供する、物理システムコンポーネントを表すオブジェクトのコレクションを表示します。	read	entityPhysical2Group
単一の SNMP エンティティーが管理情報を提供する、論理エンティティーのリストを表すオブジェクトのコレクションを表示します。	read	entityLogical2Group
entLastChangeTime の値が変更されたときに通知を表示します。	read	entConfigChange

関連情報

- 193 ページの「OID 表の概要」
- 259 ページの「ENTITY-MIB MIB OID コマンドの構文」

EMS モジュールの理解

これらのトピックでは、EMS モジュールで基本的な SEFOS 管理を実行する方法について説明します。

注記 - ここには、非常に基本的な SEFOS の情報のみが記載されています。SEFOS の詳細な情報は、EMS モジュールのドキュメントライブラリから入手できます。

- 265 ページの「EMS モジュールおよび SEFOS モードの理解」
- 271 ページの「ネットワーク情報の表示 (SEFOS)」
- 274 ページの「ログおよび履歴の表示 (SEFOS)」
- 276 ページの「ハードウェアパラメータの管理 (SEFOS)」
- 281 ページの「ユーザーの管理 (SEFOS)」
- 283 ページの「VLAN の管理 (SEFOS)」
- 290 ページの「SNMP の管理 (SEFOS)」
- 296 ページの「SEFOS からのログアウト」

関連情報

- 19 ページの「システム管理リソースの理解」
- 27 ページの「スイッチへのアクセス」
- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 119 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの理解」
- 193 ページの「SNMP MIB OID の理解」
- 299 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 423 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 537 ページの「ファームウェアの更新」

EMS モジュールおよび SEFOS モードの理解

これらのトピックでは、EMS モジュールについて、および SEFOS モードへのアクセス方法について説明します。

- 266 ページの「EMS モジュールの概要」
- 267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」
- 268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS コマンドのリストの表示」
- 270 ページの「SEFOS コマンドに関するヘルプの入手」

関連情報

- 271 ページの「ネットワーク情報の表示 (SEFOS)」
- 274 ページの「ログおよび履歴の表示 (SEFOS)」
- 276 ページの「ハードウェアパラメータの管理 (SEFOS)」
- 281 ページの「ユーザーの管理 (SEFOS)」
- 283 ページの「VLAN の管理 (SEFOS)」
- 290 ページの「SNMP の管理 (SEFOS)」

EMS モジュールの概要

スイッチシャーシ内には組み込み管理スイッチ (EMS) があります。EMS は、単一のモジュール内にある ARM ベースの管理コントローラとペアになった Ethernet スイッチです。デフォルトでは、EMS ではユーザー管理は必要ありません。ただし、これは Oracle の ES1 および ES2 スイッチに匹敵する豊富な機能を備えた Ethernet スイッチであり、同じように管理します。

EMS の管理コントローラはスイッチの SP です。管理コントローラは、最小化されたバージョンの Sun Ethernet Fabric Operating System (SEFOS) を実行するホストです。EMS は、CLI から SEFOS コマンドを使用して管理します。Oracle ILOM CLI から SEFOS にアクセスします。

SEFOS の EMS 実装には、これらの対話型モードがあります。

- **特権 EXEC モード** – ネットワークおよび構成のパラメータを表示します。
- **グローバル構成モード** – ネットワーク全体でパラメータと値を構成します。
- **インタフェース構成モード** – 特定のインタフェースまたはポートのパラメータを構成します。
- **VLAN 構成モード** – VLAN の作成時に特定の VLAN のパラメータを構成します。

各モードには独自の固有のコマンドがあります。

モードは入れ子になっているため、ネットワーク全体でパラメータを構成するには、最初に特権 EXEC モードに入り、次にグローバル構成モードに入ります。特定のイ

ンタフェースのパラメータを構成するには、最初に特権 EXEC モードに入り、次にグローバル構成モード、最後にインタフェース構成モードに入ります。新しい VLAN のパラメータを構成するには、最初に特権 EXEC モードに入り、次にグローバル構成モード、最後に VLAN 構成モードに入ります。モードの終了も入れ子になっています。

関連情報

- 30 ページの「SEFOS へのアクセス」
- 267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」
- 268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS コマンドのリストの表示」
- 270 ページの「SEFOS コマンドに関するヘルプの入手」
- 296 ページの「SEFOS からのログアウト」

▼ SEFOS グローバル構成モードへのアクセス

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **グローバル構成モードにアクセスします。**

```
SEFOS# configure terminal
SEFOS(config)#
```

3. **グローバル構成モードで目的のタスクを実行します。**
   終了したら、グローバル構成モードを終了します。

4. **グローバル構成モードを終了します。**

```
SEFOS(config)# exit
SEFOS#
```

関連情報

- 266 ページの「EMS モジュールの概要」
- 268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS コマンドのリストの表示」
- 270 ページの「SEFOS コマンドに関するヘルプの入手」
- 296 ページの「SEFOS からのログアウト」

▼ SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス

インタフェース構成モードへのアクセス時に、構成するインタフェースを指定します。

1. **グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **インタフェース構成モードにアクセスします。**

   ```
   SEFOS(config)# interface interface-type 0/port
   ```

   ここでは:

   - *interface-type* は、1GbE RJ-45 ポートの場合は `gigabitethernet` で、10GbE SFP+ アップリンクポートの場合は `extreme-ethernet` です。
   - *port* は、コネクタの近くに出力されるポート番号です。

   たとえば、1GbE RJ-45 ポートであるポート 3 のインタフェース構成モードにアクセスするには、次を入力します。

   ```
   SEFOS(config)# interface gigabitethernet 0/3
   SEFOS(config-if)#
   ```

   これで、ポート 3 のインタフェース構成モードに入りました。

3. **インタフェース構成モードで目的のタスクを実行します。**
   終了したら、インタフェース構成モードを終了します。

4. **インタフェース構成モードを終了します。**

   ```
   SEFOS(config-if)# exit
   SEFOS(config)#
   ```

関連情報

- 266 ページの「EMS モジュールの概要」
- 267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS コマンドのリストの表示」
- 270 ページの「SEFOS コマンドに関するヘルプの入手」
- 296 ページの「SEFOS からのログアウト」

▼ SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス

VLAN 構成モードへのアクセス時に、作成して構成する VLAN を最初に指定します。あとで、グローバル構成モードまたはインタフェース構成モードから VLAN を構成します。

1. **グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **VLAN 構成モードにアクセスします。**

   ```
   SEFOS(config)# vlan VLAN-ID
   ```

   ここで、*VLAN-ID* は、VLAN の番号 (1 - 4094) です。

   たとえば、初期構成用に ID が 13 の VLAN を作成するには、次を入力します。

   ```
   SEFOS(config)# vlan 13
   SEFOS(config-vlan)#
   ```

   これで、VLAN 13 の VLAN 構成モードに入りました。

3. **VLAN 構成モードで目的のタスクを実行します。**
   終了したら、VLAN 構成モードを終了します。

4. **VLAN 構成モードを終了します。**

   ```
   SEFOS(config-vlan)# exit
   SEFOS(config)#
   ```

関連情報

- 266 ページの「EMS モジュールの概要」
- 267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」
- 268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS コマンドのリストの表示」
- 270 ページの「SEFOS コマンドに関するヘルプの入手」
- 296 ページの「SEFOS からのログアウト」

▼ SEFOS コマンドのリストの表示

1. **コマンドのリストを表示する SEFOS モードにアクセスします。**
   参照先:

   - 30 ページの「SEFOS へのアクセス」

- 267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」
- 268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス」

2. **そのモードで使用可能なコマンドを一覧表示します。**

```
SEFOS# help

EXEC commands :
  archive download-sw /overwrite [ /reload ] { tftp://ip-address/filename | sftp://<user-
name>:<pass-word>@ip-address/filename | flash:filename}
  bcm
  clear config[default-config-restore <filename>]
  clear counters [ <interface-type> <interface-id> ]
  clear interfaces [ <interface-type> <interface-id> ] counters
  clear iss counters [bgp] [ospf] [rip] [rip6] [ospf3] [ipv4] [ipv6]
  clear line vty {<line-number(2-9)> | all}
  clear screen
...
  exit
  firmware upgrade { tftp://ip-address/filename} {flash:normal | flash:fallback}
--More--
```

3. **リストを進むにはスペースバーを押します。**

関連情報

- 266 ページの「EMS モジュールの概要」
- 267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」
- 268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス」
- 270 ページの「SEFOS コマンドに関するヘルプの入手」
- 296 ページの「SEFOS からのログアウト」

▼ SEFOS コマンドに関するヘルプの入手

1. **コマンドを発行する SEFOS モードにアクセスします。**

   参照先:

   - 30 ページの「SEFOS へのアクセス」
   - 267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」
   - 268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」
   - 269 ページの「SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス」

2. **コマンドに関するヘルプを入手します。**

```
SEFOS# help first_word
```

first_word はコマンド文字列の最初の単語です。

注記 - no で始まるコマンドの場合、**help no** と入力する必要があります。

たとえば、show clock コマンドに関するヘルプを入手するには、次を入力します。

```
SEFOS# help show

EXEC commands :
  show access-lists [[{ip | mac}] <access-list-number (1-65535)> ]
  [Desc]: Display access lists configuration
  show aliases
  [Desc]: Displays the aliases.
  show arp spoofing [interface <ifXtype> <ifnum>]
  [Desc]: Shows the arp spoofing details.
...
  show clock
  [Desc]: Displays the system clock.
...
  show wildcard {mac-address <mac_addr> | broadcast}  [switch <context_name>]
  [Desc]: Displays wildcard Mac Address Table entries
SEFOS#
```

関連情報

- 266 ページの「EMS モジュールの概要」
- 267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」
- 268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS コマンドのリストの表示」
- 296 ページの「SEFOS からのログアウト」

ネットワーク情報の表示 (SEFOS)

これらのタスクでは、EMS によって管理される Ethernet ネットワークに関する情報を表示します。

- 272 ページの「すべてのポートの基本的なポートステータスの表示 (SEFOS)」
- 273 ページの「あるポートの詳細なステータスの表示 (SEFOS)」
- 274 ページの「Ethernet スイッチの IP アドレスの表示 (SEFOS)」

関連情報

- 265 ページの「EMS モジュールおよび SEFOS モードの理解」
- 274 ページの「ログおよび履歴の表示 (SEFOS)」

- 276 ページの「ハードウェアパラメータの管理 (SEFOS)」
- 281 ページの「ユーザーの管理 (SEFOS)」
- 283 ページの「VLAN の管理 (SEFOS)」
- 290 ページの「SNMP の管理 (SEFOS)」

▼ すべてのポートの基本的なポートステータスの表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **すべてのポートの基本的なステータスを表示します。**

```
SEFOS# show interfaces status

Port        Status           Duplex   Speed       Negotiation     Capability
----        ------           ------   -----       -----------     ----------
Gi0/1       not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/2       not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/3       not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/4       not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/5       not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/6       not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/7       not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/8       not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/9       not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/10      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/11      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/12      connected        Full     1 Gbps      Auto            Auto-MDIX on
Gi0/13      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/14      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/15      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/16      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/17      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/18      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/19      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/20      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/21      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/22      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/23      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/24      not connected    Half     -           Auto            Auto-MDIX on
Gi0/25      connected        Full     1 Gbps      Auto            Auto-MDIX on
Gi0/26      connected        Full     1 Gbps      Auto            Auto-MDIX on
Ex0/1       not connected    Full     10 Gbps     No-Negotiation  Auto-MDIX on
Ex0/2       not connected    Full     10 Gbps     No-Negotiation  Auto-MDIX on
SEFOS#
```

関連情報

- 273 ページの「あるポートの詳細なステータスの表示 (SEFOS)」
- 274 ページの「Ethernet スイッチの IP アドレスの表示 (SEFOS)」

▼ あるポートの詳細なステータスの表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **ポートの詳細なステータスを表示します。**

   ```
   SEFOS# show interfaces interface-type 0/port
   ```

   ここでは:

   - *interface-type* は、1GbE RJ-45 ポートの場合は `gigabitethernet` で、10GbE SFP+ ポートの場合は `extreme-ethernet` です。
   - *port* は、コネクタの近くに出力されるポート番号です。

   たとえば、ポート 12 の詳細なステータスを表示するには、次を入力します。

```
SEFOS# show interfaces gigabitethernet 0/12

Gi0/12 up, line protocol is up (connected)
Bridge Port Type: Customer Bridge Port

Interface SubType: gigabitEthernet
Interface Alias: Slot0/12

Hardware Address is 00:01:02:03:04:10
MTU  1500 bytes, Full duplex, 1 Gbps,  Auto-Negotiation
HOL Block Prevention disabled.
CPU Controlled Learning disabled.
Auto-MDIX on
Input flow-control is off,output flow-control is off

Link Up/Down Trap is enabled

VLANs Allowed in Trunk Mode : 1-4094

Reception Counters
   Octets                   : 924037937
   Unicast Packets          : 617468
   Multicast Packets        : 36885
   Broadcast Packets        : 12622
   Discarded Packets        : 3604
   Error Packets            : 0
   Unknown Protocol         : 0

Transmission Counters
   Octets                   : 25085216
   Unicast Packets          : 318888
   Multicast Packets        : 13960
   Broadcast Packets        : 29
   Discarded Packets        : 0
   Error Packets            : 0
SEFOS#
```

関連情報

- 272 ページの「すべてのポートの基本的なポートステータスの表示 (SEFOS)」
- 274 ページの「Ethernet スイッチの IP アドレスの表示 (SEFOS)」

▼ Ethernet スイッチの IP アドレスの表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **Ethernet スイッチの IP アドレスを表示します。**

```
SEFOS# show ip interface

vlan1 is up, line protocol is up
Internet Address is 10.0.0.1/8
Broadcast Address  10.255.255.255
SEFOS#
```

関連情報

- 272 ページの「すべてのポートの基本的なポートステータスの表示 (SEFOS)」
- 273 ページの「あるポートの詳細なステータスの表示 (SEFOS)」

ログおよび履歴の表示 (SEFOS)

これらのタスクでは、ログ情報を表示します。

- 274 ページの「syslog ステータスの表示 (SEFOS)」
- 275 ページの「システムログ情報の表示 (SEFOS)」
- 276 ページの「コマンド履歴の表示 (SEFOS)」

関連情報

- 265 ページの「EMS モジュールおよび SEFOS モードの理解」
- 271 ページの「ネットワーク情報の表示 (SEFOS)」
- 276 ページの「ハードウェアパラメータの管理 (SEFOS)」
- 281 ページの「ユーザーの管理 (SEFOS)」
- 283 ページの「VLAN の管理 (SEFOS)」
- 290 ページの「SNMP の管理 (SEFOS)」

▼ syslog ステータスの表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**

30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **syslog ステータスを表示します。**

```
SEFOS# show syslog information

System Log Information
----------------------
Syslog Localstorage   : Disabled

Syslog Mail Option    : Disabled

Syslog Port    : 514

Syslog Role    : Device

Smtp Authentication   : None
SEFOS#
```

関連情報

- 275 ページの「システムログ情報の表示 (SEFOS)」
- 276 ページの「コマンド履歴の表示 (SEFOS)」

▼ システムログ情報の表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **システムログに関する情報を表示します。**

```
SEFOS# show logging

System Log Information
----------------------
Syslog logging   : enabled(Number of messages 0)
Console logging  : enabled(Number of messages 1)
TimeStamp option : enabled
Severity logging     : Critical
Facility         : Default (local0)
Buffered size    : 50 Entries

LogBuffer(1 Entries, 1028 bytes)
<129>Jan  1 03:41:27 ISS CLI Attempt to login as root via telnet from 127.0.0.1 Succeeded
SEFOS#
```

関連情報

- 274 ページの「syslog ステータスの表示 (SEFOS)」
- 276 ページの「コマンド履歴の表示 (SEFOS)」

▼ コマンド履歴の表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **コマンド履歴を表示します。**

```
SEFOS# show history
 1  show interfaces status
 2  show interfaces gigabitethernet 0/12
 3  show ip interface
 4  show spanning-tree
 5  show spanning tree
 6  help show
 7  show syslog information
 8  show logging
 9  show history
SEFOS#
```

関連情報

- 274 ページの「syslog ステータスの表示 (SEFOS)」
- 275 ページの「システムログ情報の表示 (SEFOS)」

ハードウェアパラメータの管理 (SEFOS)

これらのタスクでは、EMS ハードウェア環境を管理します。

- 277 ページの「環境パラメータの表示 (SEFOS)」
- 277 ページの「SEFOS NVRAM 構成の表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「EMS のバージョン、部品番号、およびステータスの表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「日付と時間の表示 (SEFOS)」
- 280 ページの「画面のクリア (SEFOS)」
- 280 ページの「SEFOS 構成の Oracle ILOM への書き込み (SEFOS)」

関連情報

- 265 ページの「EMS モジュールおよび SEFOS モードの理解」
- 271 ページの「ネットワーク情報の表示 (SEFOS)」
- 274 ページの「ログおよび履歴の表示 (SEFOS)」
- 281 ページの「ユーザーの管理 (SEFOS)」

- 283 ページの「VLAN の管理 (SEFOS)」
- 290 ページの「SNMP の管理 (SEFOS)」

▼ 環境パラメータの表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   296 ページの「SEFOS からのログアウト」を参照してください。

2. **環境パラメータを表示します。**

```
SEFOS# show env all

RAM Threshold                    : 100%
Current RAM Usage                : 49%
CPU Threshold                    : 100%
Current CPU Usage                : 13%
Fan Status   1                   : Operational
Fan Status   2                   : Operational
Fan Status   3                   : Operational
Fan Status   4                   : Operational
Fan Status   5                   : Operational
Min power supply                 : 100v
Max power supply                 : 230v
Current power supply             : 230v
Max Temperature                  : 40C
Min Temperature                  : 10C
Current Temperature              : 40C
Flash Threshold                  : 100%
Current Flash Usage              : 100%
Mgmt Port Routing                : Disabled


SEFOS#
```

関連情報

- 277 ページの「SEFOS NVRAM 構成の表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「EMS のバージョン、部品番号、およびステータスの表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「日付と時間の表示 (SEFOS)」
- 280 ページの「画面のクリア (SEFOS)」
- 280 ページの「SEFOS 構成の Oracle ILOM への書き込み (SEFOS)」

▼ SEFOS NVRAM 構成の表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   296 ページの「SEFOS からのログアウト」を参照してください。

2. **NVRAM 構成を表示します。**

```
SEFOS# show nvram

Default IP Address                     : 10.0.0.1
Default Subnet Mask                    : 255.0.0.0
Default IP Address Config Mode         : Manual
Default IP Address Allocation Protocol : DHCP
Switch Base MAC Address                : 00:01:02:03:04:05
Default Interface Name                 : Gi0/1
Default RM Interface Name              : NONE
Config Restore Option                  : No restore
Config Save Option                     : No save
Auto Save                              : Disable
Incremental Save                       : Disable
Roll Back                              : Enable
Config Save IP Address                 : 0.0.0.0
Config Save Filename                   : switch.conf
Config Restore Filename                : switch.conf
PIM Mode                               : Sparse Mode
IGS Forwarding Mode                    : MAC based
Cli Serial Console                     : No
SNMP EngineID                          : 80.00.08.1c.04.46.53
SNMP Engine Boots                      : 3
Default VLAN Identifier                : 1
Stack PortCount                        : 0
ColdStandby                            : Disable
Store Default Value                    : Disable
Vrf Unique Mac                         : Disable
Hitless Restart  Flag                  : Disable
Hardware Version                       : 5.9.1
Firmware Version                       : 6.7.2
Hardware Part Number                   : 1-0-0
Software Serial Number                 : 1-0-0
Software Version                       : 7.1.0
Switch Name                            : SEFOS
RM Heart Beat Mode                     : Internal
RM Redundancy Type                     : Hot
RM Data Plane Type                     : Shared
RM Type                                : OOB
NPAPI mode                             : Synchronous
TimeStamp Method                       : TransHardware
Restore Flag                           : Enabled
Dynamic Port Count                     : 28
FIPS operation mode                    : Disabled
Restore Option                         : Disabled
Bridge Mode                            : Customer Bridge
Debugging Log File Location            :
Management Port                        : Disabled
Automatic Port Create Flag             : Enabled

IMG_DUMP_PATH                          :

SEFOS#
```

関連情報

- 277 ページの「環境パラメータの表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「EMS のバージョン、部品番号、およびステータスの表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「日付と時間の表示 (SEFOS)」
- 280 ページの「画面のクリア (SEFOS)」

- 280 ページの「SEFOS 構成の Oracle ILOM への書き込み (SEFOS)」

▼ EMS のバージョン、部品番号、およびステータスの表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   296 ページの「SEFOS からのログアウト」を参照してください。

2. **EMS 情報を表示します。**

```
SEFOS# show system information

Hardware Version                 : 5.9.1
Firmware Version                 : 6.7.2

Hardware Part Number             : 1-0-0
Software Serial Number           : 1-0-0
Software Version                 : 7.1.0
Switch Name                      : SEFOS
System Contact                   : Oracle Corp, USA
System Location                  : Oracle Corp, USA
Logging Option                   : Console Logging
Login Authentication Mode        : Local
Config Save Status               : Not Initiated
Remote Save Status               : Not Initiated
Config Restore Status            : Not Initiated
Traffic Separation Control       : none

SEFOS#
```

関連情報

- 277 ページの「環境パラメータの表示 (SEFOS)」
- 277 ページの「SEFOS NVRAM 構成の表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「日付と時間の表示 (SEFOS)」
- 280 ページの「画面のクリア (SEFOS)」
- 280 ページの「SEFOS 構成の Oracle ILOM への書き込み (SEFOS)」

▼ 日付と時間の表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   296 ページの「SEFOS からのログアウト」を参照してください。

2. **日付と時間を表示します。**

```
SEFOS# show clock
```

```
 Sun Dec 31 04:28:57 2000 (UTC +00:00)
SEFOS#
```

注記 - SEFOS の日付と時間は、明示的には設定されていません。代わりに、EMS が Oracle ILOM から日付と時間を取得します。

関連情報

- 277 ページの「環境パラメータの表示 (SEFOS)」
- 277 ページの「SEFOS NVRAM 構成の表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「EMS のバージョン、部品番号、およびステータスの表示 (SEFOS)」
- 280 ページの「画面のクリア (SEFOS)」
- 280 ページの「SEFOS 構成の Oracle ILOM への書き込み (SEFOS)」

▼ 画面のクリア (SEFOS)

- **SEFOS の特権 EXEC モード内から画面をクリアします。**

```
SEFOS# clear screen
```

関連情報

- 277 ページの「環境パラメータの表示 (SEFOS)」
- 277 ページの「SEFOS NVRAM 構成の表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「EMS のバージョン、部品番号、およびステータスの表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「日付と時間の表示 (SEFOS)」
- 280 ページの「SEFOS 構成の Oracle ILOM への書き込み (SEFOS)」

▼ SEFOS 構成の Oracle ILOM への書き込み (SEFOS)

SEFOS 構成は Oracle ILOM に書き込むことができるため、Oracle ILOM 構成がバックアップされると、SEFOS 構成もバックアップされます。Oracle ILOM 構成が復元されると、SEFOS 構成も復元されます。

1. **SEFOS にアクセスします。**
   296 ページの「SEFOS からのログアウト」を参照してください。
2. **SEFOS 構成を Oracle ILOM に書き込みます。**

```
SEFOS# write startup-config
Building configuration ...
[OK]
SEFOS#
```

関連情報

- 277 ページの「環境パラメータの表示 (SEFOS)」
- 277 ページの「SEFOS NVRAM 構成の表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「EMS のバージョン、部品番号、およびステータスの表示 (SEFOS)」
- 279 ページの「日付と時間の表示 (SEFOS)」
- 280 ページの「画面のクリア (SEFOS)」

ユーザーの管理 (SEFOS)

これらのタスクでは、SEFOS ユーザーを管理します。

- 281 ページの「現在オンラインの SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS)」
- 282 ページの「構成済み SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS)」
- 282 ページの「SEFOS ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 283 ページの「SEFOS ユーザーの削除 (SEFOS)」

関連情報

- 265 ページの「EMS モジュールおよび SEFOS モードの理解」
- 271 ページの「ネットワーク情報の表示 (SEFOS)」
- 274 ページの「ログおよび履歴の表示 (SEFOS)」
- 276 ページの「ハードウェアパラメータの管理 (SEFOS)」
- 283 ページの「VLAN の管理 (SEFOS)」
- 290 ページの「SNMP の管理 (SEFOS)」

▼ 現在オンラインの SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **オンラインの SEFOS ユーザーを表示します。**

```
SEFOS# show users
```

```
 Line           User           Peer-Address
2 tel           root           127.0.0.1
SEFOS#
```

関連情報

- 282 ページの「構成済み SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS)」
- 282 ページの「SEFOS ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 283 ページの「SEFOS ユーザーの削除 (SEFOS)」

▼ 構成済み SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **構成済み SEFOS ユーザーを表示します。**

```
SEFOS# listuser

USER                    MODE                  PRIVILEGE
root                     /                          15
guest                    /                          1
SEFOS#
```

関連情報

- 281 ページの「現在オンラインの SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS)」
- 282 ページの「SEFOS ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 283 ページの「SEFOS ユーザーの削除 (SEFOS)」

▼ SEFOS ユーザーの作成 (SEFOS)

1. **SEFOS グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **SEFOS ユーザーを作成します。**

SEFOS# **username** *username* **password** *passwd* **privilege** *level*

ここでは:

- *level* はユーザーの特権レベルです。1 が最低で、15 が最高です。
- *passwd* はユーザーのパスワードです。
- *username* はユーザーの名前です。

たとえば、パスワード Sef0sSef0$、特権 1 を使用してユーザー myuser を作成するには、次を入力します。

```
SEFOS(config)# username myuser password Sef0sSef0$ privilege 1
SEFOS(config)#
```

関連情報

- 281 ページの「現在オンラインの SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS)」
- 282 ページの「構成済み SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS)」
- 283 ページの「SEFOS ユーザーの削除 (SEFOS)」

▼ SEFOS ユーザーの削除 (SEFOS)

1. **SEFOS グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **SEFOS ユーザーを削除します。**

   ```
   SEFOS# no username username
   ```

   username はユーザーの名前です。
   たとえば、ユーザー myuser を削除するには、次を入力します。

   ```
   SEFOS(config)# no username myuser
   SEFOS(config)#
   ```

関連情報

- 281 ページの「現在オンラインの SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS)」
- 282 ページの「構成済み SEFOS ユーザーの表示 (SEFOS)」
- 282 ページの「SEFOS ユーザーの作成 (SEFOS)」

VLAN の管理 (SEFOS)

これらのタスクでは、EMS VLAN を管理します。

- 284 ページの「VLAN の表示 (SEFOS)」
- 285 ページの「ポートの VLAN 構成情報の表示 (SEFOS)」
- 286 ページの「VLAN の有効化 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN の作成 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN へのポートの追加 (SEFOS)」

- 288 ページの「VLAN からのポートの削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の無効化 (SEFOS)」

関連情報

- 265 ページの「EMS モジュールおよび SEFOS モードの理解」
- 271 ページの「ネットワーク情報の表示 (SEFOS)」
- 274 ページの「ログおよび履歴の表示 (SEFOS)」
- 276 ページの「ハードウェアパラメータの管理 (SEFOS)」
- 281 ページの「ユーザーの管理 (SEFOS)」
- 290 ページの「SNMP の管理 (SEFOS)」

▼ VLAN の表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **構成済みの VLAN を表示します。**

```
SEFOS# show vlan

Vlan database
-------------
Vlan ID             : 1
Member Ports        : Gi0/1, Gi0/2, Gi0/3, Gi0/4, Gi0/5, Gi0/6
                      Gi0/7, Gi0/8, Gi0/9, Gi0/10, Gi0/11, Gi0/12
                      Gi0/13, Gi0/14, Gi0/15, Gi0/16, Gi0/17, Gi0/18
                      Gi0/19, Gi0/20, Gi0/21, Gi0/22, Gi0/23, Gi0/24
                      Gi0/25, Gi0/26, Ex0/1, Ex0/2
Untagged Ports      : Gi0/1, Gi0/2, Gi0/3, Gi0/4, Gi0/5, Gi0/6
                      Gi0/7, Gi0/8, Gi0/9, Gi0/10, Gi0/11, Gi0/12
                      Gi0/13, Gi0/14, Gi0/15, Gi0/16, Gi0/17, Gi0/18
                      Gi0/19, Gi0/20, Gi0/21, Gi0/22, Gi0/23, Gi0/24
                      Gi0/25, Gi0/26, Ex0/1, Ex0/2
Forbidden Ports     : None
Blocked Trunk Ports : None
Name                :
Status              : Permanent
Egress Ethertype    : 0x8100
----------------------------------------------------
Vlan ID             : 4022
Member Ports        : Gi0/12
Untagged Ports      : None
Forbidden Ports     : None
Blocked Trunk Ports : None
Name                :
Status              : Dynamic Gvrp
Egress Ethertype    : 0x8100
----------------------------------------------------

SEFOS#
```

関連情報

- 285 ページの「ポートの VLAN 構成情報の表示 (SEFOS)」
- 286 ページの「VLAN の有効化 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN の作成 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN へのポートの追加 (SEFOS)」
- 288 ページの「VLAN からのポートの削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の無効化 (SEFOS)」

▼ ポートの VLAN 構成情報の表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**

   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **ポートの VLAN 構成情報を表示します。**

   ```
   SEFOS# show vlan port config port interface-type 0/port
   ```

   ここでは:

   - *interface-type* は、1GbE RJ-45 ポートの場合は `gigabitethernet` で、10GbE SFP+ ポートの場合は `extreme-ethernet` です。
   - *port* は、コネクタの近くに出力されるポート番号です。

   たとえば、ポート 12 の VLAN 構成情報を表示するには、次を入力します。

   ```
   SEFOS# show vlan port config port gigabitethernet 0/12

   Vlan Port configuration table
   ------------------------------
   Port Gi0/12
    Bridge Port Type                    : Customer Bridge Port
    Port Vlan ID                        : 1
    Port Acceptable Frame Type          : Admit All
    Port Mac Learning Status            : Enabled
    Port Ingress Filtering              : Disabled
    Port Mode                           : Hybrid
    Port Gvrp Status                    : Enabled
    Port Gmrp Status                    : Enabled
    Port Gvrp Failed Registrations      : 0
    Gvrp last pdu origin                : 00:10:e0:80:4d:19
    Port Restricted Vlan Registration   : Disabled
    Port Restricted Group Registration  : Disabled
    Mac Based Support                   : Disabled
    Subnet Based Support                : Disabled
    Port-and-Protocol Based Support     : Enabled
    Default Priority                    : 0
    Dot1x Protocol Tunnel Status        : Peer
    LACP Protocol Tunnel Status         : Peer
    Spanning Tree Tunnel Status         : Peer
    MVRP Protocol Tunnel Status         : Peer
   ```

```
 MMRP Protocol Tunnel Status         : Peer
 GVRP Protocol Tunnel Status         : Peer
 GMRP Protocol Tunnel Status         : Peer
 IGMP Protocol Tunnel Status         : Peer
 ELMI Protocol Tunnel Status         : Peer
 LLDP Protocol Tunnel Status         : Peer
 ECFM Protocol Tunnel Status         : Peer
 Filtering Utility Criteria          : Default
 Port Protected Status               : Disabled
 Ingress EtherType                   : 0x8100
 Egress EtherType                    : 0x8100
 Egress TPID Type                    : Portbased
 Allowable TPID 1                    : 0x0
 Allowable TPID 2                    : 0x0
 Allowable TPID 3                    : 0x0
 ------------------------------------------------------

SEFOS#
```

関連情報

- 284 ページの「VLAN の表示 (SEFOS)」
- 286 ページの「VLAN の有効化 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN の作成 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN へのポートの追加 (SEFOS)」
- 288 ページの「VLAN からのポートの削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の無効化 (SEFOS)」

▼ VLAN の有効化 (SEFOS)

1. **SEFOS グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **VLAN を有効にします。**

```
SEFOS(config)# no shutdown vlan
SEFOS(config)#
```

関連情報

- 284 ページの「VLAN の表示 (SEFOS)」
- 285 ページの「ポートの VLAN 構成情報の表示 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN の作成 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN へのポートの追加 (SEFOS)」
- 288 ページの「VLAN からのポートの削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の無効化 (SEFOS)」

▼ VLAN の作成 (SEFOS)

1. **SEFOS グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **VLAN を作成します。**

   ```
   SEFOS(config)# vlan VLAN-ID
   ```

   ここで、*VLAN-ID* は、VLAN の番号 (1 - 4094) です。

   たとえば、ID が 13 の VLAN を作成するには、次を入力します。

   ```
   SEFOS(config)# vlan 13
   SEFOS(config-vlan)# vlan active
   SEFOS(config-vlan)#
   ```

3. **VLAN 構成モードを終了します。**

   ```
   SEFOS(config-vlan)# exit
   SEFOS(config)#
   ```

関連情報

- 284 ページの「VLAN の表示 (SEFOS)」
- 285 ページの「ポートの VLAN 構成情報の表示 (SEFOS)」
- 286 ページの「VLAN の有効化 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN へのポートの追加 (SEFOS)」
- 288 ページの「VLAN からのポートの削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の無効化 (SEFOS)」

▼ VLAN へのポートの追加 (SEFOS)

1. **構成するインタフェースの SEFOS インタフェース構成モードにアクセスします。**
   268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」を参照してください。

   たとえば、ポート 2 の SEFOS インタフェース構成モードにアクセスするには:

   ```
   SEFOS(config)# interface gigabitethernet 0/2
   SEFOS(config-if)#
   ```

2. **VLAN にポートを追加します。**

   ```
   SEFOS(config-if)# switchport access vlan VLAN-ID
   ```

   ここで、*VLAN-ID* は、VLAN の番号 (1 - 4094) です。

たとえば、ID が 13 の VLAN にポート 2 を追加するには、次を入力します。

```
SEFOS(config-if)# switchport access vlan 13
SEFOS(config-if)#
```

3. **SEFOS インタフェース構成モードを終了します。**

```
SEFOS(config-if)# exit
SEFOS(config)#
```

関連情報

- 284 ページの「VLAN の表示 (SEFOS)」
- 285 ページの「ポートの VLAN 構成情報の表示 (SEFOS)」
- 286 ページの「VLAN の有効化 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN の作成 (SEFOS)」
- 288 ページの「VLAN からのポートの削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の無効化 (SEFOS)」

▼ VLAN からのポートの削除 (SEFOS)

1. **構成するインタフェースの SEFOS インタフェース構成モードにアクセスします。**
268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」を参照してください。
たとえば、ポート 2 の SEFOS インタフェース構成モードにアクセスするには、次を入力します。

```
SEFOS(config)# interface gigabitethernet 0/2
SEFOS(config-if)#
```

2. **VLAN からポートを削除します。**
この場合、ポート 2 が ID 13 の VLAN から削除されます。

```
SEFOS(config-if)# no switchport access vlan
SEFOS(config-if)#
```

3. **SEFOS インタフェース構成モードを終了します。**

```
SEFOS(config-if)# exit
SEFOS(config)#
```

関連情報

- 284 ページの「VLAN の表示 (SEFOS)」
- 285 ページの「ポートの VLAN 構成情報の表示 (SEFOS)」
- 286 ページの「VLAN の有効化 (SEFOS)」

- 287 ページの「VLAN の作成 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN へのポートの追加 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の無効化 (SEFOS)」

▼ VLAN の削除 (SEFOS)

1. **SEFOS グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **VLAN を削除します。**

   ```
   SEFOS(config)# no vlan VLAN-ID
   ```

   ここで、*VLAN-ID* は、VLAN の番号 (1 - 4094) です。
   たとえば、ID が 13 の VLAN を削除するには、次を入力します。

   ```
   SEFOS(config)# no vlan 13
   SEFOS(config)#
   ```

関連情報

- 284 ページの「VLAN の表示 (SEFOS)」
- 285 ページの「ポートの VLAN 構成情報の表示 (SEFOS)」
- 286 ページの「VLAN の有効化 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN の作成 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN へのポートの追加 (SEFOS)」
- 288 ページの「VLAN からのポートの削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の無効化 (SEFOS)」

▼ VLAN の無効化 (SEFOS)

1. **SEFOS グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **VLAN を無効にします。**

   ```
   SEFOS(config)# shutdown vlan
   SEFOS(config)#
   ```

関連情報

- 284 ページの「VLAN の表示 (SEFOS)」

- 285 ページの「ポートの VLAN 構成情報の表示 (SEFOS)」
- 286 ページの「VLAN の有効化 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN の作成 (SEFOS)」
- 287 ページの「VLAN へのポートの追加 (SEFOS)」
- 288 ページの「VLAN からのポートの削除 (SEFOS)」
- 289 ページの「VLAN の削除 (SEFOS)」

SNMP の管理 (SEFOS)

これらのタスクでは、EMS SNMP パラメータを管理します。

- 290 ページの「SNMP 情報の表示 (SEFOS)」
- 291 ページの「SNMP グループ情報の表示 (SEFOS)」
- 292 ページの「SNMP ユーザー情報の表示 (SEFOS)」
- 293 ページの「SNMP コミュニティー情報の表示 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP グループの作成 (SEFOS)」
- 295 ページの「SNMP グループの削除 (SEFOS)」
- 296 ページの「SNMP ユーザーの削除 (SEFOS)」

関連情報

- 265 ページの「EMS モジュールおよび SEFOS モードの理解」
- 271 ページの「ネットワーク情報の表示 (SEFOS)」
- 274 ページの「ログおよび履歴の表示 (SEFOS)」
- 276 ページの「ハードウェアパラメータの管理 (SEFOS)」
- 281 ページの「ユーザーの管理 (SEFOS)」
- 283 ページの「VLAN の管理 (SEFOS)」

▼ SNMP 情報の表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **SNMP 情報を表示します。**

```
SEFOS# show snmp

 0 SNMP Packets Input
     0 Bad SNMP Version errors
```

```
    0 Unknown community name
    0 Get request PDUs
    0 Get Next PDUs
    0 Set request PDUs

0 SNMP Packets Output
    0 Too big errors
    0 No such name errors
    0 Bad value errors
    0 General errors
    0 Trap PDUs

0 SNMP Rollback failures

SNMP Manager-role output packets
    0 Drops

SNMP Informs:
    0 Inform Requests generated
    0 Inform Responses received
    0 Inform messages Dropped
    0 Inform Requests awaiting Acknowledgement

SNMP Trap Listen Port is 162

snmp agent port : 161

SEFOS#
```

関連情報

- 291 ページの「SNMP グループ情報の表示 (SEFOS)」
- 292 ページの「SNMP ユーザー情報の表示 (SEFOS)」
- 293 ページの「SNMP コミュニティー情報の表示 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP グループの作成 (SEFOS)」
- 295 ページの「SNMP グループの削除 (SEFOS)」
- 296 ページの「SNMP ユーザーの削除 (SEFOS)」

▼ SNMP グループ情報の表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **SNMP グループ情報を表示します。**

```
SEFOS# show snmp group

Security Model : v1
Security Name  : none
Group Name     : iso
Storage Type   : Non-volatile
Row Status     : Active
------------------------------
```

```
Security Model : v2c
Security Name  : none
Group Name     : iso
Storage Type   : Non-volatile
Row Status     : Active
------------------------------
Security Model : v3
Security Name  : noAuthUser
Group Name     : noAuthUser
Storage Type   : Non-volatile
Row Status     : Active
------------------------------
Security Model : v3
Security Name  : templateMD5
Group Name     : noAuthUser
Storage Type   : Non-volatile
Row Status     : Active
------------------------------
Security Model : v3
Security Name  : templateSHA
Group Name     : noAuthUser
Storage Type   : Non-volatile
Row Status     : Active
------------------------------

SEFOS#
```

関連情報

- 290 ページの「SNMP 情報の表示 (SEFOS)」
- 292 ページの「SNMP ユーザー情報の表示 (SEFOS)」
- 293 ページの「SNMP コミュニティー情報の表示 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP グループの作成 (SEFOS)」
- 295 ページの「SNMP グループの削除 (SEFOS)」
- 296 ページの「SNMP ユーザーの削除 (SEFOS)」

▼ SNMP ユーザー情報の表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **SNMP ユーザー情報を表示します。**

```
SEFOS# show snmp user

Engine ID               : 80.00.08.1c.04.46.53
User                    : noAuthUser
Authentication Protocol : None
Privacy Protocol        : None
Storage Type            : Non-volatile
Row Status              : Active
------------------------------
Engine ID               : 80.00.08.1c.04.46.53
```

```
User                    : templateMD5
Authentication Protocol : MD5
Privacy Protocol        : None
Storage Type            : Non-volatile
Row Status              : Active
-----------------------------
Engine ID               : 80.00.08.1c.04.46.53
User                    : templateSHA
Authentication Protocol : SHA
Privacy Protocol        : DES_CBC
Storage Type            : Non-volatile
Row Status              : Active
-----------------------------

SEFOS#
```

関連情報

- 290 ページの「SNMP 情報の表示 (SEFOS)」
- 291 ページの「SNMP グループ情報の表示 (SEFOS)」
- 293 ページの「SNMP コミュニティー情報の表示 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP グループの作成 (SEFOS)」
- 295 ページの「SNMP グループの削除 (SEFOS)」
- 296 ページの「SNMP ユーザーの削除 (SEFOS)」

▼ SNMP コミュニティー情報の表示 (SEFOS)

1. **SEFOS にアクセスします。**
   30 ページの「SEFOS へのアクセス」を参照してください。

2. **SNMP コミュニティー情報を表示します。**

```
SEFOS# show snmp community

Community Index : NETMAN
Community Name  : NETMAN
Security Name   : none
Context Name    :
Context EngineID: 80.00.08.1c.04.46.53
Transport Tag   :
Storage Type    : Non-volatile
Row Status      : Active
-----------------------------
Community Index : PUBLIC
Community Name  : PUBLIC
Security Name   : none
Context Name    :
Context EngineID: 80.00.08.1c.04.46.53
Transport Tag   :
Storage Type    : Non-volatile
Row Status      : Active
-----------------------------
```

```
SEFOS#
```

関連情報

- 290 ページの「SNMP 情報の表示 (SEFOS)」
- 291 ページの「SNMP グループ情報の表示 (SEFOS)」
- 292 ページの「SNMP ユーザー情報の表示 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP グループの作成 (SEFOS)」
- 295 ページの「SNMP グループの削除 (SEFOS)」
- 296 ページの「SNMP ユーザーの削除 (SEFOS)」

▼ SNMP ユーザーの作成 (SEFOS)

1. **SEFOS グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **SNMP ユーザーを作成します。**

   ```
   SEFOS(config)# snmp user UserName
   ```

   UserName はユーザーの名前です。
   たとえば、`myuser` という SNMP ユーザーを作成するには、次を入力します。

   ```
   SEFOS(config)# snmp user myuser
   SEFOS(config)#
   ```

関連情報

- 290 ページの「SNMP 情報の表示 (SEFOS)」
- 291 ページの「SNMP グループ情報の表示 (SEFOS)」
- 292 ページの「SNMP ユーザー情報の表示 (SEFOS)」
- 293 ページの「SNMP コミュニティー情報の表示 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP グループの作成 (SEFOS)」
- 295 ページの「SNMP グループの削除 (SEFOS)」
- 296 ページの「SNMP ユーザーの削除 (SEFOS)」

▼ SNMP グループの作成 (SEFOS)

1. **SEFOS グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **SNMP グループを作成します。**

```
SEFOS(config)# snmp group GroupName user UserName security-model v1|v2c|v3
```

ここでは:

- *GroupName* は SNMP グループの名前です。
- *UserName* はユーザーの名前です。

たとえば、ユーザー `myuser` およびセキュリティーモデル `v1` を含む SNMP グループ `mygroup` を作成するには、次を入力します。

```
SEFOS(config)# snmp group mygroup user myuser security-model v1
SEFOS(config)#
```

関連情報

- 290 ページの「SNMP 情報の表示 (SEFOS)」
- 291 ページの「SNMP グループ情報の表示 (SEFOS)」
- 292 ページの「SNMP ユーザー情報の表示 (SEFOS)」
- 293 ページの「SNMP コミュニティー情報の表示 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 295 ページの「SNMP グループの削除 (SEFOS)」
- 296 ページの「SNMP ユーザーの削除 (SEFOS)」

▼ SNMP グループの削除 (SEFOS)

1. **SEFOS グローバル構成モードにアクセスします。**
267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **SNMP グループを削除します。**

```
SEFOS(config)# no snmp group GroupName user UserName security-model v1|v2c|v3
```

ここでは:

- *GroupName* は SNMP グループの名前です。
- *UserName* はユーザーの名前です。

たとえば、ユーザー `myuser` およびセキュリティーモデル `v1` を含む SNMP グループ `mygroup` を削除するには、次を入力します。

```
SEFOS(config)# no snmp group mygroup user myuser security-model v1
SEFOS(config)#
```

関連情報

- 290 ページの「SNMP 情報の表示 (SEFOS)」

- 291 ページの「SNMP グループ情報の表示 (SEFOS)」
- 292 ページの「SNMP ユーザー情報の表示 (SEFOS)」
- 293 ページの「SNMP コミュニティー情報の表示 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP グループの作成 (SEFOS)」
- 296 ページの「SNMP ユーザーの削除 (SEFOS)」

▼ SNMP ユーザーの削除 (SEFOS)

1. **SEFOS グローバル構成モードにアクセスします。**
   267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」を参照してください。

2. **SNMP ユーザーを削除します。**

```
SEFOS(config)# no snmp user UserName
```

UserName はユーザーの名前です。

たとえば、myuser という SNMP ユーザーを削除するには、次を入力します。

```
SEFOS(config)# no snmp user myuser
SEFOS(config)#
```

関連情報

- 290 ページの「SNMP 情報の表示 (SEFOS)」
- 291 ページの「SNMP グループ情報の表示 (SEFOS)」
- 292 ページの「SNMP ユーザー情報の表示 (SEFOS)」
- 293 ページの「SNMP コミュニティー情報の表示 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP ユーザーの作成 (SEFOS)」
- 294 ページの「SNMP グループの作成 (SEFOS)」
- 295 ページの「SNMP グループの削除 (SEFOS)」

▼ SEFOS からのログアウト

この手順の出力は、Oracle InfiniBand Switch IS2-46 からのものですが、ほかのスイッチからの出力も類似しています。

- **SEFOS でタスクが完了したら、次を入力します。**

```
SEFOS# exit
Connection closed by foreign host
```

```
Entering character mode
Escape character is '^]'.
start: The session with /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli has ended.
->
```

関連情報

- 266 ページの「EMS モジュールの概要」
- 267 ページの「SEFOS グローバル構成モードへのアクセス」
- 268 ページの「SEFOS インタフェース構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS VLAN 構成モードへのアクセス」
- 269 ページの「SEFOS コマンドのリストの表示」
- 270 ページの「SEFOS コマンドに関するヘルプの入手」

スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI を使用してスイッチのさまざまな側面を管理する方法について説明します。

説明	リンク
Oracle ILOM Web インタフェースについて理解します。	36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプを確認します。	36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
スイッチの各種要素とその構成を制御します。	300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
認証と承認を管理するさまざまなクライアントを制御します。	324 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
システムイベントおよびアラートの動作とそれらの記録方法を制御します。	361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」
SP とスイッチのネットワークプロパティーを制御します。	370 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI)」
接続とログインのプロパティーを制御します	378 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」
スイッチとのさまざまなインタフェースの方法とスイッチインタフェースの動作を制御します	383 ページの「スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI)」
スイッチのサポートの取得のプロパティーを制御します	411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
ユーザーアカウントおよびセッションを制御します	414 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
スイッチの追加の側面を制御します	422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 19 ページの「システム管理リソースの理解」
- 27 ページの「スイッチへのアクセス」
- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 119 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの理解」

- 193 ページの「SNMP MIB OID の理解」
- 265 ページの「EMS モジュールの理解」
- 423 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 537 ページの「ファームウェアの更新」

スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)

ほとんどのスイッチ管理タスクは、スイッチがオンラインになったあとにいつでも実行できます。ただし、一部の基本的なスイッチタスクは、スイッチが電源投入されるか、再起動するたびに、ほかのタスクの前に実行できます。

- 301 ページの「スイッチの IP アドレスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 302 ページの「スイッチコンソールプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 303 ページの「日時の構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 304 ページの「タイムゾーンの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 304 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 305 ページの「システム識別情報プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 306 ページの「スイッチ構成の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 312 ページの「ロケータ LED の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 313 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 314 ページの「SP の再起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 314 ページの「スイッチチップの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 316 ページの「SP の物理的存在のチェックの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 317 ページの「I/O モジュールの制御 (Oracle ILOM CLI)」 (仮想化スイッチ)

関連情報

- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの理解」
- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 324 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 370 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 378 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 383 ページの「スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」

- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチの IP アドレスの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチの IP アドレスは、スイッチの設置の一部として構成されます。スイッチの設置ガイドを参照してください。

スイッチの IP アドレスは、電源の再投入やアップグレードを行なったあとも構成された状態のままであるため、スイッチの IP アドレスを何度も構成する必要はありません。ただし、スイッチの IP アドレスを構成またはリセットする必要がある場合は、`nm3tool` を使用する必要があります。

注記 - `nm3tool` は、シャーシのアップグレードにも使用されます。540 ページの「スイッチファームウェアのアップグレード (`nm3tool`)」を参照してください。

---

1. **ssh または Oracle ILOM コンソールを使用して、NM3 へのリモート root セッションを開始します。**

   たとえば、スイッチへの SSH セッションを確立するには、次のように入力します。

   `ssh root``@`*`host_IP_address`*

   ログインすると、スイッチの bash プロンプトが表示されます。

2. **`nm3tool` を起動します。**

   ```
   [root@switch1 ~]# nm3tool
   ```

   ツールが起動すると、メニューが表示されます。

   注記 - `nm3tool` が起動すると、スイッチで迅速なヘルスチェックが実行されます。`nm3tool` が、問題が存在する可能性があると判定した場合は、続行する前に `nm3tool verify` コマンドを実行するように求められます。画面上の手順に従って、`nm3tool` が検証を完了したら、このタスクに戻ります。

   ---

3. **項目 `1` の横にあるスイッチの現在の IP アドレスを記録しておきます。**

4. **メニューから、`1` を選択し、画面上のプロンプトを完了します。**

   ```
   Main Menu (0.1.5.0)

   1. Change IP address     (current config: 10.11.12.13 current active: 10.11.12.13)
   2. Change hostname       (current config: switch1.us.company.com current active: switch1.
   us.company.com)
   3. Perform chassis upgrade
   (q to quit)
   ```

```
Select:3
Transfer method? (scp,http,ftp,tftp): scp
ip or hostname: 123.45.67.89
path/filename: firmware-0.1.6.0
username: root
password: ********
...

Upgrade complete.
[root@switch1 ~]#
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 102 ページの「ホストコンソール接続設定の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 101 ページの「シリアル接続のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチコンソールプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチへのコンソール接続のプロパティーを制御できます。たとえば、コンソールロギングを有効または無効にしたり、コンソールウィンドウに表示される行数を設定したりできます。

1. **コンソールロギングを有効にします。**

```
-> set /HOST/console/ logging=enabled
Set 'logging' to 'enabled'
->
```

2. **コンソールに表示される行数を設定します。**

```
-> set /HOST/console/ line_count=16
Set 'line_count' to '16'
->
```

3. **コンソールセッションで一時停止のプロンプトが表示されるまでの行数を設定します。**

```
-> set /HOST/console/ pause_count=99
Set 'pause_count' to '99'
->
```

4. **コンソールの表示を開始する場所、表示の先頭行からか、または終了行からかを設定します。**

```
-> set /HOST/console/ start_from=beginning
Set 'start_from' to 'beginning'
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 102 ページの「ホストコンソール接続設定の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 101 ページの「シリアル接続のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 日時の構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、日付、時間、およびタイムゾーンの維持をサポートするシステムクロックプロセッサがあります。通常、システムクロックにはスイッチの設置と、それをはじめてオンラインにすることの一部として、時間と日付情報がプログラミングされます。ただし、必要に応じていつでも日付と時間を変更できます。

注記 - スイッチがすでに NTP 用に構成されている場合、日付と時間の設定はスイッチに対して無効になります。スイッチが NTP 用に構成されている場合、スイッチは代わりに NTP 時間シグナルを使用します。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/clock datetime=MMDDhhmmYYYY
```

ここで、*MMDDhhmmYYYY* は、2 桁の月、日付、時間、分、および 4 桁の年です。

たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SP/clock datetime=101111112015
Set 'datetime' to '101111112015' [Sun Oct 11:11:00 2015]
->
```

注記 - スイッチのシステムクロックに追加の構成を使用できます。304 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 43 ページの「日付とタイムゾーンの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 304 ページの「タイムゾーンの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ タイムゾーンの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、日付、時間、およびタイムゾーンの維持をサポートするシステムクロックプロセッサがあります。デフォルトで、スイッチはデフォルトのタイムゾーンでプログラミングされますが、必要に応じていつでもタイムゾーンを変更できます。

1. **システムクロックの時間と日付を設定します。**
   303 ページの「日時の構成 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

2. **スイッチのタイムゾーンを設定します。**

```
-> set /SP/clock timezone=time-zone
```

time-zone はタイムゾーンの識別子です。

たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SP/clock timezone=CET
Set 'timezone' to 'CET'
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 43 ページの「日付とタイムゾーンの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 303 ページの「日時の構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)

多くのネットワークは、すべての NTP 互換デバイスを同期させる中央タイムキーパーとして NTP を使用しています。スイッチには、ネットワークで使用している NTP サーバーとシステムクロックを同期できるようにする NTP クライアントがあります。NTP サーバーを使用することは必須ではありませんが、使用する場合、このタスクを使用してスイッチの NTP クライアントを構成します。

1. **タイムサーバーの IP アドレスを設定します。**

```
-> set /SP/clients/ntp/server/number address=IP_address
```

ここでは:

- *number* は、最初のタイムサーバーの場合 1 で、2 番目のタイムサーバーの場合 2 です。

- *IP_address* はタイムサーバーの IP アドレスです。

たとえば、アドレス `123.45.67.89` および `123.45.67.88` のタイムサーバーを使用するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/ntp/server/1 address=123.45.67.89
Set 'address' to '123.45.67.89'
-> set /SP/clients/ntp/server/2 address=123.45.67.88
Set 'address' to '123.45.67.88'
->
```

2. **タイムサーバーの使用を開始します。**

```
-> set /SP/clock usentpserver=enabled
Set 'usentpserver' to 'enabled'
->
```

SP は、タイムサーバーを使用するように構成されます。

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 44 ページの「NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 43 ページの「日付とタイムゾーンの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ システム識別情報プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、システム全体と SP の識別情報プロパティーがあります。システム識別情報プロパティーを設定することによって、配備でスイッチをほかのすべてのスイッチから区別できます。複数のスイッチの配備では、各スイッチが一意になるようにシステム識別情報プロパティーを変更する必要がある場合があります。

1. **ホスト名プロパティーを設定します。**

```
-> set /SP hostname=string
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SP hostname=us-gw-1
Set 'hostname' to 'us-gw-1'
->
```

2. **システム連絡先プロパティーを設定します。**

```
-> set /SP system_contact=string
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SP system_contact='sysadmin'
Set 'system_contact' to 'sysadmin'
->
```

3. **(オプション) システムの説明を設定します。**

```
-> set /SP system_description=string
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SP system_description='customer_training_dept'
Set 'system_identifier' to 'customer_training_dept'
->
```

4. **システム識別子プロパティーを設定します。**

```
-> set /SP system_identifier=string
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SP system_identifier='data center'
Set 'system_identifier' to 'data center'
->
```

5. **システムの場所プロパティーを設定します。**

```
-> set /SP system_location=string
```

たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SP system_location='3rd floor'
Set 'system_location' to '3rd floor'
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 46 ページの「システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチ構成の管理 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、スイッチの構成に関する情報を管理する方法について説明します。

- 307 ページの「スイッチ構成のバックアップの作成 (Oracle ILOM CLI)」

- 308 ページの「バックアップされるスイッチ構成情報」
- 308 ページの「構成の復元 (Oracle ILOM CLI)」
- 309 ページの「スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM CLI)」
- 311 ページの「スナップショットデータセット情報 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 313 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 49 ページの「スイッチ構成スナップショットの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 45 ページの「スイッチファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチ構成のバックアップの作成 (Oracle ILOM CLI)

必要に応じて元に戻すためのコピーが得られるように、スイッチ構成をバックアップすることを考える場合があります。たとえば、アップグレードを開始する前に、既存の構成のバックアップを考える場合があります。構成をバックアップすると、SP 上の個別のファイルに保持されます。

注記 - パスワードなどの機密情報をバックアップするには、パスフレーズを使用する必要があります。

注記 - 保存される構成情報については、308 ページの「バックアップされるスイッチ構成情報」を参照してください。

---

1. **バックアップ用のパスフレーズを設定します。**

```
-> set /SP/config passphrase=phrase
```

ここで *phrase* は英数字の文字列です。たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SP/config passphrase=user1234
Set 'passphrase' to 'user1234'
->
```

2. **構成をバックアップします。**

```
-> set /SP/config dump_uri=URI
```

ここで *URI* は Uniform Resource Indicator です。

たとえば、SCP プロトコルを使用して、IP アドレス `123.45.67.89` のサーバー上の `/opt/dump` ディレクトリに `my.config` ファイルとして構成をダンプするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/config dump_uri=scp://root:changeme@123.45.67.89/opt/dump/my.config
Dump successful.
->
```

構成は、my.config XML ファイルとしてバックアップされます。

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 308 ページの「バックアップされるスイッチ構成情報」
- 308 ページの「構成の復元 (Oracle ILOM CLI)」
- 49 ページの「スイッチ構成スナップショットの表示 (Oracle ILOM CLI)」

バックアップされるスイッチ構成情報

パスフレーズを使用して構成をバックアップすると、このスイッチ固有の情報が .xml ファイルに保存されます。

- DCS 構成
- ユーザーサブネットマネージャー構成
- 環境デーモン構成
- 無効化されたポートのリスト
- ブートモニター構成
- IPoIB 設定
- IPoIB インタフェース設定
- 自動無効に構成されたポートのリスト
- BridgeX Manager の設定
- BridgeX Manager LAG の設定
- BridgeX Manager VNIC の設定

関連情報

- 307 ページの「スイッチ構成のバックアップの作成 (Oracle ILOM CLI)」
- 427 ページの「構成のバックアップ (Oracle ILOM Web)」
- 428 ページの「構成の復元 (Oracle ILOM Web)」

▼ 構成の復元 (Oracle ILOM CLI)

構成がバックアップされている場合、それをいつでも復元できます。構成が復元されると、スイッチはバックアップされた最後の構成のパラメータで操作を再開します。

注記 - パスフレーズでバックアップされた構成を復元する場合は、正しいパスフレーズを使用する必要があります。

1. **復元用のパスフレーズを設定します。**

```
-> set /SP/config passphrase=phrase
```

ここで *phrase* は英数字の文字列です。たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SP/config passphrase=user1234
Set 'passphrase' to 'user1234'
->
```

2. **構成を復元します。**

```
-> set /SP/config load_uri=URI
```

ここで *URI* は Uniform Resource Indicator です。

たとえば、SCP プロトコルを使用して、IP アドレス `123.45.67.89` のサーバー上の `/opt/dump` ディレクトリから `my.config` ファイルとして構成をロードするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/config load_uri=scp://root:changeme@123.45.67.89/opt/dump/my.config
Load successful.
->
```

構成が復元されます。

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 307 ページの「スイッチ構成のバックアップの作成 (Oracle ILOM CLI)」
- 308 ページの「バックアップされるスイッチ構成情報」
- 49 ページの「スイッチ構成スナップショットの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM CLI)

スナップショットユーティリティーは、ログファイルを収集し、各種コマンドを実行してその出力を収集し、収集したデータをユーザーが定義した場所に送信します。`/SP/diag/snapshot` ターゲットのデータセットプロパティーは、収集されるデータを定義します。311 ページの「スナップショットデータセット情報 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

スナップショットは、特定の時間の瞬間のスイッチの状態を表します。この情報はシステムの問題の診断に使用できます。スナップショットユーティリティーには、管理者権限が必要です。

1. **スイッチ状態のスナップショットを作成します。**

```
-> set /SP/diag/snapshot dataset=value dump_uri=URI
```

ここでは:

- *value* は、311 ページの「スナップショットデータセット情報 (Oracle ILOM CLI)」の表に説明されているデータセットのタイプです。
- *URI* は、Uniform Resource Indicator (FTP および SFTP がサポートされている) です。

たとえば、`normal` データセットのスナップショットを取得し、FTP プロトコルを使用して、`root` ユーザーとして、そのスナップショットを IP アドレス 123.45.67.89 のホストの `/tftpboot/normal` ディレクトリに転送するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/diag/snapshot dataset=normal dump_uri=ftp://root:changeme@123.45.67.89//tftpboot/normal
Set 'dataset' to 'normal'
Set 'dump_uri' to 'ftp://root:changeme@123.45.67.89//tftpboot/normal'
->
```

スナップショットプロセスが完了するまでに数分かかります。

2. **(オプション) スナップショットプロセスの進捗状況をチェックします。**

```
-> show /SP/diag/snapshot result
 /SP/diag/snapshot
  Properties:
   result = Running
->
```

たとえば、スナップショットプロセスが終了したあとに、その進捗状況を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/diag/snapshot result
 /SP/diag/snapshot
  Properties:
   result = Collecting data into ftp://root:*****@123.45.67.89//tftpboot/normal/
magnum_123.45.67.89_2012-12T06-43-15.zip
Snapshot Complete
Done.
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」

- 311 ページの「スナップショットデータセット情報 (Oracle ILOM CLI)」
- 49 ページの「スイッチ構成スナップショットの表示 (Oracle ILOM CLI)」

スナップショットデータセット情報 (Oracle ILOM CLI)

`/SP/diag/snapshot` ターゲットの `dataset` プロパティーは、スナップショットに含まれるデータを指定します。

注記 - スナップショットユーティリティーの `normal`、`fruid`、および `full` データセットは現在同等で、スナップショットに同じデータが含まれます。

データセット値	説明
`normal`	Oracle ILOM、基本 OS、およびスイッチ構成データが含まれます。
`normal-logonly`	Oracle ILOM、基本 OS、およびスイッチハードウェアデータに関連するログエントリのみが含まれます。
`fruid`	normal データセット情報と追加の FRUID データが含まれます。
`fruid-logonly`	Oracle ILOM、基本 OS、スイッチハードウェア、および追加の FRUID データに関連するログエントリのみが含まれます。
`full`	normal データセット情報と追加の FRUID および診断データが含まれます。
`full-logonly`	Oracle ILOM、基本 OS、スイッチハードウェア、追加の FRUID、および診断データに関連するログエントリのみが含まれます。

スナップショットは、この形式のファイル名で `.zip` ファイルとして格納されます。

hostname_IP_address_year`-`*month*`-`*day*`-`*hour*`-`*minute*`-`*second*`.zip`

例:

```
leaf_123.45.67.89_2012-12-12T06-43-15.zip
```

関連情報

- 49 ページの「スイッチ構成スナップショットの表示 (Oracle ILOM CLI)」

ロケータ LED の管理 (Oracle ILOM CLI)

ロケータ LED は、データセンターの通路や装置ラック内のスイッチを見つけやすくするスイッチ上の視覚的インジケータを提供します。

- 312 ページの「ロケータ LED の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 312 ページの「ロケータ LED の無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 313 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 316 ページの「SP の物理的存在のチェックの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 314 ページの「SP の再起動 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ロケータ LED の有効化 (Oracle ILOM CLI)

アクティブにすると、ロケータ LED が点滅し、データセンター内で、スイッチが見つけやすくなります。

- **次のように入力します。**

```
-> set /System/ locator_indicator=on
Set 'locator_indicator' to 'on' [On]
->
```

ロケータ LED が点滅します。

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 312 ページの「ロケータ LED の無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 50 ページの「ステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ロケータ LED の無効化 (Oracle ILOM CLI)

無効にすると、ロケータ LED が点灯しません。スイッチの保守が完了したら常に、ロケータ LED を無効にします。

- **次のように入力します。**

```
-> set /System/ locator_indicator=off
Set 'locator_indicator' to 'off' [Off]
```

```
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 312 ページの「ロケータ LED の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 50 ページの「ステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SP のリセット (Oracle ILOM CLI)

SP は次のいずれかの状態にリセットできます。

- none、これは SP がリセットされた場合、既存の構成を保持します。
- all、これは SP をシステムのデフォルトのプロパティーにリセットします。
- factory 設定 (もっとも重大)、これは SP が工場から出荷されたときのその初期状態にリセットします。

このタスクを使用して、SP をリセットします。

- **リセットのレベルを選択します。**
  - **none の場合は、次のように入力します。**

```
-> set /SP/ reset_to_defaults=none
Set 'reset_to_defaults' to 'none'
->
```

  - **all 値の場合は、次を入力します。**

```
-> set /SP reset_to_defaults=all
Set 'reset_to_defaults' to 'all'
The configuration change will be applied the next time the SP is reset.
->
```

  - **factory デフォルトの場合は、次を入力します。**

```
-> set /SP reset_to_defaults=factory
Set 'reset_to_defaults' to 'factory'
The configuration change will be applied the next time the SP is reset.
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」

- 537 ページの「ファームウェアの更新」
- 316 ページの「SP の物理的存在のチェックの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 47 ページの「SP 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 314 ページの「SP の再起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SP の再起動 (Oracle ILOM CLI)

オプションとして、スイッチのサービスプロセッサ (SP) をリセットできます。

注記 - SP を再起動すると、管理コンソールと SP の間のアクティブなリンクがすべて閉じられます。管理制御を取り戻すには、SP に再アクセスする必要があります。

- **SP をリセットします。**

```
-> reset /SP
Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 313 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 47 ページの「SP 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチチップの制御 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、スイッチハードウェアおよびネットワークのさまざまな側面を制御する個別のプロセッサがあります。

- 315 ページの「Ethernet スイッチチップ機能のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 315 ページの「IB スイッチチップのリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 316 ページの「Ethernet スイッチチップファームウェアのロード (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 306 ページの「スイッチ構成の管理 (Oracle ILOM CLI)」

- 313 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 316 ページの「SP の物理的存在のチェックの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 314 ページの「SP の再起動 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Ethernet スイッチチップ機能のリセット (Oracle ILOM CLI)

スイッチには Ethernet スイッチチップがあり、EMS チップとも呼ばれ、ネットワークスイッチ 0 になります。デフォルトで、このスイッチは、スイッチに電源が投入されるたびに、オンラインになります。スイッチの実行中、次のタスクを使用して EMS をリセットできます。

1. **ネットワークスイッチチップ 0 (EMS チップ) をリセットします。**

```
-> reset /System/Networking/Switches/Switch_0
Are you sure you want to reset /System/Networking/Switches/Switch_0 (y/n)? y
->
```

2. **EMS チップ上の SEFOS をリセットします。**

```
-> reset /System/Networking/Switches/Switch_0/sefos
Are you sure you want to reset /System/Networking/Switches/Switch_0/sefos (y/n)? y
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 315 ページの「IB スイッチチップのリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 316 ページの「Ethernet スイッチチップファームウェアのロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ IB スイッチチップのリセット (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、ネットワークスイッチ 0 の IB スイッチチップがあります。デフォルトで、このスイッチは、スイッチに電源が投入されるたびに、オンラインになります。スイッチの実行中、このタスクを使用して、IB スイッチチップをリセットできます。

- **ネットワークチップ 1 (IB スイッチチップ) をリセットします。**

```
-> reset /System/Networking/Switches/Switch_1
Are you sure you want to reset /System/Networking/Switches/Switch_1 (y/n)? y
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 58 ページの「IB スイッチチップの電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 315 ページの「Ethernet スイッチチップ機能のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 316 ページの「Ethernet スイッチチップファームウェアのロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ Ethernet スイッチチップファームウェアのロード (Oracle ILOM CLI)

スイッチのファームウェアイメージには番号が付けられており、Ethernet スイッチチップのファームウェアは 2 番です。Ethernet スイッチチップの場合、このタスクを使用すると、必要に応じて Ethernet スイッチチップファームウェアをロードできます。

- **次のように入力します。**

```
-> set /System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_2/ load_uri=firmware_uri
->
```

ここで、*firmware_uri* は Ethernet スイッチチップにロードするファームウェアイメージの URI です。

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 315 ページの「Ethernet スイッチチップ機能のリセット (Oracle ILOM CLI)」

▼ SP の物理的存在のチェックの制御 (Oracle ILOM CLI)

スイッチがリセットされたときに、SP の存在をチェックするかどうかを制御できます。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/ check_physical_presence=false
```

```
Set 'check_physical_presence' to 'false'
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 313 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 314 ページの「SP の再起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 47 ページの「SP 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

I/O モジュールの制御 (Oracle ILOM CLI)

注記 - このトピックは、Oracle InfiniBand Switch IS2-46 (リーフスイッチ) には適用しません。

仮想化スイッチには、データセンター内の接続をカスタマイズする I/O モジュールが含まれています。モジュールについては、該当するモジュールのユーザーガイドを参照してください。ユーザーガイドは `http://www.oracle.com/goto/f2-io-mod/docs` で入手できます。

仮想化スイッチ内のモジュールスロットには 0 から 11 の番号が付けられています。モジュール 0 は仮想化スイッチの左端の物理スロット内のモジュールです。

Oracle ILOM からは個々のモジュールのみ制御できます。モジュールの個々のプロパティーを制御することはできません。`/SYS/MODULES/MODULE`*X* ターゲットは仮想化スイッチ内の I/O モジュールを制御します。

これらのトピックでは、仮想化スイッチの I/O モジュールを制御する方法について説明します。

- 318 ページの「モジュールの停止 (Oracle ILOM CLI)」
- 319 ページの「モジュールの起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 320 ページの「モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 322 ページの「モジュールのリセット (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」
- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 75 ページの「モジュール電源情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

- 77 ページの「モジュールの温度の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 79 ページの「モジュール FRU 情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ モジュールの停止 (Oracle ILOM CLI)

仮想化スイッチに取り付けられているモジュールは、スイッチの電源が投入され実行されている間、動作します。モジュールはスイッチ全体の電源状態と異なる状態にある場合があります。

モジュールが現在動作している場合は、モジュールを停止できます。モジュールが停止すると、モジュールは 12V およびアクティブな 3.3V 電源供給を受けなくなります。ただし、モジュールの FRU ID チップにのみ電源供給している 3.3V スタンバイ電源装置は引き続き有効なままになります。

1. **取り付けられているモジュールを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/

 /SYS/MODULES
    Targets:
        MODULE0
        MODULE1
        MODULE3
        MODULE5
        MODULE6
        MODULE10
```

2. **モジュールが実行中であると想定し、停止します。**

```
-> stop /SYS/MODULES/MODULEX
```

ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

たとえば、モジュール 3 を停止するには、次のように入力します。

```
-> stop /SYS/MODULES/MODULE3
Are you sure you want to stop /SYS/MODULES/MODULE3 (y/n)? y
Stopping /SYS/MODULES/MODULE3
```

「yes」と答えると、モジュールはただちに停止します。

3. **モジュールが停止していることを確認します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 power_state

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
```

```
power_state = Off
```

モジュールを動作状態に戻すには、`start` コマンドを発行します。詳細については、319 ページの「モジュールの起動 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

関連情報

- 71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」
- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 320 ページの「モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 322 ページの「モジュールのリセット (Oracle ILOM CLI)」

▼ モジュールの起動 (Oracle ILOM CLI)

仮想化スイッチに取り付けられているモジュールは、スイッチの電源が投入され実行されている間、動作します。モジュールは、スイッチ全体の電源状態と異なる状態になることがあり、たとえば、仮想化スイッチの動作中にモジュールが停止している場合があります。

モジュールが現在停止している場合は、それを起動できます。モジュールが起動すると、モジュール上の 12V およびアクティブな 3.3V 電源装置が再起動します。

1. **取り付けられているモジュールを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/

 /SYS/MODULES
    Targets:
        MODULE0
        MODULE1
        MODULE3
        MODULE5
        MODULE6
        MODULE10
```

仮想化スイッチ内の I/O モジュールには 0 から 11 までの番号が付けられ、モジュール 0 は最初 (左端) の物理スロットを占有します。

2. **停止しているモジュールが見つかるまで、各モジュールの電源状態をクエリーします。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULEX power_state
```

ここで、*X* は、起動するモジュールスロットに対応する `0` から `11` までの数値になります。

たとえば、モジュール 3 を起動するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 power_state

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        power_state = Off
```

3. **停止しているモジュールを特定したら、それを起動します。**

```
-> start /SYS/MODULES/MODULE3/
Are you sure you want to start /SYS/MODULES/MODULE3 (y/n)? y
Starting /SYS/MODULES/MODULE3
```

4. **モジュールが起動されたことを確認します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 power_state

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        power_state = On
```

5. **モジュールが障害状態にないことを確認します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 fault_state

   /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        fault_state = OK
```

モジュールが障害状態の場合は、320 ページの「モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

関連情報

- 71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」
- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 318 ページの「モジュールの停止 (Oracle ILOM CLI)」
- 322 ページの「モジュールのリセット (Oracle ILOM CLI)」

▼ モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)

センサーは各モジュールの障害状態を検出します。障害が発生している場合、アラームが発生し、Oracle ILOM がモジュールの `FAULT` および `fault_state` プロパティーを

設定します。障害がクリアされたら、障害インジケータをクリアして、モジュールのこれらのプロパティーを明示的にリセットする必要があります。

1. **取り付けられているモジュールを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/

 /SYS/MODULES
    Targets:
        MODULE0
        MODULE1
        MODULE3
        MODULE5
        MODULE6
        MODULE10
```

仮想化スイッチ内の I/O モジュールには 0 から 11 までの番号が付けられ、モジュール 0 は最初 (左端) の物理スロットを占有します。

2. **障害の有無を表示します。**

```
show /SYS/MODULES/MODULEX/FAULT
```

ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

たとえば、モジュール 3 の電源状態を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/FAULT

 /SYS/MODULES/MODULE3/FAULT
    Targets:

    Properties:
        type = Module
        ipmi_name = MODULE3/FAULT
        class = Discrete Sensor
        value = State Asserted
        alarm_status = present
```

この例では、モジュールセンサーが `Asserted` 状態にあるため、モジュールで障害状態が発生しています。モジュールセンサーの状態については、71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」を参照してください。

3. **モジュールの障害状態の有無を表示します。**

```
show /SYS/MODULES/MODULEX/ fault_state
```

ここで、*X* は、情報を表示するモジュールスロットに対応する `0` から `11` の数値になります。

たとえば、モジュール 3 の障害状態を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/ fault_state
```

```
  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        fault_state = true
```

この例では、モジュールセンサーが `Asserted` 状態にあるため、モジュールで障害状態が発生しています。

4. **必要に応じて、モジュールを停止して、障害状態を解決します。**
   318 ページの「モジュールの停止 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

5. **モジュールの障害を解決します。**

6. **モジュールを停止した場合は、起動します。**
   319 ページの「モジュールの起動 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

7. **障害が修正されたら、モジュールの障害インジケータをクリアします。**

```
-> set /SYS/MODULES/MODULE3/ clear_fault_action=true
Are you sure you want to clear /SYS/MODULES/MODULE3 (y/n)? y
Set 'clear_fault_action' to 'true'
```

8. **モジュールが障害状態でなくなっていることを確認します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/ fault_state

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        fault_state = OK
```

9. **Oracle ILOM からモジュールの障害状態がクリアされたことを確認します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3/ clear_fault_action

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        clear_fault_action = (none)
```

関連情報

- 71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」
- 318 ページの「モジュールの停止 (Oracle ILOM CLI)」
- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 319 ページの「モジュールの起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 322 ページの「モジュールのリセット (Oracle ILOM CLI)」

▼ モジュールのリセット (Oracle ILOM CLI)

仮想化スイッチのモジュールが実行中の場合、リセットできます。モジュールのリセットでは、モジュールのリセットピンを 1 秒間保持して、モジュールをオンライ

ンに戻します。モジュールのリセットはモジュールへの電源供給には影響を与えません。

1. **取り付けられているモジュールを表示します。**

```
-> show /SYS/MODULES/

 /SYS/MODULES
    Targets:
        MODULE0
        MODULE1
        MODULE3
        MODULE5
        MODULE6
        MODULE10
```

仮想化スイッチ内の I/O モジュールには 0 から 11 までの番号が付けられ、モジュール 0 は最初 (左端) の物理スロットを占有します。

2. **再起動するモジュールを特定します。**

3. **モジュールをリセットします。**

```
-> reset /SYS/MODULES/MODULE3
Are you sure you want to reset /SYS/MODULES/MODULE3 (y/n)? y
Performing reset on /SYS/MODULES/MODULE3
```

4. **モジュールがリセットされたことを確認します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 power_state

  /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        power_state = On
```

5. **リセット後にモジュールに障害がないことを確認します。**

```
-> show /SYS/MODULES/MODULE3 fault_state

   /SYS/MODULES/MODULE3
    Properties:
        fault_state = OK
```

関連情報

- 71 ページの「Oracle ILOM モジュールのターゲットの概要」
- 72 ページの「モジュールタイプの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 73 ページの「モジュールの障害の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 318 ページの「モジュールの停止 (Oracle ILOM CLI)」
- 320 ページの「モジュールの障害のクリア (Oracle ILOM CLI)」

- 319 ページの「モジュールの起動 (Oracle ILOM CLI)」

認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI によって、スイッチの認証とアクセスのさまざまな方法に関する情報を構成する方法について説明します。

- 324 ページの「AD クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 339 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 340 ページの「LDAP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 341 ページの「LDAP over SSL クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「RADIUS クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 360 ページの「SSO の管理 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 370 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 378 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 383 ページの「スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

AD クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、ネットワーク内の AD サーバーとの通信のために AD クライアントをサポートしています。

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」

- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 339 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 340 ページの「LDAP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 341 ページの「LDAP over SSL クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「RADIUS クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 360 ページの「SSO の管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには AD クライアントがあり、スイッチがネットワーク内で AD サーバーと動作する場合に構成する必要があります。

1. **AD クライアントをアクティブ化します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
->
```

2. **AD サーバーアドレスを設定します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory address=10.11.12.13
Set 'state' to 'enabled'
->
```

3. **AD 通信のポートを設定します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/ port=188
Set 'address' to '123.45.67.89'
->
```

関連情報

- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」

- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

多数の AD プロパティーを環境に合わせてカスタマイズできます。AD プロトコルが有効にされている (325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照) ことを前提として、このタスクを使用すると、さまざまなプロトコルのプロパティーを構成できます。

1. **AD 通信のタイムアウト値を設定します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/ timeout=10
Set 'timeout' to '10'
->
```

2. **AD ユーザーに割り当てられる AD のデフォルトの役割を設定します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/ defaultrole=o
Set 'defaultrole' to 's' [os]
->
```

role では、`aucros` 文字列の文字を使用して、それぞれの機能を有効にできます。27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。オペレータの役割 (o) は、設定するすべての 1 つの役割に追加されます。

3. **拡張検索 (expsearch) モードを有効にします。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/ expsearchmode=enabled
Set 'expsearchmode' to 'enabled'
->
```

4. **(オプション) 監査およびイベントログに書き込まれる AD 通信とイベントに含まれる情報の量を設定します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/ logdetail=property_value
->
```

ここで *property_value* は:

- ログ内の情報の多少に対応する `high`、`medium`、`low`、または `trace` です。
- `none` は、詳細なしか、またはロギングを完全に無効にします。

たとえば、情報のほとんどの量を含めるには、次を入力します。

```
-> set /SP/clients/activedirectory/ logdetail=high
Set 'logdetail' to 'high'
->
```

5. **厳密な証明書モードを有効にします。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/ strictcertmode=enabled
Set 'strictcertmode' to 'enabled'
->
```

注記 - このオプションを使用するには、スイッチで認証サーバー証明書ファイルを使用できる必要があります。

---

6. **厳密な資格情報エラーモードを有効にします。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/ strictcredentialerrormode=enabled
Set 'strictcredentialerrormode' to 'enabled'
->
```

7. **必要に応じて、DNS ロケータクエリーを構成します。**
327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)

DNS ロケータクエリーは、それが実行している特定の DNS サービスおよびポートを特定します。デフォルトで、スイッチは、2 つの DNS ロケータクエリーを提供しますが、カスタム DNS ロケータクエリーを作成できます。

- スイッチは、最大 5 つの DNS ロケータクエリーをサポートします。
- 現在の DNS サービスを別のドメインの DNS サービスに変更するには、ロケータ文字列の `DOMAIN` 要素に、新しい DNS サービスを指定します。
- 現在の DNS ポートを別のドメインの DNS ポートに変更するには、ロケータ文字列の `PORT:`*x* 要素に、新しいポートを指定します。

注記 - スイッチでロケータクエリーをサポートするには、スイッチで DNS サービスと DNS ロケータモードが有効になっている必要があります。325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

---

1. **DNS ロケータクエリーモードを有効にします。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/ dnslocatormode=enabled
Set 'dnslocatormode' to 'enabled'
->
```

2. **DNS ロケータクエリーを作成します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/dnslocatorqueries/X service=service_name.domain.PORT:X
->
```

ここでは:

- *X* はロケータクエリーを表す `1` から `5` の数値です。
- *service* は、ドメインとポートを含むロケータサービス名です。
- *domain* はロケータクエリーが検索するドメインです。
- PORT:*x* は、ロケータクエリー通信が行われるポートです。

たとえば、ポート `2112` 上で、ドメイン `companyq` にサービス `_ldap._tcp.gc._msdcs` の DNS ロケータクエリー `1` を作成するには、次を入力します。

```
-> set /SP/clients/activedirectory/dnslocatorqueries/1
 service=_ldap._tcp.gc._msdcs.companyQ.PORT:2112
Set 'service' to '_ldap._tcp.gc._msdcs.companyQ.PORT:2112'
->
```

3. **必要に応じて前の手順を繰り返して、最大までの必要な数のクエリーを作成します。**

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」

- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)

AD サーバーの証明書の管理には、証明書が存在しない場合の証明書のアップロード、または必要に応じた証明書の削除が含まれます。

- 厳密な証明書モードが必要な場合は、スイッチの証明書をアップロードする必要があります。
- 状況によっては、既存の証明書を削除する必要がある場合があります。たとえば、スイッチが厳密な証明書モードを使用しなくなった場合、または証明書の期限が切れていて、新しい証明書で置き換える必要がある場合は、既存の証明書を削除する必要があります。

● **次のいずれかを実行します。**

- **既存の証明書を削除します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/cert/ clear_action=true
Are you sure you want to remove the cert (y/n)? y
->
```

- **スイッチの AD サーバーに証明書ファイルをロードします。**

```
-> load /SP/clients/activedirectory/cert/ load_uri=URI
->
```

ここで *URI* は証明書ファイルの Uniform Resource Indicator です。

たとえば、証明書ファイル `112115.cert` をロードするには、次のように入力します。

```
-> load /SP/clients/activedirectory/cert/ load_uri=ftp://root:changeme@123.45.67.89/
privkeystore/112115.cert
Load Successful.
->
```

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)

通常、AD ネットワークには、複数の代替 AD サーバーがあります。スイッチは最大 5 台の AD サーバーとプライマリをサポートします。このタスクを使用して、代替 AD サーバーを構成し、各サーバーの重要性の順序を設定します。

1. **代替サーバーの IP アドレスを指定します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/alternateservers/X address=IP_address
->
```

ここでは:

- *X* は各代替 AD サーバーの 1 から 5 までの数値です。
- *IP_address* は代替サーバーの IP アドレスです。

たとえば、`123.45.67.89` のアドレスの代替サーバー `1` を設定するには、次を入力します。

```
-> set /SP/clients/activedirectory/alternateservers/1 address=123.45.67.89
Set 'address' to '123.45.67.89'
->
```

2. **代替サーバーのポートを設定します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/alternateservers/Xport=number
->
```

ここでは:

- *X* は、各代替 AD サーバーの `1` から `5` の数値です。
- *number* は代替 AD サーバーが通信に使用するポート番号です。

たとえば、代替サーバー `1` でポート `190` を使用するように設定するには、次を入力します。

```
-> set /SP/clients/activedirectory/alternateservers/1 port=190
Set 'port' to '190'
->
```

3. **(オプション) 代替サーバーの証明書を管理します。**

   331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

4. **このタスクを繰り返して、最大までの必要な数の代替サーバーを構成します。**

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)

代替 AD サーバーも、それらのサーバーにロードするか、または削除する必要がある SSL 証明書を使用できます。このタスクを使用して、代替サーバーの証明書を管理します。

- **次のいずれかを実行します。**

  - **既存の証明書を削除します。**

    たとえば、代替サーバー 1 から証明書ファイルを削除するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/activedirectory/alternateservers/1/cert/ clear_action=true
Are you sure you want to remove the cert (y/n)? y
->
```

  - **代替 AD サーバーに証明書ファイルをロードします。**

たとえば、代替サーバー 1 に証明書ファイルをロードするには、次のように入力します。

```
-> load /SP/clients/activedirectory/cert/ load_uri=URI
->
```

ここで *URI* は証明書ファイルの Uniform Resource Indicator です。

たとえば、代替サーバー 1 に証明書ファイル `112115.cert` をロードするには、次のように入力します。

```
-> load /SP/clients/activedirectory/alternateservers/1/cert/ load_uri=ftp://root:changeme@123.
45.67.89/privkeystore/112115.cert
Load Successful.
->
```

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

AD グループ (Oracle ILOM CLI)

スイッチは多くのタイプの AD グループ、つまり管理者グループ、オペレータグループ、およびカスタムグループをサポートしています。タイプごとにいくつかのルールが適用されます。

ネットワークで AD 管理者グループを使用している場合、管理者グループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチにそれらのグループを構成する必要があります。

- AD サーバーに構成される管理者グループは、スイッチに構成される管理者グループに一致している必要があります。
- 管理者グループ名は 128 文字以下である必要があります。

- 管理者グループ名は管理者グループの標準 AD 名形式に従う必要があります。

ネットワークで AD オペレータグループを使用している場合、オペレータグループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチにそれらのグループを構成する必要があります。

- AD サーバーに構成されるオペレータグループは、スイッチに構成されるグループに一致している必要があります。
- グループ名は 128 文字以下である必要があります。
- グループ名はオペレータグループの標準 AD 名形式に従う必要があります。

ネットワークで AD カスタムグループを使用している場合、カスタムグループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチにそれらのグループを構成する必要があります。

- AD サーバーに構成されるカスタムグループは、スイッチに構成されるグループに一致している必要があります。
- グループ名は 128 文字以下である必要があります。
- グループ名はカスタムグループの標準 AD 名形式に従う必要があります。

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、管理者グループ (admin グループ) をサポートしています。管理者グループの構成の詳細については、332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

1. **次のように入力します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/admingroups/X name=name
->
```

ここでは:

- *X* は管理者グループに対応する `1` から `5` までの数値です。
- *name* は構成する管理者グループの名前です。

たとえば、管理者グループ `1` を構成し、それに名前 `edradmins` を割り当てるには、次のように入力します。

```
->set /SP/clients/activedirectory/admingroups/1/name=edradmins
Set 'name' to 'edradmins'
->
```

2. **管理者グループのメンバーにデフォルトの役割を割り当てます。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/customgroups/X roles=role
->
```

ここでは:

- *X* はカスタムグループに対応する `1` から `5` までの数値です。
- *role* はカスタムグループに構成する役割です。

たとえば、カスタムグループ `1` を構成し、それに `service` 役割を割り当てるには、次のように入力します。

```
 -> set /SP/clients/activedirectory/customgroups/1/ roles=s
Set 'roles' to 's'
->
```

role では、`aucros` 文字列の文字を使用して、それぞれの機能を有効にできます。27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。このカスタムグループのすべてのメンバーはデフォルトで、サービスの役割を受け取ります。

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは AD カスタムグループをサポートしています。カスタムグループの構成については、332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

1. **カスタムグループを構成します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/customgroups/Xname=name
->
```

ここでは:

- *X* はカスタムグループに対応する 1 から 5 までの数値です。
- *name* は構成するカスタムグループの名前です。

たとえば、カスタムグループ 1 を構成し、それに名前 techpubs を割り当てるには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/activedirectory/customgroups/1/ name=techpubs
Set 'name' to 'techpubs'
->
```

2. **カスタムグループのメンバーにデフォルトの役割を割り当てます。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/customgroups/X roles=role
->
```

ここでは:

- *X* はカスタムグループに対応する 1 から 5 までの数値です。
- *role* はカスタムグループに構成する役割です。

たとえば、カスタムグループ 1 を構成し、それに service 役割を割り当てるには、次のように入力します。

```
 -> set /SP/clients/activedirectory/customgroups/1/ roles=s
Set 'roles' to 's' [os]
->
```

role では、aucros 文字列の文字を使用して、それぞれの機能を有効にできます。27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。このカスタムグループのすべてのメンバーはデフォルトで、サービスの役割を受け取ります。

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」

- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは AD オペレータグループをサポートしています。AD オペレータグループの構成には、いくつかの規則が適用されます。332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/opergroups/X name=name
->
```

ここでは:

- *X* はオペレータグループに対応する `1` から `5` までの数値です。
- *name* は構成するオペレータグループの名前です。

たとえば、オペレータグループ `1` を構成し、それに名前 `guests` を割り当てるには、次のように入力します。

```
->set /SP/clients/activedirectory/opergroups/1/name=guests
Set 'name' to 'guests'
->
```

オペレータグループを構成しているため、明示的な役割は設定しません。代わりに、このオペレータグループのすべてのメンバーはデフォルトで、オペレータ (o) の役割を受け取ります。

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」

- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)

ユーザードメインは、プリンシパル名形式または識別名形式のいずれかで追加できます。

- プリンシパル名形式は、*username@domain.company*.com です。
- 識別名形式は、CN=*username*,CN=*users*,DC=*domain*,DC=*company*,DC=com です。
- AD サーバーに構成されるドメインは、スイッチに構成されるドメインに一致している必要があります。
- スイッチは、最大 5 つのユーザードメインをサポートします。

いずれかの名前形式で、*username* 置換文字列は、ユーザーのログイン名に置き換え可能ですが、残りの情報要素は、認証サーバー上の情報要素と正確に一致している必要があります。

● **AD ユーザードメインを構成します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory/userdomains/Xname=username@domain.company.com
->
```

ここでは:

- *X* は管理者グループに対応する 1 から 5 までの数値です。
- *username* は認証時に使用されるユーザーのログイン名です。
- *domain* は認証サーバーに構成されたドメイン名です。
- *company* は、AD 認証サーバーに構成されている会社名です。

たとえば、ユーザードメイン 1 を構成し、それを writer1@oracle.com に割り当てるには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/activedirectory/userdomains/1/ domain=writer1@techpubs.oracle.com
Set 'domain' to 'writer1@techpubs.oracle.com'
->
```

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 338 ページの「AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ AD クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)

どの AD プロパティーも削除またはリセットする必要なく、AD を選択的に無効にできます。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/clients/activedirectory state=disabled
Set 'state' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 325 ページの「AD クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 326 ページの「AD プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 327 ページの「DNS ロケータクエリーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 329 ページの「AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 330 ページの「代替 AD サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 331 ページの「代替 AD サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 333 ページの「AD 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 335 ページの「AD カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 336 ページの「AD オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 81 ページの「スイッチの AD クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)

SP 内のネームサービスを有効にするには、Oracle ILOM が DNS クライアントとして構成されている必要があります。

1. **プライマリおよびバックアップネームサーバーの IP アドレスを指定します。**

```
-> set /SP/clients/dns nameserver=123.45.67.89,123.45.67.90,123.45.67.91
Set 'nameserver' to '123.45.67.89,123.45.67.90,123.45.67.91' [123.45.67.89, 123.45.67.90,
 123.45.67.91]
->
```

冗長性のために複数のネームサーバーが必要な場合は、最大 3 つ構成できます。指定する順序は、前述のサーバーが使用できない場合に試行されるサーバーの順序です。複数のネームサーバーを指定する場合、コンマで区切り、スペースを入れません。

2. **再試行回数を設定します。**

```
-> set /SP/clients/dns retries=3
Set 'retries' to '3'
->
```

最大 4 回の再試行回数を構成できます。再試行値を `0` に設定すると、最初の通信の試みのみが行われるように、再試行が無効になります。

3. **タイムアウト値を設定します。**

```
-> set /SP/clients/dns timeout=10
Set 'timeout' to '10'
->
```

1 から 10 秒のタイムアウトを構成できます。

4. **(オプション) 自動 DNS を有効にします。**

```
-> set /SP/clients/dns automatons=enabled nameserver=123.45.67.89,123.45.67.90
 searchpath='us.companyq.com,canada.companyq.com'
Set 'automatons' to 'enabled'
Set 'nameserver' to '123.45.67.89,123.45.67.90'
Set 'searchpath' to 'us.companyq.com,canada.companyq.com'
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 84 ページの「DNS クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、LDAP ユーザーがスイッチにアクセスできるようにする RFC 2307 準拠の LDAP クライアントがあります。LDAP クライアントにはいくつかの構成ルールが存在します。

- LDAP は FIPS が無効になっている場合にのみ有効にできます。422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。
- Oracle ILOM クライアント用に LDAP ユーザープロパティーを構成するには、Oracle 役割モデルのユーザー管理の役割 (u) が必要です。
- スイッチと LDAP サーバーの両方に LDAP プロパティーを設定する必要があります。

LDAP ユーザーがスイッチにアクセスする場合、適切な役割と権限を割り当てることによって、ユーザーが実行できる制御の大きさを指定できます。

1. **LDAP クライアントを有効にします。**

```
-> set /SP/clients/ldap state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
->
```

2. **LDAP クライアントの IP アドレスを指定します。**

```
-> set /SP/clients/ldap address=192.168.45.60
Set 'address' to '192.168.45.60'
->
```

3. **LDAP ポートを設定します。**

```
-> set /SP/clients/ldap port=400
Set 'port' to '400'
->
```

4. **LDAP ユーザーの役割を設定します。**

```
-> set /SP/clients/ldap defaultrole=s
Set 'defaultrole' to 's' [os]
->
```

デフォルトで、LDAP ユーザーの役割はオペレータ (o) ですが、追加の役割を構成できます。構成する役割に関係なく、オペレータの役割は常に構成されます。

5. **検索ベースを設定します。**

```
-> set /SP/clients/ldap searchbase=us.oracle.com
Set 'searchbase' to 'us.oracle.com'
```

```
->
```

6. バインド DN を設定します。

```
-> set /SP/clients/ldap binddn=companyq.com
Set 'binddn' to 'companyq.com'
->
```

7. バインドパスワードを設定します。

```
-> set /SP/clients/ldap bindpw=toothbrush
Set 'bindpw' to 'toothbrush'
->
```

関連情報

- 36 ページの「Oracle ILOM CLI の概要」
- 36 ページの「Oracle ILOM ヘルプの取得 (Oracle ILOM CLI)」
- 84 ページの「Oracle ILOM LDAP クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

LDAP over SSL クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、ユーザー資格情報の認証とユーザーアクセスレベルの承認の両方を提供する LDAP over SSL クライアントがあります。これらのトピックでは、スイッチ上で LDAP over SSL を構成する方法について説明します。

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 324 ページの「AD クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 339 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 340 ページの「LDAP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「RADIUS クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 360 ページの「SSO の管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、認証および承認された LDAP over SSL ユーザーにアクセス権を付与できる LDAP over SSL クライアントがあります。承認はこれらのいずれかの方法で行われます。

- 単純な承認、これは Oracle ILOM の標準の役割を使用します。
- リモートサーバー承認。これは、LDAP over SSL が構成された 1 つ以上のグループを使用します。これらのグループにはユーザーが含まれている必要があり、さらにスイッチ上でグループを構成する前に、LDAP over SSL 認証サーバー上でこれらのグループが構成されている必要があります。

スイッチ上で LDAP over SSL とそのプロパティーを構成するには、ユーザー管理の役割 (u) が必要です。

● **次のように入力します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

LDAP over SSL プロパティーの構成の一部として、次のプロパティーを指定します。

- LDAP over SSL 通信が発生するサーバーとポート。
- 通信のタイムアウト。
- ユーザーがスイッチに対して持つ特定の役割と権限。
- 証明書が必要かどうか (厳密な証明書モード)。

1. **LDAP over SSL を有効にします。**
   342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

2. **プライマリ LDAP over SSL サーバーのサーバーアドレスを設定します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl address=123.45.67.89
Set 'address' to '123.45.67.89'
->
```

3. **LDAP over SSL 通信のためのポートを設定します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl port=188
Set 'port' to '188'
->
```

4. **LDAP over SSL 通信のタイムアウト値を設定します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/ timeout=10
Set 'timeout' to '10'
->
```

5. **LDAP over SSL ユーザーに割り当てられるデフォルトの役割を設定します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/ defaultrole=s
Set 'defaultrole' to 's' [os]
->
```

role では、`aucros` 文字列の文字を使用して、それぞれの機能を有効にできます。27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。

6. **(オプション) 監査およびイベントログに書き込まれる LDAP over SSL 通信とイベントのために含める情報の量を設定します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/ logdetail=value
->
```

ここで *value* は:

- ログ内の情報の多少に対応する `high`、`medium`、`low`、または `trace` です。
- 詳細なしか、またはロギングを完全に無効にする場合は `none`。

たとえば、情報のほとんどの量を含めるには、次を入力します。

```
-> set /SP/clients/ldapssl/ logdetail=high
Set 'logdetail' to 'high'
->
```

7. **厳密な証明書モードを有効にします。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/ strictcertmode=enabled
Set 'strictcertmode' to 'enabled'
->
```

注記 - このオプションを使用するには、スイッチで認証サーバー証明書ファイルを使用できる必要があります。

関連情報

- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)

LDAP over SSL サーバーの証明書の管理には、証明書が存在しない場合の証明書のアップロード、または必要に応じた証明書の削除が含まれます。

- 厳密な証明書モードが必要な場合は、スイッチの証明書をアップロードする必要があります。
- 状況によっては、既存の証明書を削除する必要がある場合があります。たとえば、スイッチが厳密な証明書モードを使用しなくなった場合、または証明書の期限が切れていて、新しい証明書で置き換える必要がある場合は、既存の証明書を削除する必要があります。

● **次のいずれかを実行します。**

- **既存の証明書を削除します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/cert/ clear_action=true
Are you sure you want to remove the cert (y/n)? y
->
```

- **スイッチの LDAP over SSL サーバーに証明書ファイルをロードします。**

```
-> load /SP/clients/activedirectory/cert/ load_uri=URI
->
```

ここで *URI* は証明書ファイルの Uniform Resource Indicator です。

たとえば、証明書ファイル `112115.cert` をロードするには、次のように入力します。

```
-> load /SP/clients/ldapssl/cert/ load_uri=ftp://root:changeme@123.45.67.89/privkeystore/112115.cert
Load Successful.
->
```

関連情報

- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、プライマリ LDAP over SSL サーバーが使用できなくなる万一の場合に備え、冗長 LDAP over SSL サーバーをサポートしています。スイッチは、最大 5 台の代替 LDAP over SSL サーバーをサポートします。このタスクを使用して、アドレスで LDAP over SSL サーバーを指定し、各サーバーの重要性の順序を設定します。

1. **代替サーバーの IP アドレスを指定します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/alternateservers/Xaddress=IP_address
->
```

ここでは:

- *X* は、各代替 LDAP over SSL サーバーの `1` から `5` までの数値です。
- *IP_address* は代替サーバーの IP アドレスです。

たとえば、`123.45.67.89` のアドレスの代替サーバー `1` を設定するには、次を入力します。

```
-> set /SP/clients/ldapssl/alternateservers/1 address=123.45.67.89
Set 'address' to '123.45.67.89'
->
```

2. **代替サーバーのポートを設定します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/alternateservers/1 address=123.45.67.89 port=number
->
```

ここでは:

- *X* は、各代替 AD サーバーの `1` から `5` の数値です。
- *number* は代替 AD サーバーが通信に使用するポート番号です。

たとえば、代替サーバー `1` でポート `190` を使用するように設定するには、次を入力します。

```
-> set /SP/clients/ldapssl/alternateservers/1 port=190
Set 'port' to '190'
->
```

3. **(オプション) 代替サーバーの証明書を管理します。**

   347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

4. **このタスクを繰り返して、最大までの必要な数の代替サーバーを構成します。**

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)

代替 LDAP over SSL サーバーでも、これらのサーバーにロードしたり、削除したりする必要のある SSL 証明書を使用できます。このタスクを使用して、代替サーバーの証明書を管理します。

- **次のいずれかを実行します。**

  - **既存の証明書を削除します。**

    たとえば、代替サーバー 1 から証明書ファイルを削除するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/ldapssl/alternateservers/1/cert/ clear_action=true
Are you sure you want to remove the cert (y/n)? y
->
```

- **代替 AD サーバーに証明書ファイルをロードします。**

  たとえば、代替サーバー 1 に証明書ファイルをロードするには、次のように入力します。

```
-> load /SP/clients/ldapssl/cert/ load_uri=URI
->
```

  ここで *URI* は証明書ファイルの Uniform Resource Indicator です。

  たとえば、代替サーバー 1 に証明書ファイル `112115.cert` をロードするには、次のように入力します。

```
-> load /SP/clients/ldapssl/alternateservers/1/cert/ load_uri=ftp://root:changeme@123.45.67.89/
privkeystore/112115.cert
Load Successful.
->
```

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、複数のタイプの LDAP over SSL グループ、つまり管理者グループ、オペレータグループ、およびカスタムグループをサポートしています。タイプごとにいくつかのルールが適用されます。

ネットワークで LDAP over SSL 管理者グループを使用している場合は、管理者グループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチ上でこれらのグループを構成する必要があります。

- LDAP over SSL サーバー上で構成されている管理者グループが、スイッチ上で構成される管理者グループに一致している必要があります。
- 管理者グループ名は、管理者グループのための標準 LDAP over SSL 名の形式に従う必要があります。
- スイッチは、最大 5 つのグループをサポートします。

ネットワークで LDAP over SSL オペレータグループを使用している場合は、オペレータグループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチ上でこれらのグループを構成する必要があります。

- LDAP over SSL サーバー上で構成されているオペレータグループが、スイッチ上で構成されるグループに一致している必要があります。
- オペレータグループ名は、オペレータグループのための標準 LDAP over SSL 名の形式に従う必要があります。
- スイッチは、最大 5 つのグループをサポートします。

ネットワークで LDAP over SSL カスタムグループを使用している場合は、カスタムグループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチ上でこれらのグループを構成する必要があります。

- LDAP over SSL サーバー上で構成されているカスタムグループが、スイッチ上で構成されるグループに一致している必要があります。
- カスタムグループ名は、カスタムグループのための標準 LDAP over SSL 名の形式に従う必要があります。
- スイッチは、最大 5 つのグループをサポートします。

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、LDAP over SSL 環境の管理者グループをサポートしています。管理者グループの構成については、348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

- **LDAP over SSL 管理者グループを構成します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/admingroups/X  distinguished-name
->
```

ここでは:

- *X* は管理者グループに対応する `1` から `5` までの数値です。
- *distinguished-name* (DN) は、DN 内の要素で構成されるコンマで区切られたリストです。

たとえば、テクニカルライターの LDAP over SSL DN で管理者グループ `1` を構成するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/ldapssl/admingroups/1/
 name=CN=SpAdmin,OU=Techniques,DC=techpubs,DC=companyq,DC=com
Set 'name' to 'CN=SpAdmin,OU=Techniques,DC=techpubs,DC=companyq,DC=com'
->
```

DN 内の個々の要素が、LDAP over SSL サーバー上で構成されているいずれかのグループに一致している必要があります。LDAP over SSL グループのすべてのメンバーが、デフォルトで管理者の役割を取得します。

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、LDAP over SSL 環境のオペレータグループをサポートしています。オペレータグループの構成については、348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

● **LDAP over SSL オペレータグループを構成します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/opergroups/Xname=distinguished-name
->
```

ここでは:

- *X* はオペレータグループに対応する 1 から 5 までの数値です。
- *distinguished-name* は構成するオペレータグループの名前です。

たとえば、オペレータグループ 1 を構成し、それに名前 guests を割り当てるには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/ldapssl/opergroups/1 name=name=CN=Popper,OU=guests,DC=us,DC=companyq,DC=com
Set 'name' to 'name=CN=Popper,OU=guests,DC=us,DC=companyq,DC=com'

Set 'name' to 'name=CN=Popper,OU=guests,DC=us,DC=companyq,DC=com'

->
```

このグループのすべてのメンバーはデフォルトで、オペレータの役割を取得します。

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」

- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、LDAP over SSL 環境のカスタムグループをサポートしています。LDAP over SSL カスタムグループの構成については、348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

1. **カスタムグループを構成します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/customgroups/Xname=distinguished-name
->
```

ここでは:

- *X* はカスタムグループに対応する `1` から `5` までの数値です。
- *distinguished-name* (DN) は構成するカスタムグループの名前です。

たとえば、カスタムグループ `1` を構成し、それに名前 `techpubs` を割り当てるには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/ldapssl/customgroups/1
 name=CN=SpAdmin,OU=Techniques,DC=techpubs,DC=companyq,DC=com
Set 'name' to 'CN=SpAdmin,OU=Techniques,DC=techpubs,DC=companyq,DC=com'
->
```

2. **カスタムグループのメンバーにデフォルトの役割を割り当てます。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/customgroups/Xroles=role
->
```

ここでは:

- *X* はカスタムグループに対応する `1` から `5` までの数値です。
- *role* はカスタムグループに構成する役割です。

たとえば、カスタムグループ `1` を構成し、それに `service` 役割を割り当てるには、次のように入力します。

```
 -> set /SP/clients/ldapssl/customgroups/1/ roles=s
Set 'roles' to 's' [os]
->
```

role では、aucros 文字列の文字を使用して、それぞれの機能を有効にできます。27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。このカスタムグループのすべてのメンバーはデフォルトで、サービスの役割を受け取ります。

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)

ユーザードメインは、UID 名形式または識別名形式のいずれかで追加できます。

- UID 名形式は、uid=*username*,ou=*people*,dc=*company*,dc=com です。
- 識別名形式は、CN=*username*,CN=*users*,DC=*domain*,DC=*company*,DC=com です。

いずれかの名前形式で、*username* 置換文字列は、ユーザーのログイン名に置き換え可能ですが、残りの情報要素は、認証サーバー上の情報要素と正確に一致している必要があります。

- **LDAP over SSL ユーザードメインを構成します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl/userdomains/Xuid=username,ou=people,dc=company,dc=com
```

```
->
```

ここでは:

- *X* はユーザードメインに対応する `1` から `5` までの数値です。
- *username* は認証時に使用されるユーザーのログイン名です。
- *people* は認証サーバーに構成されているユーザーのグループです。*company* は、認証サーバーに構成されている会社名です。

たとえば、ユーザードメイン `1` を構成し、`company.com` の `techpubs` 内の `writer1` にそれを割り当てるには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/activedirectory/userdomains/1 uid=writer1,ou=techpubs,dc=oracle,dc=com
Set 'domain' to 'uid=writer1,ou=techpubs,dc=oracle,dc=com'
->
```

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)

LDAP over SSL ユーザーマッピングは、ユーザー資格情報の検証のために、単純なログイン名を識別名 (DN) に変換できるようにします。

1. **スイッチのオプションのユーザーマッピングを有効にします。**

```
 -> set /SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping/ state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
->
```

2. 検索ベースを設定します。

```
-> set /SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping/ searchbase=genericstring.companyq.com
Set 'searchbase' to 'genericstring.companyq.com'
->
```

3. バインド DN を設定します。

```
 -> set /SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping/ binddn=companyq.com
Set 'binddn' to 'companyq.com'
->
```

4. バインドパスワードを設定します。

```
-> set /SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping/ bindpw=toothbrush
Set 'bindpw' to 'toothbrush'
->
```

5. 属性情報を設定します。

```
-> set /SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping/ attributeInfo=fortestonly
Set 'attributeInfo' to 'fortestonly'
->
```

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP over SSL クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)

どの AD プロパティーも削除またはリセットすることなく、LDAP over SSL を選択的に無効にできます。無効になっている場合、LDAP over SSL ユーザーはスイッチへのアクセスが許可されません。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/clients/ldapssl state=disabled
Set 'state' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 342 ページの「LDAP over SSL クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 343 ページの「LDAP over SSL クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 345 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 346 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 347 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの証明書の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 348 ページの「LDAP over SSL グループ (Oracle ILOM CLI)」
- 350 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 351 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 352 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 353 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 354 ページの「LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 85 ページの「Oracle ILOM LDAP over SSL クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 86 ページの「LDAP over SSL プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

RADIUS クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、RADIUS で認証されたユーザーにアクセス権を付与するために、ネットワーク内の RADIUS サーバーと対話する RADIUS クライアントがあります。

- 357 ページの「RADIUS クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 357 ページの「RADIUS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 358 ページの「RADIUS 代替サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 360 ページの「RADIUS クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 324 ページの「AD クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 339 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 340 ページの「LDAP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 341 ページの「LDAP over SSL クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 360 ページの「SSO の管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ RADIUS クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、ネットワーク内の RADIUS サーバーと対話する RADIUS クライアントがあります。スイッチが RADIUS 用に構成されている場合、認証および承認された RADIUS ユーザーがスイッチにアクセスできます。

- RADIUS は FIPS が無効になっている場合にのみ有効にできます。422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。
- Oracle ILOM クライアント用に RADIUS ユーザープロパティーを構成するには、Oracle 役割モデルのユーザー管理の役割 (u) が必要です。
- スイッチと RADIUS サーバーの両方に RADIUS プロパティーが設定されている必要があります。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/clients/radius/ state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 357 ページの「RADIUS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 358 ページの「RADIUS 代替サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 360 ページの「RADIUS クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 88 ページの「Oracle ILOM RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ RADIUS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチの一般的な RADIUS プロパティーの構成の一部として、次を設定します。

- サーバーのアドレスとポート
- RADIUS ユーザーのデフォルトの役割
- 代替の RADIUS サーバー

1. **RADIUS を有効にします。**

   357 ページの「RADIUS クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

2. **プライマリ RADIUS サーバーのアドレスを設定します。**

```
-> set /SP/clients/radius address=123.45.67.89
Set 'address' to '123.45.67.89'
->
```

3. **RADIUS 通信のポートを設定します。**

```
-> set /SP/clients/radius port=1900
Set 'port' to '1900'
->
```

   RADIUS 認証のデフォルトのポートは 1812 です。

4. **RADIUS 経由で認証されたユーザーのデフォルトの役割を設定します。**

```
-> set /SP/clients/radius defaultrole=s
Set 'role' to 's' [os]
->
```

   デフォルトで、LDAP ユーザーの役割はオペレータ (o) ですが、追加の役割を構成できます。オペレータの役割は常に構成されます。

5. **RADIUS シークレットパスワードを設定します。**

```
-> set /SP/clients/radius/ secret=knockknock
Set 'secret' to 'knockknock'
->
```

関連情報

- 357 ページの「RADIUS クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 358 ページの「RADIUS 代替サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 360 ページの「RADIUS クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 88 ページの「Oracle ILOM RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ RADIUS 代替サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)

通常、RADIUS ネットワークには、単一点障害を回避するために複数の代替 RADIUS サーバーがあります。スイッチは最大 5 台の RADIUS サーバーとプライマリをサポートします。このタスクを使用して、代替 RADIUS サーバーを構成します。

1. **代替サーバーの IP アドレスを指定します。**

```
-> set /SP/clients/radius/alternateservers/Xaddress=IP_address
->
```

ここでは:

- *X* は、各代替の RADIUS サーバーの `1` から `5` の数値です。
- *IP_address* は代替サーバーの IP アドレスです。

たとえば、`123.45.67.89` のアドレスの代替サーバー `1` を設定するには、次を入力します。

```
-> set /SP/clients/radius/alternateservers/1 address=123.45.67.89
Set 'address' to '123.45.67.89'
->
```

2. **代替サーバーのポートを設定します。**

```
-> set /SP/clients/radius/alternateservers/Xport=number
->
```

ここでは:

- *X* は、各代替の RADIUS サーバーの `1` から `5` の数値です。
- *number* は代替サーバーが通信に使用するポート番号です。

たとえば、代替サーバー `1` でポート `130` を使用するように設定するには、次を入力します。

```
-> set /SP/clients/radius/alternateservers/1 port=130
Set 'port' to '130'
->
```

3. **代替サーバーのシークレットを設定します。**

```
-> set /SP/clients/radius/alternateservers/Xsecret=passworded
->
```

ここでは:

- *X* は、各代替の RADIUS サーバーの `1` から `5` の数値です。
- *number* は代替サーバーが通信に使用するポート番号です。

たとえば、代替サーバー `1` でシークレット `openplease` を使用するように設定するには、次を入力します。

```
-> set /SP/clients/radius/alternateservers/1 secret=openplease
Set 'secret' to 'openplease'
->
```

関連情報

- 357 ページの「RADIUS クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 357 ページの「RADIUS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 360 ページの「RADIUS クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 88 ページの「Oracle ILOM RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ RADIUS クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)

どの RADIUS プロパティーも削除またはリセットする必要なく、RADIUS を選択的に無効にできます。無効にすると、RADIUS ユーザーはスイッチへのアクセスが許可されません。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/clients/radius state=disabled
Set 'state' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 357 ページの「RADIUS クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 357 ページの「RADIUS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 358 ページの「RADIUS 代替サーバーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 88 ページの「Oracle ILOM RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

SSO の管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、正常に認証されたあとに、ユーザー資格証明の転送可能性を有効にするシングルサインオン機能 (SSO) をサポートしています。ユーザーが常に追加のログインおよびパスワードを求められないように、資格証明は複数の異なるシステム全体で格納され、変換されます。

- 361 ページの「SSO の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「SSO の無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 324 ページの「AD クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 339 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 340 ページの「LDAP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 341 ページの「LDAP over SSL クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 356 ページの「RADIUS クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SSO の有効化 (Oracle ILOM CLI)

SSO が有効にされている場合、ユーザー名とパスワードで 1 回ログインすると、現在のセッション中、ユーザー資格証明がユーザーを追跡するため、ユーザーは別のシステムまたはアプリケーションにアクセスするときに再度ログインする必要がありません。

- **次のように入力します。**

```
 -> set /SP/services/sso/ state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 361 ページの「SSO の無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 89 ページの「シングルサインオンの状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SSO の無効化 (Oracle ILOM CLI)

必要に応じて SSO を無効にできます。無効にすると、スイッチに資格証明を提供する必要があるたびに、ユーザー名とパスワードの入力が求められます。

- **次のように入力します。**

```
 -> set /SP/services/sso/ state=disabled
Set 'state' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 361 ページの「SSO の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 89 ページの「シングルサインオンの状態の表示 (Oracle ILOM CLI)」

通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI によって、イベント、通知、およびイベントロギングの状態とプロパティーを構成する方法について説明します。

- 362 ページの「SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 363 ページの「アラートおよびイベントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 368 ページの「ログの管理 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 324 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 370 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 378 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 383 ページの「スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、指定された電子メールアドレスに、通知とアラートを電子メールで送信するために使用される SMTP 電子メールクライアントが含まれています。電子メールアドレスは、エイリアスまたはスイッチ管理者などの個々の受信者の電子メールを指定できます。

注記 - メッセージを送信するには、電子メールアラートルールで SMTP クライアントが有効にされ、構成されている必要があります。365 ページの「電子メールアラートを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

---

1. **SMTP サーバー情報でクライアントを構成します。**

```
-> set /SP/clients/smtp address=IP_address customisers=email port=outnumber state=state
```

ここでは:

- *IP_address* は SMTP サーバーの IP アドレスです。
- *email* は「差出人」フィールドに表示される送信者です。たとえば、`ilom-gwl@`*hostname*。ここで、*hostname* は SP のホスト名です。
- *port* は SMTP サーバー通信が行われるポートです。
- *state* は `enabled` または `disabled` です。

たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/smtp address=123.45.67.89 customisers=ilom-gwl@hostname state=enabled
Set 'address' to '123.45.67.89'
Set 'customisers' to 'ilom-gwl@hostname'
Set 'state' to 'enabled'
->
```

2. **(オプション) SMTP クライアント設定を検証するためにテスト電子メールを送信します。**

   a. **次のように入力します。**

      ```
      -> set /SP/clients/smtp send_test_email_to=email_to
      ```

      email_to は宛先の電子メールアドレスです。

   b. **電子メールを受信したことを確認します。**

関連情報

- 90 ページの「SMTP クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

アラートおよびイベントの管理 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI を使用してスイッチの通知システムでアラートおよびイベントを送信するように構成する方法に関する情報について説明します。

- 364 ページの「SNMP トラップを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 365 ページの「電子メールアラートを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 366 ページの「PET を送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 367 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 368 ページの「障害の発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 362 ページの「SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 368 ページの「ログの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP トラップを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチ内の条件が、スイッチにすでに事前構成されているルールを編集することによって作成したアラートレベルと一致したときに、アラートが送信されます。ルールの構成の一部はアラートレベルの指定であり、SNMP トラップなどのアラートタイプの指定でもあります。指定されたレベル以上のアラートが発生した場合、スイッチは SNMP トラップを送信します。デフォルトで、アラートは無効になっています。

このタスクを使用して、アラートが発生した場合、スイッチがトラップを送信するように構成します。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/alertmgmt/rules/alert/ destination=IP_address destination_port=162 level=level snmp_version=version
```

ここでは:

- *alert* はアラートの数です。
- *IP_address* は SNMP トラップを受信するホストの IP アドレスです。
- *level* はアラートのレベルです。
- *version* は SNMP トラップのバージョンです。

たとえば、`minor` 以上の重大度のイベントが発生したときに、`123.45.67.89` にあるホストに v2c SNMP トラップを送信するアラート 1 を設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/alertmgmt/rules/1/ destination=123.45.67.89 destination_port=162 level=minor snmp_version=3
Set 'destination' to '123.45.67.89'
Set 'destination_port' to '162'
Set 'level' to 'minor'
Set 'snmp_version' to '3'
->
```

注記 - 162 の宛先ポートがデフォルトです。

これは、集計センサーが `Asserted` の状態にある場合の SNMP v2c トラップの例です。この出力では、トラップソースはスイッチで、トラップを発生させるコンポーネントは、`/SYS/CHASSIS_STATUS` または集計センサーです。

```
Sep 25 10:18:08 mnm-blr-9 snmptrapd[3579]: [ID 702911 daemon.warning] mnm-blr-60.in.oracle.com
 [123.45.67.90]: Trap
DISMAN-EVENT-MIB::sysUpTimeInstance = Timeticks: (2814848) 7:49:08.48, SNMPv2-MIB::snmpTrapOID.0 = OID:
SUN-HW-TRAP-MIB::sunHwTrapComponentError, SUN-HW-TRAP-MIB::sunHwTrapSystemIdentifier.0 = STRING:
 123.45.67.90,
SUN-HW-TRAP-MIB::sunHwTrapChassisId.0 = STRING: AK00022680, SUN-HW-TRAP-MIB::sunHwTrapProductName.0 =
 STRING: Oracle
IS2-46 InfiniBand Switch, SUN-HW-TRAP-MIB::sunHwTrapComponentName.0 = STRING: /SYS/CHASSIS_STATUS,
```

```
SUN-HW-TRAP-MIB::sunHwTrapAdditionalInfo.0 = STRING: State Asserted, SUN-HW-TRAP-
MIB::sunHwTrapAssocObjectId.0 = OID:
ENTITY-MIB::entPhysicalDescr.37
```

関連情報

- 365 ページの「電子メールアラートを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 366 ページの「PET を送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 367 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 368 ページの「障害の発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 91 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 電子メールアラートを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチ内の条件が、スイッチにすでに事前構成されているルールを編集することによって作成したアラートレベルと一致したときに、アラートが送信されます。ルールの構成の一部はアラートレベルを指定しており、電子メールなどのアラートタイプも指定しています。指定されたレベル以上のアラートが発生した場合、スイッチは電子メールを送信します。デフォルトで、アラートは無効になっています。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/alertmgmt/rules/alert destination=email_to type=email email_custom_sender=email_from level=level
```

ここでは:

- *alert* はアラートの数です。
- *email_to* はアラートを受信する電子メールアドレスです。
- *email_from* は「差出人」フィールドに表示されるような送信者です。例: `ilom-gwl-hostname`。ここで、*hostname* は SP のホスト名です。
- *level* はアラートのレベルです。

たとえば、major 以上の重大度のイベントが発生すると常に、`user@headsup.com` に電子メールを送信するようにアラート 1 を設定するには:

```
-> set /SP/alertmgmt/rules/1 destination=user@companyq.com type=email email_custom_sender=ilom-gwl-unit1 level=major
Set 'destination' to 'user@companyq.com'
Set 'type' to 'email'
Set 'email_custom_sender' to 'ilom-gwl-unit1'
Set 'level' to 'major'
->
```

関連情報

- 364 ページの「SNMP トラップを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 366 ページの「PET を送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 367 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 368 ページの「障害の発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 91 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ PET を送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチ内の条件が、スイッチにすでに事前構成されているルールを編集することによって作成したアラートレベルと一致したときに、アラートが送信されます。ルールの構成の一部はアラートレベルの指定であり、IPMI PET などのアラートタイプの指定をすることもできます。指定されたレベル以上のアラートが発生した場合、スイッチは IPM PET を送信します。デフォルトで、アラートは無効になっています。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/alertmgmt/rules/alert/ destination=IP_address level=level type=ipmipet
```

ここでは:

- *alert* はアラートの数です。
- *IP_address* は PET トラップを受信するホストの IP アドレスです。
- *level* はアラートのレベルです。

たとえば、`minor` 以上の重大度のイベントの発生時に、`123.45.67.89` にあるホストに `ipmipet` トラップを送信するアラート 2 を設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/alertmgmt/rules/2/ destination=123.45.67.89 level=minor type=ipmipet
Set 'destination' to '123.45.67.89'
Set 'level' to 'minor'
Set 'type' to 'ipmipet'
->
```

これは、マイナーレベルのアラートの PET トラップの例です。

```
Sep 12 13:12:38 mnm-blr-2 snmptrapd[1514]: [ID 702911 daemon.warning] 123.45.67.90: Enterprise Specific Trap
 (12583681) Uptime: 117 days, 8:00:20.80, SNMPv2-SMI::enterprises.3183.1.1.1 = Hex-STRING: FF 20 00 08 FF FF
 FF FF FF FF 8E 00 28 4B E0 00
Sep 12 13:12:38 mnm-blr-2 02 00 A0 EB C1 07 FF FF 20 20 02 20 01 00 00 01
Sep 12 13:12:38 mnm-blr-2 FF FF 00 00 00 00 00 19 2A 00 00 00 30 30 80 0F
Sep 12 13:12:38 mnm-blr-2 03 43 48 41 53 53 49 53 5F 53 54 41 54 55 53 00
Sep 12 13:12:38 mnm-blr-2 80 26 03 53 75 6E 54 4D 20 44 61 74 61 63 65 6E
Sep 12 13:12:38 mnm-blr-2 74 65 72 20 49 6E 66 69 6E 69 42 61 6E 64 20 53
```

```
Sep 12 13:12:38 mnm-blr-2 77 69 74 63 68 20 33 36 00 C1 00 00 00 00
```

関連情報

- 364 ページの「SNMP トラップを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 365 ページの「電子メールアラートを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 367 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 368 ページの「障害の発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 91 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ アラートの無効化 (Oracle ILOM CLI)

デフォルトで、アラートは無効になっています。有効になっているアラームに対し、個々のルールを選択的に無効にできます。アラートが無効になっている場合、そのルールに関連付けられている SNMP トラップ、電子メール、または IPMI PET が送信されなくなります。アラートの原因となった状況が引き続き存在しますが、通知されません。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/alertmgmt/rules/alert level=disable
```

ここで *alert* は無効にするアラートの数です。

たとえば、アラート 1 を無効にするには、次を入力します。

```
-> set /SP/alertmgmt/rules/1 level=disable
Set 'level' to 'disable'
->
```

アラートは無効になります。

関連情報

- 364 ページの「SNMP トラップを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 365 ページの「電子メールアラートを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 366 ページの「PET を送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 368 ページの「障害の発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 91 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 障害の発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM CLI)

システムコンポーネントで障害が発生した場合、必要に応じて個々の障害が発生したコンポーネントをクリアできます。このタスクを使用して、障害の発生したコンポーネントをクリアします。

- **次のように入力します。**

```
-> set faulted_target clear_fault_action=true
```

ここで、*faulted_target* は障害のあるコンポーネントの Oracle ILOM ターゲットです。

たとえば、次のように入力します。

```
-> set /SYS/PS0/ clear_fault_action=true
Are you sure you want to clear /SYS/PS0 (y/n)? y
Set 'clear_fault_action' to 'true'
->
```

関連情報

- 364 ページの「SNMP トラップを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 365 ページの「電子メールアラートを送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 366 ページの「PET を送信するためのアラートの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 367 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 91 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

ログの管理 (Oracle ILOM CLI)

Oracle ILOM には自動的に関連情報を記録する 2 つのファイルがあります。

- イベントログは SP に対して記録されたすべてのスイッチハードウェア関連イベントを記録します。
- 監査ログは、スイッチの構成の変更が発生するユーザー発行コマンドを記録します。

これらのトピックでは、イベントログと監査ログのエントリの表示や動作を制御する方法について説明します。

- 369 ページの「ログのクリア (Oracle ILOM CLI)」
- 369 ページの「リモートログホストの構成 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 362 ページの「SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 363 ページの「アラートおよびイベントの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ログのクリア (Oracle ILOM CLI)

ログファイルが大きくなると、ログの内容の検索と管理を容易にするために、それをクリアしたいと考える場合があります。ログをクリアすると、新しいイベントが発生したときに再度記録が開始されます。

- **次のいずれかまたはすべてを行います。**
  - **監査ログをクリアするには、次のように入力します。**

```
-> set /SP/logs/audit/ clear=true
Are you sure you want to clear /SP/logs/audit (y/n)? y
Set 'clear' to 'true'
->
```

  - **イベントログをクリアするには、次のように入力します。**

```
-> set /SP/logs/event clear=true
Are you sure you want to clear /SP/logs/event (y/n)? y
Set 'clear' to 'true'
->
```

  - **システムログをクリアするには、次のように入力します。**

```
-> set /System/Log/ clear=true
-> Are you sure you want to clear /System/Log (y/n)? y
->
```

関連情報

- 369 ページの「リモートログホストの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 92 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 95 ページの「Oracle ILOM ログエントリのフィルタ」

▼ リモートログホストの構成 (Oracle ILOM CLI)

SP の Oracle ILOM 実装は、Oracle ILOM イベントをリモートログホストに転送するためのプロトコルを提供します。転送されるイベントは、ローカルログに表示されるものと似ています。

- **リモートログホストの IP アドレスを設定します。**

```
-> set /SP/clients/syslog/numberaddress=IP_address
```

ここでは:

- *number* は最初のログホストの場合 `1` で 2 番目のログホストの場合 `2` です。
- *IP_address* はログホストの IP アドレスです。

注記 - リモートログホストの IP アドレスを `0.0.0.0` に設定すると、その機能が無効になります。

たとえば、リモートホスト 1 の IP アドレスを `123.45.67.89` に設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/syslog/1 address=123.45.67.89
Set 'address' to '123.45.67.89'
->
```

関連情報

- 96 ページの「リモートログホストの表示 (Oracle ILOM CLI)」

管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI によって、スイッチの IPv4 および IPv6 ネットワーク構成と個々のネットワークコントローラを制御する方法について説明します。

- 371 ページの「管理ネットワークパラメータの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 372 ページの「IPv4 管理ネットワークプロパティーの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 377 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 324 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 378 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」

- 383 ページの「スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 管理ネットワークパラメータの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチのネットワーク管理パラメータにより、Oracle ILOM は、SP の IP アドレスを自動的に知ることができます。

注記 - このタスクは、リセットまたはリブートを必要としない変更を行います。

---

1. **ネットワーク管理パラメータを構成します。**

```
-> set /SP/network property=value property=value ...
```

ここでは:

- *property* は構成するネットワークのパラメータです。
- *value* は構成する *property* の値です。

注記 - 1 つ、複数、またはすべてのプロパティーを 1 行のコマンド行に構成できます。

これらのプロパティーがサポートされています。

- `commitpendingpending` – *value* は保留中の情報がコミットされたかどうかで、`true` または `false` のどちらかです。
- `dhcp_clienid` – *value* はそのアドレス情報を受信する DHCP クライアントの識別子です。
- `dhcp_server_ip` – *value* は DHCP サーバーの IP アドレスです。
- `ipaddress` – *value* はスイッチのホスト IP アドレスです。
- `ipdiscovery` – *value* は構成されている IP アドレス割り当てのタイプで、`static` または `dhcp` のどちらかです。
- `ipgateway` – *value* はスイッチの IP ゲートウェイの IP アドレスです。
- `ipnetmask` – *value* はスイッチのホスト IP アドレスの IP ネットマスクです。
- `macaddress` – *value* はスイッチの MAC アドレスです。
- `pendingipaddress` – *value* は構成する SP の IP アドレスです。
- `pendingipdiscovery` – *value* は構成する IP 検出の方法で、`static` または `dhcp` のどちらかです。

- `pendingipgateway` – *value* は構成するスイッチの IP アドレスです。
- `pendingipnetmask` – *value* は構成するネットマスクです。
- `pendingvlan_id` – *value* は構成する VLAN ID です。
- `state` –*value* は現在構成されていて、使用中の IP プロトコルバージョンです。
- `vlan_id` –*value* は現在構成されていて、使用中の VLAN ID です。

たとえば、SP の IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/network pendingipaddress=123.45.67.90
Set 'pendingipaddress' to '123.45.67.90'
```

2. **変更をコミットします。**

```
-> set /SP/network commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
```

IP アドレスが `123.45.67.90` に変更されました。

3. **新しい IP アドレスを使用して、Oracle ILOM CLI にアクセスします。**

4. **新しい IP アドレスを表示します。**

```
-> show /SP/network ipaddress
 /SP/network
  Properties:
   ipaddress = 123.45.67.90
->
```

関連情報

- 372 ページの「IPv4 管理ネットワークプロパティーの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 99 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM CLI)」

IPv4 管理ネットワークプロパティーの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、ネットワーク管理インタフェースの標準 IPv4 ルーティングをサポートしています。

- 373 ページの「IPv4 の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 373 ページの「IPv4 ルーティングプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 374 ページの「IPv4 管理ネットワークルーティングの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 371 ページの「管理ネットワークパラメータの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 99 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPv4 の有効化 (Oracle ILOM CLI)

ネットワーク管理が IPv4 ネットワーク経由で実行される場合は、このタスクを使用して、SP およびネットワーク管理インタフェースの IPv4 ネットワーク接続を有効にします。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/network/ state=enabled
Set 'state' to 'enabled' [ipv4-only]
->
```

関連情報

- 373 ページの「IPv4 ルーティングプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 374 ページの「IPv4 管理ネットワークルーティングの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 377 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPv4 ルーティングプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

IPv4 ネットワーク経由でネットワークの管理が行われる場合、このタスクを使用して、SP およびネットワーク管理プロパティーを構成します。

1. **IPV4 ネットワークを有効にします。**
   373 ページの「IPv4 の有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

2. **DHCP クライアント ID を設定します。**

```
 -> set /SP/network dhcp_clientid=sysid
Set 'dhcp_clientid' to 'sysid'
->
```

3. **保留中の IP アドレスの検出方法を設定します。**

```
 -> set /SP/network/ pendingipdiscovery=static
Set 'pendingipdiscovery' to 'static'
```

```
->
```

4. **保留中の IP アドレスを設定します。**

```
 -> set /SP/network/ pendingipaddress=192.168.1.121
Set 'pendingipaddress' to '192.168.1.121'
->
```

5. **保留中の IP ゲートウェイを設定します。**

```
 -> set /SP/network/ pendingipgateway=192.168.1.1
Set 'pendingipgateway' to '192.168.1.1'
->
```

6. **保留中の IP ネットマスクを設定します。**

```
 -> set /SP/network/ pendingipnetmask=255.255.255.0
Set 'pendingipnetmask' to '255.255.255.0'
->
```

7. **保留中のコミットをアクティブ化します。**

```
-> set /SP/network/ commitpending=true
Commit Successful.
->
```

8. **(オプション) ネットワークの有効性をテストします。**

377 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

関連情報

- 373 ページの「IPv4 の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 374 ページの「IPv4 管理ネットワークルーティングの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 377 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPv4 管理ネットワークルーティングの無効化 (Oracle ILOM CLI)

ネットワーク管理インタフェースの IPv4 ルーティングは、いつでも無効にできます。無効にすると、IPv4 ルーティングプロパティーは構成されたままになりますが、SP で IPv4 トラフィックがサポートされません。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/network/ state=disabled
Set 'state' to 'disabled' [ipv4-only]
```

```
->
```

関連情報

- 373 ページの「IPv4 の有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 373 ページの「IPv4 ルーティングプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 377 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI)」

IPv6 管理ネットワークプロパティーの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、ネットワーク管理インタフェースの標準 IPv6 ルーティングをサポートしています。

- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークルーティングの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 376 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 377 ページの「IPv6 管理ネットワークの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 371 ページの「管理ネットワークパラメータの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 99 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 377 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPv6 管理ネットワークルーティングの有効化 (Oracle ILOM CLI)

ネットワーク管理が IPv6 ネットワーク経由で実行される場合は、このタスクを使用して、SP およびネットワーク管理インタフェースの IPv6 ネットワーク接続を有効にします。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/network/ipv6 state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 376 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 377 ページの「IPv6 管理ネットワークの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 377 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI)」
- 98 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPv6 管理ネットワークプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

IPv6 ネットワーク経由でネットワークの管理が行われる場合、このタスクを使用して、SP およびネットワーク管理プロパティーを構成します。

1. **IPv6 ネットワークを有効にします。**
   375 ページの「IPv6 管理ネットワークルーティングの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

2. **必要に応じて自動構成を有効にします。**

   - **DHCP の場合、次のように入力します。**

     ```
     -> set /SP/network/ipv6 autoconfig=dhcpv6_stateful
     Set 'autoconfig' to 'dhcpv6_stateless'
     ->
     ```

   - **静的アドレス割り当ての場合は、次のように入力します。**

     ```
     -> set /SP/network/ipv6 autoconfig=dhcpv6_stateless
     Set 'autoconfig' to 'dhcpv6_stateless'
     ->
     ```

3. **静的アドレス割り当ての場合、保留中の静的 IP アドレスを設定します。**

   ```
   -> set /SP/network/ipv6 pending_static_ipaddress=2001:345:abcd::123:45
   Set 'pending_static_ipaddress' to '2001:345:abcd::123:45' [2001:345:abcd::123:44/128]
   ->
   ```

4. **静的アドレス割り当ての場合は、ゲートウェイの保留中の静的 IP アドレスを設定します。**

   ```
    -> set /SP/network/ipv6 pending_static_ipgateway=2001:345:abcd::1:1
   Set 'pending_static_ipgateway' to '2001:345:abcd::1:1'
   ->
   ```

関連情報

- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークルーティングの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 377 ページの「IPv6 管理ネットワークの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

- 377 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI)」
- 98 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPv6 管理ネットワークの無効化 (Oracle ILOM CLI)

ネットワーク管理インタフェースの IPv6 ルーティングは、いつでも無効にできます。IPv6 を無効にすると、そのルーティングプロパティーは構成されたままになりますが、SP で IPv6 トラフィックがサポートされません。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/network/ipv6 state=disabled
Set 'state' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークルーティングの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 376 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 377 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI)」
- 98 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM CLI)

スイッチは IPv4 `ping` および IPv6 `ping6` を指定された宛先に送信して、ネットワークが正しく構成されていることを確認できます。

- **ネットワークプロトコルバージョンに適している方法を使用します。**
  - **IPv4 の場合は、IPv4 をサポートしているデバイスに `ping` パケットを送信します。**

```
-> set /SP/network/test/ping 10.11.12.13
->
```

  - **IPv6 の場合は、IPv6 をサポートしているデバイスに `ping` パケットを送信します。**

```
-> set /SP/network/test/ping6 10.11.12.13
->
```

関連情報

- 375 ページの「IPv6 管理ネットワークルーティングの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 376 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 377 ページの「IPv6 管理ネットワークの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 98 ページの「IPv6 管理ネットワークプロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI によってスイッチへの接続を管理する方法について説明します。

- 378 ページの「シリアル接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 381 ページの「スイッチの管理接続とログインメッセージの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「Oracle ILOM CLI のセッションタイムアウトの構成 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 324 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 370 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 383 ページの「スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

シリアル接続の管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチはシリアル接続による管理端末への接続をサポートしています。

- 379 ページの「外部シリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 380 ページの「ホストシリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 380 ページの「ポート共有の構成 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 381 ページの「スイッチの管理接続とログインメッセージの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「Oracle ILOM CLI のセッションタイムアウトの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 外部シリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

シリアル接続は、接続のスイッチ側終端とホスト側終端で一致するプロパティーで構成されている必要があります。このタスクを使用して、接続のスイッチ側終端のフロー制御や接続ボーレートなどのシリアル接続プロパティーを設定します。シリアル接続の構成には、プロパティーをコミットする必要があります。保留中のプロパティーのコミットは、シリアルコンソールの使用中にはできません。

1. **保留中のフロー制御を設定します。**

```
-> set /SP/serial/external/ pendingflowcontrol=software
Set 'pendingflowcontrol' to 'software'
->
```

2. **保留中の速度を設定します。**

```
-> set /SP/serial/external/ pendingspeed=115200
Set 'pendingspeed' to '115200'
->
```

3. **保留中のプロパティーをコミットします。**

```
-> set /SP/serial/external/ commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
->
```

関連情報

- 380 ページの「ホストシリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 380 ページの「ポート共有の構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 381 ページの「接続メッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「ログインメッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 102 ページの「ホストコンソール接続設定の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ホストシリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

シリアル接続は、接続のスイッチ側終端とホスト側終端で一致するプロパティーで構成されている必要があります。このタスクを使用して、接続のホスト側終端のフロー制御や接続ボーレートなどのシリアル接続プロパティーを設定します。シリアル接続の構成には、プロパティーをコミットする必要があります。保留中のプロパティーのコミットは、シリアルコンソールの使用中にはできません。

1. **保留中のフロー制御を設定します。**

```
-> set /SP/serial/host/ pendingflowcontrol=software
Set 'pendingflowcontrol' to 'software'
->
```

2. **保留中の速度を設定します。**

```
-> set /SP/serial/host/ pendingspeed=115200
Set 'pendingspeed' to '115200'
->
```

3. **保留中のプロパティーをコミットします。**

```
-> set /SP/serial/host/ commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
->
```

関連情報

- 379 ページの「外部シリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 380 ページの「ポート共有の構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 381 ページの「接続メッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「ログインメッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 102 ページの「ホストコンソール接続設定の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ポート共有の構成 (Oracle ILOM CLI)

接続の一方の終端がポート共有機能の制御を担当する必要があります。このタスクを使用して、ポート共有の所有者として SP を設定します。ポート共有の構成には、ポート共有所有者をコミットする必要があります。所有者のコミットは、シリアルコンソールの使用中にはできません。

- **ポート共有を制御するエンティティーを設定します。**

```
 -> set /SP/serial/portsharing/ owner=sp
Set 'owner' to 'sp'
```

```
->
```

関連情報

- 379 ページの「外部シリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 380 ページの「ホストシリアル接続プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 381 ページの「接続メッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「ログインメッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 102 ページの「ホストコンソール接続設定の表示 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチの管理接続とログインメッセージの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、ユーザーがスイッチに接続するか、またはログインすると表示されるバナーメッセージをサポートしています。

- 381 ページの「接続メッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「ログインメッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 378 ページの「シリアル接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 381 ページの「スイッチの管理接続とログインメッセージの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「Oracle ILOM CLI のセッションタイムアウトの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 接続メッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

デフォルトで、接続メッセージは表示されませんが、必要に応じて構成できます。

- **次のように入力します。**

```
 -> -> set /SP/preferences/banner/connect/ message="Welcome to the Tech Pubs Leaf."
Set 'message' to 'Welcome to the Tech Pubs Leaf.'

->
```

関連情報

- 382 ページの「ログインメッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 101 ページの「システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「Oracle ILOM CLI のセッションタイムアウトの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ログインメッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

ユーザーがスイッチにログインするときに、カスタマイズされた情報を提供するバナーメッセージを構成できます。ログインメッセージの一部として、ユーザーがスイッチへのログインを完了する前に確認する必要があるオプションの応答を構成することもできます。

1. **ユーザーがスイッチに正常にログインしたときに表示されるメッセージを設定します。**

```
 -> set /SP/preferences/banner/login/ message="You must log off when done with this switch!"
Set 'message' to 'You must log off when done with this switch!'
->
```

2. **(オプション) ユーザーがスイッチに接続する前に、ログインバナーメッセージを受け入れる必要があるかどうかを設定します。**

```
 -> set /SP/preferences/banner/login/ message_acceptance=enabled
Set 'message_acceptance' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 382 ページの「ログインメッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 101 ページの「システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「Oracle ILOM CLI のセッションタイムアウトの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM CLI のセッションタイムアウトの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、構成された分数後に開いている CLI セッションを閉じる非アクティブタイマーをサポートしています。ゼロ (0) のタイムアウト値は、非アクティブな CLI セッションが無限に開いたままになるように、タイムアウトを無効にします。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/cli timeout=value
```

ここで *value* はセッションタイムアウトの分数です (1–1440)。0 のタイムアウト *value* を設定すると、タイムアウト機能が無効になります。

たとえば、100 分のタイムアウトを設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/cli timeout=100
Set 'timeout' to '100'
->
```

CLI セッションタイムアウトが設定されます。

関連情報

- 381 ページの「接続メッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 382 ページの「ログインメッセージプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 101 ページの「システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI を使用して、スイッチとインタフェースするためのさまざまな方法を管理する方法について説明します。

- 384 ページの「HTTP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 386 ページの「HTTPS サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 391 ページの「SSH サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 395 ページの「SNMP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 406 ページの「IPMI サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 409 ページの「Oracle ILOM の再起動」
- 410 ページの「Oracle Fabric OS の再起動」

関連情報

- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 324 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 370 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 378 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」

- 411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

HTTP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチの HTTP サービスは、ネットワーク環境への Web アクセスをサポートしています。HTTP はデフォルトのサービスではなく、デフォルトで無効になっていますが、サポートされています。

- 384 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 385 ページの「HTTP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 386 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 386 ページの「HTTPS サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 391 ページの「SSH サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 395 ページの「SNMP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 406 ページの「IPMI サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチの HTTP サービスにより、Web サーバーは Oracle ILOM に接続できます。HTTP と HTTPS (デフォルト) の両方を同時に実行できます。

注記 - デフォルトで、HTTP サービスは無効になっており、HTTPS サービスは有効になっています。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/services/http servicestate=enabled
Set 'servicestate' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 385 ページの「HTTP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 386 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「HTTP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 387 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 388 ページの「HTTPS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 389 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵の削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ HTTP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

1. **HTTP がすでに有効になっていない場合は、ここで有効にします。**
   384 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

2. **HTTP ポートを設定します。**

```
 -> set /SP/services/http port=81
Set 'port' to '81'
->
```

   デフォルトで、HTTP サービスは無効になっており、有効にされるとポート 80 で実行します。

3. **セキュアなリダイレクションの状態を設定します。**

```
 -> set /SP/services/http secureredirect=enabled
Set 'secureredirect' to 'enabled'
->
```

4. **セッションタイムアウトを設定します。**

```
 -> set /SP/services/http sessiontimeout=120
Set 'sessiontimeout' to '120'
->
```

   デフォルトで、セッションタイムアウトは 60 秒です。

関連情報

- 384 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 386 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「HTTP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 387 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 388 ページの「HTTPS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 389 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵の削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)

HTTP が有効になっている場合、既存の HTTP プロパティーを変更する必要なく、いつでもそれを無効にできます。

注記 - HTTP サービスはデフォルトで無効になっています。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/services/http servicestate=disabled
Set 'servicestate' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 384 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 385 ページの「HTTP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「HTTP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 387 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 388 ページの「HTTPS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 389 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵の削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

HTTPS サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチの HTTPS サービスは、ネットワーク環境に必要な Web アクセスと暗号化レベルをサポートしています。HTTPS はデフォルトのサービスで、デフォルトで有効になっていますが、HTTP もサポートされています。

- 387 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 388 ページの「HTTPS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 389 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM CLI)」

- 390 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵の削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 384 ページの「HTTP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 391 ページの「SSH サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 395 ページの「SNMP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 406 ページの「IPMI サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)

デフォルトで、HTTPS は有効になっており、HTTP は有効になっていませんが、両方のサービスをスイッチで同時に実行できます。HTTP が無効になっている場合、このタスクを使用して再度有効にします。

注記 - このタスクは、Oracle ILOM Web インタフェースへの HTTPS 接続を有効にします。HTTPS サービスはデフォルトで有効になっています。

---

1. **セキュアなリダイレクションを有効にします。**

```
-> set /SP/services/http secureredirect=enabled
Set 'secureredirect' to 'enabled'
->
```

2. **HTTPS サービスを有効にします。**

```
-> set /SP/services/https servicestate=enabled
Set 'servicestate' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 384 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 385 ページの「HTTP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 110 ページの「HTTP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 388 ページの「HTTPS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 389 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵の削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ HTTPS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

HTTPS プロパティーは、ネットワーク内の Web サーバー接続のセキュリティーと暗号化を有効にします。このタスクを使用して、SSL と TLS のサポートされているバージョンを含む、スイッチの HTTP プロパティーを構成します。

1. **HTTPS がすでに有効になっていない場合は、ここで有効にします。**
   387 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

2. **HTTP ポートを設定します。**

```
 -> set /SP/services/http port=81
Set 'port' to '81'
->
```

   デフォルトで、HTTP サービスは無効になっており、有効にされるとポート 80 で実行します。

3. **セッションタイムアウトを設定します。**

```
 -> set /SP/services/https sessiontimeout=120
Set 'sessiontimeout' to '120'
->
```

   デフォルトで、セッションタイムアウトは 60 秒です。

4. **適用するいずれかまたはすべての TLS サービスを有効にします。**

   - **TLS v1 を有効にします。**

```
 -> set /SP/services/https/ tlsv1=enabled
Set 'tlsv1' to 'enabled'
->
```

   - **TLS v1.1 を有効にします。**

```
 -> set /SP/services/https/ tlsv1_1=enabled
Set 'tlsv1_1' to 'enabled'
->
```

   - **TLS v1.2 を有効にします。**

```
 -> set /SP/services/https tlsv1_2=enabled
Set 'tlsv1_2' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 384 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」

- 385 ページの「HTTP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 387 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 389 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵の削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、統合 Web サーバーがあり、HTTPS アクセス用のデフォルトの SSL 証明書と自己署名鍵が含まれていますが、カスタム SSL 証明書がある場合はそれもサポートします。

注記 - カスタム証明書を使用するには、カスタム SSL 証明書と鍵の両方をインストールする必要があります。

---

1. **証明書をロードします。**

```
-> load URI /SP/services/https/ssl/custom_cert
```

ここで *URI* は Uniform Resource Indicator です。

たとえば、TFTP プロトコルを使用して、IP アドレス `123.45.67.89` から `server.pem` という名前の証明書をロードするには、次のように入力します。

```
-> load tftp://123.45.67.89//server.pem /SP/services/https/ssl/custom_cert
Load successful.
->
```

2. **鍵をロードします。**

```
-> load URI /SP/services/https/ssl/custom_key
```

ここで *URI* は Uniform Resource Indicator です。

たとえば、TFTP プロトコルを使用して、IP アドレス `123.45.67.89` から `server-key.pem` という名前の証明書をロードするには、次のように入力します。

```
-> load tftp://123.45.67.89//server-key.pem /SP/services/https/ssl/custom_key
Load successful.
->
```

関連情報

- 384 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 385 ページの「HTTP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 386 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 387 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 388 ページの「HTTPS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵の削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ カスタム SSL 証明書および鍵の削除 (Oracle ILOM CLI)

証明書の有効期限が切れている場合など、スイッチに必要なくなったカスタム SSL 証明書がある場合、このタスクを使用して、カスタム証明書とそれに対応する鍵を削除します。

1. **証明書を削除します。**

```
-> reset /SP/services/https/ssl/custom_cert
Are you sure you want to reset /SP/services/https/ssl/customer_cert (y/n)? y
Performing reset on /SP/services/https/ssl/custom_cert

->
```

2. **鍵を削除します。**

```
-> reset /SP/services/https/ssl/custom_key
Are you sure you want to reset /SP/services/https/ssl/customer_key (y/n)? y
Performing reset on /SP/services/https/ssl/custom_key
->
```

関連情報

- 384 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 385 ページの「HTTP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 386 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 387 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 388 ページの「HTTPS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 389 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

▼ HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)

HTTPS プロパティーを変更する必要なく、スイッチ上の HTTP サーバーを選択的に無効にできます。HTTPS サービスを無効にする場合、HTTP を有効にして、Oracle ILOM

への Web サーバーアクセスを保持できます。Web サーバー機能を必要としない場合は、HTTP を無効のままにすることができます。

注記 - すでにアクティブな HTTPS サーバー上でこのタスクを実行すると、サーバーが事実上リセットされます。

このタスクにより、Web インタフェースへの HTTPS 接続が無効になります。Web インタフェースにアクセスするには、HTTP サービスまたは HTTPS サービスのいずれかが有効になっている必要があります。HTTP `secure redirect` プロパティーが有効になっている間に HTTPS を無効にすることはできません。

1. **セキュアなリダイレクションを無効にします。**

```
-> set /SP/services/http secureredirect=disabled
Set 'secureredirect' to 'disabled'
->
```

2. **HTTPS サービスを無効にします。**

```
-> set /SP/services/https servicestate=disabled
Set 'servicestate' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 387 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 388 ページの「HTTPS プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 389 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM CLI)」
- 390 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 108 ページの「HTTPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 109 ページの「HTTPS サーバー SSL 証明書の表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 384 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 385 ページの「HTTP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 386 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

SSH サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、セキュアシェル接続と鍵の生成を提供する SSH サーバーが含まれています。

- 392 ページの「SSH サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 392 ページの「SSH プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

- 393 ページの「新しい鍵の生成 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH デーモンの再起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 384 ページの「HTTP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 386 ページの「HTTPS サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 395 ページの「SNMP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 406 ページの「IPMI サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SSH サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、SSH 経由での管理アクセスのためのプロパティーを設定し、必要に応じて新しい SSH 鍵の生成をサポートする SSH サーバーが含まれています。デフォルトで、スイッチははじめてブートしたときに、一連のデフォルトの RSA および DSA サーバー鍵を生成するため、鍵は常に存在しているはずです。

- **次のように入力します。**

```
 -> set /SP/services/ssh/ state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 392 ページの「SSH プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 393 ページの「新しい鍵の生成 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH デーモンの再起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「SSH プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SSH プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

1. **SSH サービスがすでに有効になっていない場合は、ここでそれを有効にします。**
   392 ページの「SSH サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。
2. **弱い暗号化の状態を設定します。**

```
 -> set /SP/services/ssh/ weakciphers=enabled
```

```
Set 'state' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 392 ページの「SSH サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 393 ページの「新しい鍵の生成 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH デーモンの再起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「SSH プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 新しい鍵の生成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは SSH 接続用の RSA および DSA 鍵を生成できます。新しい鍵を生成するには、処理中の SSH セッションを終了させる SSH サーバーの再起動が必要になります。

1. **RSA または DSA 鍵が必要かどうかを判断します。**
2. **生成する鍵のタイプを設定します。**
   - **RSA 鍵の場合、次のように入力します。**

     ```
      -> set /SP/services/ssh/ generate_new_key_type=rsa
     Set 'generate_new_key_type' to 'rsa'
     ->
     ```

   - **DSA 鍵の場合、次のように入力します。**

     ```
      -> set /SP/services/ssh/ generate_new_key_type=dsa
     Set 'generate_new_key_type' to 'dsa'
     ->
     ```

3. **適切な鍵を生成します。**

```
 -> set /SP/services/ssh generate_new_key_action=true
Set 'generate_new_key_action' to 'true'
->
```

関連情報

- 392 ページの「SSH サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 392 ページの「SSH プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH デーモンの再起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

- 106 ページの「SSH プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SSH デーモンの再起動 (Oracle ILOM CLI)

SSH 構成を変更する必要なく、スイッチ上の SSH デーモンをいつでも選択的に再起動できます。SSH が再起動されると、スイッチは、SP 上で実行されているすべてのアクティブな SSH CLI セッションを終了します。このタスクを使用して、スイッチ上の SSH を再起動します。

- **次のように入力します。**

```
 -> set /SP/services/ssh restart_sshd_action=true
Set 'restart_sshd_action' to 'true'
->
```

関連情報

- 392 ページの「SSH サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 392 ページの「SSH プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 393 ページの「新しい鍵の生成 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「SSH プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SSH サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)

SSH 構成を変更する必要なく、スイッチ上の SSH サーバーをいつでも選択的に無効にできます。SSH が無効にされると、スイッチは、SP 上で実行されているすべてのアクティブな SSH CLI セッションを終了します。

- **次のように入力します。**

```
 -> set /SP/services/ssh/ state=disabled
Set 'state' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 392 ページの「SSH サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 392 ページの「SSH プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 393 ページの「新しい鍵の生成 (Oracle ILOM CLI)」
- 394 ページの「SSH デーモンの再起動 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「SSH プロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

SNMP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、Oracle ILOM へのアクセスを許可するために SNMP サーバーと対話する SNMP クライアントがあります。

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 384 ページの「HTTP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 386 ページの「HTTPS サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 391 ページの「SSH サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 406 ページの「IPMI サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、標準の SNMP ネットワーク管理機能ではなく、Oracle ILOM 機能のみをサポートする事前インストール済みの SNMP エージェントが含まれます。デフォルトで、SNMP サービスが有効になっています。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/services/snmp servicestate=enabled
Set 'servicestate' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」

- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)

スイッチには、SNMP v1、v2c、および v3 をサポートしている SNMP クライアントがあります。SNMP v3 は v1 または v2c よりセキュアであるため、デフォルトで有効になっています。さまざまなバージョンの SNMP については、511 ページの「SNMP サービスの制御 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

- **SNMP パラメータを構成します。**

```
-> set /SP/services/snmp property=value property=value ...
```

ここでは:

- *property* は、構成する SNMP サービスのパラメータです。
- *value* は構成する *property* の値です。

注記 - 1 つ、複数、またはすべてのプロパティーを 1 行のコマンド行に構成できます。

これらのプロパティーがサポートされています。

- `port` – *value* は SNMP の UDP ポートです。
- `servicestate` – *value* は `enabled` または `disabled` です。
- `sets` – *value* は set 要求の `enabled` または `disabled` です。
- `v1` – *value* はこのプロトコルの `enabled` または `disabled` です。
- `v2c` – *value* はこのプロトコルの `enabled` または `disabled` です。
- `v3` – *value* はこのプロトコルの `enabled` または `disabled` です。

たとえば、`sets` および `v2c` プロトコルを有効にするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/snmp sets=enabled v2c=enabled
```

```
Set 'sets' to 'enabled'
********* WARNING *********
Use of SNMP v1 or v2c protocols is insecure.
Are you sure you want to set sets=enabled v2c=enabled (y/n)? y
Set 'v2c' to 'enabled'
->
```

たとえば、sets および v3 プロトコルを有効にするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/snmp sets=enabled v3=enabled
Set 'sets' to 'enabled'
Set 'v3' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)

SNMP ユーザーアカウントは SNMP v3 でのみサポートされています。ユーザーアカウントは 1 - 32 文字の長さにできます。

1. **ユーザーはプライバシプロトコルを必要とするかどうかを決定します。**
2. **SNMP ユーザーを追加します。**

```
-> create /SP/services/snmp/users/username authenticationpassword=password privacyprotocol=protocol
```

ここでは:

- *username* は SNMP ユーザーの名前です。
- *password* は認証に使用されるパスワードです。認証パスワードは 8 - 13 文字の長さです。

注記 - プライバシプロトコルを使用しない SNMP ユーザーを追加するには、`privacyprotocol` オプションを明示的に none に設定する必要があります。

たとえば、`snmpuser` の名前、`changeme` のパスワード、およびプライバシプロトコルなしで SNMP ユーザーを作成するには、次のように入力します。

```
-> create /SP/services/snmp/users/snmpuser authenticationpassword=changeme privacyprotocol=none
Created /SP/services/snmp/users/snmpuser
->
```

注記 - デフォルトでは、新しいユーザーは読み取り専用アクセス権およびプライバシプロトコルなしが指定されます。

3. **プライバシプロトコルとパスワードでユーザーを構成します。**

```
-> set /SP/services/snmp/users/snmpuser privacyprotocol=DES privacypassword=password authenticationpassword=password
```

注記 - プライバシパスワードは、正確に 8 文字の長さにする必要があります。

たとえば、DES プロトコルと `changeme` のプライバシパスワードで `snmpuser`を構成するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/snmp/users/snmpuser privacyprotocol=DES privacypassword=changeme authenticationpassword=changeme
Set 'privacyprotocol' to 'DES'
Set 'privacypassword' to 'changeme'
Set 'authenticationpassword' to 'changeme'
User /SP/services/snmp/users/snmpuser properties were updated successfully
->
```

関連情報

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」

- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)

- **SNMP ユーザーを変更します。**

```
-> set /SP/services/snmp/users/username property=value property=value ...
```

ここでは:

- *username* は変更する SNMP ユーザーの名前です。
- *property* は、構成する SNMP ユーザーのパラメータです。
- *value* は構成する *property* の値です。

これらのプロパティーがサポートされています。

- `authenticationpassword` – *value* は認証に使用されるパスワード (8 - 12 文字) です。
- `authenticationprotocol` – *value* は認証に使用されるプロトコルです。
- `permission` – *value* は SNMP ユーザーに付与されるアクセス権です。
- `privacypassword` – *value* はプライバシに使用されるパスワード (正確に 8 文字) です。
- `privacyprotocol` – *value* はプライバシに使用されるプロトコルです。

たとえば、読み取りアクセス権と書き込みアクセス権で `snmpuser` を構成するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/snmp/users/snmpuser permission=rw
Set 'permission' to 'rw'
User /SP/services/snmp/users/snmpuser properties were updated successfully
->
```

関連情報

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)

その他の SNMP プロパティーを変更する必要なく、SNMP v3 ユーザーアカウントを選択的に削除できます。SNMP v3 のユーザーアカウントが削除されると、そのユーザーはスイッチにアクセスできなくなります。

注記 - Oracle ILOM から SNMP v3 ユーザーアカウントを削除すると、スイッチは、そのユーザーアカウントに送信されるすべてのトラップをデコードできなくなります。

- **SNMP ユーザーを削除します。**

```
-> delete /SP/services/snmp/users/username
```

ここで *username* は削除する SNMP ユーザーの名前です。

たとえば、ユーザー `snmpuser` を削除するには、次のように入力します。

```
-> delete /SP/services/snmp/users/snmpuser
Are you sure you want to delete /SP/services/snmp/users/snmpuser (y/n)? y
Deleted /SP/services/snmp/users/snmpuser
->
```

関連情報

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)

SNMP コミュニティーは、SNMP v1 および v2c でのみサポートされています。SNMP コミュニティーの追加については、515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

- **次のように入力します。**

```
-> create /SP/services/snmp/communities/community permission=rw
```

ここで *community* は作成する SNMP コミュニティーの名前です。

たとえば、コミュニティー `newcom` を追加するには、次のように入力します。

```
-> create /SP/services/snmp/communities/newcom permission=rw
Created /SP/services/snmp/communities/newcom
->
```

関連情報

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/services/snmp/communities/community property=value property=value ...
```

ここでは:

- *community* は変更する SNMP コミュニティーの名前です。
- *property* は、構成する SNMP コミュニティーのパラメータです。

- *value* は構成する *property* の値です。

このプロパティーがサポートされています。

- `permission` – *value* は SNMP コミュニティーに付与されるアクセス権です。

たとえば、読み取り専用アクセス権で `newcom` を構成するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/snmp/communities/newcom permission=ro
Set 'permission' to 'ro'
->
```

関連情報

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)

その他の SNMP プロパティーを変更する必要なく、SNMP v1 または v2c コミュニティーを選択的に削除できます。SNMP コミュニティーが削除されると、そのコミュニティーのメンバーがスイッチにアクセスできなくなります。

- **次のように入力します。**

```
-> delete /SP/services/snmp/communities/community
```

ここで *community* は削除する SNMP コミュニティーの名前です。

たとえば、`newcom` コミュニティーを削除するには、次のように入力します。

```
-> delete /SP/services/snmp/communities/newcom
Are you sure you want to delete /SP/services/snmp/communities/newcom (y/n)? y
```

```
Deleted /SP/services/snmp/communities/newcom
->
```

関連情報

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

このタスクを使用して、SNMP サービスの有効化や SNMP v1、v2c、または v3 の選択的な有効化などの一般的な SNMP プロパティーを構成します。SNMP v1 および v2c はセキュアでなくても、スイッチでサポートされています。SNMP v1 または v2c を有効にした場合は、警告テキストが表示され、これらのバージョンのプロトコルを使用することを確認する必要があります。

1. **スイッチで SNMP サービスを有効にします。**
   395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

2. **(オプション) SNMP 通信用のポートを設定します。**

```
-> set /SP/services/snmp servicestate=enabled
Set 'servicestate' to 'enabled'
->
```

3. **SNMP Set プリミティブがサポートされているかどうかを判断します。**

```
 -> set /SP/services/snmp/ sets=disabled
Set 'sets' to 'disabled'
 ->
```

注記 - SNMP Set プリミティブはデフォルトでサポートされています。SNMP Set が無効になっている場合、SNMP Get のみがスイッチで機能します。

4. **(オプション) 環境内で使用する SNMP の特定のバージョンを有効にします。**

```
-> set /SP/services/snmp v2c=enabled
********* WARNING *********
Use of SNMP v1 or v2c protocols is insecure.
Are you sure you want to set v2c=enabled (y/n)? y
Set 'v2c' to 'enabled'

->
```

注記 - スイッチはデフォルトで SNMP v3 を使用します。前の例は、説明の目的でのみ示しています。

スイッチは、SNMP の複数のバージョンを同時にサポートできます。

5. **SNMP v3 の場合、SNMP v3 通信の認証および暗号化用のエンジン ID を指定します。**

```
-> set /SP/services/snmp/ engineid=12345
Set 'engineid' to '12345'
 ->
```

注記 - 環境で認証または暗号化が必要でない場合は、エンジン ID をデフォルト値のままにするか、またはこのコマンドを使用してエンジン ID を (none) に設定します。

関連情報

- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)

SNMP サービスが無効になっている場合、スイッチはネットワーク内の SNMP サーバーから SNMP 通信 (トラップなど) を受信しません。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/services/snmp servicestate=disabled
Set 'servicestate' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 405 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)」

▼ SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM CLI)

SNMP MIB は、スイッチに個々のファイルとして格納されていますが、リモートデバイス (一般に SNMP ホスト) にそれらをダウンロードできます。このタスクは、次の MIB が含まれる圧縮ファイル `ilom-mibs.zip` を作成します。

- `ENTITY-MIB.mib`
- `SUN-HW-CTRL-MIB.mib`
- `SUN-HW-TRAP-MIB.mib`
- `SUN-ILOM-CONTROL-MIB.mib`
- `SUN-ILOM-SYSTEM-MIB.mib`
- `SUN-PLATFORM-MIB.mib`

- **MIB をダウンロードします。**

```
-> dump -destination URI /SP/services/snmp/mibs
```

ここで *URI* は Uniform Resource Indicator です。

たとえば、FTP プロトコルを使用して、IP アドレス `123.45.67.89` のサーバーに `ilom-mibs.zip` ファイルとして MIB をダンプするには:

```
-> dump -destination ftp://root:changeme@123.45.67.89/tftpboot/ilom-mibs.zip /SP/services/snmp/mibs
Dump successful.
->
```

MIB がダウンロードされます。

関連情報

- 395 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 396 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 397 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 399 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 400 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 401 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 402 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 403 ページの「SNMP プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 404 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 104 ページの「SNMP ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 105 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

IPMI サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、スイッチの IPMI 管理をサポートするサービスを実行します。スイッチの IPMI のサポートの詳細は、508 ページの「IPMI サービスの制御 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

- 407 ページの「IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 407 ページの「IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 408 ページの「IPMI 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 408 ページの「IPMI 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 384 ページの「HTTP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 386 ページの「HTTPS サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 391 ページの「SSH サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

- 395 ページの「SNMP サービスの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、スイッチの IPMI 管理をサポートするサービスを実行します。スイッチの IPMI サービスは IPMI バージョン 1.5 と 2.0 (デフォルト) の両方をサポートします。詳細については、509 ページの「IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

注記 - IPMI サービスはデフォルトで有効になっています。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/services/ipmi servicestate=enabled
Set 'servicestate' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 407 ページの「IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 408 ページの「IPMI 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 408 ページの「IPMI 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「IPMI サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチで実行している IPMI サービス全体を選択的に無効化できます。IPMI サービスを無効にすると、スイッチに構成されている IPMI の任意およびすべてのバージョン (1.5、2.0、またはその両方) が機能しなくなります。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/services/ipmi servicestate=disabled
Set 'servicestate' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 407 ページの「IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 408 ページの「IPMI 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 408 ページの「IPMI 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「IPMI サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPMI 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM CLI)

デフォルトで、スイッチは IPMI バージョン 2.0 をサポートしますが、必要に応じて、IPMI バージョン 1.5 セッションを有効にできます。詳細については、510 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

1. **IPMI サービス全体を有効にします。**

```
-> set /SP/services/ipmi servicestate=enabled
Set 'servicestate' to 'enabled'
->
```

2. **IPMI 1.5 セッションを有効にします。**

```
-> set /SP/services/ipmi v1_5_sessions=enabled
Set 'v1_5_sessions' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 407 ページの「IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 407 ページの「IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 408 ページの「IPMI 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「IPMI サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ IPMI 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM CLI)

いつでも、IPMI バージョン 1.5 セッションを選択的に無効にできます。IPMI 1.5 セッションを無効にすると、既存のセッションが終了し、将来の 1.5 セッション要求はブロックされます。IPMI 1.5 セッションが無効になっている場合、IPMItool ユーザーは IPMI バージョン 2.0 `-I lanplus` オプションを使用する必要があります。

注記 - IPMI 1.5 セッションはデフォルトで無効になっています。

1. **標準 IPMI サービスを有効にします。**

```
-> set /SP/services/ipmi servicestate=enabled
Set 'servicestate' to 'enabled'
->
```

2. **すべてのアクティブな IPMI 1.5 セッションを無効にします。**

```
-> set /SP/services/ipmi v1_5_sessions=disabled
```

```
Set 'v1_5_sessions' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 407 ページの「IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 407 ページの「IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 408 ページの「IPMI 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 106 ページの「IPMI サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM の再起動

Oracle ILOM は、スイッチに電源が投入されるか、再起動されるたびに、自動的に起動します。スイッチの電源に影響を与えることなく Oracle ILOM を明示的に再起動することもできます。Oracle ILOM の再起動は、Oracle ILOM CLI と Oracle ILOM GUI の両方に影響を与えます。Oracle ILOM の再起動は、Oracle Fabric OS によってサポートされます。

注記 - Oracle ILOM を再起動すると、現在の Oracle ILOM セッションが切断されます。再起動が完了したら、Oracle ILOM に再接続する必要があります。

---

1. **Oracle Fabric OS にアクセスします。**

   31 ページの「Oracle Fabric OS へのアクセス」を参照してください。

2. **Oracle Fabric OS に正常にログインしたら、次のように入力します。**

```
admin@switch[OFOS] system restart-ilom
Restarting OFOS may disrupt IO traffic on attached servers.  Are you sure you
want to restart the system (y/n)?y
admin@switch[OFOS]
```

3. **再起動シーケンスが完了したら、Oracle ILOM CLI または Oracle ILOM Web に再度ログインします。**

   - **Oracle ILOM CLI については、29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」を参照してください。**
   - **Oracle ILOM Web については、29 ページの「Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス」を参照してください。**

関連情報

- 410 ページの「Oracle Fabric OS の再起動」
- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」

- 300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle Fabric OS の再起動

Oracle Fabric OS は、スイッチに電源が投入されるか、再起動されるたびに、自動的に起動します。スイッチの電源に影響を与えることなく Oracle Fabric OS を明示的に再起動することもできます。Oracle Fabric OS の再起動は、Oracle Fabric OS によってサポートされます。

注記 - Oracle Fabric OS を再起動すると、現在の Oracle Fabric OS セッションが切断されます。再起動が完了したら、Oracle Fabric OS に再接続する必要があります。

---

1. **Oracle Fabric OS にアクセスします。**
   31 ページの「Oracle Fabric OS へのアクセス」を参照してください。

2. **Oracle Fabric OS に正常にログインしたら、次のように入力します。**

```
admin@switch[OFOS] system restart-ofos
Restarting OFOS may disrupt IO traffic on attached servers.  Are you sure you
want to restart the system (y/n)?y
[admin@switch ~]#
```

   Oracle Fabric OS の再起動中に、管理ウィンドウ全体に多数のシステムメッセージがスクロールします。

3. **再起動シーケンスが完了したら、Oracle ILOM CLI または Oracle ILOM Web に再度ログインします。**

   - **Oracle ILOM CLI については、29 ページの「CLI から Oracle ILOM へのアクセス」を参照してください。**
   - **Oracle ILOM Web については、29 ページの「Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス」を参照してください。**

関連情報

- 409 ページの「Oracle ILOM の再起動」
- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」

- 411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」

ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)

Oracle Auto Service Request (ASR) は、スイッチで問題が発生した万一の場合に、問題の報告とサービスリクエストのオープンを高速化し、容易にします。Oracle ASR の詳細については、25 ページの「Oracle Auto Service Request ソフトウェア」を参照してください。

- 411 ページの「ASR クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 412 ページの「ASR プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 413 ページの「ASR プロキシプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ASR クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 324 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 370 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 378 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 383 ページの「スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ASR クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)

スイッチで問題が発生した場合、ASR クライアントは、Oracle サービス組織内の直接の URL か、または間接的に Oracle サービスに接続する ASR リレーのいずれかの ASR 情報をエンドポイントに送信します。デフォルトで Oracle ASR は無効になっています。

注記 - ASR クライアントを有効にするには、有効な My Oracle Support アカウントが存在する必要があり、スイッチに ASR プロパティーが構成されている必要があります。

- 次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/asr state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
->
```

関連情報

- 412 ページの「ASR プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 413 ページの「ASR プロキシプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ASR クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 112 ページの「ASR クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ASR プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

ASR が動作するためには、有効な My Oracle Support アカウントが必要です。ASR ユーザー名を作成する場合、アクティブな My Oracle Support アカウントで登録されているユーザー名と一致する必要があります。

1. エンドポイントを構成します。

```
-> set /SP/clients/asr endpoint=domain.company.com
->
```

ここでは:

- *domain* は、ASR メッセージを送信するドメインまたはサーバーです。
- *company* は ASR メッセージを送信するドメインまたはサーバーの会社です。

たとえば、`transport.oracle.com` というエンドポイントを構成するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/asr endpoint=transport.oracle.com
Set 'endpoint' to 'transport.oracle.com'
->
```

2. パスワードを構成します。

```
-> set /SP/clients/asr password=testword
Changing password for ASR user...
Enter new password again: ********
Set 'password' to '********'
New password was successfully set for user /SP/clients/asr

->
```

3. ASR ユーザー名を構成します。

```
-> set /SP/clients/asr username=username@company.com
->
```

ここでは:

- *username* は有効な My Oracle Support アカウントに関連付けられている名前です。
- *company* は、スイッチが設置されている会社名です。

たとえば、ユーザー名 admin1@abc.com を構成するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clients/asr username=joe.public@companyq.com
Set 'username' to 'joe.public@companyq.com'
->
```

4. **(オプション) ASR サービスにイベントを送信します。**

```
-> set /SP/clients/asr send-event=test
Set 'username' to 'joe.public@companyq.com'
->
```

関連情報

- 411 ページの「ASR クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 413 ページの「ASR プロキシプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ASR クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 112 ページの「ASR クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ASR プロキシプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)

ASR メッセージを Oracle に送信するようにプロキシアカウントおよびプロキシサーバーを構成できます。このタスクは、一般的な ASR プロパティーが構成されていることを前提としています。構成されていない場合は、ここでそれらを構成します。412 ページの「ASR プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

1. **ASR プロキシホストアドレスを設定します。**

```
-> set /SP/clients/asr proxy-host=123.45.67.89
Set 'proxy-host' to '123.45.67.89'
->
```

2. **ASR プロキシパスワードを設定します。**

```
-> set /SP/clients/asr proxy-password=proxpass
Set 'proxy-password' to 'proxpass'
->
```

3. **ASR プロキシユーザーを設定します。**

```
-> set /SP/clients/asr proxy-user=asradmin1@abc.com
Set 'proxy-user' to 'asradmin1@companyq.com'
->
```

関連情報

- 411 ページの「ASR クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 412 ページの「ASR プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ASR クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 112 ページの「ASR クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ASR クライアントの無効化 (Oracle ILOM CLI)

いつでも、構成済みの ASR プロパティーを変更する必要なく、ASR クライアントを無効にできます。

- **次のように入力します。**

```
-> set /SP/clients/asr state=disabled
Set 'state' to 'disabled'
->
```

関連情報

- 411 ページの「ASR クライアントの有効化 (Oracle ILOM CLI)」
- 412 ページの「ASR プロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 413 ページの「ASR プロキシプロパティーの構成 (Oracle ILOM CLI)」
- 112 ページの「ASR クライアントステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」

ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM CLI を使用して、スイッチ上の ILOM ユーザーアカウントとセッションに関する情報を管理する方法について説明します。

- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 324 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 370 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 378 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 383 ページの「スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 422 ページの「FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)」

Oracle ILOM ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、スイッチ上の ILOM ユーザーアカウントとセッションに関する情報を管理する方法について説明します。

- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 416 ページの「ユーザーの SSH 鍵のロード (Oracle ILOM CLI)」
- 417 ページの「ユーザーの鍵へのコメントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 418 ページの「ユーザーの SSH 鍵のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 419 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 420 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)

Oracle ILOM の SP へのアクセスを許可するために、スイッチに Oracle ILOM ローカルユーザーアカウントが構成されている必要があります。Oracle ILOM ローカルユーザーは、最大 5 人に制限されます。

- **次のように入力します。**

```
-> create /SP/user/username
```

ここで *username* はユーザーのアカウントの名前です。

たとえば、`testuser` という名前のユーザーを追加するには、次のように入力します。

```
-> create /SP/users/testuser
Creating user...
Enter new password: ********
Enter new password again: ********
Created /SP/users/testuser
->
```

注記 - 新しいユーザーには o (オペレータ) の役割またはデフォルトで読み取り専用が割り当てられますが、ユーザーの役割は変更できます。419 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

関連情報

- 416 ページの「ユーザーの SSH 鍵のロード (Oracle ILOM CLI)」
- 417 ページの「ユーザーの鍵へのコメントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 418 ページの「ユーザーの SSH 鍵のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 420 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ユーザーの SSH 鍵のロード (Oracle ILOM CLI)

スイッチは、Oracle ILOM ユーザーアカウントの SSH 鍵ベースの認証をサポートしています。SSH 鍵により、Oracle ILOM ユーザーに対するパスワード認証は自動になります。公開鍵が Oracle ILOM にアップロードされていると、スイッチは個々の Oracle ILOM ユーザーアカウントに対して、カスタム生成された DSA または RSA 鍵ペアをサポートします。自分のアカウントの SSH 鍵を構成する場合は、Oracle の役割モデルのオペレータ役割 (o) のみが必要ですが、ほかのユーザーの SSH 鍵を構成するには、管理者の役割 (a) が必要です。

- **ユーザーの鍵をインストールします。**

```
-> load /SP/users/users/ssh/keys/X load_uri=URI
->
```

ここでは:

- *user* は鍵がロードされるユーザーの名前です。
- *X* は、ロードされる鍵の 1 から 5 までの数値です。
- *URI* はロードされる鍵の Uniform Resource Indicator です。

たとえば、ユーザー user1 の 112115.rsa をロードするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/users/root/ssh/keys/1/ load_uri=ftp://root:changeme@123.45.67.89/
privkeystore/112115.rsa
Load successful.
->
```

関連情報

- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 417 ページの「ユーザーの鍵へのコメントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 418 ページの「ユーザーの SSH 鍵のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 419 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 420 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ユーザーの鍵へのコメントの追加 (Oracle ILOM CLI)

オプションとして、鍵を編集してコメントを追加できます。

- **ユーザーの鍵にコメントを埋め込みます。**

```
-> set /SP/users/user/ssh/keys/X embedded_comment=comment
->
```

ここでは:

- *user* は鍵がリセットされるユーザーの名前です。
- *X* は、リセットされる鍵の 1 から 5 までの数値です。
- *comment* は、特殊文字、ハイフン、またはアンダースコアを含まない 1 単語で構成される英数字のコメント文字列です。

たとえば、コメント temporarykeyonly を user1 の鍵に埋め込むには、次のように入力します。

```
-> set /SP/users/root/ssh/keys/1 embedded_comment=temporarykeyonly
Set 'embedded_comment' to 'temporarykeyonly'
->
```

関連情報

- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 416 ページの「ユーザーの SSH 鍵のロード (Oracle ILOM CLI)」
- 418 ページの「ユーザーの SSH 鍵のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 419 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 420 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ ユーザーの SSH 鍵のリセット (Oracle ILOM CLI)

ユーザーの SSH 鍵が構成されている場合、鍵はいつでもリセットできます。

- **ユーザーの鍵情報をリセットします。**

```
-> reset /SP/users/user/ssh/keys/X
->
```

ここでは:

- *user* は鍵がリセットされるユーザーの名前です。
- *X* は、リセットされる鍵の `1` から `5` までの数値です。

たとえば、ユーザー `user1` の SSH 鍵をリセットするには、次のように入力します。

```
-> reset /SP/users/user1/ssh/keys/1/
Are you sure you want to reset /SP/users/root/ssh/keys/1 (y/n)? y
Performing reset on /SP/users/matlock/ssh/keys/1

->
```

関連情報

- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 416 ページの「ユーザーの SSH 鍵のロード (Oracle ILOM CLI)」
- 417 ページの「ユーザーの鍵へのコメントの追加 (Oracle ILOM CLI)」

- 419 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 420 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM CLI)

Oracle ILOM ユーザーが最初に作成されるときに、それらのユーザーの特権を管理するパスワードと役割を割り当てます。場合によって、ユーザーは、役割またはパスワードを変更する必要が生じます。たとえば、ユーザーが社内で仕事が変わった場合、役割も変更する必要がある場合があります。ユーザーアカウントを削除して再作成する必要なく、いつでも Oracle ILOM ユーザーのパスワードおよび役割を変更できます。

注記 - `root` ユーザーのパスワードを変更するには、『スイッチ管理』を参照して、`root` ユーザーのパスワードを変更します。

- **Oracle ILOM ユーザーの構成を変更します。**

```
-> set /SP/users/user password=password role=role
```

ここでは:

- *username* はユーザーアカウント名です。
- *password* は新しいパスワードです。
- *role* はユーザーの新しい役割です。

role では、`aucros` 文字列の文字を使用して、それぞれの機能を有効にできます。27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。

注記 - ユーザーパスワードと役割は個別に変更できます。

たとえば、`testuser` ユーザーのパスワードを変更するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/users/testuser password=knockknock
Changing password for user /SP/users/testuser...
Enter new password again: **********
```

```
New password was successfully set for user /SP/users/testuser
->
```

注意 - このタスクによって、ユーザーが `root` ユーザーパスワードを紛失したか、忘れた場合にリセットすることもできます。ユーザーは USB 管理ポートを使用して、`root` ユーザーパスワードをリセットする必要があります。

関連情報

- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 416 ページの「ユーザーの SSH 鍵のロード (Oracle ILOM CLI)」
- 417 ページの「ユーザーの鍵へのコメントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 418 ページの「ユーザーの SSH 鍵のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 420 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM CLI)

いつでも、構成されている Oracle ILOM ユーザーアカウントを削除できます。ユーザーアカウントを削除すると、そのユーザーは Oracle ILOM にアクセスできなくなります。このタスクを使用して、Oracle ILOM ユーザーアカウントを削除します。

- **次のように入力します。**

```
-> delete /SP/users/username
```

ここで *username* はユーザーのアカウントの名前です。

たとえば、`testuser` ユーザーを削除するには、次のように入力します。

```
-> delete /SP/users/testuser
Are you sure you want to delete /SP/users/testuser (y/n)? y
Deleted /SP/users/testuser
->
```

関連情報

- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 416 ページの「ユーザーの SSH 鍵のロード (Oracle ILOM CLI)」
- 417 ページの「ユーザーの鍵へのコメントの追加 (Oracle ILOM CLI)」

- 418 ページの「ユーザーの SSH 鍵のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 419 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 421 ページの「セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ セッションの削除 (Oracle ILOM CLI)

スイッチへのアクティブな管理セッションは、セッション番号によって識別されます。アクティブなセッションはいつでも削除できます。セッションが削除されている場合、そのセッションはすぐに終了し、スイッチへのアクセスが切断されます。

1. **アクティブな ILOM CLI セッションのリストを表示します。**

```
-> show /SP/sessions
/SP/sessions
  Targets:
   753 (current)
->
```

2. **削除するセッションの番号を書きとめておきます。**

3. **セッションを削除します。**

```
-> delete /SP/sessions/753/
Are you sure you want to delete /SP/sessions/753 (y/n)?
->
```

関連情報

- 415 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 416 ページの「ユーザーの SSH 鍵のロード (Oracle ILOM CLI)」
- 417 ページの「ユーザーの鍵へのコメントの追加 (Oracle ILOM CLI)」
- 418 ページの「ユーザーの SSH 鍵のリセット (Oracle ILOM CLI)」
- 419 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM CLI)」
- 113 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 114 ページの「ローカルユーザーの Oracle ILOM パスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM CLI)」
- 115 ページの「Oracle ILOM root ユーザープロパティーの表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ FIPS サービスの構成 (Oracle ILOM CLI)

FIPS は、FIPS 準拠デバイスによって送受信される特定のデータに暗号化とセキュリティーを提供します。一部の環境 (たとえば、政府のインストール) には、FIPS が必要です。デフォルトで、FIPS は無効になっていますが、このタスクを使用して有効にできます。

1. **必要に応じて、FIPS を有効にします。**

```
-> set /SP/services/fips/ state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
The configuration change will be applied the next time the SP is reset.
->
```

注記 - FIPS の有効化はただちに行われるわけではありません。FIPS がアクティブになるためには、SP をリセットする必要があります。

2. **SP をリセットします。**

```
-> reset /SP/
Set 'state' to 'enabled'
The configuration change will be applied the next time the SP is reset.
->
```

3. **FIPS のステータスを確認します。**

`state` と `status` の両方が `enabled` になっているべきです。FIPS のステータスが `disabled; enabled at next boot` の場合、SP をリセットする必要があります。

117 ページの「FIPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

関連情報

- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 300 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 324 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 361 ページの「通知とロギングの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 370 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 378 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 383 ページの「スイッチインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 411 ページの「ASR クライアントの管理 (Oracle ILOM CLI)」
- 414 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM CLI)」

スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用してスイッチのさまざまな側面を管理する方法について説明します。

説明	リンク
Web インタフェースについて理解します。	120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプを確認します。	123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」
スイッチの各種要素とその構成を制御します。	424 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web)」
認証と承認を管理するさまざまなクライアントを制御します。	438 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web)」
システムイベントおよびアラートの動作とそれらの記録方法を制御します。	471 ページの「通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web)」
SP とスイッチのネットワークプロパティーを制御します。	488 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web)」
接続とログインのプロパティーを制御します	494 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM Web)」
スイッチとのさまざまなインタフェースの方法とスイッチインタフェースの動作を制御します	499 ページの「スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web)」
スイッチのサポートの取得のプロパティーを制御します	522 ページの「ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
ユーザーアカウントおよびセッションを制御します	525 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web)」
スイッチの追加の側面を制御します	531 ページの「その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 19 ページの「システム管理リソースの理解」
- 27 ページの「スイッチへのアクセス」
- 119 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの理解」
- 193 ページの「SNMP MIB OID の理解」

- 265 ページの「EMS モジュールの理解」
- 299 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 537 ページの「ファームウェアの更新」

スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web)

ほとんどのスイッチ管理タスクは、スイッチがオンラインになったあとにいつでも実行できます。ただし、一部の基本的なスイッチタスクは、スイッチが電源投入または再起動されるたびにその他のタスクの前に実行するようにしてください。

- 425 ページの「スイッチの IP アドレスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 425 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM Web)」
- 426 ページの「ロケータ LED の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 427 ページの「ロケータ LED の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 427 ページの「構成のバックアップ (Oracle ILOM Web)」
- 428 ページの「構成の復元 (Oracle ILOM Web)」
- 429 ページの「スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 430 ページの「スナップショットのデータセット情報 (Oracle ILOM Web)」
- 431 ページの「システム識別情報プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 431 ページの「ホスト名の変更 (Oracle ILOM Web)」
- 432 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 432 ページの「タイムゾーンの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 433 ページの「日付と時間の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 497 ページの「Oracle ILOM の CLI セッションタイムアウトの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 434 ページの「カスタム CLI プロンプトの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 434 ページの「カスタム CLI プロンプトの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 435 ページの「カスタム CLI プロンプトの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 435 ページの「スイッチ電源の制御 (Oracle ILOM Web)」
- 437 ページの「シリアルポートのプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
- 123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」
- 438 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 471 ページの「通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web)」

- 488 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 494 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 522 ページの「ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 525 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 531 ページの「その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの IP アドレスの構成 (Oracle ILOM Web)

スイッチの IP アドレスは、スイッチの設置の一部として構成されます。スイッチの設置ガイドを参照してください。

スイッチの IP アドレスは、電源の再投入やアップグレードを行なったあとも構成された状態のままであるため、スイッチの IP アドレスを何度も構成する必要はありません。ただし、スイッチの IP アドレスを構成またはリセットする必要がある場合は、`nm3tool` を使用する必要があります。

注記 - `nm3tool` は、シャーシのアップグレードにも使用されます。540 ページの「スイッチファームウェアのアップグレード (`nm3tool`)」を参照してください。

- **スイッチの IP アドレスを構成または設定する必要がある場合は、`nm3tool` を実行します。**
  301 ページの「スイッチの IP アドレスの構成 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの更新」

▼ SP のリセット (Oracle ILOM Web)

場合によっては、操作を完了するために (たとえば、ファームウェアアップグレードを完了してエラー状態をクリアするために) SP のリセットが必要になることがあります。

注記 - SP を再起動すると、管理コンソールと SP の間のアクティブなリンクがすべて閉じられます。管理制御を取り戻すには、SP に再アクセスする必要があります。

---

1. **「ILOM Administration」->「Maintenance」の順に選択し、「Reset SP」タブをクリックします。**

2. **「Reset SP」をクリックします。**
   確認を求めるダイアログが表示されます。

注記 - SP をリセットすると、アクティブなすべての Oracle ILOM セッションが終了します。スイッチの管理を続行する場合は、SP がサービスに戻ったあとに再度ログインする必要があります。

---

3. **「OK」をクリックします。**
   リセットアクションを説明したメッセージがリンクとともに表示され、SP がリセットされます。

関連情報

- 534 ページの「FIPS の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 537 ページの「ファームウェアの更新」

▼ ロケータ LED の有効化 (Oracle ILOM Web)

ロケータ LED は、スイッチの視覚的なインジケータを提供するために使用されます。アクティブになっている場合、この LED は、データセンター内のスイッチを見つけやすくするために点滅します。

1. **「System Information」->「Summary」リンクの順に選択します。**

2. **「Actions」セクションで、「Locator Indicator」ボタンを探します。**

3. **「Turn On」をクリックします。**
   確認を求めるダイアログが表示されます。

4. **「OK」をクリックします。**
   ロケータ LED が有効になると、スイッチのその LED は点滅し、「Actions」セクション内のアイコンは緑色になります。

関連情報

- 427 ページの「ロケータ LED の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 126 ページの「スイッチのステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ ロケータ LED の無効化 (Oracle ILOM Web)

無効にすると、ロケータ LED が点灯しません。

1. **「System Information」->「Summary」の順に選択します。**
2. **「Actions」セクションで、「Locator Indicator」ボタンを探します。**
3. **「Turn Off」をクリックします。**
   確認を求めるダイアログが表示されます。
4. **「OK」をクリックします。**
   ロケータ LED が消灯します。ロケータ LED が無効になっている間、スイッチのその LED は点滅せず、「Actions」セクション内のアイコンはグレーになります。

関連情報

- 426 ページの「ロケータ LED の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 126 ページの「スイッチのステータス LED の状態の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 構成のバックアップ (Oracle ILOM Web)

必要に応じて元に戻すためのコピーが得られるように、スイッチ構成をバックアップすることを考える場合があります。たとえば、アップグレードを開始する前に、既存の構成のバックアップを考える場合があります。構成をバックアップすると、SP 上の個別のファイルに保持されます。

注記 - パスフレーズが使用されている場合にスイッチ固有のどのような構成情報がバックアップされるかについては、308 ページの「バックアップされるスイッチ構成情報」を参照してください。

---

1. **「ILOM Administration」->「Configuration Management」の順に選択し、「Backup/Restore」タブをクリックします。**
2. **「Operation」ドロップダウンメニューから「Backup」を選択します。**
3. **「Transfer Method」ドロップダウンメニューから転送プロトコルを選択します。**
4. **選択したプロトコルについて、ホスト IP アドレス、ファイルパス、ユーザー名、およびパスワードを各フィールドに入力します。**

転送プロトコルとして「TFTP」を選択した場合は、ホスト IP アドレスとファイルパスのみを入力します。

5. **(オプション) 構成をバックアップするデバイスを書き留めます。**
バックアップされた構成を含むデバイスを書き留めておくと、あとで構成の復元が必要になった場合に役立ちます。

6. **構成に加えて機密情報をバックアップする場合は、次のようにします。**

   a. **「Passphrase」フィールドにパスフレーズを入力します。**

   b. **「Confirm Passphrase」フィールドにパスフレーズを再度入力します。**

7. **「Run」をクリックします。**
確認を求めるダイアログが表示されます。

8. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 428 ページの「構成の復元 (Oracle ILOM Web)」
- 427 ページの「構成のバックアップ (Oracle ILOM Web)」
- 429 ページの「スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 430 ページの「スナップショットのデータセット情報 (Oracle ILOM Web)」

▼ 構成の復元 (Oracle ILOM Web)

構成がバックアップされている場合、それをいつでも復元できます。構成が復元されると、スイッチはバックアップされた最後の構成のパラメータで操作を再開します。

1. **「ILOM Administration」->「Maintenance」の順に選択し、「Backup/Restore」タブをクリックします。**

2. **「Operation」ドロップダウンメニューから「Restore」を選択します。**

3. **転送方法を選択します。**

   - **「Browser」の場合は、「Browse」をクリックし、バックアップされた構成ファイルに移動してそのファイルをアップロードします。**

   - **ファイル転送プロトコルの場合は、ドロップダウンメニューからプロトコルを選択したあと、ファイル名、ホスト IP アドレス、ファイルパス、ユーザー名、およびパスワード (必要に応じて) を各フィールドに入力します。**

4. **バックアップでパスフレーズを使用した場合は、機密情報も復元されるように、「Passphrase」および「Confirm Passphrase」フィールドにパスフレーズを入力します。**

5. **入力を要求されたら、構成をバックアップするときに使用したパスフレーズを入力します。**

6. **「Run」をクリックします。**
   確認を求めるダイアログが表示されます。

7. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 427 ページの「構成のバックアップ (Oracle ILOM Web)」
- 308 ページの「バックアップされるスイッチ構成情報」
- 429 ページの「スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 430 ページの「スナップショットのデータセット情報 (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM Web)

スナップショットユーティリティーはログファイルを収集し、各種コマンドを実行してその出力を収集し、収集されたデータを `.zip` ファイルとしてユーザー定義の場所に送信します。選択されたデータセットにより、どのようなデータがスナップショットに含まれるかが決定されます。

スナップショットは、特定の時間の瞬間のスイッチの状態を表します。この情報はシステムの問題の診断に使用できます。

1. **「ILOM Administration」->「Maintenance」の順に選択し、「Snapshot」タブをクリックします。**

2. **「Data Set」ドロップダウンメニューからデータセットを選択します。**
   430 ページの「スナップショットのデータセット情報 (Oracle ILOM Web)」の表を参照してください。

3. **「Custom」データセットを選択した場合は、スナップショットに含めるデータにチェックマークを付けます。**

注記 - 「Full」データセットを選択した場合は、スイッチがリセットされる可能性があることに注意してください。

---

4. **ログファイルのみが必要な場合は、「Collect Only Log Files From Data Set」チェックボックスを選択します。**
5. **スナップショットファイルにセキュリティーが適用されるようにする場合は、「Encrypt Output File」チェックボックスを選択します。**
6. **「Transfer Method」ドロップダウンメニューから転送プロトコルを選択します。**
7. **ホスト IP アドレスまたはホスト名、ファイルパス、ユーザー名、およびパスワードを各フィールドに入力します。**
8. **「Run」をクリックします。**

関連情報

- 428 ページの「構成の復元 (Oracle ILOM Web)」
- 427 ページの「構成のバックアップ (Oracle ILOM Web)」
- 308 ページの「バックアップされるスイッチ構成情報」

スナップショットのデータセット情報 (Oracle ILOM Web)

データセット	説明
Normal	Oracle ILOM データ、基本 OS データ、およびスイッチ構成データが含まれます。
FRUID	normal データセット情報と追加の FRUID データが含まれます。
Full	通常のデータセット情報のほか、追加の FRUID データおよび診断データが含まれます。
Custom	ユーザーが選択した Oracle ILOM データ、基本 OS データ、スイッチハードウェアデータ、追加の FRUID データ、および診断データが含まれます。

スナップショットは、この形式のファイル名で `.zip` ファイルとして格納されます。

hostname_IP_address_year`-`*month*`-`*day*`-`*hour*`-`*minute*`-`*second*`.zip`

例:

```
unit1_123.45.67.89_2012-10-07T14-43-15.zip
```

注記 - スナップショットユーティリティーの「Normal」、「FRUID」、および「Full」データセットは現在同等であり、スナップショット内に同じデータが含まれます。

関連情報

- 429 ページの「スイッチの状態のスナップショットの作成 (Oracle ILOM Web)」

▼ システム識別情報プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、システム全体と SP の識別情報プロパティーがあります。システム識別情報プロパティーを設定することによって、配備でスイッチをほかのすべてのスイッチから区別できます。

1. **「ILOM Administration」->「Identification」の順に選択します。**
2. **ホスト名、システム識別子、システム連絡先、およびシステムの場所を各フィールドに入力します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 133 ページの「システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 431 ページの「ホスト名の変更 (Oracle ILOM Web)」

▼ ホスト名の変更 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、デフォルトのホスト名が設定された状態で出荷されます。必要に応じて、デフォルトのホスト名のままにすることも、このタスクを使用してホスト名を変更することもできます。

1. **「ILOM Administration」->「Identification」の順に選択します。**
2. **新しいホスト名を入力します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 431 ページの「システム識別情報プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 133 ページの「システム識別情報プロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、ネットワークで使用している NTP サーバーとシステムクロックを同期できるようにする NTP クライアントがあります。

1. **NTP クライアントを構成する前に、ネットワーク内で使用可能な NTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を収集します。**
2. **「ILOM Administration」->「Date and Time」の順に選択し、「Clock」タブをクリックします。**
3. **「Synchronize Time Using NTP」の「Enabled」チェックボックスをクリックします。**

注記 - NTP クライアントを有効にすると、手動で構成された時間と日付の設定はすべて使用されなくなります。

---

4. **プライマリおよびセカンダリ (存在する場合) NTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。**
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 135 ページの「NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 433 ページの「日付と時間の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 432 ページの「タイムゾーンの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 134 ページの「日付の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 134 ページの「タイムゾーンの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ タイムゾーンの設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、日付、時間、およびタイムゾーンの維持をサポートするシステムクロックプロセッサがあります。デフォルトでは、スイッチはデフォルトのタイムゾーンでプログラムされていますが、タイムゾーンはいつでも変更できます。

1. **「ILOM Administration」->「Date and Time」の順に選択し、「Timezone」タブをクリックします。**
2. **「Timezone」ドロップダウンメニューからタイムゾーンを選択します。**

3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 433 ページの「日付と時間の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 432 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 135 ページの「NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 134 ページの「日付の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 134 ページの「タイムゾーンの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 日付と時間の設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、日付、時間、およびタイムゾーンの維持をサポートするシステムクロックプロセッサがあります。通常、システムクロックにはスイッチの設置と、それをはじめてオンラインにすることの一部として、時間と日付情報がプログラミングされます。ただし、必要に応じていつでも日付と時間を変更できます。

注記 - スイッチですでに NTP が構成されている場合は、日付と時間を設定してもスイッチに影響はありません。スイッチが NTP 用に構成されている場合、スイッチは代わりに NTP 時間シグナルを使用します。

---

1. **「ILOM Administration」->「Date and Time」の順に選択し、「Clock」タブをクリックします。**
2. **「Date」フィールドに日付を入力します。**
3. **「Time」ドロップダウンメニューから時間を選択します。**
4. **(オプション) タイムサーバーを使用する場合は、NTP パラメータを設定します。**
   432 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 432 ページの「タイムゾーンの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 432 ページの「NTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 135 ページの「NTP サーバーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 134 ページの「日付の表示 (Oracle ILOM Web)」

- 134 ページの「タイムゾーンの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ カスタム CLI プロンプトの有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチにはデフォルトのコマンドプロンプトがありますが、これをカスタムプロンプトに変更できます。カスタムプロンプトを選択的に有効にするには、このタスクを使用します。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「CLI」タブをクリックします。**
2. **「Custom CLI Prompt」の「Enabled」ボックスを選択します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 434 ページの「カスタム CLI プロンプトの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 135 ページの「カスタム CLI プロンプトの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ カスタム CLI プロンプトの設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチにはデフォルトのコマンドプロンプトがありますが、これをカスタムプロンプトに変更できます。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「CLI」タブをクリックします。**
2. **「Custom Prompt」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **このフィールドにカスタムプロンプトを入力します。**
4. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 434 ページの「カスタム CLI プロンプトの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 135 ページの「カスタム CLI プロンプトの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ カスタム CLI プロンプトの無効化 (Oracle ILOM Web)

カスタムプロンプトが構成されているとき、それを使用する必要がなくなった場合は無効にできます。カスタムプロンプトが無効になると、スイッチはふたたびデフォルトのプロンプトを使用します。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「CLI」タブをクリックします。**
2. **「Custom CLI Prompt」の「Enabled」タブをクリアします。**
   カスタム CLI プロンプトが無効になると、スイッチのデフォルトの CLI プロンプトが使用されます。
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 434 ページの「カスタム CLI プロンプトの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 434 ページの「カスタム CLI プロンプトの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 135 ページの「カスタム CLI プロンプトの表示 (Oracle ILOM Web)」

スイッチ電源の制御 (Oracle ILOM Web)

スイッチの電源を異なる方法で投入または切断できます。

- 435 ページの「スイッチの電源の切断 (Oracle ILOM Web)」
- 436 ページの「スイッチの再起動 (Oracle ILOM Web)」
- 437 ページの「スイッチの電源投入 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 425 ページの「SP のリセット (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの電源の切断 (Oracle ILOM Web)

スイッチの電源を切断すると、施設の電源からの給電が停止されます。スイッチの電源は 2 つの方法のうちのどちらかで切断でき、選択した電源切断方法によってスイッチの動作が異なります。

1. **「Host Management」->「Power Control」の順に選択します。**
2. **「Select Action」ドロップダウンメニューから、電源切断オプションを選択します。**
   - **スイッチへの電源を停止するには、「Immediate Power Off」を選択します。**
   - **スイッチへの電源を停止する前に、サービス、トラフィック、OS などを停止することによってスイッチを正常に停止しようとするには、「Graceful Shutdown and Power Off」を選択します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 436 ページの「スイッチの再起動 (Oracle ILOM Web)」
- 437 ページの「スイッチの電源投入 (Oracle ILOM Web)」
- 127 ページの「システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの再起動 (Oracle ILOM Web)

スイッチを再起動すると、その電源サブシステムの一部に一定の電源を受け取っているスイッチに電源が供給されます。実行中のスイッチはリセットするか、または電源を入れ直すことによって再起動でき、スイッチを再起動するために使用した方法によってスイッチの動作が異なります。

1. **「Host Management」->「Power Control」の順に選択します。**
2. **「Select Action」ドロップダウンメニューから、再起動オプションを選択します。**
   - **スイッチのサブシステムの一部に引き続きスタンバイ電源を供給しながらスイッチの電源を再投入する (電源を切断してから電源を投入する) には、「Reset」を選択します。**
   - **スイッチの電源を切断してから電源を投入するには、「Power Cycle」を選択します。スイッチのどのサブシステムにもスタンバイ電源は供給されません。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 435 ページの「スイッチの電源の切断 (Oracle ILOM Web)」
- 437 ページの「スイッチの電源投入 (Oracle ILOM Web)」

- 127 ページの「システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの電源投入 (Oracle ILOM Web)

スイッチの電源を投入すると、完全に停止しており、スタンバイ電源がないスイッチに施設の電源が供給されます。たとえば、スイッチが保守タスクのために停止され、ラックから取り外されていた場合は、そのスイッチの電源を投入します。

1. **「Host Management」->「Power Control」の順に選択します。**
2. **「Select Action」ドロップダウンメニューから、「Power On」を選択します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 435 ページの「スイッチの電源の切断 (Oracle ILOM Web)」
- 436 ページの「スイッチの再起動 (Oracle ILOM Web)」
- 127 ページの「システムレベルの電源情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ シリアルポートのプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)

シリアルポートは、ホストサーバーとスイッチの SP の間の接続です。この接続を通して、スイッチはホストシリアルコンソールにアクセスできます。

1. **「ILOM Administration」->「Connectivity」の順に選択し、「Serial Port」タブをクリックします。**
2. **「Owner」ドロップダウンメニューから、シリアルポートの接続とプロパティーを制御するエンティティーを選択します。**
3. **「Baud Rate」ドロップダウンメニューから最大ボーレートを選択します。**
4. **「Flow Control」ドロップダウンメニューから「Software」を選択します。**
   「Hardware」は、サポートされるフロー制御方法ではありません。
5. **Oracle ILOM 外部シリアルポート (SER MGT) の「Baud Rate」ドロップダウンメニューから最大ボーレートを選択します。**

6. **「Flow Control」ドロップダウンメニューから、Oracle ILOM 外部シリアルポート (SER MGT) のフロー制御の方法を選択します。**

7. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 138 ページの「シリアルポート構成の表示 (Oracle ILOM Web)」

認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、スイッチの認証とアクセスのさまざまな方法に関する情報を構成する方法について説明します。

- 438 ページの「AD の制御 (Oracle ILOM Web)」
- 450 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 451 ページの「LDAP ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「LDAP over SSL の制御 (Oracle ILOM Web)」
- 467 ページの「RADIUS ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 424 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 471 ページの「通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 488 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 494 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 522 ページの「ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 525 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 531 ページの「その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web)」

AD の制御 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、ネットワーク内の AD サーバーとの通信のために AD クライアントをサポートしています。

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 450 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 451 ページの「LDAP ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「LDAP over SSL の制御 (Oracle ILOM Web)」
- 467 ページの「RADIUS ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」

▼ AD の有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチには AD クライアントがあり、スイッチがネットワーク内で AD サーバーと動作する場合に構成する必要があります。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **「Address」フィールドに、Active Directory サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。**
4. **「Port」フィールドに、Active Directory サーバーとの通信のためのポートを入力します。**

   - **このポートが自動的に決定されるようにする場合は、「AutoSelect」チェックボックス (デフォルト) を選択します。**
   - **通信ポートを指定する場合は、「AutoSelect」チェックボックスの選択を解除し、「Port」フィールドにポート番号を入力します。**

5. **「Timeout」フィールドに秒数を入力します。**

6. **必要に応じて、動作モードを構成します。**
   次のモードの場合は、「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。

   - 「Strict Certificate」モード。
   - 「DNS Locator」モード。
   - 「Expanded Search」モード。
   - 「Strict Credential」モード。

7. **「Log Detail」ドロップダウンメニューから、ログに含める詳細の量を選択します。**

8. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチにアクセスしている AD ユーザーの場合は、そのユーザー固有の役割と権限を設定できます。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」タブをクリックします。**

2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**

3. **「Roles」ドロップダウンメニューから、次の選択を行います。**

   - 役割とその事前に定義された権限のどちらかを設定するには「Administrator」または「Operator」。

- Active Directory サーバーによってユーザーの役割が割り当てられるようにするには「None (Server Authorization)」。
- Active Directory ユーザーにカスタマイズ可能な権限のセットが割り当てられるようにするには「Advanced Roles」。

4. **「Advanced Roles」の場合は、該当するチェックボックスを選択して、Active Directory ユーザーのこれらの権限を有効にします。**
   詳細は、27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。

5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)

厳密な証明書モードが必要な場合は、スイッチの証明書をアップロードする必要があります。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」タブをクリックします。**

2. **「Certificate Information」リンクをクリックします。**
   ペインが「Certificate Information」セクションにスクロールされます。

3. **「Transfer Method」ドロップダウンメニューから、目的の転送方法を選択します。**

4. **追加情報を指定します。**

   - **「Browser」の場合は、「Browse」をクリックし、証明書を含むファイルを選択します。**

- **「TFTP」の場合は、証明書が存在するサーバーのホスト名とファイルパスを指定します。**
- **「FTP」または「SCP」の場合は、証明書が存在するサーバーのホスト名、ファイルパス、ユーザー名、およびパスワードを指定します。**
- **「Paste」の場合は、証明書のテキスト (持っている場合) を「Data」フィールドに貼り付けます。**

5. **「Load Certificate」をクリックします。**
6. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)

状況によっては、既存の証明書を削除する必要がある場合があります。たとえば、スイッチが厳密な証明書モードを使用しなくなった場合、または証明書の期限が切れていて、新しい証明書で置き換える必要がある場合は、既存の証明書を削除する必要があります。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」タブをクリックします。**
2. **「Certificate Information」リンクをクリックします。**
   ペインが「Certificate Information」セクションにスクロールされます。
3. **「Remove Certificate」をクリックします。**

4. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ AD の無効化 (Oracle ILOM Web)

どの AD プロパティーも削除またはリセットする必要なく、AD を選択的に無効にできます。AD が無効になっている場合、AD ユーザーはスイッチへのアクセスを禁止されます。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」タブをクリックします。**

2. **「State」の「Enabled」チェックボックスをクリアします。**

3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」

- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)

ネットワークで AD 管理者グループを使用している場合、管理者グループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチにそれらのグループを構成する必要があります。管理者グループを構成するための規則がいくつか存在します。332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」をクリックします。**
2. **「Admin Groups」リンクをクリックします。**
   ペインが「Admin Groups」セクションにスクロールされます。
3. **「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが表示されます。
4. **「Name」フィールドに、修飾名を次のいずれかの形式で入力します。**
   - DN 形式。これは、CN、OU、DC、DC、および DC 接尾辞で構成されます。
   - NT ドメイン形式。これは、*domain**admingroup* で構成されます。
   - 完全ドメイン形式。これは、DC、DC、および DC suffix*admingroup* で構成されます。
   - 単純名形式。これは、*admingroup* で構成されます。
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」

- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)

ネットワークで AD オペレータグループを使用している場合、オペレータグループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチにそれらのグループを構成する必要があります。オペレータグループを構成するための規則がいくつか存在します。332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」タブをクリックします。**
2. **「Operator Groups」リンクをクリックします。**
   ペインが「Operator Groups」セクションにスクロールされます。
3. **「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが表示されます。
4. **「Name」フィールドに、修飾名を次のいずれかの形式で入力します。**
   - DN 形式。これは、CN、OU、DC、および DC 接尾辞で構成されます。
   - NT ドメイン形式。これは、*domain\admingroup* で構成されます。
   - 完全ドメイン形式。これは、DC、DC、および DC suffix*admingroup* で構成されます。
   - 単純名形式。これは、*admingroup* で構成されます。
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)

ネットワークで AD カスタムグループを使用している場合は、カスタムグループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチ上でこれらのグループを構成する必要があります。カスタムグループを構成するための規則がいくつか存在します。332 ページの「AD グループ (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」タブをクリックします。**
2. **「Custom Groups」リンクをクリックします。**
   ペインが「Custom Groups」セクションにスクロールされます。
3. **「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが表示されます。
4. **「Name」フィールドに、修飾名を次のいずれかの形式で入力します。**
   - DN 形式。これは、CN、OU、DC、DC、および DC 接尾辞で構成されます。
   - NT ドメイン形式。これは、*domain\admingroup* で構成されます。
   - 完全ドメイン形式。これは、DC、DC、および DC suffix*admingroup* で構成されます。
   - 単純名形式。これは、*admingroup* で構成されます。
5. **「Roles」ドロップダウンメニューから、次の選択を行います。**
   - 役割とその事前に定義された権限のどちらかを設定するには「Administrator」または「Operator」。
   - ユーザーにどの役割も割り当てられないようにするには「None (No Assigned Roles)」。
   - 構成可能な権限のセットが割り当てられるようにするには「Advanced Roles」。
6. **「Advanced Roles」の場合は、該当するチェックボックスを選択して、AD ユーザーのこれらの権限を有効にします。**
   詳細は、27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。
7. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」

- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)

ネットワークで AD ユーザードメインを使用している場合は、ドメインのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチ上でこれらのドメインを構成する必要があります。ユーザードメインを構成するための規則がいくつか存在します。337 ページの「AD ユーザードメインの構成 (Oracle ILOM CLI)」を参照してください。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」タブをクリックします。**
2. **「User Domains」リンクをクリックします。**
   ペインが「User Domains」セクションにスクロールされます。
3. **「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが表示されます。
4. **ユーザードメインを、サポートされる次のいずれかの形式で入力します。**
   - UPN 形式。これは、*username@domain.company.com* で構成されます。
   - DN 形式。これは、CN、CN、DC、DC、および DC 接尾辞で構成されます。
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」

- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)

通常、AD 配備には複数の代替 AD サーバーがあります。スイッチは最大 5 台の AD サーバーに加え、プライマリをサポートします。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」タブをクリックします。**
2. **「Alternate Servers」リンクをクリックします。**
   ペインが「Alternate Servers」セクションにスクロールされます。
3. **「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが表示されます。
4. **代替 AD サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。**
5. **AD サーバーとの通信のためのポートを選択します。**
   - **このポートが自動的に決定されるようにする場合は、「AutoSelect」チェックボックスを選択します。**
   - **通信ポートを指定する場合は、「AutoSelect」チェックボックスの選択を解除し、「Port」フィールドにポート番号を入力します。**
6. **AD サーバーに SSL 証明書を割り当てます。**
   441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

注記 - 「Remove Certificate」をクリックすることによって、このウィンドウから SSL 証明書を削除することもできます。

---

7. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」

- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 449 ページの「DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ DNS ロケータクエリーを設定する (Oracle ILOM Web)

DNS ロケータクエリーは、それが実行している特定の DNS サービスおよびポートを特定します。デフォルトで、スイッチは、2 つの DNS ロケータクエリーを提供しますが、カスタム DNS ロケータクエリーを作成できます。

- スイッチは、最大 5 つの DNS ロケータクエリーをサポートします。
- 現在の DNS サービスを別のドメインの DNS サービスに変更するには、ロケータ文字列の `DOMAIN` 要素に、新しい DNS サービスを指定します。
- 現在の DNS ポートを別のドメインの DNS ポートに変更するには、ロケータ文字列の `PORT:`*x* 要素に、新しいポートを指定します。

注記 - スイッチでロケータクエリーをサポートするには、スイッチで DNS サービスと DNS ロケータモードが有効になっている必要があります。439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

---

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Active Directory」タブをクリックします。**
2. **「DNS Locator Queries」リンクをクリックします。**
   ペインが「DNS Locator Queries」セクションにスクロールされます。
3. **「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが表示されます。
4. **ロケータクエリー文字列の名前を正しい形式で入力します。**
   例: `_ldap._tcp.gc._msdcs.`*DOMAIN.PORT:x*
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 439 ページの「AD の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 440 ページの「AD ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」

- 441 ページの「AD サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 442 ページの「AD サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 443 ページの「AD の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 444 ページの「AD 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 445 ページの「AD オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 446 ページの「AD カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 447 ページの「AD ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 448 ページの「代替 AD サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 142 ページの「AD クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)

SP 内のネームサービスを有効にするには、Oracle ILOM が DNS クライアントとして構成されている必要があります。

1. **「ILOM Administration」->「Connectivity」の順に選択し、「DNS」タブをクリックします。**
2. **DNS クライアント構成が DHCP サーバーによって提供されるようにする場合は、「Auto DNS via DHCP」の「Enabled」ボックスにチェックマークを付けます。**

注記 - 「Auto DNS via DHCP」が有効になっている場合、「Name Server」および「Search Path」フィールドはグレー表示されます。

---

3. **「DNS Name Server」フィールドに、ネームサーバーの最大 3 つの IP アドレスをコンマで区切って入力します。**
   これらの IP アドレスを検索の優先順に列記します。
4. **「DNS Search Path」フィールドに、最大 6 つのドメインまたは検索接尾辞をコンマで区切って入力します。**
   これらのドメインまたは検索接尾辞を検索の優先順に列記します。
5. **「DNS Timeout and DNS Retries」フィールドで、ネットワークでの必要に応じてタイムアウトと再試行の値を構成できます。**
6. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 438 ページの「AD の制御 (Oracle ILOM Web)」
- 451 ページの「LDAP ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」

- 453 ページの「LDAP over SSL の制御 (Oracle ILOM Web)」
- 467 ページの「RADIUS ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」

LDAP ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、LDAP ユーザーがスイッチにアクセスできるようにする RFC 2307 準拠の LDAP クライアントがあります。これらのトピックでは、スイッチ上で LDAP アクセスを構成する方法に関する情報を提供します。

- 451 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 452 ページの「LDAP ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 438 ページの「AD の制御 (Oracle ILOM Web)」
- 450 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「LDAP over SSL の制御 (Oracle ILOM Web)」
- 467 ページの「RADIUS ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、認証および承認された LDAP ユーザーにアクセス権を付与できる LDAP クライアントがあります。

- LDAP は FIPS が無効になっている場合にのみ有効にできます。535 ページの「FIPS の無効化 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。
- Oracle ILOM クライアントの LDAP ユーザープロパティーを構成するには、Oracle 役割モデルにおけるユーザー管理の役割 (u) が必要です。
- スイッチと LDAP サーバーの両方に LDAP プロパティーが設定されている必要があります。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。**

4. **LDAP 接続に使用されるポートを指定します。**
5. **Oracle ILOM が LDAP ユーザーアカウントを検索するための検索ベースを入力します。**
6. **「Bind DN」フィールドに識別名を入力します。**
7. **「Bind Password」フィールドに、Oracle ILOM がプロキシとして使用できるパスワードを入力します。**
8. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 452 ページの「LDAP ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ LDAP ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)

LDAP ユーザーがスイッチにアクセスする場合、適切な役割と権限を割り当てることによって、ユーザーが実行できる制御の大きさを指定できます。LDAP ユーザーは、スイッチ上で 3 つの役割のうちのいずれかになることができ、各役割にはその権限が事前に定義されています。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **適切な役割を選択します。**
   - **事前に構成されている「Administrator」または「Operator」役割を選択します。**
   - **カスタムの権限を持つ高度な役割を作成するには、「Advanced Roles」を選択します。**
4. **高度な役割の場合は、必要に応じて権限を適用するための各チェックボックスを選択します。**
   詳細は、27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 451 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

▼ Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチ上で構成されている LDAP プロパティーを変更したり削除したりしなくても、スイッチへの LDAP ユーザーアクセスを選択的に無効にできます。LDAP を無効にすると、どの LDAP ユーザーもスイッチにアクセスできなくなります。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスをクリアし、「Save」をクリックします。**

関連情報

- 451 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 452 ページの「LDAP ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP クライアント情報の表示 (Oracle ILOM CLI)」

LDAP over SSL の制御 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、ユーザー資格情報の認証とユーザーアクセスレベルの承認の両方を提供する LDAP over SSL クライアントがあります。これらのトピックでは、スイッチ上で LDAP/SSL を構成する方法について説明します。

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」

- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 438 ページの「AD の制御 (Oracle ILOM Web)」
- 450 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 451 ページの「LDAP ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 467 ページの「RADIUS ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、認証および承認された LDAP over SSL ユーザーにアクセス権を付与できる LDAP over SSL クライアントがあります。承認はこれらのいずれかの方法で行われます。

- 単純な承認、これは Oracle ILOM の標準の役割を使用します。
- リモートサーバー承認。これは、LDAP over SSL が構成された 1 つ以上のグループを使用します。これらのグループにはユーザーが含まれている必要があり、さらにスイッチ上でグループを構成する前に、LDAP over SSL 認証サーバー上でこれらのグループが構成されている必要があります。

スイッチ上で LDAP over SSL とそのプロパティーを構成するには、ユーザー管理の役割 (u) が必要です。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **「Address」フィールドに、LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。**
4. **LDAP サーバーとの通信のためのポートを選択します。**
   - **このポートが自動的に決定されるようにする場合は、「AutoSelect」チェックボックスを選択します。**

- 通信ポートを指定する場合は、「**AutoSelect**」チェックボックスの選択を解除し、「**Port**」フィールドにポート番号を入力します。

5. 「**Timeout**」フィールドに秒数を入力します。
6. 「**Strict Certificate**」モードが必要な場合は、「**Strict Mapping Mode**」チェックボックスを選択します。
7. **(オプション)「User Mappings」を構成する場合は、そのチェックボックスを選択します。**

   455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。
8. 「**Log Detail**」ドロップダウンメニューから、ログに含める詳細の量を選択します。
9. 「**Save**」をクリックします。

関連情報

- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ (オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)

LDAP over SSL ユーザーマッピングは、ユーザー資格情報の検証のために、単純なログイン名を識別名 (DN) に変換できるようにします。

注記 - ユーザーマッピングのプロパティーは、別のポップアップウィンドウから構成します。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**
2. **「Configure for Optional User Mapping」をクリックします。**
3. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
4. **「Attribute Info」フィールドにオブジェクトクラスと UID を入力します。**
   たとえば、オブジェクトクラスを `person` に、UID をその人の名前にします。
5. **「Searchbase」フィールドに、OU、DC、および DC 接尾辞を入力します。**
   たとえば、OU を企業内の組織に、DC をその会社名に、DC 接尾辞を `com` にできます。
6. **「Bind DN」フィールドに、OU、DC、および DC 接尾辞を入力します。**
   たとえば、OU を企業内の組織に、DC をその会社名に、DC 接尾辞を `com` にできます。
7. **「Bind Password」フィールドにパスワードを入力します。**
8. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチにアクセスしている LDAP over SSL ユーザーの場合は、そのユーザーがスイッチ上に持つ固有の役割と権限を設定できます。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **「Roles」ドロップダウンメニューから、次の選択を行います。**
   - 役割とその事前に定義された権限のどちらかを設定するには「Administrator」または「Operator」(簡易認証)。
   - LDAP サーバーによって LDAP ユーザーの役割が割り当てられるようにするには「None」(リモートサーバー認証)。
   - LDAP ユーザーにカスタマイズ可能な権限のセットが割り当てられるようにするには「Advanced Roles」。
4. **「Advanced Roles」の場合は、該当するチェックボックスを選択して、LDAP ユーザーのこれらの権限を有効にします。**
   詳細は、27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)

「Strict Certificate」モードが有効になっている場合は、スイッチの証明書をアップロードする必要があります。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**
2. **「Certificate Information」リンクをクリックします。**
   ペインが「Certificate Information」セクションにスクロールされます。
3. **「Transfer Method」ドロップダウンメニューから、目的の転送方法を選択します。**
4. **追加情報を指定します。**
   - **「Browser」の場合は、「Browse」をクリックし、ファイルを選択します。**
   - **「TFTP」の場合は、ホスト名とファイルパスを指定します。**
   - **「FTP」、「SFTP」、「SCP」、「HTTP」、または「HTTPS」の場合は、ホスト名、ファイルパス、ユーザー名、およびパスワードを指定します。**
   - **「Paste」の場合は、鍵のテキストを「Data」フィールドに貼り付けます。**
5. **「Load Certificate」をクリックします。**
6. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」

- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)

状況によっては、既存の証明書を削除する必要がある場合があります。たとえば、スイッチが「Strict Certificate」モードを使用しなくなった場合、または証明書の期限が切れていて、新しい証明書で置き換える必要がある場合は、既存の証明書を削除する必要があります。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**
2. **「Certificate Information」リンクをクリックします。**
   ペインが「Certificate Information」セクションにスクロールされます。
3. **「Remove Certificate」をクリックします。**
4. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)

どの AD プロパティーも削除またはリセットすることなく、LDAP over SSL を選択的に無効にできます。無効になっている場合、LDAP over SSL ユーザーはスイッチへのアクセスが許可されません。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LSAP/SSL」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスをクリアします。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)

ネットワークで LDAP over SSL 管理者グループを使用している場合は、管理者グループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチ上でこれらのグループを構成する必要があります。

- LDAP over SSL サーバー上で構成されている管理者グループが、スイッチ上で構成される管理者グループに一致している必要があります。
- 管理者グループ名は、管理者グループのための標準 LDAP over SSL 名の形式に従う必要があります。
- スイッチは、最大 5 つのグループをサポートします。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**
2. **「Admin Groups」リンクをクリックします。**
   ペインが「Admin Groups」セクションにスクロールされます。
3. **「Admin Groups」表が空の場合でも、この表の行を選択します。**
4. **「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが表示されます。
5. **「Name」フィールドに、CN、OU、DC、および DC 接尾辞から成る修飾名を入力します。**
   名前を入力するとき、各情報要素の区切りにはコンマを使用し、空白は使用しないでください。たとえば、**`CN=SpAdmin,OU=Groups,DC=domain,DC=companyq,DC=com`** とします。
6. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)

ネットワークで LDAP over SSL オペレータグループを使用している場合は、オペレータグループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチ上でこれらのグループを構成する必要があります。

- LDAP over SSL サーバー上で構成されているオペレータグループが、スイッチ上で構成されるグループに一致している必要があります。
- グループ名は、オペレータグループのための標準 LDAP over SSL 名の形式に従う必要があります。
- スイッチは、最大 5 つのグループをサポートします。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**
2. **「Operator Groups」リンクをクリックします。**

   ペインが「Operator Groups」セクションにスクロールされます。
3. **「Operator Groups」表が空の場合でも、この表の行を選択します。**
4. **「Edit」をクリックします。**

   ポップアップウィンドウが表示されます。
5. **「Name」フィールドに、CN、OU、DC、および DC 接尾辞から成る修飾名を入力します。**

   名前を入力するとき、各情報要素の区切りにはコンマを使用し、空白は使用しないでください。たとえば、**`CN=SpOperator,OU=Groups,DC=domain,DC=companyq,DC=com`** とします。
6. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)

ネットワークで LDAP over SSL カスタムグループを使用している場合は、カスタムグループのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチ上でこれらのグループを構成する必要があります。

- LDAP over SSL サーバー上で構成されているカスタムグループが、スイッチ上で構成されるグループに一致している必要があります。
- グループ名は、カスタムグループのための標準 LDAP over SSL 名の形式に従う必要があります。
- スイッチは、最大 5 つのグループをサポートします。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**

2. **「Custom Groups」リンクをクリックします。**
   ペインが「Custom Groups」セクションにスクロールされます。

3. **「Custom Groups」表が空の場合でも、この表の行を選択します。**

4. **「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが表示されます。

5. **「Name」フィールドに、CN、OU、DC、および DC 接尾辞から成る修飾名を入力します。**
   名前を入力するとき、各情報要素の区切りにはコンマを使用し、空白は使用しないでください。たとえば、**`CN=SpCustom,OU=Groups,DC=domain,DC=companyq,DC=com`** とします。

6. **「Roles」ドロップダウンメニューから、次の選択を行います。**
   - 役割とその事前に定義された権限のどちらかを設定するには「Administrator」または「Operator」。
   - LDAP サーバーによって LDAP ユーザーの役割が割り当てられるようにするには「None (No Assigned Roles)」。
   - LDAP ユーザーに構成可能な権限のセットが割り当てられるようにするには「Advanced Roles」。

7. **「Advanced Roles」の場合は、該当するチェックボックスを選択して、LDAP ユーザーのこれらの権限を有効にします。**
   詳細は、27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。

8. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)

ネットワークで LDAP over SSL ユーザードメインを使用している場合は、ドメインのメンバーがスイッチにアクセスできるように、スイッチ上でこれらのドメインを構成する必要があります。

- LDAP over SSL サーバー上で構成されているドメインが、スイッチ上で構成されるドメインに一致している必要があります。
- ユーザードメインは、ユーザードメインのための標準 LDAP over SSL 名の形式に従う必要があります。
- スイッチは、最大 5 つのグループをサポートします。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**
2. **「User Domains」リンクをクリックします。**
   ペインが「User Domains」セクションにスクロールされます。
3. **「User Domains」表が空の場合でも、この表の行を選択します。**
4. **「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが表示されます。
5. **ユーザードメインを、サポートされる次のいずれかの形式で入力します。**

- UID 形式。これは、UID、OU、DC、および DC 接尾辞です。
- DN 形式。これは、CN、OU、DC、および DC 接尾辞です。
- オプションの Searchbase 形式。これは、UID、OU、DC、DC 接尾辞、および BASE です。

6. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 465 ページの「代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 代替 LDAP over SSL サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)

通常、LDAP over SSL ネットワークには複数の代替 LDAP over SSL サーバーがあります。スイッチは、最大 5 台の LDAP over SSL サーバーに加え、プライマリをサポートします。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「LDAP over SSL」タブをクリックします。**

2. **「Alternate Servers」リンクをクリックします。**

   ペインが「Alternate Servers」セクションにスクロールされます。

3. **「Alternate Servers」表が空の場合でも、この表の行を選択します。**

4. **「Edit」をクリックします。**

   ポップアップウィンドウが表示されます。

5. **代替 LDAP over SSL サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。**

6. **LDAP over SSL サーバーとの通信のためのポートを選択します。**

   - **このポートが自動的に決定されるようにする場合は、「AutoSelect」チェックボックスを選択します。**
   - **通信ポートを指定する場合は、「AutoSelect」チェックボックスの選択を解除し、「Port」フィールドにポート番号を入力します。**

7. **LDAP サーバーに SSL 証明書を割り当てます。**

   458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

   注記 - 「Remove Certificate」をクリックすることによって、このウィンドウから SSL 証明書を削除することもできます。

8. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 454 ページの「LDAP over SSL の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 455 ページの「(オプション) LDAP over SSL ユーザーマッピングの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 457 ページの「LDAP over SSL ユーザーの役割と権限の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 458 ページの「LDAP over SSL サーバーの証明書情報のロード (Oracle ILOM Web)」
- 459 ページの「LDAP over SSL サーバーからの証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 460 ページの「LDAP over SSL 管理者グループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 461 ページの「LDAP over SSL オペレータグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 463 ページの「LDAP over SSL カスタムグループの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 464 ページの「LDAP over SSL ユーザードメインの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 140 ページの「LDAP over SSL クライアントの表示 (Oracle ILOM Web)」

RADIUS ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、RADIUS で認証されたユーザーにアクセス権を付与するために、ネットワーク内の RADIUS サーバーと対話する RADIUS クライアントがあります。これらのトピックでは、スイッチの RADIUS クライアントを構成する方法に関する情報を提供します。

- 467 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 468 ページの「(オプション) RADIUS 共有シークレットの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 469 ページの「代替 RADIUS サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「RADIUS ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 438 ページの「AD の制御 (Oracle ILOM Web)」
- 450 ページの「DNS クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 451 ページの「LDAP ユーザーアクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「LDAP over SSL の制御 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、ネットワーク内の RADIUS サーバーと対話する RADIUS クライアントがあります。スイッチが RADIUS 用に構成されている場合、認証および承認された RADIUS ユーザーがスイッチにアクセスできます。

- RADIUS は FIPS が無効になっている場合にのみ有効にできます。535 ページの「FIPS の無効化 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。
- Oracle ILOM クライアントの RADIUS ユーザープロパティーを構成するには、Oracle 役割モデルにおけるユーザー管理の役割 (u) が必要です。
- スイッチと RADIUS サーバーの両方に RADIUS プロパティーが設定されている必要があります。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「RADIUS」タブをクリックします。**

2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **RADIUS サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。**
4. **RADIUS 通信に使用されるポートを指定します。**
5. **(オプション) 共有シークレットパスワードを設定します。**
   468 ページの「(オプション) RADIUS 共有シークレットの設定 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。
6. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 468 ページの「(オプション) RADIUS 共有シークレットの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 469 ページの「代替 RADIUS サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「RADIUS ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 141 ページの「RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ (オプション) RADIUS 共有シークレットの設定 (Oracle ILOM Web)

ネットワーク内の RADIUS 実装で共有シークレットを使用している場合は、スイッチ上でも共有シークレットを構成する必要があります。スイッチ上で共有シークレットを構成するには、このタスクを使用します。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「RADIUS」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **「Shared Secret」の「Change」をクリックします。**
4. **サーバーの共有シークレットパスフレーズを入力します。**

   注記 - 「Revert」をクリックすることによって、このフィールドを以前の値にリセットすることもできます。

5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 467 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 469 ページの「代替 RADIUS サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「RADIUS ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 141 ページの「RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 代替 RADIUS サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)

通常、RADIUS ネットワークには、単一点障害を回避するために複数の代替 RADIUS サーバーがあります。スイッチは最大 5 台の RADIUS サーバーに加え、プライマリをサポートします。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「RADIUS」タブをクリックします。**
2. **「Alternate Servers」リンクをクリックします。**
   ペインが「Alternate Servers」表にスクロールされます。
3. **「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが表示されます。
4. **代替 RADIUS サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。**
5. **RADIUS サーバーとの通信のためのポート番号を入力します。**
6. **RADIUS 共有シークレットを指定します。**
   468 ページの「(オプション) RADIUS 共有シークレットの設定 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。
7. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 467 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 468 ページの「(オプション) RADIUS 共有シークレットの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「RADIUS ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

- 141 ページの「RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ RADIUS ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)

スイッチにアクセスしている RADIUS ユーザーの場合は、そのユーザーがスイッチ上に持つ固有の役割と権限を設定できます。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「RADIUS」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **適切な役割を選択します。**
   - **事前に構成されている「Administrator」または「Operator」役割を選択します。**
   - **カスタムの権限を持つ高度な役割を作成するには、「Advanced Roles」を選択します。**
4. **高度な役割の場合は、必要に応じてカスタムの役割に権限を適用するための各チェックボックスを選択します。**
   詳細は、27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 467 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 468 ページの「(オプション) RADIUS 共有シークレットの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 469 ページの「代替 RADIUS サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 141 ページの「RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)

どの RADIUS プロパティーも削除またはリセットする必要なく、RADIUS を選択的に無効にできます。無効にすると、RADIUS ユーザーはスイッチへのアクセスが許可されません。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「RADIUS」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスをクリアします。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 467 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 468 ページの「(オプション) RADIUS 共有シークレットの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 469 ページの「代替 RADIUS サーバーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「RADIUS ユーザーの役割の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 141 ページの「RADIUS クライアント情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、イベント、通知、およびイベントロギングの状態とプロパティーを構成する方法について説明します。

- 472 ページの「SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 472 ページの「アラートとイベントの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 478 ページの「ログの管理 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
- 123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」
- 424 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 438 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 488 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 494 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 522 ページの「ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 525 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 531 ページの「その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web)」

▼ SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、通知やアラートを指定された電子メールアドレスに送信するために使用される SMTP 電子メールクライアントが含まれています。電子メールアドレスは、エイリアスまたはスイッチ管理者などの個々の受信者の電子メールを指定できます。

注記 - メッセージを送信するには、SMTP クライアントを有効にし、Oracle ILOM の「Alert Settings」ページから電子メールアラート規則を構成する必要があります。474 ページの「アラートでの電子メールアラート送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

---

1. **「ILOM Administration」->「Notifications」の順に選択し、「SMTP Client」タブをクリックします。**
2. **「Enabled」チェックボックスを選択し、SMTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名、SMTP サーバーポート、およびカスタム送信者文字列を各フィールドに指定します。**
3. **「Save」をクリックします。**
4. **(オプション) SMTP クライアント設定を検証するためにテスト電子メールを送信します。**
   a. **「Address」フィールドにアクセス可能な電子メールアドレスを入力します。**
   b. **「Send Test」をクリックします。**
   c. **電子メールを受信したことを確認します。**

関連情報

- 472 ページの「SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」

アラートとイベントの管理 (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、アラートとイベントを送信するようにスイッチの通知システムを構成する方法に関する情報を提供します。

- 473 ページの「アラートでの SNMP トラップ送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」

- 474 ページの「アラートでの電子メールアラート送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 475 ページの「アラートでの PET 送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 476 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 477 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 477 ページの「リモートログホストの設定 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 472 ページの「SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 478 ページの「ログの管理 (Oracle ILOM Web)」

▼ アラートでの SNMP トラップ送信の有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチ内の条件が、スイッチにすでに事前構成されているルールを編集することによって作成したアラートレベルと一致したときに、アラートが送信されます。ルールの構成の一部はアラートレベルの指定であり、SNMP トラップなどのアラートタイプの指定でもあります。指定されたレベル以上のアラートが発生した場合、スイッチは SNMP トラップを送信します。デフォルトで、アラートは無効になっています。

1. **「ILOM Administration」->「Notifications」の順に選択し、「Alerts」タブをクリックします。**
2. **「Alerts」表で、既存のアラートを選択し、「Edit」をクリックします。**
3. **「Level」ドロップダウンメニューからアラートレベルを選択します。**
4. **「Type」ドロップダウンメニューから「SNMP Trap」を選択します。**
5. **「Address」フィールドに、SNMP トラップの宛先アドレスまたはホスト名を入力します。**
6. **ポートを指定する場合は、「Autoselect」ボックスのチェックマークを外し、「Destination Port」フィールドにポート番号を入力します。**
7. **「SNMP Version」ドロップダウンメニューから SNMP バージョンを選択します。**
8. **SNMP 名を入力します。**
   a. **SNMP v3 の場合は、セキュアユーザー名を入力します。**

b. **SNMP v1 または v2c の場合は、コミュニティー名を入力します。**

9. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 474 ページの「アラートでの電子メールアラート送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 475 ページの「アラートでの PET 送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 476 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 477 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 144 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 478 ページの「ログの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ アラートでの電子メールアラート送信の有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチ内の条件が、スイッチにすでに事前構成されているルールを編集することによって作成したアラートレベルと一致したときに、アラートが送信されます。ルールの構成の一部はアラートレベルを指定しており、電子メールなどのアラートタイプも指定しています。指定されたレベル以上のアラートが発生した場合、スイッチは電子メールを送信します。デフォルトで、アラートは無効になっています。

1. **「ILOM Administration」->「Notifications」の順に選択し、「Alerts」タブをクリックします。**

2. **「Alerts」表で、既存のアラートを選択し、「Edit」をクリックします。**
   「Edit Alert」ウィンドウが開きます。

3. **「Level」ドロップダウンメニューからアラートレベルを選択します。**

4. **「Type」ドロップダウンメニューから「Email」を選択します。**

5. **「Email Address」フィールドに宛先電子メールアドレスを入力します。**

6. **(オプション) 各ドロップダウンメニューから「Event Class Filter」と「Event Type Filter」を選択します。**

7. **必要に応じて、「Custom Sender」フィールドにカスタム送信者識別子を入力します。**
8. **(オプション)「Message Prefix」フィールドにメッセージ接頭辞を入力します。**
9. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 473 ページの「アラートでの SNMP トラップ送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 472 ページの「SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 475 ページの「アラートでの PET 送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 476 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 477 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 144 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 478 ページの「ログの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ アラートでの PET 送信の有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチ内の条件が、スイッチにすでに事前構成されているルールを編集することによって作成したアラートレベルと一致したときに、アラートが送信されます。ルールの構成の一部はアラートレベルの指定であり、IPMI PET などのアラートタイプの指定をすることもできます。指定されたレベル以上のアラートが発生した場合、スイッチは IPM PET を送信します。デフォルトで、アラートは無効になっています。

1. **「ILOM Administration」->「Notifications」の順に選択し、「Alerts」タブをクリックします。**
2. **「Alerts」表で、既存のアラートを選択し、「Edit」をクリックします。**
3. **「Level」ドロップダウンメニューからアラートレベルを選択します。**
4. **「Type」ドロップダウンメニューから「IPMI PET」を選択します。**
5. **「IP Address」フィールドに IPMI PET の宛先 IP アドレスを入力します。**
6. **ポートを指定する場合は、「Autoselect」ボックスのチェックマークを外し、「Destination Port」フィールドにポート番号を入力します。**
7. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 473 ページの「アラートでの SNMP トラップ送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 474 ページの「アラートでの電子メールアラート送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 476 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 477 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 144 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 478 ページの「ログの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ アラートの無効化 (Oracle ILOM Web)

デフォルトで、アラートは無効になっています。有効になっているアラームに対し、個々のルールを選択的に無効にできます。アラートが無効になっている場合、そのルールに関連付けられている SNMP トラップ、電子メール、または IPMI PET が送信されなくなります。アラートの原因となった状況が引き続き存在しますが、通知されません。

1. **「ILOM Administration」->「Notifications」の順に選択し、「Alerts」タブをクリックします。**
2. **「Alerts」表で、既存のアラートを選択し、「Edit」をクリックします。**
   「Edit Alert」ウィンドウが開きます。
3. **「Level」ドロップダウンメニューから「Disable」レベルを選択します。**
4. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 473 ページの「アラートでの SNMP トラップ送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 474 ページの「アラートでの電子メールアラート送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 475 ページの「アラートでの PET 送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 477 ページの「障害が発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 144 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 478 ページの「ログの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 障害が発生したシステムコンポーネントのクリア (Oracle ILOM Web)

いずれかのシステムコンポーネントに障害が発生した場合、そのコンポーネントは「Open Problems」ページに一覧表示されます。必要に応じて、障害が発生した個々のコンポーネントをクリアできます。

1. **「Open Problems」を選択します。**
2. **障害が発生したコンポーネントの原因になっている状態を修正します。**
3. **障害が発生したコンポーネントが修正されたら、「Clear」をクリックします。**
4. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 473 ページの「アラートでの SNMP トラップ送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 474 ページの「アラートでの電子メールアラート送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 475 ページの「アラートでの PET 送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 476 ページの「アラートの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 144 ページの「警告のプロパティーの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 478 ページの「ログの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ リモートログホストの設定 (Oracle ILOM Web)

SP の Oracle ILOM 実装は、Oracle ILOM イベントをリモートログホストに転送するためのプロトコルを提供します。転送されるイベントは、ローカルログに表示されるものと似ています。

1. **「ILOM Administration」->「Notifications」の順に選択し、「Syslog」タブをクリックします。**
2. **リモートログホストの IP アドレスまたはホスト名を各フィールドに入力します。**

注記 - リモートログホストの IP アドレスを `0.0.0.0` に設定すると、その機能が無効になります。

---

3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 478 ページの「ログの管理 (Oracle ILOM Web)」

ログの管理 (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM には自動的に関連情報を記録する 2 つのファイルがあります。

- イベントログは SP に対して記録されたすべてのスイッチハードウェア関連イベントを記録します。
- 監査ログは、スイッチの構成の変更が発生するユーザー発行コマンドを記録します。

これらのトピックでは、イベントおよび監査ログ内のエントリの表示や動作を制御する方法について説明します。

- 478 ページの「1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 479 ページの「Oracle ILOM ログの 1 ページでの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 480 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 481 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 483 ページの「Oracle ILOM ログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 484 ページの「Oracle ILOM ログのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 484 ページの「システムログの制御 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 472 ページの「SMTP クライアントの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 472 ページの「アラートとイベントの管理 (Oracle ILOM Web)」

▼ 1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM ログには、時間の経過とともに多数のエントリが累積される場合があります。Oracle ILOM ログの 1 ページあたりに表示される行数を制御するには、このタスクを使用します。

1. **「ILOM Administration」->「Logs」の順に選択し、該当するタブをクリックします。**

- イベントログ内の 1 ページあたりのエントリ数を制御するには「Event」タブ。
- 監査ログ内の 1 ページあたりのエントリ数を制御するには「Audit」タブ。

2. **「ILOM Log」ツールバーの「Show Table View Preferences」ボタンをクリックします。**
3. **「Rows Per Page」フィールドに、各ページに表示する行数を入力します。**
4. **「OK」をクリックします。**
   設定する行数はセッションにわたって持続されないため、ログアウトした場合、1 ページあたりに表示される行数はデフォルト値 (25) にリセットされます。

関連情報

- 479 ページの「Oracle ILOM ログの 1 ページでの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 480 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 481 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 483 ページの「Oracle ILOM ログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 484 ページの「Oracle ILOM ログのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM ログの 1 ページでの表示 (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM ログを、複数ページの表示ではなく、すべてのログエントリが含まれたスクロール可能な 1 ページとして表示できます。

1. **「ILOM Administration」->「Logs」の順に選択し、該当するタブをクリックします。**
   - イベントログを制御するには「Event」タブ。
   - 監査ログを制御するには「Audit」タブ。
2. **「ILOM」ツールバーの「Show Data in a Single Page」ボタンをクリックします。**
   ログが、縦方向にスクロールできる 1 つの大きな表として表示されます。
3. **(オプション) 複数ページの表に戻すには、「Show Data in a Single Page」を再度クリックします。**
   このボタンはトグル型であるため、連続してクリックすることにより、表示を 1 ページと複数ページの間で切り換えることができます。

関連情報

- 478 ページの「1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 480 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 481 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 483 ページの「Oracle ILOM ログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 484 ページの「Oracle ILOM ログのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)

選択した条件に一致するエントリが表示されるように Oracle ILOM イベントログをフィルタリングできます。スイッチにはサブシステムやイベントタイプに基づく定義済みフィルタ条件がありますが、カスタムフィルタを作成することもできます。

1. **「ILOM Administration」->「Logs」の順に選択し、「Event」タブをクリックします。**
2. **「Filter」ドロップダウンメニューから、フィルタリングに使用するサブシステムまたはイベントタイプを選択します。**
   - **イベントログをすべてのイベントでフィルタリングするか、またはフィルタリングされたイベントログをその元の状態にリセットするには、「All Events」を選択します。**
   - **特定の障害タイプでフィルタリングするには、「Class:Fault」を選択します。**
   - **影響を受ける特定のオブジェクトでフィルタリングするには、「Type:Action」を選択します。**
   - **クリティカルイベントでフィルタリングするには、「Severity:Critical」を選択します。**
   - **「停止」状態にあるコンポーネントでフィルタリングするには、「Severity:Down」を選択します。**

   ログには、選択した条件に一致するエントリのみが含まれます。

3. **「Rows Per Page」フィールドに、各ページに表示する行数を入力します。**

   設定する行数はセッションにわたって持続されないため、ログアウトした場合、1 ページあたりに表示される行数はデフォルト値 (25) にリセットされます。

4. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 478 ページの「1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 479 ページの「Oracle ILOM ログの 1 ページでの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 481 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 483 ページの「Oracle ILOM ログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 484 ページの「Oracle ILOM ログのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)

選択した条件に一致するエントリが表示されるように Oracle ILOM 監査ログをフィルタリングできます。スイッチにはサブシステムやイベントタイプに基づく定義済みフィルタ条件がありますが、カスタムフィルタを作成することもできます。Oracle ILOM 監査ログを定義済み条件でフィルタリングするには、このタスクを使用します。

1. **「ILOM Administration」->「Logs」の順に選択し、「Audit」タブをクリックします。**

2. **「Filter」ドロップダウンメニューから、フィルタリング条件を選択します。**

   - **イベントログをすべてのイベントでフィルタリングするか、またはフィルタリングされたイベントログをその元の状態にリセットするには、「All Events」を選択します。**
   - **すべての IPMI イベントでフィルタリングするには、「Type:IPMI」を選択します。**
   - **すべてのユーザーインタフェースイベントでフィルタリングするには、「Type: UI」を選択します。**

- **一時的ではなく、永続的なイベントでフィルタリングするには、「Type: Persistence」を選択します。**
- **アップグレードに関連したすべてのイベントでフィルタリングするには、「Type:Upgrade」を選択します。**
- **major の重大度であるすべてのイベントをフィルタリングするには、「Severity: Major」を選択します。**
- **すべての監査イベントでフィルタリングするには、「All Audit Events」を選択します。**
- **制限付きシェルに関連したすべてのイベントでフィルタリングするには、「All RestrictedShell Events」を選択します。**
- **キャプティブシェルに関連したすべてのイベントでフィルタリングするには、「All CaptiveShell Events」を選択します。**

ログには、選択した条件に一致するエントリのみが含まれます。

3. **「Rows Per Page」フィールドに、各ページに表示する行数を入力します。**
   設定する行数はセッションにわたって持続されないため、ログアウトした場合、1 ページあたりに表示される行数はデフォルト値 (25) にリセットされます。
4. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 478 ページの「1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 479 ページの「Oracle ILOM ログの 1 ページでの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 480 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 483 ページの「Oracle ILOM ログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 484 ページの「Oracle ILOM ログのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM ログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)

定義済みフィルタではログのエントリを 1 つの条件と比較できるのに対して、カスタムフィルタでは、ログの内容を表示するために最大 3 つの条件を使用できます。

1. **「ILOM Administration」->「Logs」の順に選択し、影響を与えるログに応じて「Event」または「Audit」タブをクリックします。**

   - イベントログをクリアするには「Event」タブ。
   - 監査ログをクリアするには「Audit」タブ。

2. **「Filter」ドロップダウンメニューから、「Custom Filter」を選択します。**

   ログには、選択した条件に一致するエントリのみが含まれます。

   注記 - 「Filter」ドロップダウンから「All Entries」を選択することによってログ全体を表示できます。

3. **「Event Class」ドロップダウンメニューから、適切な値を選択します。**

4. **「Event Type」ドロップダウンメニューから、適切な値を選択します。**

5. **「Severity」ドロップダウンメニューから、適切な値を選択します。**

6. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 478 ページの「1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 479 ページの「Oracle ILOM ログの 1 ページでの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 480 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 481 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 484 ページの「Oracle ILOM ログのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM ログのクリア (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM ログが大きくなると、ログの内容の検索や管理を容易にするために、そのログをクリアすることが必要になる場合があります。Oracle ILOM ログをクリアすると、新しいイベントが発生したときに再度記録が開始されます。

1. **「ILOM Administration」->「Logs」の順に選択し、「Event」または「Audit」タブをクリックします。**
2. **該当する表の「Clear Log」をクリックします。**
   確認を求めるダイアログが表示されます。
3. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 478 ページの「1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 479 ページの「Oracle ILOM ログの 1 ページでの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 480 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 481 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 483 ページの「Oracle ILOM ログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 145 ページの「Oracle ILOM イベントログの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 146 ページの「Oracle ILOM 監査ログの表示 (Oracle ILOM Web)」

システムログの制御 (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、システムログとそのプロパティーを制御する方法について説明します。

- 485 ページの「1 ページあたりのシステムログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 485 ページの「定義済み条件を使用したシステムログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 486 ページの「システムログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 487 ページの「システムログのクリア (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 478 ページの「1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 479 ページの「Oracle ILOM ログの 1 ページでの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 480 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 481 ページの「定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 483 ページの「Oracle ILOM ログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 484 ページの「Oracle ILOM ログのクリア (Oracle ILOM Web)」

▼ 1 ページあたりのシステムログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)

システムログには、時間の経過とともに多数のエントリが累積される場合があります。

1. **「system log」を選択します。**
2. **「system log」ツールバーの「Show Table View Preferences」ボタンをクリックします。**
3. **「Rows Per Page」フィールドに、システムログの各ページに表示する行数を入力します。**
4. **「OK」をクリックします。**
   設定する行数はセッションにわたって持続されないため、ログアウトした場合、1 ページあたりに表示される行数はデフォルト値 (25) にリセットされます。

関連情報

- 485 ページの「定義済み条件を使用したシステムログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 486 ページの「システムログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 487 ページの「システムログのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 143 ページの「スイッチシステムログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 定義済み条件を使用したシステムログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)

選択した条件に一致するエントリが表示されるようにシステムログをフィルタリングできます。スイッチにはサブシステムやイベントタイプに基づく定義済みフィルタ条

件がありますが、カスタムフィルタを作成することもできます。定義済み条件を使用してシステムログをフィルタリングするには、このタスクを使用します。

1. **「System Log」を選択します。**
2. **「Filter」ドロップダウンメニューから、フィルタリングに使用するサブシステムまたはイベントタイプを選択します。**
   システムログには、選択した条件に一致するエントリのみが含まれます。

注記 - 「Filter」ドロップダウンメニューから「All Entries」を選択することによってシステムログ全体を表示できます。

---

3. **「Rows Per Page」フィールドに、システムログの各ページに表示する行数を入力します。**
4. **「OK」をクリックします。**
   設定する行数はセッションにわたって持続されないため、ログアウトした場合、1 ページあたりに表示される行数はデフォルト値 (25) にリセットされます。

関連情報

- 485 ページの「1 ページあたりのシステムログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 486 ページの「システムログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 487 ページの「システムログのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 143 ページの「スイッチシステムログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ システムログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)

定義済みフィルタではシステムログエントリを 1 つの条件と比較できるのに対して、カスタムフィルタでは、システムログの内容を表示するために最大 3 つの条件を使用できます。

1. **「System Log」を選択します。**
2. **「Filter」ドロップダウンメニューから、「Custom Filter」を選択します。**
   システムログには、選択した条件に一致するエントリのみが含まれます。

注記 - 「Filter」ドロップダウンメニューから「All Entries」を選択することによってシステムログ全体を表示できます。

---

3. 必要な数のフィルタ条件を指定します。

   a. 「Component」フィールドに、表示するコンポーネントを入力します。

   b. 「Type」フィールドに、表示するイベントタイプを入力します。

   c. 「Subsystem」ドロップダウンメニューに、表示するサブシステムを選択します。

4. 「OK」をクリックします。

関連情報

- 485 ページの「1 ページあたりのシステムログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 485 ページの「定義済み条件を使用したシステムログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 487 ページの「システムログのクリア (Oracle ILOM Web)」
- 143 ページの「スイッチシステムログの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ システムログのクリア (Oracle ILOM Web)

システムログには、時間の経過とともに多数のエントリが含まれる場合があります。システムログがいっぱいになったら、必要に応じてすべてのエントリをクリアできます。

1. 「System Log」を選択します。

2. ツールバーの「Clear Log」を選択します。
   ポップアップウィンドウが表示され、確認が求められます。

3. 「OK」をクリックします。

関連情報

- 485 ページの「1 ページあたりのシステムログエントリ数の設定 (Oracle ILOM Web)」
- 485 ページの「定義済み条件を使用したシステムログのフィルタリング (Oracle ILOM Web)」
- 486 ページの「システムログのためのカスタムフィルタの作成 (Oracle ILOM Web)」
- 143 ページの「スイッチシステムログの表示 (Oracle ILOM Web)」

管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、スイッチの IPv4 および IPv6 ネットワーク構成と個々のネットワークコントローラを制御する方法について説明します。

- 488 ページの「ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 489 ページの「ネットワーク管理プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 490 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 491 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 492 ページの「スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 493 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 424 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 438 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 471 ページの「通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 522 ページの「ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 525 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 531 ページの「その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web)」

▼ ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチのネットワーク管理パラメータにより、Oracle ILOM は SP の IP アドレスを自動的に学習できます。

1. **「ILOM Administration」->「Connectivity」の順に選択し、「Network」タブをクリックします。**
2. **使用中の IP のバージョンについて、「State」の「Enabled」チェックボックスを選択してプロトコルを有効にします。**

3. **「IP Discovery Mode」の「DHCP」または「Static」のどちらかを選択します。**

4. **「Static」を選択した場合は、SP の IP アドレス、ネットマスク、および IPv4 ゲートウェイの IP アドレスを各フィールドに入力します。**

5. **「Save」をクリックします。**

6. **SP の管理を続行するには、ネットワーク管理への接続を再確立します。**
   29 ページの「Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス」を参照してください。

関連情報

- 489 ページの「ネットワーク管理プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 490 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 491 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 492 ページの「スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 493 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM Web)」
- 147 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 148 ページの「管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ ネットワーク管理プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチのネットワーク管理インタフェースは IPv4 または IPv6 のどちらかにできます。このタスクを使用して、スイッチのネットワーク管理インタフェースのネットワークプロパティーを設定します。

1. **「ILOM Administration」->「Connectivity」の順に選択し、「Network」タブをクリックします。**

2. **スイッチで VLAN をサポートするようにする場合は、「802.1Q VLAN Tagging」チェックボックスの「Enabled」を選択します。**

3. **スイッチが送受信できる VLAN ID の範囲を入力します。**

4. **プロトコル固有のプロパティーを構成します。**

490 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」および492 ページの「スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

注記 - 両方のプロトコルを同じスイッチ上で実行できます。

5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 488 ページの「ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 490 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 491 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 492 ページの「スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 493 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM Web)」
- 147 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 148 ページの「管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)

ネットワーク管理インタフェースが IPv4 ネットワーク上で構成されている場合は、このタスクを使用して、SP およびネットワーク管理インタフェースのプロパティーを構成します。

1. **「ILOM Administration」->「Connectivity」の順に選択し、「Network」タブをクリックします。**

2. **「IPv4」セクションで、「State」の「Enabled」チェックボックスをクリックします。**

3. **IPv4 アドレスのアドレス検出モードを選択します。**

   - スイッチがそのアドレスを DHCP サーバーから動的に取得するようにするには「DHCP」。
   - スイッチがユーザーにより明示的に割り当てられた静的アドレスを受信するようにするには「Static」。

4. **IP アドレス検出モードに基づいて構成を完了します。**

   - **「DHCP」の場合は、ドロップダウンメニューから「DHCP Client ID」を選択します。**
   - **「Static」の場合は、静的 IP アドレス、ネットマスク、およびネットワークのゲートウェイアドレスを入力します。**

5. **「DHCP」の場合は、DHCP アドレスを構成します。**

   491 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web)」を参照してください

6. **「Save」をクリックします。**

7. **スイッチで IPv6 もサポートする必要がある場合は、これらのプロパティーを構成します。**

   492 ページの「スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

関連情報

- 488 ページの「ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 489 ページの「ネットワーク管理プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 491 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 492 ページの「スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 493 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM Web)」
- 147 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 148 ページの「管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web)

SP およびネットワーク管理インタフェースで動的アドレス指定 (DHCP) を使用している場合は、このタスクを使用して、動的アドレスのパラメータを構成します。このタスクでは、DHCP の IPv4 がすでに有効になっていることを前提にしています。490 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

1. **「ILOM Administration」->「Connectivity」の順に選択し、「Network」タブをクリックします。**
2. **「Dynamic Addresses」をクリックします。**

関連情報

- 488 ページの「ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 489 ページの「ネットワーク管理プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 490 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 492 ページの「スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 493 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM Web)」
- 147 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 148 ページの「管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)

ネットワーク管理インタフェースが IPv6 ネットワーク上で構成されている場合は、このタスクを使用して、SP およびネットワーク管理インタフェースのプロパティーを構成します。

1. **「ILOM Administration」->「Connectivity」の順に選択し、「Network」タブをクリックします。**
2. **「IPv6」セクションで、「State」の「Enabled」チェックボックスをクリックします。**
3. **プロトコルの「AutoConfig」モードを選択します。**
4. **プロトコルの「DHCPv6 AutoConfig」モードを選択します。**
5. **静的 IP アドレスを入力します。**
6. **静的ゲートウェイアドレスを入力します。**
7. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 488 ページの「ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web)」

- 489 ページの「ネットワーク管理プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 490 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 491 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 493 ページの「管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM Web)」
- 147 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 148 ページの「管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 管理ネットワーク構成のテスト (Oracle ILOM Web)

スイッチは IPv4 `ping` および IPv6 `ping6` を指定された宛先に送信して、ネットワークが正しく構成されていることを確認できます。

1. **「ILOM Administration」->「Connectivity」の順に選択し、「Network」タブをクリックします。**
2. **「Network Tools」リンクをクリックします。**
3. **「Tools」をクリックします。**
   `ping` テストの実行をサポートするポップアップウィンドウが表示されます。
4. **「Test Type」ドロップダウンメニューから、`ping` テストのタイプを選択します。**
   - **IPv4 ネットワークの場合は、「ping」を選択します。**
   - **IPv6 ネットワークの場合は、「ping6」を選択します。**
5. **`ping` を発行する IP アドレス (ゲートウェイアドレスなど) を入力します。**
6. **「Test」をクリックします。**
   ping の結果がポップアップウィンドウに表示されます。
7. **テストを完了したら、「Close」をクリックします。**

関連情報

- 488 ページの「ネットワーク管理パラメータの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 489 ページの「ネットワーク管理プロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 490 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」

- 491 ページの「スイッチの IPv4 管理ネットワーク動的アドレスの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 492 ページの「スイッチの IPv6 管理ネットワークプロパティーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 147 ページの「管理ネットワーク構成の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 148 ページの「管理ネットワークのシステムレベルの健全性の表示 (Oracle ILOM Web)」

スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、スイッチへの接続を管理する方法について説明します。

- 494 ページの「リモートセッションの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 497 ページの「Oracle ILOM の CLI セッションタイムアウトの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 497 ページの「接続バナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「接続バナーメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「ログインバナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「バナーログインメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 424 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 438 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 471 ページの「通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 488 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 522 ページの「ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 525 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 531 ページの「その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web)」

リモートセッションの制御 (Oracle ILOM Web)

シリアルリダイレクションのためにリモートセッションのプロパティー (キーボード、ビデオ、マウス、ストレージ (KVMS) などのプロパティー) が構成されている場合、スイッチはローカルマシンからリモートで管理できます。

- 495 ページの「ビデオリダイレクションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 495 ページの「シリアルリダイレクションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 496 ページの「リモートセッションの起動 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 497 ページの「Oracle ILOM の CLI セッションタイムアウトの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 497 ページの「接続バナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「接続バナーメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「ログインバナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「バナーログインメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」

▼ ビデオリダイレクションの有効化 (Oracle ILOM Web)

ビデオリダイレクションを使用して、スイッチのコンソールビデオディスプレイをローカルマシンに表示できます。GUI ベースの管理セッションを Oracle ILOM ウィンドウにリダイレクトするには、このタスクを使用します。

1. **「Remote Control」->「Redirection」の順に選択します。**
2. **「Use Video Redirection」をクリックします。**
3. **(オプション) リモートセッションを起動します。**
   496 ページの「リモートセッションの起動 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

関連情報

- 495 ページの「シリアルリダイレクションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 496 ページの「リモートセッションの起動 (Oracle ILOM Web)」
- 150 ページの「リダイレクション情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 151 ページの「ホストストレージデバイス設定の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ シリアルリダイレクションの有効化 (Oracle ILOM Web)

ビデオリダイレクションを使用して、スイッチのコンソールビデオディスプレイをローカルマシンに表示できます。テキストベースの管理セッションを Oracle ILOM ウィンドウにリダイレクトするには、このタスクを使用します。

1. **「Remote Control」->「Redirection」の順に選択します。**
2. **「Use Serial Redirection」をクリックします。**
3. **(オプション) リモートセッションを起動します。**
   496 ページの「リモートセッションの起動 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

関連情報

- 495 ページの「ビデオリダイレクションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 496 ページの「リモートセッションの起動 (Oracle ILOM Web)」
- 150 ページの「リダイレクション情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 151 ページの「ホストストレージデバイス設定の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ リモートセッションの起動 (Oracle ILOM Web)

シリアルリダイレクションまたはビデオリダイレクションのどちらかが選択されている場合は、ローカルマシンからスイッチを管理するためのリモートセッションを起動できます。

1. **「Remote Control」->「Redirection」の順にクリックします。**
2. **「Launch Remote Console」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウにより、JNLP パッケージをダウンロードする必要があることが示されます。
3. **「OK」をクリックして、ダウンロードを許可します。**
4. **ダウンロードされたファイルを見つけ、それを解凍します。**
5. **JNLP ビデオリダイレクションアプリケーションを実行します。**
   管理セッションが、シリアルモードまたはビデオモードのどちらかで Oracle ILOM ウィンドウにリダイレクトされます。

関連情報

- 495 ページの「ビデオリダイレクションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 495 ページの「シリアルリダイレクションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 150 ページの「リダイレクション情報の表示 (Oracle ILOM Web)」
- 151 ページの「ホストストレージデバイス設定の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM の CLI セッションタイムアウトの設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、構成された分数後に開いている CLI セッションを閉じる非アクティブタイマーをサポートしています。サポートされる最大のタイムアウトは 1440 分 (24 時間) です。ゼロ (0) のタイムアウト値は、タイムアウトが無効になり、非アクティブな CLI セッションが無期限に開いたままになることを示します。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「CLI」タブをクリックします。**
2. **「Session Timeout」の「Enabled」ボックスをクリックし、「Minutes」フィールドに分数を入力します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 152 ページの「CLI セッションタイムアウトの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 接続バナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、ユーザーがスイッチに接続するか、またはログインすると表示されるバナーメッセージをサポートしています。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「Banner Messages」タブをクリックします。**
2. **「Connect Message」ボックスに、ユーザーがスイッチに接続したとき (ただし、ログインする前) に表示するメッセージを入力します。**
3. **「Update」をクリックします。**
4. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 498 ページの「接続バナーメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「ログインバナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「バナーログインメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」

- 151 ページの「システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 接続バナーメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)

接続バナーメッセージはいつでも削除して、ユーザーがスイッチに接続したときにカスタムメッセージが表示されないようにできます。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「Banner Messages」タブをクリックします。**
2. **現在のバナー接続メッセージを選択します。**
3. **「Delete」をクリックします。**
4. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 497 ページの「接続バナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「ログインバナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「バナーログインメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 151 ページの「システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ ログインバナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、ユーザーがスイッチに接続するか、またはログインすると表示されるバナーメッセージをサポートしています。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「Banner Messages」タブをクリックします。**
2. **「Connect Message」ボックスに、ユーザーがスイッチに接続したとき (ただし、ログインする前) に表示するメッセージを入力します。**
3. **「Update」をクリックします。**
4. **(オプション) ユーザーがログインの条件としてログインメッセージを受け入れなければならないようにするには、「Login Message Acceptance」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**

5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 497 ページの「接続バナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「接続バナーメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「バナーログインメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 151 ページの「システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ バナーログインメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)

ログインバナーメッセージはいつでも削除して、ユーザーがスイッチにログインしたときにカスタムメッセージが表示されないようにできます。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「Banner Messages」タブをクリックします。**
2. **現在のバナーログインメッセージを選択します。**
3. **「Delete」をクリックします。**
4. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 497 ページの「接続バナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「接続バナーメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「ログインバナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 151 ページの「システムバナーメッセージの表示 (Oracle ILOM Web)」

スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web を使用して、スイッチとインタフェースするためのさまざまな方法を管理する方法について説明します。

- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 501 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web)」

- 502 ページの「カスタム SSL 証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 503 ページの「非公開鍵の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 504 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 506 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 506 ページの「SSH アクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 508 ページの「IPMI サービスの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 511 ページの「SNMP サービスの制御 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 424 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 438 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 471 ページの「通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 488 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 494 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 522 ページの「ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 525 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 531 ページの「その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web)」

▼ HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチの HTTPS サービスは、ネットワーク環境に必要な Web アクセスと暗号化レベルをサポートしています。HTTPS はデフォルトのサービスで、デフォルトで有効になっていますが、HTTP もサポートされています。HTTP は、デフォルトでは無効になっています。

注記 - すでにアクティブな HTTPS サーバー上でこのタスクを実行すると、サーバーが事実上リセットされます。

---

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「Web Server」タブをクリックします。**
2. **「HTTPS Webserver」の「Enabled」ボックスにチェックマークを付けます。**
3. **「HTTPS Port」フィールドに Web サーバーのポートを入力します。**

4. **「HTTPS Session Timeout」フィールドにタイムアウト値を入力します。**

5. **使用する SSL および TLS バージョンの該当する「Enabled」チェックボックスをクリックします。**

6. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 501 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web)」
- 502 ページの「カスタム SSL 証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 503 ページの「非公開鍵の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 504 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 506 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web)

スイッチには、統合 Web サーバーがあり、HTTPS アクセス用のデフォルトの SSL 証明書と自己署名鍵が含まれていますが、カスタム SSL 証明書がある場合はそれもサポートします。

注記 - カスタム証明書を使用するには、カスタム SSL 証明書と鍵の両方をインストールする必要があります。

---

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SSL Certificate」タブをクリックします。**

2. **「Custom Certificate」リンクをクリックします。**
   ページが「Custom Certificate」ペインにスクロールされます。

3. **「Load」をクリックします。**
   「Custom Certificate Upload」ペインが表示されます。

4. **「Transfer Method」ドロップダウンメニューから転送プロトコルを選択します。**

5. **選択したプロトコルについて、ファイル名、ホスト IP アドレス、ファイルパス、ユーザー名、およびパスワードを各フィールドに入力します。**
6. **「Load」をクリックします。**
7. **「Custom Private Key」で「Load」をクリックします。**
   「Custom Private Key Upload」ペインが表示されます。
8. **「Transfer Method」ドロップダウンメニューから転送プロトコルを選択します。**
9. **選択したプロトコルについて、ファイル名、ホスト IP アドレス、ファイルパス、ユーザー名、およびパスワードを各フィールドに入力します。**
10. **「Load」をクリックします。**
11. **SP の管理を続行するには、ネットワーク管理インタフェースへの接続を再確立します。**
    29 ページの「Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス」を参照してください。

関連情報

- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 502 ページの「カスタム SSL 証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 503 ページの「非公開鍵の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 504 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 506 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ カスタム SSL 証明書の削除 (Oracle ILOM Web)

スイッチに必要なくなったカスタム SSL 証明書がある場合 (たとえば、証明書の期限が切れている場合)、カスタム証明書を削除するには、このタスクを使用します。このタスクでは非公開鍵を削除せず、証明書のみを削除します。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SSL Certificate」タブをクリックします。**
2. **「Custom Certificate」リンクをクリックします。**

ページが「Custom Certificate」セクションにスクロールされます。

3. **「Remove」をクリックします。**
   確認を求めるダイアログが表示されます。

4. **「OK」をクリックします。**

5. **非公開鍵を削除します。**
   503 ページの「非公開鍵の削除 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

関連情報

- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 501 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web)」
- 503 ページの「非公開鍵の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 504 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 506 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ 非公開鍵の削除 (Oracle ILOM Web)

1. **スイッチからカスタム SSL 証明書を削除します。**
   502 ページの「カスタム SSL 証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

2. **SP の管理を続行するには、ネットワーク管理インタフェースへの接続を再確立します。**
   29 ページの「Web インタフェースから Oracle ILOM へのアクセス」を参照してください。

3. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SSL Certificate」タブをクリックします。**

4. **「Custom Private Key」リンクをクリックします。**
   ページが「Custom Private Key」セクションにスクロールされます。

5. **「Remove」をクリックします。**

確認を求めるダイアログが表示されます。

6. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 501 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web)」
- 502 ページの「カスタム SSL 証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 504 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 506 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)

HTTPS プロパティーを変更する必要なく、スイッチ上の HTTP サーバーを選択的に無効にできます。HTTPS サービスを無効にする場合、HTTP を有効にして、Oracle ILOM への Web サーバーアクセスを保持できます。Web サーバー機能を必要としない場合は、HTTP を無効のままにすることができます。

注記 - すでにアクティブな HTTPS サーバー上でこのタスクを実行すると、サーバーが事実上リセットされます。

---

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「Web Server」タブをクリックします。**
2. **HTTPS Web サーバーの「Enabled」チェックボックスをクリアします。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 501 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web)」
- 502 ページの「カスタム SSL 証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 503 ページの「非公開鍵の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」

- 506 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチ上の HTTP サービスは、ネットワーク環境に必要な Web アクセスをサポートします。HTTP はサポートされますが、このサービスは、デフォルトでは有効になっていません。スイッチは代わりに、デフォルトでは HTTPS を使用します。

注記 - すでにアクティブになっている HTTP サーバー上でこのタスクを実行すると、そのサーバーが実質的にリセットされます。

---

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「Web Server」タブをクリックします。**
2. **「HTTP Web server」ドロップダウンメニューから「Enabled」または「Redirect HTTP Connection to HTTPS」のどちらかを選択します。**
3. **「HTTP Port」フィールドに Web サーバーのポート番号を入力します。**
4. **(オプション) HTTP 接続を有効にするが、それを HTTPS に転送する場合は、「Redirect HTTP Connection to HTTPS」を選択します。**
5. **HTTP が HTTPS にリダイレクトされる場合は、HTTPS パラメータを構成します。**
   500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。
6. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 501 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web)」
- 502 ページの「カスタム SSL 証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 503 ページの「非公開鍵の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 504 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 506 ページの「HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ HTTP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)

HTTP はデフォルトでは有効になっていないため、無効にする必要があるのは、それを明示的に有効にした場合だけです。スイッチの HTTP サービスを無効にするには、このタスクを使用します。

注記 - すでにアクティブになっている HTTP サーバー上でこのタスクを実行すると、そのサーバーが実質的にリセットされます。

---

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「Web Server」タブをクリックします。**
2. **「HTTP web server」ドロップダウンメニューから「Disabled」を選択します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 501 ページの「カスタム SSL 証明書および鍵のインストール (Oracle ILOM Web)」
- 502 ページの「カスタム SSL 証明書の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 503 ページの「非公開鍵の削除 (Oracle ILOM Web)」
- 504 ページの「HTTPS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTPS サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 153 ページの「HTTP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

SSH アクセスの制御 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、セキュアシェル接続と鍵の生成を提供する SSH サーバーが含まれています。

- 507 ページの「SSH の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 507 ページの「Generate SSH Keys (Oracle ILOM Web)」
- 508 ページの「SSH の無効化 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 497 ページの「Oracle ILOM の CLI セッションタイムアウトの設定 (Oracle ILOM Web)」

- 497 ページの「接続バナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「接続バナーメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 498 ページの「ログインバナーメッセージの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「バナーログインメッセージの削除 (Oracle ILOM Web)」

▼ SSH の有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、SSH 経由での管理アクセスのためのプロパティーを設定し、必要に応じて新しい SSH 鍵の生成をサポートする SSH サーバーが含まれています。デフォルトでは、スイッチの最初のブート時にスイッチによって一連のデフォルトの RSA および DSA 鍵が生成されるため、鍵は常に存在しています。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SSH Server」タブをクリックします。**
2. **「Settings」で、「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 507 ページの「Generate SSH Keys (Oracle ILOM Web)」
- 508 ページの「SSH の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 156 ページの「SSH サーバーのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Generate SSH Keys (Oracle ILOM Web)

スイッチは SSH 接続用の RSA および DSA 鍵を生成できます。新しい鍵を生成するには、処理中の SSH セッションを終了させる SSH サーバーの再起動が必要になります。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SSH Server」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enable」チェックボックスを選択します。**
3. **生成する鍵のタイプを選択します。**
   - **RSA 鍵の場合は、「Generate RSA Key」をクリックします。**
   - **DSA 鍵の場合は、「Generate DSA Key」をクリックします。**

両方の鍵のタイプを構成して使用できますが、それらを一度に 1 つずつ構成する必要があります。

4. **両方の鍵のタイプを構成している場合は、もう一方の鍵のタイプを生成します。**
5. **「Save」をクリックします。**
6. **「Restart」をクリックします。**
   新しく生成された鍵を使用するには、SSH サーバーを再起動する必要があります。

関連情報

- 507 ページの「SSH の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 508 ページの「SSH の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 156 ページの「SSH サーバーのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SSH の無効化 (Oracle ILOM Web)

SSH 構成を変更する必要なく、スイッチ上の SSH サーバーをいつでも選択的に無効にできます。SSH が無効にされると、スイッチは、SP 上で実行されているすべてのアクティブな SSH CLI セッションを終了します。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SSH Server」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスの選択を解除します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 507 ページの「SSH の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 507 ページの「Generate SSH Keys (Oracle ILOM Web)」
- 156 ページの「SSH サーバーのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

IPMI サービスの制御 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、スイッチの IPMI 管理をサポートするサービスを実行します。スイッチの IPMI サービスは、IPMI バージョン 1.5 と 2.0 の両方をサポートします。IPMI の Oracle 実装は、次のような機能をサポートします。

- FRU コンポーネントのインベントリ識別および制御。
- システムモニタリングおよびイベント報告 (たとえば、IPMI PET を使用して)。(475 ページの「アラートでの PET 送信の有効化 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。)

- イベントのシステムのロギング (たとえば、Oracle ILOM イベントログを使用して)。
- システム電源管理 (たとえば、システムのリセット、電源切断、および電源投入)。

これらのトピックでは、スイッチの IPMI サービスを構成する方法について説明します。

- 509 ページの「IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 510 ページの「IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 510 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 511 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 506 ページの「SSH アクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 511 ページの「SNMP サービスの制御 (Oracle ILOM Web)」

▼ IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、スイッチの IPMI 管理をサポートするサービスを実行します。スイッチの IPMI サービスは IPMI バージョン 1.5 と 2.0 (デフォルト) の両方をサポートします。

IPMI の Oracle の実装は、IPMItool をサポートします。ネットワークで IPMItool を使用する場合は、使用する予定の IPMI 管理タスクに対する適切な役割と権限を持つユーザー (管理者やオペレータなど) を構成する必要があります。IPMItool および IPMI バージョン 1.5 には、いくつかの考慮事項が適用されます。510 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

注記 - IPMI サービスは、デフォルトではバージョン 2.0 に対して有効になっています。

---

1. **「System Information」->「Management Access」の順に選択し、「IPMI」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 510 ページの「IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

- 510 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 511 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 156 ページの「IPMI サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチ上で実行されている IPMI のバージョンを選択的に無効にできます。

1. **「System Information」->「Management Access」の順に選択し、「IPMI」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスをクリアします。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 509 ページの「IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 510 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 511 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 156 ページの「IPMI サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ IPMI バージョン 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM Web)

デフォルトでは、スイッチは IPMI バージョン 2.0 をサポートしますが、必要に応じて IPMI v 1.5 セッションを有効にできます。スイッチは、1.5 セッションと 2.0 セッションの両方を同時にサポートできます。

- IPMI 1.5 セッションが有効になっている場合、IPMItool ユーザーは `-I lan` オプションを使用できます。
- IPMI 1.5 セッションが無効になっている場合、IPMItool ユーザーは IPMI バージョン 2.0 `-I lanplus` オプションを使用する必要があります。
- IPMI 1.5 セッションは、FIPS サービスが無効になっている場合にのみ有効にできます。535 ページの「FIPS の無効化 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

注記 - IPMI v 1.5 は、IPMI v 2.0 と比べてセキュアでないため、デフォルトでは無効になっています。

---

1. **「System Information」->「Management Access」の順に選択し、「IPMI」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**

3. **「v1.5 Sessions」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**

4. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 509 ページの「IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 510 ページの「IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 511 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 156 ページの「IPMI サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ IPMI バージョン 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM Web)

いつでも、IPMI バージョン 1.5 セッションを選択的に無効にできます。IPMI バージョン 1.5 セッションを無効にすると、既存のセッションがすべて終了し、将来のバージョン 1.5 セッション要求はブロックされます。IPMI 1.5 セッションが無効になっている場合、IPMItool ユーザーは IPMI バージョン 2.0 `-I lanplus` オプションを使用する必要があります。

1. **「System Information」->「Management Access」の順に選択し、「IPMI」タブをクリックします。**

2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**

3. **「v1.5 Sessions」の「Enabled」チェックボックスの選択を解除します。**
   「IPMI」チェックボックスは有効になっているが、「v1.5 Sessions」チェックボックスが空である場合、IPMI サービスは v.1.5 のサポートなしで動作しています。

4. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 509 ページの「IPMI サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 510 ページの「IPMI サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 510 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 156 ページの「IPMI サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

SNMP サービスの制御 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、Oracle ILOM へのアクセスを許可するために SNMP サーバーと対話する SNMP クライアントがあります。

- 512 ページの「SNMP クライアントの概要 (Oracle ILOM Web)」
- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 516 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 517 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 519 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 500 ページの「HTTPS サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 505 ページの「HTTP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 506 ページの「SSH アクセスの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 508 ページの「IPMI サービスの制御 (Oracle ILOM Web)」

SNMP クライアントの概要 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、SNMP v1、v2c、および v3 をサポートしている SNMP クライアントがあります。SNMP v3 は、v1 または v2c のどちらよりもセキュアであるため、デフォルトで有効になっています。

デフォルトである SNMP v3 の場合は、次のようになります。

- SNMP ユーザーがユーザー認証および承認を制御します。コミュニティーは制御しません。
- ユーザーを構成するには、Oracle の役割モデルにおけるユーザー管理 (u) 役割が必要です。
- SNMP セット要求の場合、v3 ユーザーには読み取り/書き込み権限が必要です。
- v3 トラップを受信してデコードするには、Oracle ILOM で SNMP ユーザー名が構成されている必要があります。そうでない場合、スイッチは v3 トラップを受信しますが、デコードはできません。

v3 と比べてはるかにセキュアでないため、デフォルトでは無効になっている SNMP v1 および v2c の場合は、次のようになります。

- SNMP コミュニティーがユーザー認証および承認を制御します。ユーザーは制御しません。

- SNMP コミュニティーを構成するには、Oracle の役割モデルにおけるユーザー管理 (u) 役割が必要です。
- SNMP セット要求の場合、コミュニティーには読み取り/書き込み権限が必要です。

関連情報

- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 516 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 517 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 519 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、標準の SNMP ネットワーク管理機能ではなく、Oracle ILOM 機能のみをサポートする事前インストール済みの SNMP エージェントが含まれます。デフォルトで、SNMP サービスが有効になっています。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SNMP」タブをクリックします。**
2. **「Settings」で、「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
3. **(オプション) 追加パラメータを設定します。**
   514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。
4. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 516 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 517 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」

- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 519 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」
- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SNMP」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスをクリックします。**
3. **「Port」フィールドにポート番号を入力します。**
4. **SNMP v3 の場合は、「Engine ID」フィールドに v3 SNMP エンジン ID 番号を入力します。**
5. **SNMP セットを有効にするには、「Set Requests」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**
6. **有効にするプロトコルの各チェックボックスを選択します。**
7. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 516 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 517 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 519 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」
- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」

- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)

SNMP ユーザーアカウントは SNMP v3 でのみサポートされています。ユーザーアカウントは 1 - 32 文字の長さにできます。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SNMP」タブをクリックします。**
2. **「Users」リンクをクリックします。**
   ページが「SNMP Users」表にスクロールされます。
3. **「Add」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが開きます。
4. **「User Name」フィールドにユーザー名を入力します。**
5. **「Authentication Protocol」ドロップダウンメニューから認証プロトコルを選択します。**
6. **「Authentication Password」および「Confirm Password」フィールドに認証パスワードを入力します。**

   注記 - 認証パスワードは 8 - 12 文字の長さであり、大文字と小文字が区別されます。

7. **「Permission」ドロップダウンメニューからユーザー権限を選択します。**
8. **(オプション)「Privacy Protocol」ドロップダウンメニューからプライバシプロトコルを選択します。**
9. **必要に応じて、「Privacy Password」および「Confirm Password」フィールドにプライバシパスワードを入力します。**

   注記 - プライバシパスワードは正確に 8 文字の長さであり、大文字と小文字が区別されます。

10. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」

- 514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 516 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 517 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 519 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」
- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)

構成された SNMP v3 ユーザーアカウントを変更するには、このタスクを使用します。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SNMP」タブをクリックします。**
2. **「Users」リンクをクリックします。**
   ページが「SNMP Users」表にスクロールされます。
3. **変更するユーザーを選択し、「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが開きます。
4. **「Authentication Protocol」ドロップダウンメニューから認証プロトコルを選択します。**
5. **「Authentication Password」および「Confirm Password」フィールドに認証パスワードを入力します。**
6. **「Permission」ドロップダウンメニューからユーザー権限を選択します。**
7. **(オプション)「Privacy Protocol」ドロップダウンメニューからプライバシプロトコルを選択します。**
8. **必要に応じて、「Privacy Password」および「Confirm Password」フィールドにプライバシパスワードを入力します。**
9. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 517 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 519 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」
- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)

その他の SNMP プロパティーを変更する必要なく、SNMP v3 ユーザーアカウントを選択的に削除できます。SNMP v3 のユーザーアカウントが削除されると、そのユーザーはスイッチにアクセスできなくなります。

注記 - Oracle ILOM から SNMP v3 ユーザーアカウントを削除すると、スイッチは、そのユーザーアカウントに送信されるすべてのトラップをデコードできなくなります。

---

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SNMP」タブをクリックします。**

2. **「Users」リンクをクリックします。**
   ページが「SNMP Users」表にスクロールされます。

3. **削除するユーザーを選択し、「Delete」をクリックします。**
   確認を求めるダイアログが表示されます。

4. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」

- 516 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 519 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」
- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)

SNMP コミュニティーは、SNMP v1 および v2c でのみサポートされています。各コミュニティーアカウントは、1 - 32 文字の長さにできます。スイッチには 2 つのデフォルトコミュニティー `public` と `private` が構成されていますが、カスタムコミュニティーを構成できます。カスタムコミュニティー名は次のとおりです。

- 1 - 35 文字の長さである必要があります
- 英字で始まる必要があります
- 空白を含めることはできません

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SNMP」タブをクリックします。**
2. **「Communities」リンクをクリックします。**
   ページが「SNMP Communities」表にスクロールされます。
3. **「SNMP Communities」表で、「Add」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが開きます。
4. **「Community Name」フィールドにコミュニティー名を入力します。**
5. **「Permission」ドロップダウンメニューから権限を選択します。**
   - **スイッチ上の情報の読み取りはできるが、変更ができないようにするには、「Read-Only」を選択します。**
   - **スイッチ上の情報の読み取りと変更ができるようにするには、「Read-Write」を選択します。**
6. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 516 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 517 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 519 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」
- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)

既存の SNMP v1 または v2c コミュニティーを変更するには、このタスクを使用します。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SNMP」タブをクリックします。**
2. **「Communities」リンクをクリックします。**
   ページが「SNMP Communities」表にスクロールされます。
3. **変更するコミュニティーを選択し、「Edit」をクリックします。**
   確認を求めるポップアップウィンドウが表示されます。
4. **「Permission」ドロップダウンメニューから権限を選択します。**
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 516 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 517 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」

- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」
- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)

その他の SNMP プロパティーを変更する必要なく、SNMP v1 または v2c コミュニティーを選択的に削除できます。SNMP コミュニティーが削除されると、そのコミュニティーのメンバーがスイッチにアクセスできなくなります。その他の SNMP 通信 (トラップや通知など) は正常に動作します。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SNMP」タブをクリックします。**
2. **「Communities」リンクをクリックします。**
   ページが「SNMP Communities」表にスクロールされます。
3. **削除するコミュニティーをクリックし、「Delete」をクリックします。**
   確認を求めるダイアログが表示されます。
4. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 516 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 519 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」
- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)

SNMP サービスが無効になっている場合、スイッチはネットワーク内の SNMP サーバーから SNMP 通信 (トラップなど) を受信しません。構成されたすべての SNMP ユーザーがスイッチにアクセスできません。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SNMP」タブをクリックします。**
2. **「Settings」で、「State」の「Enabled」チェックボックスをクリアします。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 514 ページの「SNMP サービスの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 515 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 516 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 517 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 518 ページの「SNMP サービスコミュニティーの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 519 ページの「SNMP サービスコミュニティーの変更 (Oracle ILOM Web)」
- 520 ページの「SNMP サービスコミュニティーの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 521 ページの「SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)」
- 154 ページの「SNMP サービスステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 155 ページの「SNMP サービスコミュニティーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ SNMP サービス MIB のダウンロード (Oracle ILOM Web)

SNMP MIB は、スイッチに個々のファイルとして格納されていますが、リモートデバイス (一般に SNMP ホスト) にそれらをダウンロードできます。このタスクは、次の MIB が含まれる圧縮ファイル `ilom-mibs.zip` を作成します。

- `ENTITY-MIB.mib`
- `SUN-HW-CTRL-MIB.mib`
- `SUN-HW-TRAP-MIB.mib`
- `SUN-ILOM-CONTROL-MIB.mib`
- `SUN-ILOM-SYSTEM-MIB.mib`
- `SUN-PLATFORM-MIB.mib`

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「SNMP」タブをクリックします。**
2. **「MIBs」リンクをクリックします。**
   ページが「MIBs」にスクロールされます。
3. **「Download」をクリックします。**
   Web ブラウザがどのように構成されているかに応じて、ファイルを開く場合と保存する場合があります。
4. **ファイルをダウンロードしている場合は、ダウンロード場所を指定し、ファイルを保存します。**
5. **ダウンロードされたファイルを見つけ、それを解凍します。**

関連情報

- 193 ページの「SNMP MIB OID の理解」
- 120 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースの概要」
- 123 ページの「Oracle ILOM ターゲットに関するヘルプの取得 (Oracle ILOM Web)」
- 512 ページの「SNMP クライアントの概要 (Oracle ILOM Web)」
- 513 ページの「SNMP サービスの有効化 (Oracle ILOM Web)」

ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、ハードウェアの問題が発生した場合にスイッチに対する容易で、かつ場合によっては予測的なサポートを可能にするクライアントが含まれています。これらのトピックでは、スイッチのサービスやサポートに関連したプロパティーを管理する方法について説明します。

- 523 ページの「Oracle ASR の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 524 ページの「Oracle ASR プロキシのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 424 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 438 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 471 ページの「通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 488 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web)」

- 494 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 525 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 531 ページの「その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ASR の構成 (Oracle ILOM Web)

Oracle Auto Service Request (ASR) は、課題を報告し、さらに万が一スイッチで問題が発生した場合にはサービス要求を開く処理を迅速かつ容易に行えるようにします。Oracle ASR の詳細については、25 ページの「Oracle Auto Service Request ソフトウェア」を参照してください。

スイッチで問題が発生した場合、ASR クライアントは、Oracle サービス組織内の直接の URL か、または間接的に Oracle サービスに接続する ASR リレーのいずれかの ASR 情報をエンドポイントに送信します。デフォルトで Oracle ASR は無効になっています。

1. **My Oracle Support で有効なユーザー名とパスワードを設定します。**
2. **「ILOM Administration」->「Notifications」の順に選択し、「ASR Client」タブをクリックします。**
3. **「State」チェックボックスの「Enabled」をクリックします。**
4. **「Endpoint」フィールドに、ASR メッセージを受信する宛先の HTTPS または HTTP URL を入力します。**
   たとえば、Oracle Support 組織内の特定の URL にすることもできます。デフォルトの URL を使用するか、または ASR リレーのエンドポイントを指すことができます。
5. **「User Name」フィールドに、My Oracle Support の有効なユーザー名を入力します。**
6. **「Password」フィールドに、My Oracle Support のユーザー名のパスワードを入力します。**
7. **(オプション) 必要に応じて、「Change」をクリックして My Oracle Support のユーザー名のパスワードを変更します。**
8. **ASR のプロキシを構成するかどうかを決定します。**
   - **「はい」の場合は、524 ページの「Oracle ASR プロキシのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」に進みます。**

- 「いいえ」の場合は、次の手順に進みます。

9. 「Save」をクリックします。

関連情報

- 524 ページの「Oracle ASR プロキシのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ASR プロキシのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)

ASR メッセージを Oracle に送信するようにプロキシアカウントおよびプロキシサーバーを構成できます。このタスクは、一般的な ASR プロパティーが構成されていることを前提としています。構成されていない場合は、ここでそれらを構成します。523 ページの「Oracle ASR の構成 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

1. 「ILOM Administration」->「Notifications」の順に選択し、「ASR Client」タブをクリックします。
2. 「Proxy Address」フィールドに、ASR 情報を送信するプロキシサーバーの IP アドレスを入力したあと、オプションとして、コロン (:) で区切られたポートを入力します。

   たとえば、ポートを含むプロキシアドレスは `192.168.15.102:114` のようになります。
3. 「Proxy User」フィールドに、ASR 情報を送信するユーザーアカウントを入力します。
4. 「Proxy Password」フィールドに、プロキシユーザー名のパスワードを入力します。
5. (オプション) 必要に応じて、「Change」をクリックしてプロキシパスワードを変更します。
6. 「Save」をクリックします。

関連情報

- 523 ページの「Oracle ASR の構成 (Oracle ILOM Web)」
- 157 ページの「ASR サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」

ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、スイッチ上の ILOM ユーザーアカウントとセッションに関する情報を管理する方法について説明します。

- 525 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 527 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM Web)」
- 528 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントへの SSH 鍵の追加 (Oracle ILOM Web)」
- 529 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 530 ページの「ローカルユーザーのスイッチパスワードポリシーの設定 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 424 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 438 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 471 ページの「通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 488 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 494 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 522 ページの「ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 531 ページの「その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)

SP への Oracle ILOM アクセスを有効にするには、スイッチ上で Oracle ILOM ローカルユーザーアカウントが構成されている必要があります。Oracle ILOM ローカルユーザーは 10 までに制限されており、ローカルユーザーアカウントは「Users」表で追跡されます。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「User Accounts」タブをクリックします。**

2. **「Users」リンクをクリックします。**
   ページが「Users」表にスクロールされます。

3. **「Add」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが開きます。

4. **ユーザーがパスワードの入力を求められることなく ILOM リモートコンソールにアクセスできるようにする場合は、「Single Sign on」チェックボックスの「Enabled」をクリックします。**

5. **「User Name」フィールドに新しいユーザーアカウントの名前を入力します。**

6. **「New Password」および「Confirm New Password」フィールドにパスワードを入力します。**

7. **「Role」ドロップダウンメニューを使用してデフォルトの役割を選択するか、またはカスタムの役割を作成します。**

8. **「Role」ドロップダウンメニューを使用してデフォルトの役割を選択するか、またはカスタムの役割を作成します。**

   - **完全な一般的な管理者権限の場合は「Administrator」を、標準のオペレータ権限の場合は「Operator」を選択します。**
   - **権限チェックボックスをアクティブ化してカスタムの権限セットを作成するには、「Advanced Roles」を選択します。**

9. **「Advanced Roles」の場合は、「Roles」ドロップダウンメニューから新しいユーザーの権限を選択します。**
   チェックボックスがグレー表示されていない場合は、選択された役割にその権限を追加できます。詳細は、27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。

10. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 527 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM Web)」
- 528 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントへの SSH 鍵の追加 (Oracle ILOM Web)」
- 529 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 530 ページの「ローカルユーザーのスイッチパスワードポリシーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」

- 159 ページの「ローカルユーザーのパスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM Web)

Oracle ILOM ユーザーが最初に作成されるときに、それらのユーザーの特権を管理するパスワードと役割を割り当てます。場合によって、ユーザーは、役割またはパスワードを変更する必要が生じます。たとえば、ユーザーが社内で仕事が変わった場合、役割も変更する必要がある場合があります。ユーザーアカウントを削除して再作成する必要なく、いつでも Oracle ILOM ユーザーのパスワードおよび役割を変更できます。

注記 - `root` ユーザーのパスワードを変更するには、『スイッチ管理』を参照して、`root` ユーザーのパスワードを変更します。

---

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「User Accounts」タブをクリックします。**
2. **「Users」リンクをクリックします。**
   ページが「Users」表にスクロールされます。
3. **パスワードおよび役割を変更するユーザーを選択し、「Edit」をクリックします。**
   ポップアップウィンドウが開きます。
4. **ユーザーの新しいパスワードを入力するか、または「Roles」ドロップダウンメニューからユーザーの新しい能力を選択します。**
   チェックボックスがグレー表示されていない場合は、選択された役割にその能力を追加できます。詳細は、27 ページの「ユーザーの役割と権限」を参照してください。
5. **「Save」をクリックします。**
6. **(オプション) Oracle ILOM ユーザーアカウントに SSH 鍵を追加します。**
   528 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントへの SSH 鍵の追加 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

関連情報

- 525 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 528 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントへの SSH 鍵の追加 (Oracle ILOM Web)」

- 529 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 530 ページの「ローカルユーザーのスイッチパスワードポリシーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 159 ページの「ローカルユーザーのパスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM ユーザーアカウントへの SSH 鍵の追加 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、Oracle ILOM ユーザーアカウントの SSH 鍵ベースの認証をサポートしています。SSH 鍵により、Oracle ILOM ユーザーに対するパスワード認証は自動になります。公開鍵が Oracle ILOM にアップロードされていると、スイッチは個々の Oracle ILOM ユーザーアカウントに対して、カスタム生成された DSA または RSA 鍵ペアをサポートします。自分のアカウントの SSH 鍵を構成している場合は、Oracle の役割モデルにおけるオペレータの役割 (o) しか必要ありませんが、ほかのユーザーの SSH 鍵を構成するには、管理者の役割 (a) が必要です。

Oracle ILOM ユーザーアカウントに SSH 鍵を追加するには、このタスクを使用します。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「User Accounts」タブをクリックします。**
2. **「SSH Keys」リンクをクリックします。**
   ページが「SSH Keys」表にスクロールされます。
3. **「Add」をクリックします。**
4. **「User」ドロップダウンメニューから、SSH 鍵を追加するユーザーを選択します。**
5. **「Key Upload」セクションから、目的の転送方法を選択します。**
6. **追加情報を指定します。**
7. **追加情報を指定します。**
   - **「Browser」の場合は、「Browse」をクリックし、ファイルを選択します。**
   - **「TFTP」の場合は、ホスト名とファイルパスを指定します。**

- **「FTP」、「SFTP」、「SCP」、「HTTP」、または「HTTPS」の場合は、ホスト名、ファイルパス、ユーザー名、およびパスワードを指定します。**
- **「Paste」の場合は、鍵のテキストを「Data」フィールドに貼り付けます。**

8. **「Load」をクリックします。**

関連情報

- 525 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 527 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM Web)」
- 529 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」
- 530 ページの「ローカルユーザーのスイッチパスワードポリシーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 159 ページの「ローカルユーザーのパスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)

いつでも、構成されている Oracle ILOM ユーザーアカウントを削除できます。ユーザーアカウントを削除すると、そのユーザーは Oracle ILOM にアクセスできなくなります。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「User Accounts」タブをクリックします。**
2. **「Users」リンクをクリックします。**
   ページが「Users」表にスクロールされます。
3. **削除するユーザーを選択し、「Delete」をクリックします。**
   確認を求めるダイアログが表示されます。
4. **「OK」をクリックします。**

関連情報

- 525 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」

- 527 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM Web)」
- 528 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントへの SSH 鍵の追加 (Oracle ILOM Web)」
- 530 ページの「ローカルユーザーのスイッチパスワードポリシーの設定 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 159 ページの「ローカルユーザーのパスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ ローカルユーザーのスイッチパスワードポリシーの設定 (Oracle ILOM Web)

スイッチにログインするために使用されるパスワードは、パスワードの強度に対するさまざまな要件によって構成できます。たとえば、スイッチパスワードポリシーでは大文字、数字、特殊文字などが必要になる場合があります。スイッチは、必要なパスワードポリシーに従っていないパスワードを作成できないようにパスワードポリシーを適用します。

1. **「ILOM Administration」->「User Management」の順に選択し、「Password Policy」タブをクリックします。**
2. **パスワードに含める必要のある文字の最小数を指定します。**
3. **必要に応じて、パスワード内に少なくとも 1 つの大文字、小文字、数字、記号、および特殊文字を必要とするための各チェックボックスを選択します。**
4. **最後の 5 つのパスワードの再利用を禁止する場合は、「History」チェックボックスを選択します。**
5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 525 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの追加 (Oracle ILOM Web)」
- 527 ページの「Oracle ILOM ユーザーのパスワードまたは役割の変更 (Oracle ILOM Web)」
- 528 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントへの SSH 鍵の追加 (Oracle ILOM Web)」
- 529 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの削除 (Oracle ILOM Web)」

- 158 ページの「Oracle ILOM セッションの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 158 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 159 ページの「ローカルユーザーのパスワードポリシーの表示 (Oracle ILOM Web)」

その他のスイッチコンポーネントおよびサービスの管理 (Oracle ILOM Web)

これらのトピックでは、ネットワーク内で必要になる可能性のある追加のサービスに関する情報を管理する方法について説明します。

- 531 ページの「キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージの制御 (Oracle ILOM Web)」
- 534 ページの「FIPS の制御 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 424 ページの「スイッチのコンポーネントと識別情報の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 438 ページの「認証とアクセスの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 471 ページの「通知とイベントロギングの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 488 ページの「管理ネットワークの管理 (Oracle ILOM Web)」
- 494 ページの「スイッチへの管理接続の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 499 ページの「スイッチとのインタフェース方法の管理 (Oracle ILOM Web)」
- 522 ページの「ASR クライアントのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 525 ページの「ユーザーアカウントの管理 (Oracle ILOM Web)」

キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージの制御 (Oracle ILOM Web)

スイッチは、リダイレクトされた管理セッションを経由したスイッチとの対話を可能にするキーボード、ビデオ、マウス、ストレージ (KVMS)、およびシリアルリダイレクションサービスをサポートします。これらのトピックでは、スイッチの KVMS サービスを構成する方法について説明します。

- 532 ページの「KVMS クライアントプロパティーの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 532 ページの「KVMS ホストロックのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」

- 533 ページの「KVMS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 534 ページの「FIPS の制御 (Oracle ILOM Web)」

▼ KVMS クライアントプロパティーの有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチの KVMS プロパティーは、Oracle ILOM からのリモートコンソールセッションの起動を制御します。

1. **「Remote Control」->「KVMS」の順に選択します。**
2. **「State」チェックボックスの「Enabled」をクリックします。**
3. **「Max Client Session Count」ドロップダウンメニューから、許可されるセッションの最大数を選択します。**
4. **「Mouse Mode」ドロップダウンメニューから、モードを選択します。**
5. **(オプション) KVMS OS ロックシーケンスを設定します。**
   532 ページの「KVMS ホストロックのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」を参照してください。

関連情報

- 532 ページの「KVMS クライアントプロパティーの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 532 ページの「KVMS ホストロックのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 533 ページの「KVMS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 161 ページの「キーボード、ビデオ、マウス、ストレージ、シリアルリダイレクションサービスの情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ KVMS ホストロックのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)

スイッチの管理を完了したときに KVMS ホスト OS がどのようにロックされるかの条件を決定するには、このタスクを使用します。このタスクでは、KVMS サービスが有効になっていることを前提にしています。

1. **「Remote Control」->「KVMS」の順に選択します。**
2. **「Lock Mode」ドロップダウンメニューから、正しいモードを選択します。**

- ロックモードを設定しない場合は「Disabled」。
- Microsoft Windows ホストをロックするために標準の Ctrl + Alt+ Del キーシーケンスを使用する場合は「Windows」。
- KVMS ホスト上の OS をロックするためにカスタムシーケンスを使用する場合は「Custom」。

3. **次の手順を決定します。**

   - **「Windows」または「Disabled」の場合は、「Save」をクリックします。**
   - **「Custom」の場合は、次の手順に進みます。**

4. **ホスト OS のロックを選択します。**

   - **OS をロックするために複数のキーを使用する場合は、「Custom Host Lock」ドロップダウンメニューから最大 4 つの修飾子を選択します。**
   - **1 つのキーでロックする場合は、そのキーを選択します。**

5. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 532 ページの「KVMS クライアントプロパティーの有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 532 ページの「KVMS ホストロックのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 533 ページの「KVMS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 161 ページの「キーボード、ビデオ、マウス、ストレージ、シリアルリダイレクションサービスの情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

▼ KVMS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)

KVMS が無効になると、Oracle ILOM からリモートコンソールセッションを起動できなくなります。

1. **「Remote Control」->「KVMS」の順に選択します。**
2. **「State」チェックボックスのチェックマークを削除します。**
3. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 532 ページの「KVMS クライアントプロパティーの有効化 (Oracle ILOM Web)」

- 532 ページの「KVMS ホストロックのプロパティーの構成 (Oracle ILOM Web)」
- 533 ページの「KVMS サービスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 161 ページの「キーボード、ビデオ、マウス、ストレージ、シリアルリダイレクションサービスの情報の表示 (Oracle ILOM Web)」

FIPS の制御 (Oracle ILOM Web)

FIPS は、送受信されている特定のデータに高レベルの暗号化とセキュリティーを提供します。

- 534 ページの「FIPS の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 535 ページの「FIPS の無効化 (Oracle ILOM Web)」

関連情報

- 531 ページの「キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージの制御 (Oracle ILOM Web)」

▼ FIPS の有効化 (Oracle ILOM Web)

スイッチには、米国国立標準技術研究所 (National Institute of Standards and Technology、NIST) によって発行された FIPS 140-2 セキュリティー標準に準拠した暗号化アルゴリズムを Oracle ILOM が使用できるようにする FIPS サービスが含まれています。デフォルトでは、FIPS は無効になっています。FIPS を有効にすると、ほかの一部のサービス (IPMI 1.5 セッションなど) が使用できなくなる可能性があります。

- FIPS が有効になっている場合は、LDAP を有効にできません。
- FIPS が有効になっている場合は、RADIUS を有効にできません。
- FIPS が有効になっている場合は、IPMI 1.5 セッションを有効にできません。

FIPS を有効にするには SP をリブートする必要があり、これにより構成もクリアされます。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「FIPS」タブをクリックします。**
2. **「State」の「Enabled」チェックボックスを選択します。**

注記 - 次回ブート時に、すべての構成データが削除されます。保留中の構成リセットがすでに存在する場合は、状態を変更できません。

---

3. **「Save」をクリックします。**

4. **「Maintenance」をクリックします。**

5. **「Reset SP」タブをクリックします。**

6. **「Reset SP」をクリックします。**
   確認を求めるポップアップウィンドウが表示されます。

7. **「OK」をクリックします。**
   SP がリセットされます。アクティブなセッションがすべて終了します。

関連情報

- 535 ページの「FIPS の無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「FIPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 511 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM Web)」

▼ FIPS の無効化 (Oracle ILOM Web)

データ転送が保留中でない場合は、FIPS サービスを無効にできます。FIPS が有効になっているとほかの一部のサービスがブロックされるため、FIPS を無効にすると、次のように、ほかの一部の機能を使用できるようになります。

- FIPS が無効になっている場合は、LDAP を有効にできます。
- FIPS が無効になっている場合は、RADIUS を有効にできます。
- FIPS が無効になっている場合は、IPMI 1.5 セッションを有効にできます。

FIPS を有効にするには SP をリブートする必要があり、これにより構成もクリアされます。

1. **「ILOM Administration」->「Management Access」の順に選択し、「FIPS」タブをクリックします。**

2. **「State」の「Enabled」チェックボックスをクリアします。**

注記 - 次回ブート時に、すべての構成データが削除されます。保留中の構成リセットがすでに存在する場合は、状態を変更できません。

---

3. **「Maintenance」をクリックします。**
4. **「Reset SP」タブをクリックします。**
5. **「Reset SP」をクリックします。**
   確認を求めるポップアップウィンドウが表示されます。
6. **「OK」をクリックします。**
   SP がリセットされます。アクティブなセッションがすべて終了します。
7. **「Save」をクリックします。**

関連情報

- 534 ページの「FIPS の有効化 (Oracle ILOM Web)」
- 160 ページの「FIPS サービスのステータスの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 453 ページの「Oracle ILOM を使用した LDAP ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 470 ページの「Oracle ILOM を使用した RADIUS ユーザーアクセスの無効化 (Oracle ILOM Web)」
- 511 ページの「IPMI バージョン 1.5 セッションの無効化 (Oracle ILOM Web)」

ファームウェアの更新

これらのトピックでは、スイッチのファームウェアを更新する方法について説明します。

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 538 ページの「ファームウェアバージョンと更新方法」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」
- 540 ページの「スイッチファームウェアのアップグレード (nm3tool)」
- 547 ページの「スイッチファームウェアのアップグレード (Oracle Fabric OS)」

関連情報

- 19 ページの「システム管理リソースの理解」
- 27 ページの「スイッチへのアクセス」
- 35 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM CLI)」
- 119 ページの「スイッチのモニタリング (Oracle ILOM Web)」
- 163 ページの「Oracle ILOM ターゲットの理解」
- 193 ページの「SNMP MIB OID の理解」
- 265 ページの「EMS モジュールの理解」
- 299 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM CLI)」
- 423 ページの「スイッチの制御 (Oracle ILOM Web)」

ファームウェアの概要

スイッチ内には、更新可能なファームウェアを使用する多くのコンポーネントがあります。My Oracle Support から入手可能なファームウェアパッケージには、これらの各コンポーネントのファームウェアが含まれています。ファームウェアの更新を実行すると、操作の機能としてこれらの各コンポーネントが更新されます。各コンポーネントを個別に更新する必要はありません。

SP ファームウェアには、次のものが含まれています。

- コントローラの初期起動のための基本的な I/O システム。
- SP をスイッチのサービスプロセッサおよびホストとして機能できるようにする Linux OS。
- 多数のハードウェアおよび IB コマンド、サブネットマネージャー、およびスイッチと IB ファブリックの管理のためのその他のアプリケーションを含むファイルシステム。

スイッチチップには、リンクのルーティング、データ速度の設定、およびシグナルパラメータの構成を行う方法を指示するファームウェアがあります。

スイッチの操作に対する改善を行なったり機能を追加したりした場合、これらの拡張機能はファームウェアアップグレードを介して提供されます。

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」
- 540 ページの「スイッチファームウェアのアップグレード (nm3tool)」
- 547 ページの「スイッチファームウェアのアップグレード (Oracle Fabric OS)」

ファームウェアバージョンと更新方法

シャーシファームウェアは、スイッチ内のさまざまなコンポーネント上に存在します。シャーシファームウェアの開始バージョンに応じて、異なるツールを使用してアップグレードを実行します。

バージョン	方法	リンク
1.0.0.0	`nm3tool` ユーティリティー	540 ページの「スイッチファームウェアのアップグレード (nm3tool)」
1.0.1.0 以降	Oracle Fabric OS 内の `system upgrade`	547 ページの「スイッチファームウェアのアップグレード (Oracle Fabric OS)」

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」

▼ スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード

注記 - ファームウェアの最新の取得方法については、スイッチのプロダクトノートを参照してください。そこに情報が記載されていない場合は、これらの手順を使用してください。

1. **ファームウェアの更新を受信する SP と同じ Ethernet ネットワーク上にあるホストで Web ブラウザを開きます。**
2. **この URL に移動して、サインインします。**
   `http://support.oracle.com`

   注記 - アカウントを持っていない場合は、登録する必要があります。
3. **「パッチと更新版」タブをクリックします。**
4. **「パッチ検索」ウィンドウで、「検索」タブをクリックします。**
5. **「製品またはファミリ (拡張)」リンクをクリックします。**
6. **製品のドロップダウンメニューで、「Oracle EDR IB Switch」を選択します。**
7. **「Release Is」ドロップダウンメニューで、「Oracle EDR IB Switch** *w.x.y.z***」を選択します。**
   ここで、*w.x.y.z* は、取得されるファームウェアパッケージのバージョン番号です。たとえば、1.0.1.0 です。
8. **ドロップダウンメニューの外部をクリックし、「検索」をクリックします。**
   「パッチ検索」ウィンドウが展開し、検索結果が表示されます。
9. **「パッチ名」列でそれぞれのパッチ番号リンクをクリックして、「ダウンロード」をクリックします。**
10. **(オプション)「README」をクリックして README ファイルを表示します。**
    README ファイルには、ファームウェアリリースに関する最新情報が含まれています。
11. ***filename*`.zip` リンクをクリックしてダウンロードを開始します。**
    たとえば、`p15678345_101_Generic.zip` です。
12. **ファイルを保存する場所を指定して、そのディレクトリで** ***filename*`.zip` **ファイルを圧縮解除します。**
    ファームウェアイメージファイルを見つけます。ファームウェアは、前の手順でクリックしたリンクと同じ名前を持つ `.tar` ファイルです。

13. **.gz ファイルを解凍します。**
たとえば、次のように入力します。

```
$ gtar -zxvf filename_w.x.y.z.tar.gz
```

抽出されたファイルが表示されます。

14. **Oracle ILOM によってアクセス可能なホスト上のディレクトリにスイッチのファームウェアパッケージ (*filename*.pkg) を移動します。**

15. **アップグレードを実行します。**
540 ページの「スイッチファームウェアのアップグレード (nm3tool)」を参照してください。

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 543 ページの「ファームウェアのアップグレード (nm3tool コマンド)」
- 546 ページの「ファームウェアアップグレードの確認 (nm3tool)」
- 130 ページの「Oracle ILOM ファームウェアバージョンの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 130 ページの「スイッチの BIOS バージョンの表示 (Oracle ILOM Web)」
- 131 ページの「Ethernet スイッチファームウェアの表示 (Oracle ILOM Web)」

スイッチファームウェアのアップグレード (nm3tool)

スイッチでは、nm3Tool というユーティリティーを使用して簡素化されたアップグレードプロセスがサポートされます。このユーティリティーには、次を含む複数の用途があります。

- スイッチ、EMS スイッチ、Oracle ILOM のファームウェアと関連ソフトウェアのダウンロードおよびインストールと、その後の 1 つのコマンドによるすべての関連ソフトウェアのアップグレードの実行。
- 新しいファームウェアとソフトウェアを使用したスイッチのアップグレード。

nm3tool は、nm3tool コマンドを発行することによってコマンドモードで使用することも、ツールを起動してから該当するメニュー項目を選択することによってメニューモードで使用することもできます。

注記 - nm3tool は、バージョン 1.0.0.0 を実行しているスイッチのアップグレードにのみ使用されます。

これらのトピックでは、nm3tool を使用してスイッチファームウェアをアップグレードする方法について説明します。

- 543 ページの「ファームウェアのアップグレード (nm3tool コマンド)」
- 544 ページの「ファームウェアのアップグレード (nm3tool メニュー)」
- 546 ページの「ファームウェアアップグレードの確認 (nm3tool)」

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」

nm3tool コマンドの構文

nm3tool をコマンドモードで使用する場合は、次の構文を使用します。

nm3tool
apply | *help* | *hostname* | | *import_ilom_configipaddress* | *menu* | *show* | *timezone* | *upgrade* | *verify* | *version*

ここでは:

- *apply* は、保留中の nm3tool オプションをコミットします。
- *help* は、nm3tool のヘルプテキストを表示します。
- *hostname* は、システムホスト名を設定します。この機能は Oracle ILOM からも使用できます。
- *import_ilom_config* は Oracle ILOM 構成を別の場所からメモリーに戻します。
- *ipaddress* は、SCP のシステム IP アドレスを設定します。
- *menu* は、ツールをメニューモードに切り換えます。このモードでは、いくつかの nm3tool 機能の番号付きのメニューを使用できます。
- *show* は、構成されている nm3tool オプションを表示します。
- *timezone* は、システムのタイムゾーンを設定します。この機能は Oracle ILOM からも使用できます。
- *upgrade* は、スイッチをアップグレードモードに設定します。この機能は Oracle ILOM からも使用できます。
- *verify* は、スイッチおよびインストールされているすべてのファームウェアに対する短い整合性チェックを実行します。
- *version* は、nm3tool によって制御されるスイッチファームウェアのバージョン情報を表示します。

関連情報

- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」
- 543 ページの「ファームウェアのアップグレード (nm3tool コマンド)」

■ 542 ページの「構成可能スイッチプロパティーの表示 (nm3tool コマンド)」

▼ 構成可能スイッチプロパティーの表示 (nm3tool コマンド)

nm3tool を使用する場合、help を発行して、ツールで制御するすべてのプロパティーの一覧を表示できます。

注記 - スイッチで実行しているスイッチファームウェアのバージョンに応じて、これらのすべてのプロパティーが使用できるとは限りません。たとえば、一覧表示されたプロパティーは、ファームウェアバージョン 1.0.1.0 と 1.0.2.0 で異なることがあります。

● **次のように入力します。**

```
[root@switch1 ~]# nm3tool help

/usr/local/bin/nm3tool:
    apply                                Write config to OS config files
    ip proto     <dhcp|static>
    ip address   <x.x.x.x>
    ip netmask   <x.x.x.x>
    ip broadcast <remove|x.x.x.x>
    ip gateway   <enable|disable|x.x.x.x>

    dns source <ilom|local|none>
        ilom:  retrieve values from ilom xml
        local: use locally stored values
        none:  disable dns
    dns auto   <yes|no>
        yes: use settings from dhcp, override other settings
    dns search  <domain>    [<domain> ...]
         domain: Up to 6 domains
    dns servers <server_ip> [<server_ip> ...]
         server_ip: Max 3 servers
    dns timeout <seconds>
         seconds: Silently capped at 30
    dns retries <attempts>
         attempts: Silently capped at 5

    ssh root <yes|no>


Usage:
nm3tool <apply|help|hostname|import_ilom_config|ipaddress|menu|show|timezone|upgrade|
verify|version>
[root@ovn82-102 ~]#
```

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」
- 544 ページの「ファームウェアのアップグレード (nm3tool メニュー)」

- 546 ページの「ファームウェアアップグレードの確認 (nm3tool)」

▼ ファームウェアのアップグレード (nm3tool コマンド)

直接アップグレードを実行するには、nm3tool upgrade コマンドを発行し、コマンド行で必要な引数を指定します。

1. **ssh または Oracle ILOM コンソールを使用して、NM3 へのリモート root セッションを開始します。**
   たとえば、スイッチへの SSH セッションを確立するには、次のように入力します。
   ssh root@*host_IP_address*
   ログインすると、スイッチの bash プロンプトが表示されます。

2. **次のように入力します。**
   nm3tool upgrade --host=*host_name* **--user=***user_name* **--file=***path_to_NM3_leaf_SW_or_FW_bundle***.tar.gz**
   ここでは:
   - *host_name* は、ソフトウェアまたはファームウェアリポジトリが存在するホストの名前です。
   - *user_name* は、ホストへの SCP アクセスのためのユーザーの名前です。
   - *path_to_NM3_leaf_SW_or_FW_bundle* は、リポジトリ内のファイルへの完全パスです。

   スイッチが以前にアップグレードされている場合は、既存のアップグレードファイルの存在に関するメッセージが表示されます。

3. **どのアップグレードファイルを使用するかを選択するよう要求されたら、次を選択します。**
   - **新しいアップグレードファイルを使用するには y。**
   - **すでにスイッチ上にあるファイルである既存のアップグレードファイルを使用するには n。**

4. **アップグレードが完了するまで待ってから、Oracle ILOM をリブートします。**
   このリブートは、インストール後のタスクとクリーンアップのために必要です。

5. **アップグレードが完了するまで待ってから、SCP をリブートします。**
   このリブートは、インストール後のタスクとクリーンアップのために必要です。インストール後のタスクの一部として、Oracle ILOM ファームウェアがアップグレード

された場合は、EMS がアップグレードされたあとに SCP に追加のリブートが必要です。

インストール後のタスクがすべて完了したら、SCP が自動的にリブートしてインストールを完了します。

6. **アップグレードを確認します。**

546 ページの「ファームウェアアップグレードの確認 (nm3tool)」を参照してください。

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」
- 544 ページの「ファームウェアのアップグレード (nm3tool メニュー)」
- 546 ページの「ファームウェアアップグレードの確認 (nm3tool)」

▼ ファームウェアのアップグレード (nm3tool メニュー)

nm3tool メニューを使用して、スイッチファームウェアおよびその他のスイッチ要素をアップグレードできます。

1. **ssh または Oracle ILOM コンソールを使用して、NM3 へのリモート root セッションを開始します。**

たとえば、スイッチへの SSH セッションを確立するには、次のように入力します。

ssh root@*host_IP_address*

ログインすると、スイッチの bash プロンプトが表示されます。

2. **nm3tool をメニューモードで起動します。**

```
[root@switch1 ~]# nm3tool menu
```

ツールが起動すると、メニューといくつかの画面上の手順が表示されます。

注記 - nm3tool が起動すると、スイッチで迅速なヘルスチェックが実行されます。nm3tool が、問題が存在する可能性があると判定した場合は、続行する前に nm3tool verify コマンドを実行するように求められます。画面上の手順に従って、nm3tool が検証を完了したら、このタスクに戻ります。

---

3. **メニューから、「4」を選択してスイッチをアップグレードしてから、転送方法、IP アドレスまたはホスト名、ファームウェアイメージファイルへのパス、およびユーザー名とパスワードに関する画面上のプロンプトに入力します。**

スイッチが以前にアップグレードされている場合は、既存のアップグレードファイルの存在に関するメッセージが表示されます。

```
Main Menu (1.0.0.0)

1. Change IP address     (current config: 10.11.12.13 current active: 10.11.12.13)
2. Change hostname       (current config: switch1.us.company.com current active: switch1.
us.company.com)
3. Change timezone       (current config: US/Pacific current active: US/Pacific)
4. Perform chassis upgrade
(q to quit)
Select:4
Transfer method? (scp,http,ftp,tftp): scp
ip or hostname: 123.45.67.89
path/filename: firmware-0.1.6.0
username: root
password: ********
...

Upgrade complete.
[root@switch1 ~]#
```

4. **どのアップグレードファイルを使用するかを選択するよう要求されたら、次を選択します。**

   - **新しいアップグレードファイルを使用するには y。**
   - **すでにスイッチ上にあるファイルである既存のアップグレードファイルを使用するには n。**

5. **アップグレードが完了するまで待ってから、Oracle ILOM をリブートします。**

   このリブートは、インストール後のタスクとクリーンアップのために必要です。

6. **アップグレードが完了するまで待ってから、SCP をリブートします。**

   このリブートは、インストール後のタスクとクリーンアップのために必要です。インストール後のタスクの一部として、Oracle ILOM ファームウェアがアップグレードされた場合は、EMS がアップグレードされたあとに SCP に追加のリブートが必要です。

   インストール後のタスクがすべて完了したら、SCP が自動的にリブートしてインストールを完了します。

7. **アップグレードを確認します。**

   546 ページの「ファームウェアアップグレードの確認 (nm3tool)」を参照してください。

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」
- 543 ページの「ファームウェアのアップグレード (nm3tool コマンド)」

- 546 ページの「ファームウェアアップグレードの確認 (nm3tool)」

▼ ファームウェアアップグレードの確認 (nm3tool)

アップグレードが完了し、SCP がリブートを完了したら、インストールが正常であったことを確認し、インストールされたコンポーネントのバージョンをチェックできます。

1. **インストールされたコンポーネントを一覧表示します。**

   nm3tool verify

   例:

```
[root@switch1 ~]# nm3tool verify
Verifying nm3repo.manifest-LEAF-0.1.5.0-109
 cce8812e13aa586689b4e72a38133ff7 [OK]
Verifying BUILD
 9c989687e9415c7275432f6be7f071a7 [OK]
Verifying 50_ems.py
 62a5603326e1aa29d7c46f5bc4e040b7 [OK]
Verifying 20_ib.py
 7018d881bffb0021323862223c04acc4 [OK]
Verifying 30_ofos.py
 8059a85e47593fd90978bcbbae789d3c [OK]
Verifying 01_precheck.py
 86635c255a6f4de97eb475192c869eef [OK]
Verifying nm3init
 dafe7c55bf57da486491211687c39d4c [OK]
Verifying nm3tool                                                25063752f2700712
```

2. **現在使用されているソフトウェアおよびファームウェアを一覧表示します。**

   nm3tool version

   例:

```
[root@switch1 ~]# nm3tool version
BASE OS:                2016-06-10_13-46-06
SATURN:                 1.0
PSIF 0x00100000:        1.0
PSIF 0x00200000:        1.0
PSIF Bootloader:        1.0
OFOS:                   1.0.0-OFOS
OFM:                    5.0.0_OFM
JRE:                    1.8.0_77
EMS version readout is currently not supported
ILOM version readout is currently not supported
FPGA version readout is currently not supported
version completed with 0 error(s)
```

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」

- 543 ページの「ファームウェアのアップグレード (nm3tool コマンド)」
- 544 ページの「ファームウェアのアップグレード (nm3tool メニュー)」

スイッチファームウェアのアップグレード (Oracle Fabric OS)

Oracle Fabric OS を使用する場合は、system upgrade コマンドを使用してスイッチファームウェアを更新します。このコマンドはファームウェアパッケージを .xpf ファイルとして取得し、それをスイッチメモリーにロードしてから、関連するファームウェアを含む適切なシステム要素をアップグレードします。

注記 - system upgrade コマンドは、少なくともバージョン 1.0.1.0 を実行しているスイッチに使用されます。

これらのトピックでは、Oracle Fabric OS の system upgrade コマンドを使用してスイッチをアップグレードする方法について説明します。

- 547 ページの「system upgrade の構文」
- 548 ページの「ファームウェアのアップグレード (Oracle Fabric OS)」
- 549 ページの「ファームウェアアップグレードの確認 (Oracle Fabric OS)」

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」

system upgrade の構文

system upgrade コマンドの構文は次のとおりです。

system upgrade
file_transfer_protocol:*user_account*@*switch_ID*:path_to_filename.**xpf**

ここでは:

- *file_transfer_protocol* は、ファームウェアパッケージをスイッチにダウンロードする方法 (SCP、FTP、HTTP、HTTPS のいずれか) です。
- *user_account* は、ファームウェアパッケージを含むデバイス上に適切な権限を持つ承認されたユーザーの名前です。
- *device_ID* は、ファームウェアイメージのダウンロード元にできるデバイスの IP アドレスまたはホスト名です。

注記 - *file_transfer_protocol* と *user_account* の間にはコロン (**:**) を含める必要があります。

- *path_and-filename* は、ダウンロードしたファームウェアパッケージへのファイルパスおよび **.xpf** 接尾辞を含むファームウェアパッケージ名です。

関連情報

- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」
- 547 ページの「スイッチファームウェアのアップグレード (Oracle Fabric OS)」

▼ ファームウェアのアップグレード (Oracle Fabric OS)

1. **リーフスイッチにログインします。**

```
% ssh root@switch_host_IP_address
root@switch_host_IP_address's password: password
Last login: Fri Dec 14 16:20:27 2012
[root@switch_hostname ~]#
```

2. **Oracle Fabric OS にアクセスします。**

```
[root@SCP_hostname ~]# su admin
                  Welcome to OFOS Controller
    Copyright (c) 2012-2016 Oracle Corp.  All rights reserved.
       Enter "help" for information on available commands.
Enter the command "show system copyright" for licensing information
admin@SCP_hostname[OFOS]
```

3. **`system upgrade` コマンドを実行して、リーフスイッチ上のすべての関連するファームウェアを更新します。**

   例:

```
admin@SCP_hostname[OFOS]
system upgrade scp://admin@192.168.112.126/oracle/updates/firmware/releases/OFOS-1.0.1-46978.xpf
admin@SCP_hostname[OFOS]
```

4. **画面上のすべてのプロンプトに答えて、アップグレードを開始します。**

   ファームウェアのアップグレード中は、進捗メッセージが表示されます。

5. **アップグレードが完了するまで待ちます。**

6. **アップグレードが正常に実行されたことを確認します。**

   549 ページの「ファームウェアアップグレードの確認 (Oracle Fabric OS)」を参照してください。

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」
- 547 ページの「`system upgrade` の構文」
- 549 ページの「ファームウェアアップグレードの確認 (Oracle Fabric OS)」

▼ ファームウェアアップグレードの確認 (Oracle Fabric OS)

ファームウェアバージョン 1.0.1.0 を以降のバージョンに更新している場合は、このタスクを使用して、更新が正常に実行されたことを検証します。

1. **まだ Oracle Fabric OS を使用していない場合は、ここで Oracle Fabric OS にアクセスします。**

   a. **リーフスイッチにログインします。**

   ```
   % ssh root@switch_host_IP_address
   root@switch_host_IP_address's password: password
   Last login: Fri Dec 14 16:20:27 2012
   [root@switch_hostname ~]#
   ```

   b. **Oracle Fabric OS にアクセスします。**

   ```
   [root@switch_hostname ~]# su admin
                    Welcome to OFOS Controller
       Copyright (c) 2012-2016 Oracle Corp.  All rights reserved.
          Enter "help" for information on available commands.
   Enter the command "show system copyright" for licensing information
   admin@switch_hostname[OFOS]
   ```

   Oracle Fabric OS 構成ウィザードが起動します。

2. **ファームウェアバージョンを表示します。**

   ```
   [root@SCP_hostname ~]# show system
   BASE OS:                2016-06-20_14-04-26
   PSIF FW:                0.067
   PSIF Bootloader:        0.036
   SATURN:                 1.0  BUILD-20160624-916
   OFOS:                   1.0.1-OFOS
   OFM:                    5.0.1_OFM_PB_1.5
   ILOM:                   3.2.6.60 - 110640
   EMS:                    1.0.0
   version completed with 0 error(s)
   [root@SCP_hostname ~]#
   ```

3. **ファームウェアの更新を確認します。**

```
[admin@switch_hostname ~]# system verify
```

```
Verifying...        ########################################### [100%]
[admin@switch_hostname ~]#
```

4. **(オプション) 選択したインタフェース経由でスイッチ機能を構成します。**
   参照先:

   - *Oracle Fabric OS 1.0.2* 管理ガイド
   - *Oracle Fabric Manager 5.0.2* 管理ガイド

関連情報

- 537 ページの「ファームウェアの概要」
- 539 ページの「スイッチのファームウェアパッケージのダウンロード」
- 547 ページの「`system upgrade` の構文」
- 548 ページの「ファームウェアのアップグレード (Oracle Fabric OS)」

用語集

1

10GbE/40GbE モジュール 10GbE および 40GbE インタフェースをサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

16G ファイバチャネルモジュール ファイバチャネルインタフェースをサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

A

アダプタ ホストがファブリックまたはネットワーク経由で通信できる物理デバイス (HCA、NIC など)。

AD Active Directory の省略形。

ASR Automatic Service Request (自動保守要求)。特定のハードウェア障害が発生した場合に自動的に保守要求を開く Oracle ハードウェアの機能。ASR は My Oracle Support (MOS) と統合されており、サポート契約が必要です。「MOS」も参照してください。

C

CFM Cubic Feet per Minute (立方フィート/分)。通気の測定の標準。

CMB Cable Management Bracket (ケーブル管理留め具) の省略形。シャーシから伸びるケーブルを支え、1 つにまとめるコンポーネント。

D

DN Distinguished Name (識別名) の省略形。Active Directory の用語。

DSA 鍵 Digital Signature Algorithm (デジタル署名アルゴリズム) 鍵。SSH 認証のコンポーネント。「RSA」および「SSH」も参照してください。

E

EDR Extended Data Rate (拡張データレート)。InfiniBand (IB) テクノロジのスループット (通常は 100G ビット/秒)。「IB」も参照してください。

EMS モジュール Embedded Management Switch モジュール。SEFOS オペレーティングシステムを使用して Ethernet スイッチおよび管理コントローラを提供するスイッチシャーシ内のコンポーネント。「SEFOS」も参照してください。

Ethernet 管理スイッチ 複数のサービスプロセッサ (SP) またはホストの、各ネットワーク管理インタフェースを経由したシングルポイント管理を可能にする Ethernet スイッチ。「SP」も参照してください。

Ethernet ゲートウェイ あるプロトコルから別のプロトコル (たとえば、IB から Ethernet) へのデータ転送を可能にするデバイス。または、Ethernet ネットワークのルーティングノードとして機能するデバイス。

F

ファイバチャネル 主にストレージシステムに対して使用されるデータ転送テクノロジ。

ファブリックインターコネクト ゲートウェイサービスおよび追加機能を提供する IB スイッチの短縮名。

ファブリックカード スパイントポロジ構造を提供する IB スイッチシャーシのコンポーネント。「IB SFM モジュール」も参照してください。

ファンモジュール シャーシの内部に冷却空気を供給するホットスワップ対応の交換可能コンポーネント。

FM Fan Module (ファンモジュール) の省略形。「ファンモジュール」も参照してください。

G

GB GigaByte (G バイト) の省略形。1G バイトは約 1000M バイトです。

GbE Gigabit Ethernet の省略形。Ethernet テクノロジでのスループットの単位。

GUID Globally Unique Identifier (一意のグローバル識別子)。IB ノードを一意に識別する 32 桁の 16 進数。「IB」も参照してください。

H

ハウジング PrizmMT コネクタの色付きのプラスチック部分 (4x の場合はマゼンタ、12x の場合は黒)。これは収納としてではなく、解除装置として機能しますが、製造元の USConec によって「ハウジング」という用語が割り当てられました。

HCA Host Channel Adapter (ホストチャネルアダプタ)。サーバーやホストなどのコンピューティングインスタンスで使用される、IB ノードの終端ポイントである物理デバイス。

I

I/O モジュール Oracle Fabric Interconnect F2-12 および Oracle InfiniBand Switch IS2-254 のユーザー交換可能な物理インタフェースコンポーネント。

I^2C IPMI プロトコルを使用して I^2C ノードに問い合わせたり、影響を与えたりするハードウェアバス。「IPMI」および「Oracle ILOM」も参照してください。

IB InfiniBand。非常に高性能なコンピューティングに使用される、高帯域幅のメッセージングテクノロジ。

IB SFM モジュール スパイントポロジ構造を提供する Oracle InfiniBand Switch IS2-254 の I/O モジュール。IB SLM モジュールと組み合わせて使用されます。「ファブリックカード」および「IB SLM モジュール」も参照してください。

IB SLM モジュール リーフトポロジ構造を提供する Oracle InfiniBand Switch IS2-254 の I/O モジュール。IB SFM モジュールと組み合わせて使用されます。「ラインカード」および「IB SFM モジュール」も参照してください。

IB スイッチ IB ファブリック内のノード間の接続を提供する物理デバイス。

ILOM 「Oracle ILOM」を参照してください。

IPMI Intelligent Platform Management Interface (インテリジェントプラットフォーム管理インタフェース)。I^2C バス経由でシャーシコンポーネントをモニターおよび制御するためのプロトコル。

K

KVMS Keyboard (キーボード)、Video (ビデオ)、Mouse (マウス)、および Storage (ストレージ) の省略形。ホストのリモート操作を提供する手段。

L

長距離 IB モジュール QDR IB のスループットを最大 40 km の距離にわたってサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

ラインカード リーフトポロジ構造を提供する IB スイッチシャーシのコンポーネント。「IB SLM モジュール」も参照してください。

リーフスイッチ リーフトポロジを利用したスイッチ。Oracle ドキュメントで、Oracle InfiniBand スイッチ IS2-46 を示すために一般的に使用される用語。

LDAP Lightweight Directory Access Protocol。IP 経由のディレクトリサービスを提供するためのプロトコル。

LDAP over SSL Secure Sockets Layer トンネル経由で LDAP をセキュリティー保護するスキーム。「LDAP」も参照してください。

LR IB IOM QDR IB のスループットを最大 40 km の距離にわたってサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

LR トランシーバ 長距離のファイバチャネル通信に使用されるトランシーバ。

M

モジュール ユーザーが交換できるシャーシのコンポーネント。通常は外部からアクセスできます。「I/O モジュール」および「ファンモジュール」も参照してください。

MAC Machine Allocation Code。ネットワークノードを一意に識別する 12 桁の 16 進数。

MIB Management Information Base (管理情報ベース)。オブジェクト識別子 (OID) の集合を含むプレーンテキストファイル。SNMP プロトコルを使用してスイッチを管理する場合に使用されます。「OID」および「SNMP」も参照してください。

MOS My Oracle Support (http://support.oracle.com)

N

ネットワーク管理 Ethernet ネットワークを使用して SP または SCP を管理するための手段。「シリアル管理」、「SP」、および「SCP」も参照してください。

O

OID Object Identifier (オブジェクト識別子)。特定の目的に対応しており、かつ SNMP プロトコルによって解釈されるパラメータを持つ MIB のコンポーネント。「MIB」および「SNMP」も参照してください。

Oracle F2 10Gb お 10GbE または 40GbE の機能を提供する I/O モジュール。

および 40Gb Ethernet モジュール

Oracle F2 Dual Port 16G ファイバチャネルモジュール 16Gb ファイバチャネルの機能を提供する I/O モジュール。

Oracle F2 Long Range InfiniBand モジュール QDR InfiniBand の機能を長距離にわたって提供する I/O モジュール。

Oracle F2 Quad Port 10GBASE-T モジュール 4 つの 10GbE インタフェースの機能を提供する I/O モジュール。

Oracle Fabric Interconnect F2-12 仮想化スイッチ。「仮想化スイッチ」も参照してください。

Oracle Fabric Manager スイッチおよびファブリックを管理するための Web ベースの GUI。

Oracle Fabric OS Oracle Fabric オペレーティングシステム。ファブリックを管理する SCP 内のオペレーティングシステム。「SCP」も参照してください。

Oracle ILOM Oracle Integrated Lights Out Manager。IPMI プロトコルと I^2C バスを使用して、シャーシのハードウェアコンポーネントをモニターおよび制御するインタフェース。

Oracle InfiniBand Switch IS2-254 InfiniBand トポロジをサポートしているスパインスイッチ。「スパインスイッチ」も参照してください。

Oracle InfiniBand Switch IS2-46 InfiniBand トポロジをサポートしているリーフスイッチ。「リーフスイッチ」も参照してください。

Oracle Linux OS Oracle Linux オペレーティングシステム。UNIX ベースのオペレーティングシステムであり、多くの場合はサービスプロセッサに組み込まれます。「SP」も参照してください。

Oracle Solaris OS Oracle Solaris オペレーティングシステム。UNIX ベースのオペレーティングシステムであり、通常は高性能エンタープライズコンピューティングプラットフォームに使用されます。

P

PrizmMT ケーブル IB 4x および 12x テクノロジに使用される光ファイバコネクタおよびケーブル。PrizmMT フェルールを使用して構成されます。外観は標準 MT ケーブルおよびコネクタに似ていますが、互換性はありません。「標準 MT ケーブル」も参照してください。

Q

QSFP Quad Small Form-Factor Pluggable (クワッドスモールフォームファクタプラガブル)。高速データインターコネクトのためのフォームファクタ。

R

RADIUS Remote Authentication Dial-In User Service。ユーザーの認証、承認、およびアカウンティングを提供するプロトコル。

RJ-45 Ethernet インターコネクトのための 8 ピンモジュラーフォームファクタの標準。

RSA 鍵 Rivest Shamir Adleman アルゴリズム鍵。SSH 認証のコンポーネント。「DSA」および「SSH」も参照してください。

S

シリアル管理 シリアルデータストリームを使用して SP または SCP を管理するための手段。「SER MGT」、「ネットワーク管理」、「SP」、および「SCP」も参照してください。

スイッチ前面 ラック内に取り付けられたときに冷たい通路に面する、スイッチシャーシの吸気側の端です。通常は、ファンモジュールや電源装置が取り付けられている端です。

スイッチ背面 ラック内に取り付けられたときに熱い通路に面する、スイッチシャーシの排気側の端です。通常は、高速データ接続が取り付けられている端です。

スパインスイッチ スパイントポロジを利用したスイッチ。Oracle ドキュメントで、Oracle InfiniBand スイッチ IS2-254 について説明するために一般的に使用される用語。

標準 MT ケーブル IB 4x テクノロジに使用される光ファイバコネクタおよびケーブル。外観は PrizmMT ケーブルおよびコネクタに似ていますが、互換性はありません。「PrizmMT ケーブル」も参照してください。

SCP System Control Processor (システム制御プロセッサ)。IB テクノロジ、ファブリック管理インタフェース、サブネットマネージャーなどの、より複雑で、かつリソースを大

量に消費するサービスを管理するサービスプロセッサのタイプ。SCP がシャーシホストである場合もあります。「SP」も参照してください。

SEFOS Sun Ethernet Fabric Operating System。Ethernet ネットワークを管理するために EMS モジュールによって使用されるオペレーティングシステム。「EMS モジュール」も参照してください。

SER MGT Serial Management (シリアル管理)。SP とインタフェースするために使用される低速のシリアルデータストリーム。「SP」も参照してください。

SFP+ Small Form-Factor Pluggable (スモールフォームファクタプラガブル)。高速データインターコネクトのためのフォームファクタ。

SNMP Simple Network Management Protocol。スイッチをリモートでモニターおよび制御するためのマシンインタフェース。MIB および OID を使用して、データまたは命令を含むメッセージを交換します。「MIB」および「OID」も参照してください。

SP Service Processor (サービスプロセッサ)。シャーシホストの状態には関係なく、Oracle ILOM インタフェース経由でシャーシをモニターおよび制御するデバイス。「Oracle ILOM」および「SCP」も参照してください。

SR トランシーバ 短距離の光または電気通信に使用されるトランシーバ。

SSH Secure Shell。DSA および RSA アルゴリズムを利用したセキュアなネットワーク通信プロトコル。「DSA」および「RSA」も参照してください。

V

VAC Voltage Alternating Current (交流電圧)。

VDC Voltage Direct Current (直流電圧)。

W

WWN World Wide Name。ファイバチャネルおよびその他のストレージインタフェースデバイスに使用される識別子。

WWNN World Wide Node Name。ノード専用のファイバチャネル名。

WWPN World Wide Port Name。ポート専用のファイバチャネル名。

仮想化スイッチ 仮想化機能を持つ複数のインタフェースをサポートしているスイッチ。Oracle ドキュメントで、Oracle Fabric Interconnect F2-12 仮想 I/O システムについて説明するために一般的に使用される用語。

索引

あ

アクセス
  Oracle Fabric Manager
    CLI, 32
    GUI, 33
  Oracle Fabric OS, 31
  Oracle ILOM CLI から, 29
  Oracle ILOM Web から, 29
  SEFOS, 30
    VLAN 構成モード, 269
    インタフェース構成モード, 268
    グローバル構成モード, 267
  シリアル管理ポート経由のスイッチ, 28
新しい SSH 鍵、CLI からの生成, 393
アラート
  CLI からの PET の送信, 366
  CLI からの SNMP トラップの送信, 364
  CLI からの電子メールアラートの送信, 365
  CLI からの表示, 91
  CLI からの無効化, 367
  CLI からの有効化, 363
  Web からの PET の送信, 475
  Web からの送信, 473
  Web からの電子メールの送信, 474
  Web からの表示, 144
  Web からの無効化, 476
  管理 Web から, 472
イベントロギング、CLI からの管理, 361
イベント、CLI からの有効化, 363
インタフェース構成モード、SEFOS からのアクセス, 268
オブジェクト識別子、理解, 193
オンラインユーザー、SEFOS からの表示, 281

か

概要
  EMS, 266
  IPMI, 24
  Oracle ASR, 25
  Oracle ILOM CLI, 36
  Oracle ILOM, 22
  Oracle ILOM Web インタフェース, 120
  Oracle ILOM コマンド, 36
  Oracle ILOM ターゲット, 163
  SNMP インタフェース, 23
  ファームウェア, 537
概要、Oracle ILOM, 71
カスタム CLI プロンプト
  Web からの設定, 434
  Web からの表示, 135
  Web からの無効化, 435
  Web からの有効化, 434
画面のクリア、SEFOS, 280
画面、SEFOS 経由のクリア, 280
環境パラメータ、SEFOS での表示, 277
管理
  CLI からの AD クライアント, 324
  CLI からの AD サーバー証明書, 329
  CLI からの ASR クライアント, 411
  CLI からの HTTPS, 386
  CLI からの IPv4 管理ネットワーク, 372
  CLI からの LDAP over SSL 証明書, 345
  CLI からの Oracle ILOM ユーザー, 415
  CLI からの RADIUS クライアント, 356
  CLI からの SNMP サービス, 395
  CLI からの SSH, 391
  CLI からの SSO, 360
  CLI からのアラート, 363
  CLI からのイベント, 363
  CLI からのイベントロギング, 361

CLI からの外部シリアル接続, 379
CLI からの管理接続, 378
CLI からの管理ネットワーク, 370
CLI からのシリアル接続, 378
CLI からのスイッチインタフェース方法, 383, 384
CLI からのスイッチ構成, 306
CLI からのスイッチ通知, 361
CLI からの接続メッセージ, 381
CLI からの代替 LDAP over SSL サーバー証明書, 347
CLI からのホストシリアル接続, 380
CLI からのユーザーアカウント, 414
CLI からのログ, 368
CLI からのログインメッセージ, 381
IPMI サービス
  CLI から, 406
  Web から, 508
Oracle ILOM ターゲット, 164
SEFOS
  VLAN, 283
  ハードウェアパラメータ, 276
  ユーザー, 281
SEFOS からの SNMP, 290
Web からの SNMP サービス, 511
Web からの管理ネットワーク, 488
Web からのスイッチ, 423
Web からのスイッチアクセス, 438
Web からのスイッチイベント, 471
Web からのスイッチインタフェース方法, 499
Web からのスイッチサービス, 531
Web からのスイッチ接続, 494
Web からのスイッチ通知, 471
Web からのスイッチ認証, 438
Web からのその他のスイッチコンポーネント, 531
Web からのユーザーアカウント, 525
Web からのログ, 478
アラート Web から, 472
スイッチアクセス, 324
スイッチイベント Web から, 472
スイッチコンポーネント
  CLI から, 300
  Web から, 424
スイッチ識別情報
  CLI から, 300
  Web から, 424
スイッチ認証, 324
ロケータ LED, 312
管理コントローラ
  Web からの再起動, 425
  Web からのリセット, 425
管理接続
  CLI からの管理, 378
  CLI からのモニタリング, 100
  Web からのモニタリング, 149
管理ネットワーク
  CLI からの管理, 370, 370
  CLI からの構成のテスト, 377
  CLI からのモニタリング, 96, 96
  Web からの管理, 488
  Web からの構成のテスト, 493
  Web からのモニタリング, 146
管理ネットワーク構成
  CLI からの構成, 371
  CLI からの表示, 99
キーボード、Web からの制御, 531
起動
  CLI からのモジュール操作, 319
グローバル構成モード、SEFOS へのアクセス, 267
構成
  CLI からの AD オペレータグループ, 336
  CLI からの AD カスタムグループ, 335
  CLI からの AD 管理者グループ, 333
  CLI からの AD クライアントのプロパティー, 326
  CLI からの AD ユーザードメイン, 337
  CLI からの ASR プロキシのプロパティー, 413
  CLI からの ASR プロパティー, 412
  CLI からの DNS クライアント, 339
  CLI からの DNS ロケータクエリー, 327
  CLI からの FIPS, 422
  CLI からの HTTP, 385
  CLI からの HTTPS, 388
  CLI からの IPv4 ルーティングプロパティー, 373
  CLI からの IPv6 管理ネットワークプロパティー, 376
  CLI からの LDAP over SSL, 341
  CLI からの LDAP over SSL 管理者グループ, 350
  CLI からの LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピング, 354

CLI からの LDAP over SSL プロパティー, 343
CLI からの LDAP over SSL ユーザードメイン, 353
CLI からの LDAP クライアント, 340
CLI からの NTP サーバー, 304
CLI からの Oracle ILOM CLI タイムアウト, 382
CLI からの RADIUS クライアントのプロパティー, 357
CLI からの RADIUS 代替サーバー, 358
CLI からの SMTP クライアント, 362
CLI からの SNMP プロパティー, 403
CLI からの SSH プロパティー, 392
CLI からの管理ネットワーク構成, 371
CLI からのスイッチコンソールプロパティー, 302
CLI からのスイッチの IP アドレス, 301
CLI からの接続メッセージプロパティー, 381
CLI からの代替 AD サーバー, 330
CLI からの代替 AD サーバー証明書, 331
CLI からの代替 LDAP over SSL サーバー, 346
CLI からのポート共有, 380
CLI からのリモートログホスト, 369
CLI からのログインメッセージプロパティー, 382
LDAP over SSL オペレータグループ、CLI から, 351
LDAP over SSL カスタムグループ、CLI から, 352
Oracle ILOM ターゲットの 1 つのプロパティー, 168
Oracle ILOM ログのカスタムフィルタ、Web から, 483
Web からの AD オペレータグループ, 445
Web からの AD 管理者グループ, 444
Web からの AD ユーザードメイン, 447
Web からの ASR クライアントのプロパティー, 523
Web からの ASR プロキシのプロパティー, 524
Web からの ASR プロパティー, 522
Web からの DNS クライアント, 450
Web からの LDAP over SSL 管理者グループ, 460
Web からの LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピング, 455
Web からの NTP クライアント, 432
Web からの RADIUS ユーザーの役割, 470
Web からの SMTP クライアント, 472
Web からのスイッチの IP アドレス, 425
複数のプロパティー, 169
構成済みユーザー、SEFOS での表示, 282
構成、SEFOS の書き込み, 280
構文、`nm3tool`, 541
コマンド
`create`, 397, 401, 415
`delete`, 400, 402, 420, 421
`dump`, 405
`help`, 37, 38
`load`, 389, 416
`nm3tool`, 541
`reset`, 390
`version`, 45
コマンド履歴、SEFOS での表示, 274, 276

さ

サービスタグ情報、CLI からの表示, 112
再起動
CLI からの SP, 314
CLI からの SSH, 394
CLI からのモジュール, 322
Web からの管理コントローラ, 425
Web からのスイッチ, 436
削除
CLI からの Oracle ILOM ユーザー, 420
CLI 経由の Oracle ILOM セッション, 421
CLI 経由の SNMP コミュニティー, 402
CLI 経由の SNMP ユーザー, 400
CLI 経由の SSL 証明書, 390
SEFOS
SNMP グループ, 295
SNMP ユーザー, 296
ユーザー, 283
SEFOS VLAN からのポート, 288
SEFOS からの VLAN, 289
Web からの AD サーバーの証明書, 442
Web からの LDAP over SSL サーバー証明書, 459
Web からの Oracle ILOM ユーザー, 529
Web からの SNMP コミュニティー, 520
Web からの SNMP ユーザー, 517
Web からの SSL 証明書, 502
Web からの接続バナーメッセージ, 498

Web からのログインバナーメッセージ, 499
Web 経由の非公開鍵, 503
作成
CLI からのスイッチスナップショット, 309
SEFOS
SNMP グループ, 294
SNMP ユーザー, 294
VLAN, 287
ユーザー, 282
Web からのシステムログのカスタムフィルタ, 486
Web からのスイッチスナップショット, 429
時間
CLI からの設定, 303
Web からの設定, 433
識別情報
CLI からの設定, 305
CLI からの表示, 46
Web からの設定, 431
Web からの表示, 133
システム管理、理解, 21
システム電源情報、Web からの表示, 127
システムネットワークの健全性、Web からの表示, 148
システムの通気、Web からの表示, 128
システムの冷却の健全性、Web からの表示, 129
システムバナーメッセージ
CLI からの表示, 101
Web からの表示, 151
システムファームウェア、Web からの表示, 130
システムログ
Web からの 1 ページあたりのエントリ数の設定, 485
Web からのカスタムフィルタの作成, 486
Web からの制御, 484
Web からの定義済み条件を使用したフィルタリング, 485
Web 経由のクリア, 487
システムログ、SEFOS からの表示, 275
システムログ、Web からの表示, 143
システム BIOS 情報、Web からの表示, 130
自動保守要求、概要, 25
自動保守要求、CLI からの管理, 411
障害が発生したコンポーネント
CLI からの表示, 39
Web からのクリア, 477
Web からの表示, 125
障害の発生したコンポーネントのクリア CLI から, 368
シリアル管理ポート、スイッチへのアクセス, 28
シリアル接続プロパティー、CLI からの表示, 101
シリアル接続、CLI からの管理, 378
シリアルプロパティー、Web からの設定, 437
シリアルポート構成、Web からの表示, 138
シリアルリダイレクション、Web からの有効化, 495
スイッチ
Web からの構成のバックアップ, 427
Web からの再起動, 436
Web からの電源切断, 435
Web からの電源投入, 437
スイッチアクセス
CLI からのモニタリング, 80
SER MGT ポート, 28
Web からの管理, 438
Web からのモニタリング, 138
管理, 324
スイッチイベント
CLI からのモニタリング, 90
Web からの管理, 471
Web からのモニタリング, 142
管理 Web から, 472
スイッチインタフェース方法
CLI からの管理, 383, 384
CLI からのモニタリング, 103
Web からの管理, 499
Web からのモニタリング, 152
スイッチ稼働時間、CLI からの表示, 43
スイッチ構成
Web からの復元, 428
バックアップされた情報, 308
スイッチ構成の復元
CLI から, 308
Web から, 428
スイッチ構成、CLI からの管理, 306
スイッチ構成、CLI からのバックアップの作成, 307
スイッチ構成、CLI からの復元, 308
スイッチコンソールプロパティー、CLI からの構成, 302
スイッチコンポーネント
CLI からのモニタリング, 38

Web からのモニタリング, 123
スイッチコンポーネント、CLI からの管理, 300
スイッチコンポーネント、Web からの管理, 424
スイッチサービス、Web からの管理, 531
スイッチ識別情報
CLI からの管理, 300
CLI からのモニタリング, 38
Web からの管理, 424
Web からのモニタリング, 123
スイッチシャーシ情報、Web からの表示, 131
スイッチスナップショット
CLI からの表示, 49
Web からの作成, 429
スイッチスナップショットポリシー、Web からの表示, 137
スイッチ接続
Web からの管理, 494
スイッチチップ、CLI からのリセット, 314
スイッチ通知
CLI からの管理, 361
Web からの管理, 471
スイッチ電圧、CLI からの表示, 64
スイッチ電源プロパティー、CLI からの表示, 61
スイッチ電源、Web からの制御, 435
スイッチ認証
CLI からのモニタリング, 80
Web からの管理, 438
Web からのモニタリング, 138
管理, 324
スイッチの温度、CLI からの表示, 51
スイッチの警告、Web からの表示, 125
スイッチの健全性、CLI からの表示, 41, 42
スイッチのサポートプロパティー、CLI からのモニタリング, 110
スイッチの冷却、CLI からの表示, 67
スイッチの FRU ID
CLI からの表示, 111
Web からの表示, 132
スイッチの IP アドレス、CLI からの構成, 301
スイッチの IP アドレス、Web からの構成, 425
スイッチパスワードポリシー、Web からの設定, 530
スイッチバックアップポリシー、Web からの表示, 137
スイッチファームウェア、更新, 537
スイッチファームウェアのアップグレード、nm3tool, 540
menu upgrade, 544
直接アップグレード, 543
スイッチファームウェアの確認、nm3tool, 546
スイッチ復元ポリシー、Web からの表示, 137
スイッチ、理解, 19
スイッチロギング
CLI からのモニタリング, 90
Web からのモニタリング, 142
ステータス、EMS からの表示, 279
ステータス LED の状態
CLI からの表示, 50
Web からの表示, 126
ストレージ、Web からの制御, 531
ストレージ、Web からの有効化, 532
スナップショットデータセット情報, 311, 430
スナップショット、CLI からの作成, 309
制御
CLI からの I/O モジュール, 317
CLI からのスイッチ, 299
CLI からのスイッチチップ, 314
Web からの AD クライアント, 438
Web からの FIPS, 534
Web からの KVMS, 531
Web からの KVMS ホストロック, 532
Web からの LDAP over SSL ユーザーアクセス, 453
Web からの LDAP ユーザーアクセス, 451
Web からの RADIUS ユーザー, 467
Web からの SSH アクセス, 506
Web からのシステムログ, 484
Web からのスイッチ, 423
Web からのスイッチ電源, 435
Web からのリモートセッション, 494
モジュール障害状態, 320
接続バナーメッセージ
Web からの削除, 498
Web からの設定, 497
接続メッセージプロパティー、CLI からの構成, 381
設定
1 ページあたりのログエントリ数、Web から, 478
CLI からの SNMP 構成, 396
CLI からのシステム識別情報, 305

CLI からのスイッチの時間, 303
CLI からのスイッチのタイムゾーン, 304
CLI からのスイッチの日付, 303
CLI からのホスト名, 305
Web からの 1 ページあたりのシステムログエントリ数, 485
Web からの AD ユーザーの権限, 440
Web からの AD ユーザーの役割, 440
Web からの CLI タイムアウト, 497
Web からの IPv4 動的アドレス, 491
Web からの LDAP over SSL ユーザーの権限, 457
Web からの LDAP over SSL ユーザーの役割, 457
Web からの NTP サーバー, 433
Web からの NTP サーバーのタイムゾーン, 432
Web からの RADIUS 共有シークレット, 468
Web からの SNMP 構成, 514
Web からのカスタム CLI プロンプト, 434
Web からの管理ネットワーク IPv4 プロパティー, 490
Web からのシステム時間, 433
Web からのシステム識別情報, 431
Web からのシステムのタイムゾーン, 432
Web からのシステムの日付, 433
Web からのシリアルポートのプロパティー, 437
Web からのスイッチパスワードポリシー, 530
Web からの接続バナーメッセージ, 497
Web からのネットワーク管理構成, 488
Web からのネットワーク管理の IPv6 プロパティー, 492
Web からのネットワーク管理プロパティー, 489
Web からのホスト名, 431
Web からのログインバナーメッセージ, 498
Web からのログホスト, 477
その他のスイッチコンポーネント
CLI からのモニタリング, 116
Web からの管理, 531
Web からのモニタリング, 160
その他のスイッチサービス
CLI からのモニタリング, 116
Web からのモニタリング, 160

た

ターゲット、プロパティーのヘルプの表示, 38
代替 AD サーバー、Web からの追加, 448
代替 LDAP over SSL サーバー証明書、CLI からの構成, 347
代替 LDAP over SSL サーバー、CLI からの構成, 346
タイムゾーン
CLI からの設定, 304
CLI からの表示, 43
Web からの設定, 432
Web からの表示, 134
ダウンロード
CLI からの SNMP MIB, 405
Web からの SNMP MIB, 521
スイッチファームウェア, 539
追加
CLI からの Oracle ILOM ユーザー, 415
CLI からの Oracle ILOM ユーザーへのコメント, 417
CLI からの SNMP コミュニティー, 401
CLI からの SNMP ユーザー, 397
SEFOS VLAN へのポート, 287
Web からの AD カスタムグループ, 446
Web からの DNS ロケータクエリー, 449
Web からの LDAP over SSL オペレータグループ, 461
Web からの LDAP over SSL カスタムグループ, 463
Web からの LDAP over SSL 代替サーバー, 465
Web からの LDAP over SSL ユーザードメイン, 464
Web からの Oracle ILOM ユーザー, 525
Web からの RADIUS 代替サーバー, 469
Web からの SNMP コミュニティー, 518
Web からの SNMP ユーザー, 515
Web からの代替 AD サーバー, 448
停止
CLI からのモジュール操作 , 318
データセット、スナップショット, 430
データセット、スナップショット情報, 311
電源装置の出力電力、CLI からの表示, 57
電源装置の詳細、CLI からの表示, 55
電源装置の情報、CLI からの表示, 54
電源装置の情報、Web からの表示, 128
電源装置の入力電力、CLI からの表示, 55

電源装置の FRU ID、CLI からの表示, 62
電源装置の FRU ID、Web からの表示, 132
電子メールアラート
  CLI からの送信, 365
  Web からの送信, 474
トラップ
  CLI からの有効化, 364
  Web からの有効化, 473

な

ネットワーク管理構成
  Web からの設定, 488
ネットワーク管理構成、Web からの表示, 147
ネットワーク管理の IPv6 プロパティー、Web からの設定, 492
ネットワーク管理プロパティー、Web からの設定, 489
ネットワークコントローラ、Web からの表示, 148
ネットワーク情報、SEFOS 経由の表示, 271

は

バージョン、SEFOS からの表示, 279
ハードウェアパラメータ、SEFOS 経由の管理, 276
パスワードポリシー、Web からのユーザーのための表示, 159
パスワード、Oracle ILOM ユーザー, 527
バックアップ
  CLI からの構成, 307
  Web からの構成, 427
  構成情報, 308
バッテリ電源情報、CLI からの表示, 63
非公開鍵、Web 経由の削除, 503
日付
  CLI からの設定, 303
  Web からの設定, 433
  Web からの表示, 134
ビデオリダイレクション、Web からの有効化, 495
ビデオ、Web からの制御, 531
ビデオ、Web からの有効化, 532
表示
  1 つの Oracle ILOM ターゲット, 165
  CLI からの ASR ステータス, 112
  CLI からの DNS クライアントステータス, 84
  CLI からの Ethernet スイッチのプロパティー, 97
  CLI からの HCA 電源情報, 59
  CLI からの HTTPS ステータス, 108
  CLI からの HTTP ステータス, 110
  CLI からの IB スイッチチップの電源情報, 58
  CLI からの IB スイッチのプロパティー, 99
  CLI からの IPMI ステータス, 106
  CLI からの IPv6 管理ネットワークプロパティー, 98
  CLI からの KVMS 構成, 117
  CLI からの KVMS プロパティー, 118
  CLI からの MBOM 温度, 52
  CLI からの MBOM 情報, 52
  CLI からの MBOM 電源情報, 53
  CLI からの NTP サーバー, 44
  CLI からの Oracle ILOM root ユーザー, 115
  CLI からの Oracle ILOM イベントログ, 93
  CLI からの Oracle ILOM セッション, 113
  CLI からの Oracle ILOM バージョン, 45, 46
  CLI からの Oracle ILOM パスワードポリシー, 114
  CLI からの SMTP クライアントステータス, 90
  CLI からの SNMP コミュニティー, 105
  CLI からの SNMP サービス, 103
  CLI からの SNMP ステータス, 104
  CLI からの SNMP ユーザー, 104
  CLI からの SP CLI のプロパティー, 49
  CLI からの SP 情報, 47
  CLI からの SP プロパティー, 47
  CLI からの SSH プロパティー, 106
  CLI からの SSL 証明書, 109
  CLI からの syslog クライアント, 60
  CLI からの Web サービス, 108
  CLI からのアラート, 91
  CLI からの管理ネットワークの構成, 99
  CLI からのサービスタグ情報, 112
  CLI からのシステムバナーメッセージ, 101
  CLI からの障害が発生したコンポーネント, 39
  CLI からのシリアル接続プロパティー, 101
  CLI からのスイッチ稼働時間, 43
  CLI からのスイッチスナップショット, 49
  CLI からのスイッチ電圧, 64
  CLI からのスイッチ電源, 61
  CLI からのスイッチ電源プロパティー, 61
  CLI からのスイッチの FRU ID, 111

CLI からのスイッチの温度, 51
CLI からのスイッチの健全性, 42
CLI からのスイッチの健全性プロパティー, 41
CLI からのスイッチの冷却, 67
CLI からのスイッチファームウェア, 45
CLI からのスイッチ冷却情報, 67, 70
CLI からのステータス LED の状態, 50
CLI からのターゲットのプロパティー, 38
CLI からのタイムゾーン, 43
CLI からの電源装置の FRU ID, 62
CLI からの電源装置の健全性, 54
CLI からの電源装置の出力電力, 57
CLI からの電源装置の詳細, 55
CLI からの電源装置の情報, 53
CLI からの電源装置の入力電力, 55
CLI からのバッテリ電源情報, 63
CLI からのファン情報, 68
CLI からのホストコンソールプロパティー, 102
CLI からのホストストレージデバイス, 118
CLI からのホスト名, 46
CLI からの未解決の問題, 41
CLI からのモジュール FRU 情報, 79
CLI からのモジュールタイプ, 72
CLI からのモジュール電源情報, 75
CLI からのモジュールの温度 , 77
CLI からのログホスト, 96
EMS
  ステータス, 279
  バージョン, 279
  部品番号, 279
Oracle ILOM ターゲットの表, 166
Oracle ILOM ターゲットのプロパティー, 165
SEFOS
  1 つのポートのステータス, 273
  Ethernet スイッチの IP アドレス, 274
  NVRAM 構成, 277
  SNMP グループ情報, 291
  SNMP コミュニティー情報, 293
  SNMP ユーザー情報, 292
  Syslog ステータス, 274
  VLAN, 284
  VLAN ポート構成, 285
  オンラインユーザー, 281
  環境パラメータ, 277
  構成済みユーザー, 282
  コマンド, 269
  コマンド履歴, 276
  時間, 279
  システムログ, 275
  すべてのポートのステータス, 272
  ネットワーク情報, 271
  日付, 279
  履歴, 274
  ログ, 274
SEFOS からの SNMP 情報, 290
Web からの 1 ページ内の Oracle ILOM ログ, 479
Web からの AD クライアント, 142
Web からの ASR クライアントステータス, 157
Web からの CLI タイムアウト, 152
Web からの DNS クライアントステータス, 139
Web からの Ethernet NIC, 149
Web からの Ethernet スイッチファームウェア情報, 131
Web からの FIPS ステータス, 160
Web からの HTTPS ステータス, 153, 153
Web からの IPMI ステータス, 156
Web からの KVMS プロパティー, 161
Web からの LDAP over SSL クライアント, 140
Web からの LDAP クライアント, 140
Web からの NTP サーバー, 135
Web からの Oracle ILOM イベントログ, 145
Web からの Oracle ILOM 監査ログ, 146
Web からの Oracle ILOM セッション, 158
Web からの Oracle ILOM ファームウェア情報, 130
Web からの Oracle ILOM ユーザー, 158
Web からの RADIUS クライアント, 141
Web からの SMTP クライアントステータス, 139
Web からの SNMP コミュニティー, 155
Web からの SNMP サービスステータス, 154
Web からの SNMP ステータス, 154
Web からの SNMP ユーザーアカウント, 155
Web からの SP のデフォルトへのリセット, 136
Web からの SSH ステータス, 156
Web からの SSL 証明書および鍵, 135
Web からのアラート, 144
Web からのカスタム CLI プロンプト, 135
Web からのシステム BIOS 情報, 130
Web からのシステム識別情報, 133
Web からのシステム電源情報, 127, 128

Web からのシステムネットワークの健全性, 148
Web からのシステムの通気, 128
Web からのシステムの冷却の健全性, 129
Web からのシステムバナーメッセージ, 151
Web からのシステムファームウェア情報, 130
Web からの障害が発生したコンポーネント, 125
Web からのシリアルポート構成, 138
Web からのスイッチシャーシ情報, 131
Web からのスイッチスナップショットポリシー, 137
Web からのスイッチの FRU ID, 132
Web からのスイッチの警告, 125
Web からのスイッチのホスト名, 133
Web からのスイッチバックアップポリシー, 137
Web からのスイッチ復元ポリシー, 137
Web からのステータス LED の状態, 126
Web からのタイムゾーン, 134
Web からの電源装置の FRU ID, 132
Web からの電源装置の情報, 128
Web からのネットワーク構成, 147
Web からのネットワークコントローラ, 148
Web からのパスワードポリシー, 159
Web からの日付, 134
Web からのファン情報, 129
Web からのファンの FRU ID, 133
Web からのホストストレージデバイス, 151
Web からのホスト電源制御設定, 138
Web からのリダイレクションサービス, 150
Web からのリモートセッション設定, 150
Web からのログホスト, 144
モジュール障害状態, 73
ファームウェア
CLI からのバージョンの表示, 45
nm3tool を使用したアップグレード, 540
アップグレードの確認、nm3tool, 546
概要, 537
更新, 537
直接アップグレード、nm3tool コマンド, 543
メニューアップグレード、nm3tool メニュー, 544
ファン情報
CLI からの表示, 68
Web からの表示, 129
ファンの FRU ID、Web からの表示, 133
フィルタリング
Web からの定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログ, 480
Web からの定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログ, 481
Web からの定義済み条件を使用したシステムログ, 485
部品番号、EMS での表示, 279
米国連邦情報処理標準
CLI からの構成, 422
CLI からの表示, 117
Web からの構成, 534
Web からの表示, 160
Web からの有効化, 534
Web 経由の無効化, 535
ヘルプの取得、Oracle ILOM ターゲットの特定のプロパティー, 167
変更
SNMP コミュニティー
CLI から, 401
Web から, 519
SNMP ユーザー
CLI から, 399
Web から, 516
ポート共有、CLI からの構成, 380
ホストコンソールプロパティー、CLI からの表示, 102
ホストシリアル接続、CLI からの管理, 380
ホストストレージデバイス
CLI からの表示, 118
Web からの表示, 151
ホスト電源制御設定、Web からの表示, 138
ホスト名
CLI からの設定, 305
CLI からの表示, 46
Web からの設定, 431
Web からの表示, 133
Web からの変更, 431
ホスト名の変更、Web から, 431

ま

マウス、Web からの有効化, 532
未解決の問題、CLI からの表示, 41
無効化

CLI からの AD クライアント, 338
CLI からの ASR クライアント, 414
CLI からの HTTP, 386
CLI からの HTTPS, 390
CLI からの IPMI 1.5 セッション, 408
CLI からの IPMI サービス, 407
CLI からの IPv4 ネットワーク, 374
CLI からの IPv6 管理ネットワーク , 377
CLI からの LDAP over SSL クライアント, 356
CLI からの RADIUS クライアント, 360
CLI からの SNMP サービス, 404
CLI からの SSH, 394
CLI からの SSO, 361
SEFOS 経由の VLAN, 289
Web からの AD クライアント, 443
Web からの HTTP, 506
Web からの HTTPS, 504
Web からの IPMI 1.5 セッション, 511
Web からの IPMI サービス, 510
Web からの KVMS クライアントのプロパティー, 533
Web からの LDAP over SSL, 460
Web からの LDAP ユーザーアクセス, 453
Web からの RADIUS ユーザーの役割, 470
Web からの SNMP, 521
Web からの SSH アクセス, 508
Web からのカスタム CLI プロンプト, 435
Web からのログホスト, 477
Web 経由の FIPS, 535
アラート
CLI から, 367
Web から, 476
ロケータ LED
CLI から, 312
Web から, 427
モジュール
CLI からの起動, 319
CLI からの再起動, 322
CLI からの制御, 317
CLI からの停止, 318
モジュール障害状態
CLI からの制御, 320
CLI からの表示, 73
モジュールタイプ
CLI からの表示, 72
モジュール電源情報、CLI からの表示, 75
モジュールの温度、CLI からの表示, 77
モジュール FRU 情報
CLI からの表示, 79
モニタリング
CLI からの AD クライアント, 81
CLI からの FIPS, 117
CLI からの LDAP over SSL クライアント, 85
CLI からの LDAP over SSL クライアントのプロパティー, 86
CLI からの LDAP クライアント, 84
CLI からの Oracle ILOM, 35
CLI からの Oracle ILOM 監査ログ, 92
CLI からの RADIUS クライアント, 88
CLI からの SSO, 89
CLI からの管理接続, 100
CLI からの管理ネットワーク, 96
CLI からのスイッチアクセス, 80
CLI からのスイッチイベント, 90
CLI からのスイッチインタフェース方法, 103
CLI からのスイッチコンポーネント, 38, 38
CLI からのスイッチ認証, 80
CLI からのスイッチのサポートプロパティー, 110
CLI からのスイッチロギング, 90
CLI からのその他のスイッチコンポーネント, 116
CLI からのその他のスイッチサービス, 116
CLI からのユーザーアカウント, 113
Web からの Oracle ILOM, 119
Web からの管理接続, 149
Web からの管理ネットワーク, 146
Web からのスイッチアクセス, 138
Web からのスイッチイベント, 142
Web からのスイッチインタフェース方法, 152
Web からのスイッチコンポーネント, 123, 123
Web からのスイッチ認証, 138
Web からのスイッチロギング, 142
Web からのその他のスイッチコンポーネント, 160
Web からのその他のスイッチサービス, 160
Web からのユーザーアカウント, 157

や

役割の構成
Web からの LDAP ユーザーの役割, 452

有効化
AD クライアント
CLI から, 325
Web から, 439
CLI からの ASR クライアント, 411
CLI からの HTTP, 384
CLI からの HTTPS, 387
CLI からの IPMI 1.5 セッション, 408
CLI からの IPM サービス, 407
CLI からの IPv4 ネットワーク, 373
CLI からの IPv6 管理ネットワーク , 375
CLI からの LDAP over SSL, 342
CLI からの PET を送信するアラート, 366
CLI からの RADIUS クライアント, 357
CLI からの SNMP, 395
CLI からの SNMP トラップを送信するアラート, 364
CLI からの SSH サービス, 392
CLI からの SSO, 361
CLI からの電子メールを送信するアラート, 365
SEFOS VLAN, 286
Web からの FIPS, 534
Web からの HTTP, 505
Web からの HTTPS, 500
Web からの IPMI, 510
Web からの IPMI サービス, 509
Web からの KVMS クライアントのプロパティー, 532
Web からの LDAP over SSL ユーザーアクセス, 454
Web からの LDAP ユーザーアクセス, 451
Web からの PET を送信するアラート, 475
Web からの RADIUS ユーザー, 467
Web からの SNMP, 513
Web からの SSH サービス, 507
Web からのカスタム CLI プロンプト, 434
Web からのシリアルリダイレクション, 495
Web からの電子メールを送信するアラート, 474
Web からのトラップを送信するアラート, 473
Web からのビデオリダイレクション, 495
Web からのログホスト, 477
ロケータ LED
CLI から, 312
Web から, 426
ユーザー
SEFOS の削除, 283
SEFOS の作成, 282
管理 SEFOS, 281
ユーザーアカウント
CLI からの管理, 414
CLI からのモニタリング, 113
Web からの管理, 525
Web からのモニタリング, 157
ユーザー権限 概要, 27
ユーザーの役割 概要, 27

ら

理解
EMS, 265
EMS モジュール, 265
LDAP over SSL グループ, 348
Oracle ILOM, 19
ターゲット, 163, 170
プロパティー, 170
SEFOS, 265
SEFOS モード, 265, 265
SNMP OID, 193
システム管理, 21
スイッチ, 19
リセット
CLI からの Ethernet スイッチチップ, 315
CLI からの IB スイッチチップ, 315
CLI からの Oracle ILOM ユーザー SSH 鍵, 418
CLI からの SP, 313
Web からの管理コントローラ, 425
リダイレクションサービス、Web からの表示, 150
リモートセッション
Web からの制御, 494
Web からの有効化, 496
リモートセッション設定、Web からの表示, 150
リモートログホスト、CLI からの構成, 369
リモートログホスト、CLI からの表示, 96
ロード
CLI からの Oracle ILOM ユーザー SSH 鍵, 416
Web からの AD サーバーの証明書, 441
Web からの LDAP over SSL サーバー証明書, 458
ログ
1 ページあたりのエントリ数の設定、Web から, 478

1 ページ内の表示、Web から, 479
CLI からのクリア, 369
SEFOS での表示, 274
Web からの管理, 478
管理、CLI から, 368
ログインバナーメッセージ
Web からの削除, 499
Web からの設定, 498
ログインメッセージプロパティー、CLI からの構成, 382
ログインメッセージ、CLI からの管理, 381
ログのクリア、CLI から, 369
ログフィルタ、Oracle ILOM の理解, 95
ログホスト、Web からの表示, 144
ロケータ LED
CLI からの管理, 312
CLI からの無効化, 312
CLI からの有効化, 312
Web からの無効化, 427
Web からの有効化, 426

A

AD オペレータグループ
CLI からの構成, 336
Web からの構成, 445
AD カスタムグループ
CLI からの構成, 335
Web からの追加, 446
AD 管理者グループ
CLI からの構成, 333
Web からの構成, 444
AD クライアント
CLI からのプロパティーの構成, 326
CLI からの無効化, 338
CLI からのモニタリング, 81
CLI からの有効化, 325
Web からの制御, 438
Web からの表示, 142
Web からの無効化, 443
Web からの有効化, 439
AD グループ、理解, 332
AD サーバー証明書、CLI からの管理, 329
AD サーバーの証明書
Web からのロード, 441
Web 経由の削除, 442
AD 代替サーバー
CLI からの構成, 330
CLI からの証明書の構成, 331
AD ユーザードメイン
CLI からの構成, 337
Web からの構成, 447
AD ユーザーの権限、Web からの設定, 440
AD ユーザーの役割、Web からの設定, 440
ASR クライアント
CLI からの無効化, 414
CLI からの有効化, 411
ASR クライアントステータス
CLI からの表示, 112
Web からの表示, 157
ASR クライアントのプロパティー、Web からの構成, 522
ASR プロキシのプロパティー、CLI からの構成, 413
ASR プロキシのプロパティー、Web からの構成, 524
ASR プロパティー、CLI からの構成, 412
ASR プロパティー、Web からの構成, 523

C

CLI
AD グループについて, 332
CLI からのスイッチの時間の設定, 303
Ethernet スイッチチップファームウェアのロード, 316
Oracle ILOM の概要, 36
Oracle ILOM パスワードの変更, 419
Oracle ILOM ヘルプの取得, 36
SNMP MIB のダウンロード, 405
SP の再起動, 314
SP の存在のチェック, 316
SSH の再起動, 394
SSL 証明書のインストール, 389
SSL 証明書の削除, 390
新しい SSH 鍵の生成, 393
管理
AD クライアント, 324
AD サーバー証明書, 329
ASR クライアント, 411
HTTP, 386
IPMI サービス, 406

IPv4 管理ネットワーク, 372
IPv6 管理ネットワーク , 375
Oracle ILOM ユーザー, 415
RADIUS クライアント, 356
SNMP サービス, 395
SSH, 391
イベントロギング, 361
外部シリアル接続, 379
管理接続, 378
管理ネットワーク, 370
シリアル接続, 378
スイッチアクセス, 324
スイッチインタフェース方法, 383, 384
スイッチ構成, 306
スイッチコンポーネント, 300
スイッチ識別情報, 300
スイッチ通知, 361
スイッチ認証, 324
接続メッセージ, 381
ホストシリアル接続, 380
ユーザーアカウント, 414
ログ, 368
ログインメッセージ接続, 381
ロケータ LED, 312
管理ネットワーク構成のテスト, 377
起動
モジュール操作, 319
クリア 障害のあるコンポーネント, 368
構成
AD オペレータグループ, 336
AD カスタムグループ, 335
AD 管理者グループ, 333
AD プロパティー, 326
AD ユーザードメイン, 337
ASR プロキシのプロパティー, 413
ASR プロパティー, 412
DNS クライアント, 339
DNS ロケータクエリー, 327
FIPS, 422
HTTP, 385
HTTPS, 388
IPv4 ルーティングプロパティー, 373
IPv6 管理ネットワークプロパティー, 376
LDAP over SSL, 341
LDAP over SSL オペレータグループ, 351
LDAP over SSL カスタムグループ, 352
LDAP over SSL 管理者グループ, 350
LDAP over SSL 証明書, 345
LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピング, 354
LDAP over SSL プロパティー, 343
LDAP over SSL ユーザードメイン, 353
LDAP クライアント, 340
Oracle ILOM CLI タイムアウト, 382
RADIUS クライアントのプロパティー, 357
RADIUS 代替サーバー, 358
SMTP クライアント, 362
SNMP プロパティー, 403
SSH, 392
SSO, 360
管理ネットワーク構成, 371
スイッチコンソールプロパティー, 302
スイッチの IP アドレス, 301
接続メッセージプロパティー, 381
代替 AD サーバー, 330
代替 AD サーバー証明書, 331
代替 LDAP over SSL サーバー, 346
代替 LDAP over SSL サーバー証明書, 347
ポート共有, 380
リモートログホスト, 369
ログインメッセージプロパティー, 382
構成のバックアップ, 307
再起動
モジュール, 322
削除
Oracle ILOM セッション, 421
Oracle ILOM ユーザー, 420
SNMP コミュニティー, 402
SNMP ユーザー, 400
スイッチ構成の復元, 308
スナップショットの作成, 309
制御
I/O モジュール情報, 317
モジュール障害状態, 320
設定
NTP サーバー, 304
SNMP 構成, 396
システム識別情報, 305
スイッチの日付, 303
タイムゾーン, 304
ホスト名, 305
追加

Oracle ILOM ユーザー, 415
Oracle ILOM ユーザー SSH 鍵, 416
Oracle ILOM ユーザーへのコメント, 417
SNMP コミュニティー, 401
SNMP ユーザー, 397
停止
モジュール操作, 318
表示
ASR クライアントステータス, 112
DNS クライアントステータス, 84
Ethernet スイッチのプロパティー, 97
HCA 電源情報, 59
HTTPS ステータス, 108
HTTP ステータス, 110
IB スイッチチップの電源情報, 58
IB スイッチのプロパティー, 99
IPMI ステータス, 106
IPv6 管理ネットワークプロパティー, 98
MBOM 温度, 52
MBOM 情報, 52
MBOM 電源情報, 53
NTP サーバー, 44
Oracle ILOM root ユーザー, 115
Oracle ILOM イベントログ, 93
Oracle ILOM セッション, 113
Oracle ILOM バージョン, 45
Oracle ILOM パスワードポリシー, 114
SMTP クライアントステータス, 90
SNMP サービス, 103
SNMP サービスコミュニティー, 105
SNMP ステータス, 104
SNMP ユーザー, 104
SP CLI のプロパティー, 49
SP 情報, 47
SP プロパティー, 47
SSH プロパティー, 106
SSL 証明書, 109
syslog クライアント, 60
Web サービス, 108
アラート, 91
管理ネットワーク構成, 99
サービスタグ情報, 112
システム識別情報, 46
システムバナーメッセージ, 101
障害が発生したコンポーネント, 39
シリアル接続プロパティー, 101
スイッチ稼働時間, 43
スイッチスナップショット, 49
スイッチ電圧, 64
スイッチ電源, 61
スイッチ電源プロパティー, 61
スイッチの FRU ID, 111
スイッチの温度, 51
スイッチの健全性, 42
スイッチの健全性プロパティー, 41
スイッチの冷却, 67
スイッチ冷却情報, 67, 70
ステータス LED の状態, 50
ターゲットのプロパティー, 38
タイムゾーン, 43
電源装置の FRU ID, 62
電源装置の健全性, 54
電源装置の出力電力, 57
電源装置の詳細, 55
電源装置の情報, 53
電源装置の入力電力, 55
バッテリ電源情報, 63
ファン情報, 68
ヘルプ, 37
ホストコンソールプロパティー, 102
ホスト名, 46
未解決の問題, 41
モジュール FRU 電源情報, 79
モジュール障害状態, 73
モジュールタイプ, 72
モジュール電源情報, 75
モジュールの温度, 77
ログホスト, 96
変更
SNMP コミュニティー, 401
SNMP ユーザー, 399
無効化
AD クライアント, 338
ASR クライアント, 414
HTTP, 386
HTTPS, 390
IPMI 1.5 セッション, 408
IPMI, 407
IPv4 ネットワーク, 374
IPv6 管理ネットワーク, 377
LDAP over SSL クライアント, 356
RADIUS クライアント, 360

SNMP, 404
SSH, 394
SSO, 361
アラート, 367
ロケータ LED, 312
モニタリング
AD クライアント, 81
FIPS, 117
KVMS, 117
KVMS プロパティー, 118
LDAP over SSL クライアント, 85
LDAP over SSL クライアントのプロパティー, 86
LDAP クライアント, 84
Oracle ILOM 監査ログ, 92
RADIUS クライアント, 88
SSO, 89
管理接続, 100
管理ネットワーク, 96
スイッチアクセス, 80
スイッチイベント, 90
スイッチインタフェース方法, 103
スイッチコンポーネント, 38
スイッチ識別情報, 38
スイッチ認証, 80
スイッチのサポートプロパティー, 110
スイッチロギング, 90
その他のスイッチコンポーネント, 116
その他のスイッチサービス, 116
ホストストレージデバイス, 118
ユーザーアカウント, 113
有効化
AD クライアント, 325
ASR クライアント, 411
HTTP, 384
HTTPS, 387
IPMI 1.5 セッション, 408
IPMI, 407
IPv4 ネットワーク, 373
IPv6 管理ネットワーク, 375
LDAP over SSL, 342
PET を送信するアラート, 366
RADIUS クライアント, 357
SNMP, 395
SSH, 392
SSO, 361
アラート, 363
イベント, 363
電子メールを送信するアラート, 365
トラップを送信するアラート, 364
ロケータ LED, 312
リセット
Ethernet スイッチチップ, 315
IB スイッチチップ, 315
Oracle ILOM ユーザー SSH 鍵, 418
SP, 313
スイッチチップ, 314
ログのクリア, 369
CLI からの新しい SSH 鍵の生成, 393
CLI からの外部シリアル接続の管理, 379
CLI からの管理ネットワーク構成のテスト, 377
CLI からのヘルプの取得, 37
CLI からの Ethernet スイッチチップファームウェアのロード, 316
CLI からの IPv6 管理ネットワークの管理, 375, 375
CLI からの Oracle ILOM ユーザーのパスワードの変更, 419
CLI からの SSL 証明書のインストール, 389
CLI タイムアウト
CLI からの構成, 382
Web からの構成, 497
Web からの表示, 152
`create` コマンド, 397, 401, 415

D

`delete` コマンド, 400, 402, 420, 421
DNS クライアント
CLI からの構成, 339
CLI からのステータスの表示, 84
Web からの構成, 450
Web からのステータスの表示, 139
DNS ロケータクエリー
CLI からの構成, 327
Web からの追加, 449
`dump` コマンド, 405

E

EMS
SEFOS モードについて, 265

概要, 266
表示
ステータス, 279
バージョン, 279
部品番号, 279
EMS モジュール、理解, 265
ENTITY-MIB
MIB OID, 259
OID コマンドの構文, 259
エンティティー MIB トラップ, 262
物理エンティティー表 OID, 260
論理エンティティー OID, 261
Ethernet NIC、Web からの表示, 149
Ethernet スイッチチップファームウェア、CLI からのロード, 316
Ethernet スイッチチップ、CLI からのリセット, 315
Ethernet スイッチのプロパティー、CLI からの表示, 97
Ethernet スイッチファームウェア、Web からの表示, 131

F

FIPS
CLI からの構成, 422
CLI からのモニタリング, 117
Web からのステータスの表示, 160
Web からの制御, 534
Web からの無効化, 535
Web からの有効化, 534

H

/HOST ターゲットとプロパティー, 171
HCA 電源情報、CLI からの表示, 59
help コマンド, 37, 38
HTTP
CLI からの構成, 385, 388
CLI からのステータスの表示, 110
CLI からの無効化, 386
CLI からの有効化, 384
Web からのステータスの表示, 153
Web からの無効化, 506
Web からの有効化, 505
HTTPS
CLI からの管理, 386
CLI からのサーバー SSL 証明書の表示, 109
CLI からのステータスの表示, 108
CLI からの無効化, 390
CLI からの有効化, 387
Web からのステータスの表示, 153
Web からの無効化, 504
Web からの有効化, 500

I

IB スイッチチップの電源情報、CLI からの表示, 58
IB スイッチチップ、CLI からのリセット, 315
IB スイッチのプロパティー、CLI からの表示, 99
IPMI 1.5 セッション
CLI からの無効化, 408
CLI からの有効化, 408
Web からの無効化, 511
IPMI
CLI からの無効化, 407
CLI からの有効化, 407
Web からの有効化, 510
インタフェース, 24
概要, 24
IPMI サービス
Web からの無効化, 510
Web からの有効化, 509
IPMI サービスステータス、CLI からの表示, 106
IPMI サービスステータス、Web からの表示, 156
IPMI サービス、CLI からの管理, 406
ipmitool ユーティリティー, 24
IPv4 管理ネットワーク
CLI からの管理, 372
IPv4 動的アドレス、Web からの設定, 491
IPv4 ネットワーク
CLI からの有効化, 373
IPv4 ネットワーク、CLI からの無効化, 374
IPv4 ルーティングプロパティー、CLI からの構成, 373
IPv6 管理ネットワークプロパティー、CLI からの構成, 376
IPv6 管理ネットワークプロパティー、CLI からの表示, 98
IPv6 管理ネットワーク、CLI からの無効化, 377
IPv6 管理ネットワーク、CLI からの有効化, 375

K

KVMS
  CLI からの表示, 117
  Web からの制御, 531
  Web からのホストロックの制御, 532
KVMS クライアントのプロパティー
  Web からの有効化, 532
  無効化, 533
KVMS プロパティー
  CLI からの表示, 118
  Web からの表示, 161

L

LDAP over SSL
  CLI からの構成, 341
  CLI からの有効化, 342
  Web からの無効化, 460
LDAP over SSL オペレータグループ
  CLI からの構成, 351
  Web からの追加, 461
LDAP over SSL カスタムグループ
  CLI からの構成, 352
  Web からの追加, 463
LDAP over SSL 管理者グループ
  CLI からの構成, 350
  Web からの構成, 460
LDAP over SSL クライアント
  CLI からの無効化, 356
  CLI からのモニタリング, 85
  Web からの表示, 140
LDAP over SSL クライアントのプロパティー、CLI からのモニタリング, 86
LDAP over SSL グループ、理解, 348
LDAP over SSL サーバー証明書
  Web からの削除, 459
  Web からのロード, 458
LDAP over SSL 証明書、CLI からの構成, 345
LDAP over SSL 代替サーバー、Web からの追加, 465
LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピング
  CLI からの構成, 354
  Web からの構成, 455
LDAP over SSL プロパティー、CLI からの構成, 343
LDAP over SSL ユーザーアクセス
  Web からの制御, 453
  Web からの有効化, 454
LDAP over SSL ユーザードメイン
  CLI からの構成, 353
  Web からの追加, 464
LDAP over SSL ユーザーの権限、Web からの設定, 457
LDAP over SSL ユーザーの役割、Web からの設定, 457
LDAP クライアント
  CLI からのモニタリング, 84
  Web からの表示, 140
LDAP クライアント、CLI からの構成, 340
LDAP ユーザーアクセス
  Web からの制御, 451
  Web からの無効化, 453
  Web からの役割の構成, 452
  Web からの有効化, 451
LED、ロケータの管理, 312
`load` コマンド, 389, 416

M

MBOM 温度、CLI からの表示, 52
MBOM 情報、CLI からの表示, 52
MBOM 電源情報、CLI からの表示, 53
MIB
  CLI からのダウンロード, 405
  表示
    `ENTITY-MIB`, 259
    `SUN-HW-CTRL-MIB`, 194
    `SUN-HW-TRAP-MIB`, 199
    `SUN-ILOM-CONTROL-MIB`, 208
    `SUN-ILOM-SYSTEM-MIB`, 236
    `SUN-PLATFORM-MIB`, 242

N

`nm3tool` コマンドの構文, 541
`nm3tool`、ファームウェアアップグレードの確認, 546
`nm3tool`, ファームウェアのアップグレード
  直接アップグレード, 543
  メニューアップグレード, 544
NTP クライアント、Web からの構成, 432

NTP サーバー
CLI からの表示, 44
Web からのタイムゾーンの設定, 432
Web からの表示, 135
NTP サーバー、設定
CLI から, 304
Web から, 433
NVRAM 構成、SEFOS からの表示, 277

O

Oracle ASR、概要, 25
Oracle Fabric Manager CLI、アクセス, 32
Oracle Fabric Manager GUI、アクセス, 33
Oracle Fabric OS、アクセス, 31
Oracle ILOM CLI 経由のヘルプの取得, 36
Oracle ILOM
CLI からの root ユーザーの表示, 115
CLI からのイベントログの表示, 93
CLI からのインタフェース, 36
CLI からのスイッチの制御, 299
CLI からのセッションの表示, 113
CLI からのバージョンの表示, 45
CLI からのパスワードポリシーの表示, 114
CLI からのモニタリング, 35
CLI からのユーザー SSH 鍵の追加, 416
CLI からのユーザー SSH 鍵のリセット, 418
CLI からのユーザーの管理, 415
CLI からのユーザーの追加, 415
CLI 経由のセッションの削除, 421
CLI 経由のユーザーの削除, 420
CLI の概要, 36
Web インタフェースの概要, 120
Web からのセッションの表示, 158
Web からの表示
イベントログ, 145
監査ログ, 146
Web からのモニタリング, 119
Web からのユーザーの削除, 529
Web からのユーザーの表示, 158
アクセス CLI から, 29
アクセス Web から, 29
概要, 22
コマンドヘルプ, 37
ターゲット
/HOST, 171
/SP AD クライアント, 172
/SP LDAP over SSL クライアント, 175
/SP サービス, 179
/SP 汎用, 176
/SP 汎用クライアント, 173
/SYS Oracle F2 I/O モジュール, 188
/System システム, 190
/SYS 電源装置シャーシ, 186
/SYS 汎用シャーシ, 182
/SYS メインボードシャーシ, 184
1 つのターゲットの表示, 165
1 つのプロパティーの構成, 168
概要, 163
管理, 164
特定のプロパティーの表示, 165
複数のプロパティーの構成, 169
ターゲットに関するヘルプの表示, 167
ターゲットの表の表示, 166
プロパティー
/HOST, 171
/SP AD クライアント, 172
/SP LDAP over SSL クライアント, 175
/SP サービス, 179
/SP 汎用, 176
/SP 汎用クライアント, 173
/SYS Oracle F2 I/O モジュール, 188
/System システム, 190
/SYS 電源装置シャーシ, 186
/SYS 汎用シャーシ, 182
/SYS メインボードシャーシ, 184
ユーザーへの SSH 鍵の追加、Web から, 528
理解, 19
ターゲット, 163, 170
プロパティー, 170
Oracle ILOM Web
Oracle ILOM ユーザーのパスワードの変更, 527
スイッチの管理, 423
スイッチの制御, 423
Oracle ILOM イベントログ、Web からの定義済み条件を使用したフィルタリング, 480
Oracle ILOM、概要, 71
Oracle ILOM 監査ログ、CLI からのモニタリング, 92
Oracle ILOM 監査ログ、Web からの定義済み条件を使用したフィルタリング, 481

Oracle ILOM ファームウェア情報、Web からの表示, 130
Oracle ILOM ヘルプ
CLI からの取得, 36
Web からの取得, 123
Oracle ILOM ユーザー
CLI からのコメントの追加, 417
CLI からのパスワードの変更, 419
Web からの追加, 525
Oracle ILOM ユーザーのパスワードの変更、Web から, 527
Oracle ILOM ユーザーへの SSH 鍵の追加、Web から, 528
Oracle ILOM ログ
Web 経由のカスタムフィルタの作成, 483
Web 経由のクリア, 484
Oracle ILOM ログフィルタ、理解, 95

P

PET、CLI からのアラートとしての送信, 366
PET、Web からのアラートとしての送信, 475

R

RADIUS 共有シークレット、Web からの設定, 468
RADIUS クライアント
CLI からの管理, 356
CLI からのプロパティーの構成, 357
CLI からの無効化, 360
CLI からのモニタリング, 88
CLI からの有効化, 357
Web からの表示, 141
RADIUS 代替サーバー
CLI からの構成, 358
Web からの有効化, 469
RADIUS ユーザー
Web からの制御, 467
Web からの追加, 467
RADIUS ユーザーの役割
Web からの構成, 470
Web からの無効化, 470
reset コマンド, 390

S

/SP AD クライアントターゲットとプロパティー, 172
/SP LDAP over SSL クライアントターゲットとプロパティー, 175
/SP サービスターゲットとプロパティー, 179
/SP 汎用クライアントターゲットとプロパティー, 173
/SP 汎用ターゲットとプロパティー, 176
/SYS Oracle F2 I/O モジュールターゲットおよびプロパティー, 188
/SYS 電源装置シャーシターゲットとプロパティー, 186
/SYS 汎用シャーシターゲットとプロパティー, 182
/SYS メインボードシャーシターゲットとプロパティー, 184
/System システムターゲットおよびプロパティー, 190
SEFOS
SNMP 情報の表示, 290
VLAN からのポートの削除, 288
VLAN の無効化, 289
VLAN の有効化, 286
VLAN へのポートの追加, 287
アクセス, 30
VLAN 構成モード, 269
インタフェース構成モード, 268
グローバル構成モード, 267
画面のクリア, 280
管理
SNMP, 290
VLAN, 283
ハードウェアパラメータ, 276
ユーザー, 281
構成の書き込み, 280
コマンドヘルプの取得, 270
削除
SNMP グループ, 295
SNMP ユーザー, 296
VLAN, 289
ユーザー, 283
作成
SNMP グループ, 294
SNMP ユーザー, 294
VLAN, 287

ユーザー, 282
表示
1 つのポートのステータス, 273
Ethernet スイッチの IP アドレス, 274
NVRAM 構成, 277
SNMP グループ情報, 291
SNMP コミュニティー情報, 293
SNMP ユーザー情報, 292
Syslog ステータス, 274
VLAN, 284
VLAN ポート構成, 285
オンラインユーザー, 281
環境パラメータ, 277
構成済みユーザー, 282
コマンド, 269
コマンド履歴, 276
時間, 279
システムログ, 275
すべてのポートのステータス, 272
ネットワーク情報, 271
日付, 279
履歴, 274
ログ, 274
モードについて, 265
理解, 265
ログアウト, 296
SEFOS からのログアウト, 296
SEFOS 構成の Oracle ILOM への書き込み, 280
SEFOS コマンドのヘルプの取得, 270
SER MGT ポート、スイッチへのアクセス, 28
SMTP クライアント
CLI からの構成, 362
Web からの構成, 472
SNMP、CLI からのコミュニティーの追加, 401
SNMP
CLI からの MIB のダウンロード, 405
CLI からの構成の設定, 396
CLI からのサービスの管理, 395
CLI からのサービスの無効化, 404
CLI からの有効化, 395
CLI からのユーザーの追加, 397
CLI からのユーザーの変更, 399
CLI 経由のユーザーの削除, 400
MIB OID, 193
MIB OID, 表の概要, 193
SEFOS 経由の管理, 290
SEFOS 経由の情報の表示, 290
Web からの MIB のダウンロード, 521
Web からの構成の設定, 514
Web からのコミュニティーの追加, 518
Web からのサービスの管理, 511
Web からの無効化, 521
Web からの有効化, 513
Web からのユーザーの削除, 517
Web からのユーザーの追加, 515
Web からのユーザーの変更, 516
概要, 23
コミュニティーの削除
CLI から, 402
Web から, 520
コミュニティーの変更
CLI から, 401
Web から, 519
SNMP クライアントについて, 512
SNMP クライアント、理解, 512
SNMP グループ
SEFOS 経由の削除, 295
SEFOS 経由の作成, 294
SNMP グループ情報、SEFOS 経由の表示, 291
SNMP コミュニティー情報、SEFOS 経由の表示, 293
SNMP コミュニティー、Web からの表示, 155
SNMP サービスコミュニティー、CLI からの表示, 105
SNMP サービスステータス
CLI からの表示, 104
Web からの表示, 154, 154
SNMP サービス、CLI からの表示, 103
SNMP プロパティー、CLI からの構成, 403
SNMP ユーザーアカウント
CLI からの表示, 104
SEFOS 経由の作成, 294
Web からの表示, 155
SNMP ユーザー情報、SEFOS 経由の表示, 292
SNMP ユーザー、SEFOS 経由の削除, 296
SP CLI のプロパティー、CLI からの表示, 49
SP
CLI からの再起動, 314
CLI からの存在のチェック, 316
CLI からのリセット, 313, 314
SP 情報、CLI からの表示, 47
SP の存在のチェック、CLI から, 316

SP のデフォルトへのリセット、Web からの表示, 136
SSH、CLI からの管理, 391
SSH、CLI からの無効化, 394
SSH
  CLI からの構成, 392
  CLI からの再起動, 394
  CLI からの有効化, 392
SSH アクセス、Web からの無効化, 508
SSH 鍵、Web からの生成, 507
SSH サービス、Web からの有効化, 507
SSH ステータス、Web からの表示, 156
SSH プロパティー、CLI からの表示, 106
SSL アクセス、Web からの制御, 506
SSL 証明書
  CLI からのインストール, 389
  Web からのインストール, 501
  Web 経由の削除, 502
SSL 証明書および鍵、Web からの表示, 135
SSL 証明書、CLI からの削除, 390
SSO
  CLI からの構成, 360
  CLI からの無効化, 361
  CLI からのモニタリング, 89
  CLI からの有効化, 361
SUN-HW-CTRL-MIB
  MIB OID, 194
  Trusted Platform (TPM) トラップ, 198
  電源管理 OID, 195
  ハードウェア制御 OID, 194
SUN-HW-TRAP-MIB
  MIB OID, 199
  診断された障害の推測トラップ OID, 199
  ハードウェア OID, 199
  ハードウェア障害トラップ, 206
  ハードウェアトラップ, 202
  ハードウェアトラップ構成 OID, 200
SUN-ILOM-CONTROL-MIB
  AD OID, 210
  DNS OID, 212
  HTTP OID, 226
  HTTPS OID, 226
  LDAP OID, 213
  LDAP over SSL OID, 214
  LDAP over SSL オペレータグループ OID, 216
  LDAP over SSL カスタムグループ OID, 218
  LDAP over SSL 管理者グループ OID, 216
  LDAP over SSL 代替サーバー OID, 217
  LDAP over SSL ドメイン OID, 215
  LDAP over SSL ホストグループ OID, 219
  MIB OID, 208
  NTP OID, 224
  OID コマンドの構文, 209
  RADIUS OID, 219
  SMTP OID, 235
  SSH OID, 227
  SSO OID, 227
  イベントログ OID, 221
  インターコネクト OID, 230
  遠隔測定ハーネスデーモン (THD) OID, 236
  監査ログ OID, 221
  クロック OID, 223
  警告 OID, 222
  構成管理 OID, 224
  識別 OID, 228
  冗長性 OID, 234
  シリアルポート OID, 234
  セッション OID, 235
  電源制御 OID, 232
  ネットワーク OID, 229
  ネットワークインターコネクトグローバル構成 OID, 231
  ネットワークインターコネクトグローバル操作 OID, 232
  バックアップおよび復元 OID, 223
  ファームウェア管理 OID, 225
  ポリシー OID, 233
  ユーザー OID, 220
  リセット制御 OID, 233
  リモート syslog OID, 228
SUN-ILOM-SYSTEM-MIB
  MIB OID, 236
  Oracle ILOM システムトラップ, 239
  Oracle ILOM システムトラップデータ OID, 238
  Oracle ILOM システムの未解決の問題 OID, 237
  Oracle ILOM システムログ OID, 238
  システム OID, 236
SUN-PLATFORM-MIB
  MIB OID, 242
  MIB オブジェクトグループ, 245
  MIB 通知グループ, 252
  NIM 回路パック OID, 255

NIM 装置 OID, 253
NIM 装置ホルダー OID, 254
NIM トラップエージェント MIB の追加情報 OID, 256
NIM トラップエージェント MIB のログに記録されたアラーム OID, 256
NIM トラップエージェント MIB のログに記録された属性/ステータス変更 OID, 257
NIM ログ OID, 255
OID コマンドの構文, 243
アラーム OID, 249
ウォッチドッグ OID, 249
上位レベルの OID, 244
数値センサー OID, 247
センサー OID, 246
単一コンピュータシステム OID, 258
単一コンピュータの初期ロード OID, 258
ディスクリートセンサー OID, 244
ディスクリートセンサー状態 OID, 244
電源装置 OID, 250
バイナリセンサー OID, 247
バッテリー OID, 250
ファン OID, 249
物理クラス拡張 OID, 258
プラットフォーム OID, 242
プラットフォームの MIB 通知, 252
プラットフォームの MIB トラップ, 251
論理クラス拡張 OID, 253
Syslog、SEFOS からのステータスの表示, 274
Syslog クライアント、CLI からの表示, 60

V

`version` コマンド, 45
VLAN、SEFOS
管理, 283
削除, 289
作成, 287
表示, 284
ポート構成の表示, 285
ポートの削除, 288
ポートの追加, 287
無効化, 289
有効化, 286
VLAN 構成モード、SEFOS へのアクセス, 269

W

Web
1 ページあたりのシステムログエントリ数の設定, 485
Oracle ILOM Web インタフェースの概要, 120
Oracle ILOM パスワードの変更, 527
Oracle ILOM ヘルプの取得, 123
SNMP MIB のダウンロード, 521
SSH アクセス
制御, 506
無効化, 508
SSH 鍵の生成, 507
SSH サービス、有効化, 507
SSL 証明書
インストール, 501
削除, 502
管理
IPMI サービス, 508
SNMP サービス, 511
管理ネットワーク, 488
スイッチアクセス, 438
スイッチイベント, 471
スイッチインタフェース方法, 499
スイッチコンポーネント, 424, 424
スイッチサービス, 531
スイッチ識別情報, 424, 424
スイッチ接続, 494
スイッチ通知, 471
スイッチ認証, 438
その他のスイッチコンポーネント, 531
ユーザーアカウント, 525
ログ, 478
管理コントローラ
再起動, 425
リセット, 425
管理ネットワーク構成のテスト, 493
クリア
Oracle ILOM イベントログ, 484
システムログ, 487
障害が発生したコンポーネント, 477
構成
AD オペレータグループ, 445
AD ユーザードメイン, 447
ASR プロキシのプロパティー, 524
ASR プロパティー, 522, 523
DNS クライアント, 450

LDAP over SSL 管理者グループ, 460
LDAP over SSL のオプションのユーザーマッピング, 455
LDAP ユーザーアクセスのための役割, 452
NTP クライアント, 432
RADIUS ユーザーの役割, 470
SMTP クライアント, 472
スイッチの IP アドレス, 425
構成のバックアップ, 427
削除
AD サーバーの証明書, 442
LDAP over SSL サーバー証明書, 459
Oracle ILOM ユーザー, 529
SNMP コミュニティー, 520
SNMP ユーザー, 517
接続バナーメッセージ, 498
ログインバナーメッセージ, 499
作成
Oracle ILOM ログのカスタムフィルタ, 483
システムログのカスタムフィルタ, 486
スイッチスナップショット, 429
スイッチ構成の復元, 428
スイッチの再起動, 436
スイッチの電源切断, 435
スイッチの電源投入, 437
制御
AD クライアント, 438
FIPS, 534
KVMS, 531
KVMS ホストロック, 532
LDAP over SSL ユーザーアクセス, 453
LDAP ユーザーアクセス, 451
RADIUS ユーザー, 467
スイッチ電源, 435
設定
1 ページあたりのログエントリ数, 478
AD ユーザーの権限, 440
AD ユーザーの役割, 440
CLI タイムアウト, 497
IPv4 動的アドレス, 491
LDAP over SSL ユーザーの権限, 457
LDAP over SSL ユーザーの役割, 457
NTP サーバー, 433
NTP サーバーのタイムゾーン, 432
RADIUS 共有シークレット, 468
SNMP 構成, 514
カスタム CLI プロンプト, 434
管理ネットワーク IPv4 プロパティー, 490
システム時間, 433
システム識別情報, 431
システムのタイムゾーン, 432
システムの日付, 433
シリアルポートのプロパティー, 437
スイッチパスワードポリシー, 530
接続バナーメッセージ, 497
ネットワーク管理構成, 488
ネットワーク管理の IPv6 プロパティー, 492
ネットワーク管理プロパティー, 489
ホスト名, 431
ログインバナーメッセージ, 498
ログホスト, 477
追加
AD カスタムグループ, 446
AD 管理者グループ, 444
DNS ロケータクエリー, 449
LDAP over SSL オペレータグループ, 461
LDAP over SSL カスタムグループ, 463
LDAP over SSL 代替サーバー, 465
LDAP over SSL ユーザードメイン, 464
Oracle ILOM ユーザー, 525
Oracle ILOM ユーザーの SSH 鍵, 528
RADIUS 代替サーバー, 469
SNMP コミュニティー, 518
SNMP ユーザー, 515
代替 AD サーバー, 448
定義済み条件を使用した Oracle ILOM イベントログのフィルタリング, 480
定義済み条件を使用した Oracle ILOM 監査ログのフィルタリング, 481
定義済み条件を使用したシステムログのフィルタリング, 485
非公開鍵の削除, 503
表示
1 ページあたりの Oracle ILOM ログエントリ数, 479
AD クライアント, 142
ASR クライアントステータス, 157
CLI タイムアウト, 152
DNS クライアントステータス, 139
Ethernet NIC, 149
Ethernet スイッチファームウェア情報, 131
FIPS ステータス, 160

HTTPS ステータス, 153, 153
IPMI ステータス, 156
LDAP over SSL クライアント, 140
LDAP クライアント, 140
NTP サーバー, 135
Oracle ILOM イベントログ, 145
Oracle ILOM 監査ログ, 146
Oracle ILOM セッション, 158
Oracle ILOM ファームウェア情報, 130
Oracle ILOM ユーザー, 158
RADIUS クライアント, 141
SMTP クライアントステータス, 139
SNMP コミュニティー, 155
SNMP サービスステータス, 154
SNMP ステータス, 154
SNMP ユーザーアカウント, 155
SP のデフォルトへのリセット, 136
SSH ステータス, 156
SSL 証明書および鍵, 135
アラート, 144
カスタム CLI プロンプト, 135
システム BIOS 情報, 130
システム識別情報, 133
システム電源情報, 127, 128
システムネットワークの健全性, 148
システムの通気, 128
システムの冷却の健全性, 129
システムバナーメッセージ, 151
システムファームウェア情報, 130
システムログ, 143, 484
障害が発生したコンポーネント, 125
シリアルポート構成, 138
スイッチシャーシ情報, 131
スイッチスナップショットポリシー, 137
スイッチの FRU ID, 132
スイッチの警告, 125
スイッチバックアップポリシー, 137
スイッチ復元ポリシー, 137
ステータス LED の状態, 126
タイムゾーン, 134
電源装置の FRU ID, 132
電源装置の情報, 128
ネットワーク構成, 147
ネットワークコントローラ, 148
パスワードポリシー, 159
日付, 134
ファン情報, 129
ファンの FRU ID, 133
ホストストレージデバイス, 151
ホスト電源制御設定, 138
ホスト名, 133
リダイレクションサービス, 150
リモートセッション設定, 150
ログホスト, 144
変更
SNMP コミュニティー, 519
SNMP ユーザー, 516
ホスト名の変更, 431
無効化
AD クライアント, 443
FIPS, 535
HTTP, 506
HTTPS, 504
IPMI 1.5 セッション, 511
IPMI サービス, 510
KVMS クライアントのプロパティー, 533
LDAP over SSL, 460
LDAP ユーザーアクセス, 453
RADIUS ユーザーの役割, 470
SNMP, 521
アラート, 476
カスタム CLI プロンプト, 435
ログホスト, 477
モニタリング
KVMS プロパティー, 161
管理接続, 149
管理ネットワーク, 146
スイッチアクセス, 138
スイッチイベント, 142
スイッチインタフェース方法, 152
スイッチコンポーネント, 123
スイッチ識別情報, 123
スイッチ認証, 138
スイッチロギング, 142
その他のスイッチコンポーネント, 160
その他のスイッチサービス, 160
ユーザーアカウント, 157
有効化
AD クライアント, 439
FIPS, 534
HTTP, 505
HTTPS, 500

IPMI, 510
IPMI サービス, 509
KVMS クライアントのプロパティー, 532
LDAP over SSL ユーザーアクセス, 454
LDAP ユーザーアクセス, 451
PET を送信するアラート, 475
RADIUS ユーザー, 467
SNMP, 513
カスタム CLI プロンプト, 434
シリアルリダイレクション, 495
電子メールを送信するアラート, 474
トラップを送信するアラート, 473
ビデオリダイレクション, 495
リモートセッション, 496
ログホスト, 477
リモートセッションの制御, 494
ロード
AD サーバーの証明書, 441
LDAP over SSL サーバー証明書, 458
Web からの管理ネットワーク構成のテスト, 493
Web からの管理ネットワーク IPv4 プロパティー、Web からの設定, 490
Web からの障害が発生したコンポーネントのクリア, 477
Web からのスイッチの電源切断, 435
Web からのスイッチの電源投入, 437
Web からのリモートセッションの起動, 496
Web からの Oracle ILOM ヘルプの取得, 123
Web からの SSH 鍵の生成, 507
Web からの SSL 証明書のインストール, 501
Web 経由のシステムログのクリア, 487
Web 経由の Oracle ILOM ログのクリア, 484
Web サービス、CLI からの表示, 108